

目次

氏名に「★」が付された教員は、「実務経験のある教員」です。実務経験内容、担当科目名および単位数等について、本学ホームページの下記URLに詳細を掲載しています。

http://jonan.jp/tandai/about/about_04.html

共通基礎科目

< 1年次科目 >

城南のこころ（女性と人権）	1
社会人のふるまい	1
清和気品の文化（華道）	2
清和気品の文化（茶道）	2
キャリアデザイン演習 ※現代生活	3
キャリアデザイン演習 ※総合保育	3
キャリアデザイン演習 ※人間福祉	4
日本語表現A ※現代生活	4
日本語表現A ※総合保育	5
日本語表現A ※人間福祉	5
日本語表現B ※現代生活	6
日本語表現B ※総合保育	6
日本語表現B ※人間福祉	7
英語コミュニケーションA ※現代生活	7
英語コミュニケーションA ※総合保育	8
英語コミュニケーションA ※人間福祉	8
情報処理演習A ※現代生活	9
情報処理演習A ※総合保育	9
情報処理演習A ※人間福祉	10

< 2年次科目 >

英語コミュニケーションB	10
--------------	----

現代生活学科

< 1年次科目 >

現代生活基礎演習	11
現代生活応用演習	11
現代生活論	12
食生活論	12
チームビルディングⅠ（ヨーガ）	13
インターンシップⅠ	13
簿記入門	14
商業簿記	14
情報処理演習B	15
プレゼンテーション論	15
色彩表現	16
チームビルディングⅡ（アミューズメントスポーツ）	16
ビジネス実務総論	17
情報デザイン論	17
ビジネス実務演習Ⅰ	18
データ処理演習（1）	18
絵本の世界	19
文芸文化論	19
芸術社会論	20
文学の歴史（図書館サービス特論）	20
図書館概論	21
図書館サービス概論	21
児童サービス論	22
情報資源組織論	22
情報資源組織演習（1）	23
情報資源組織演習（2）	23
食生活と健康Ⅰ	24
食品と栄養の特性Ⅰ	24
食品と栄養の特性Ⅱ	25
食品と栄養の特性Ⅲ	25
食品の安全と衛生Ⅰ	26

食品の安全と衛生Ⅱ	26
調理理論と食文化概論Ⅰ	27
調理理論と食文化概論Ⅱ	27
調理理論と食文化概論Ⅴ	28
調理実習（包丁レッスン・基礎料理Ⅰ）	28
調理実習（基礎料理Ⅱ）	29
調理実習（中国料理）	29
調理実習（フランス料理）	30
包丁レッスン	30
栄養学	31
食品学Ⅰ	31
食品学Ⅱ	32
食品の安全性Ⅰ	32
食品の安全性Ⅱ	33
洋菓子の世界	33
和菓子の世界	34
洋菓子入門	34
洋菓子の理論と実践（初級）	35
パンの理論と実践（基礎）	35
和菓子の理論と実践	36
調理学	36
家庭料理	37
フードコーディネート論	37
商品開発・販売Ⅰ	38

< 2年次科目 >

現代生活卒業研究	38
現代社会論	39
消費者経済学	39
イノベーション論	40
ファイナンシャルプランニング演習	40
メディアを読む	41
大阪の人と文化	41
まちづくり研究	42
情報処理演習B	42
経営学	43
広告コミュニケーション論	43
広告制作演習	44
ビジネス実務演習Ⅱ	44
データ処理演習（1）	45
データ処理演習（2）	45
小説を読む	46
詩歌を読む	46
絵画を読む	47
映像を読む	47
文献学入門（図書館基礎特論）	48
生涯学習概論	48
図書館情報資源概論	49
情報サービス論	49
情報サービス演習（1）	50
情報サービス演習（2）	50
図書館制度・経営論	51
図書館情報技術論	51
図書館情報資源特論	52
図書・図書館史	52
図書館実習	53
食生活と健康Ⅱ	53
食生活と健康Ⅲ	54
食品と栄養の特性Ⅳ	54
食品と栄養の特性Ⅴ	55
食品の安全と衛生Ⅲ	55
食品の安全と衛生Ⅳ	56
食品の安全と衛生Ⅴ	56
調理理論と食文化概論Ⅲ	57

調理理論と食文化概論Ⅳ	57
調理理論と食文化概論Ⅵ	58
調理実習（日本料理）	58
総合調理実習	59
調理スペシャリスト研究	59
料理プレゼンテーション演習	60
洋菓子の世界	60
スイーツデザイン	61
創作スイーツ	61
洋菓子中級	62
洋菓子上級	62
パン応用	63
創作スイーツ実習	63
製菓技術スキルアップ	64
食品の安全と衛生	64
食品学Ⅰ	65
食品学Ⅱ	65
食品科学実験	66
フードスペシャリスト論	66
食品の官能評価・鑑別論	67
食品の官能評価・鑑別演習	67
介護食論	68
介護食実習	68
幼児食実習	69
ローカルフーズ（郷土料理）	69
ラッピング&ディスプレイ	70
カフェ実習Ⅰ	70
カフェ実習Ⅱ	71
カフェドリンク	71
商品開発・販売Ⅱ	72
インターンシップⅡ	72

総 合 保 育 学 科

< 1 年次科目 >

体育（実技）	73
幼児教育基礎Ⅰ	73
幼児教育基礎Ⅱ	74
情報処理演習B	74
保育原理	75
教育原理	75
子ども家庭福祉	76
社会福祉	76
社会的養護Ⅰ	77
社会的養護Ⅱ	77
子どもの保健	78
領域指導法（健康）	78
人間関係	79
環境	79
言葉	80
乳児保育Ⅰ	80
特別支援教育基礎	81
障害の理解Ⅰ	81
インターンシップⅠA	82
インターンシップⅠB	82
インターンシップⅡA	83
インターンシップⅡB	83
幼児音楽Ⅰ	84
幼児音楽Ⅱ	84
うたと音楽（基礎）	85
うたと音楽（応用）	85
造形表現Ⅰ	86
造形表現Ⅱ	86
表現法（絵本、読み聞かせ、人形劇等）	87
表現法（運動遊び、屋外遊び等）	87
教育実習Ⅰ	88
保育実習Ⅰ	88
保育実習指導Ⅰ	89
保育実践演習Ⅰ	89
保育実践演習Ⅱ	90

< 2 年次科目 >

日本の憲法と人権	90
体育（理論）	91
教育制度	91
社会福祉	92
保育者・教育者論	92
子ども家庭支援論	93
保育の心理学	93
子ども家庭支援の心理学	94
幼児理解と教育相談	94
子どもの理解と援助	95
子どもの食と栄養A	95
子どもの食と栄養B	96
教育方法・技術論	96
保育の計画と評価	97
保育内容（総論）	97
領域指導法（環境・表現）	98
人間関係	98
言葉	99
乳児保育Ⅱ	99
子どもの健康と安全	100
子育て支援	100
在宅保育	101
障害児保育A	101
障害児保育B	102
特別支援教育基礎	102
障害の理解B	103
インターンシップⅢ	103
幼児音楽Ⅱ	104
総合表現の基礎	104
総合表現の応用	105
身体と運動	105
教育実習Ⅱ	106
保育実習Ⅱ	106
保育実習指導Ⅱ	107
保育実習Ⅲ	107
保育実習指導Ⅲ	108
教職実践演習（幼稚園）	108
卒業研究Ⅰ	109
卒業研究Ⅱ	109

人 間 福 祉 学 科

< 1 年次科目 >

介護の基本1（概論、役割）	110
介護の基本2（尊厳、倫理）	110
介護の基本3（生活歴）	111
コミュニケーション技術1	111
コミュニケーション技術2	112
生活支援技術1（概論、住居）	112
生活支援技術2（安楽、睡眠）	113
生活支援技術3（移動・移乗）	113
生活支援技術4（食事、口腔ケア）	114
生活支援技術5（排泄）	114
生活支援技術6（着脱、清潔・入浴）	115
介護過程1	115
介護過程2	116
介護総合演習ⅠA	116
介護総合演習ⅠB	117
介護総合演習ⅠC	117
介護実習ⅠA	118
介護実習ⅠB	118
介護実習ⅠC	119
発達と老化の理解2	119
認知症の理解1	120
認知症の理解2	120
障害の理解1	121
こころとからだのしくみ2（医学知識）	121
こころとからだのしくみ3（身じたく、食事、入浴）	122
こころとからだのしくみ4（排泄、睡眠、終末期）	122

人間福祉基礎Ⅰ	123
人間福祉基礎Ⅱ	123
大阪の人と文化	124
社会のしくみと実践(デュアル実践)	124
社会のしくみと実践(デュアル入門)	125
国家試験対策講座Ⅰ	125

< 2 年次科目 >

人間の尊厳と自立	126
人間関係とコミュニケーション	126
社会福祉概論(社会の理解)	127
社会保障論(社会の理解)	127
社会学	128
介護の基本4(リハビリテーション)	128
介護の基本5(多職種連携)	129
介護の基本6(リスクマネジメント)	129
生活支援技術7(家事支援)	130
生活支援技術8(事例検討)	130
生活支援技術9(身じたく、アクティビティ)	131
生活支援技術10(終末期、薬の知識)	131
介護過程3	132
介護過程4	132
介護過程5	133
介護総合演習ⅠC	133
介護総合演習Ⅱ	134
介護実習ⅠC	134
介護実習Ⅱ	135
発達と老化の理解1	135
障害の理解2	136
こころとからだのしくみ1(概論、移乗・移動)	136
医療的ケア1(吸引)	137
医療的ケア2(経管栄養)	137
医療的ケア演習	138
ボランティア演習	138
介護食実習	139
介護食論	139
介護予防運動指導	140
ゼミナール2	140
社会のしくみと実践(デュアルB)	141
社会のしくみと実践(デュアルC)	141
インターンシップ2(キャリアアップ)	142
海外研究	142
介護福祉特論1	143
介護福祉特論2	143

コミュニケーション技術2	150
生活支援技術1(概論・住居)	151
生活支援技術2(安楽・睡眠)	151
生活支援技術3(移動・移乗)	152
生活支援技術4(食事・口腔ケア)	152
生活支援技術5(排泄)	153
生活支援技術6(着脱・清潔・入浴)	153
生活支援技術7(家事支援)	154
生活支援技術8(事例検討)	154
生活支援技術9(身じたく・アクティビティ)	155
生活支援技術10(終末期・薬の知識)	155
介護過程1	156
介護過程2	156
介護過程3	157
介護過程4	157
介護過程5	158
介護総合演習Ⅰ	158
介護総合演習Ⅱ	159
介護実習Ⅰ	159
介護実習Ⅱ	160
発達と老化の理解	160
認知症の理解1	161
認知症の理解2	161
障害の理解	162
医学知識(こころとからだのしくみ1)	162
こころとからだのしくみ2(身じたく、入浴、移乗・移動)	163
こころとからだのしくみ3(食事、排泄、睡眠、終末期)	163
医療的ケア1(吸引)	164
医療的ケア2(経管栄養)	164
医療的ケア演習	165
介護福祉ゼミA	165
介護福祉ゼミB	166

医療系集中講義科目 現代生活学科・人間福祉学科

< 1・2 年次科目 >

医学一般	144
医療管理学	144
医療秘書実務	145

< 2 年次科目 >

医療事務総論及び演習レセプトコンピュータ	145
----------------------	-----

専攻科介護福祉専攻

< 1 年次科目 >

社会福祉概論(社会の理解)	146
社会保障論(社会の理解)	146
介護の基本1(概論・役割)	147
介護の基本2(尊厳・倫理)	147
介護の基本3(生活歴)	148
介護の基本4(リハビリテーション)	148
介護の基本5(多職種連携)	149
介護の基本6(リスクマネジメント)	149
コミュニケーション技術1	150

共 通 基 礎 科 目

城南のこころ（女性と人権）

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★山本 永人 他

《授業の概要》

本学の建学の精神、「清和・気品」「自主・自律」の2訓を修得するために、複雑な現代社会を生き抜く基本的な人間力を学びます。多様な視点を持ち広く社会で活躍しようとする女性としての生き方が、本学における学びに共通する精神であり、その一助となる知識や学問を「城南のこころ」の位置づけとしています。女性としての在り方、社会で活躍する女性の権利、社会に存在する性差別構造など様々な時事的な事柄を織り交ぜながら広く構成し、時には履修者同士の意見を交わし、学びを深めていきます。

《学生の到達目標》

本学にどのような社会的使命があり、城南短大生がどのような精神で学び、社会で活躍しようとするべきであるのかを理解する。他者の価値観を尊重し、その尊厳を傷つことなく関わることができるようになる。主体的に行動できる自立した女性としての知識や教養を身につけることができる。

《授業計画》

1. 城南生に求められる精神とは・本学の建学の精神（学生便覧）
2. 新しい仲間たちとの協働（グループワークと成果発表）
3. 他者との関わりのためのコミュニケーション方法
4. 3回の授業の振り返り（グループワーク）
5. 学生視点から考える防災（今年度の防災リーダーの募集）
6. 女性の視点から捉えるSNSの利点と盲点
7. 2回の授業の振り返り（グループワーク）
8. 女性の生き方（脳性まひの子どもの関わり方から考える生き方）
9. ワークライフバランス
10. 働く先輩（各学科それぞれ働いている先輩の話聞く）
11. 3回の授業の振り返り（グループワーク）
12. 女性としてのこころからたのしみ
13. 女性と健康（女性特有の疾患）
14. 2回の授業の振り返り（グループワーク）
15. 授業全体の振り返り・到達目標から振り返る

《成績評価の方法・基準》

振り返り授業の時には、レポート提出を求める。評価は、担当教員の5段階評価で行う。すべての評価を集計して全体の評価とする。レポートの記述量が少ないものは、評価の対象にならないので注意すること。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：本学の建学の精神を熟読し、城南短大生としての在り方を考える。また、それぞれの授業テーマについて自分自身でも考えてみる。事後学習：自身の考えていたことや知識と比較して、授業で新たな発見や影響を受けたことを振り返る。また、それらに関連したことにも興味を持ち情報を収集し、自己を評価してみる。

社会人のふるまい

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 森 日和

《授業の概要》

建学の精神である「自主自律」「清和気品」を理解し、体得できるよう、礼法を基礎として、考える礼儀作法を学びます。基礎をしっかりと体得したうえで、社会に出てからすぐに役立つビジネスマナーを学びます。

《学生の到達目標》

建学の精神である「自主自律」「清和気品」が体現でき、社会に求められる人材となる。

《授業計画》

1. 本授業の目的の説明および授業計画の説明・授業を受ける姿勢について
2. 現状の自己分析（社会における自己認識）
3. 服装のマナー・身だしなみ・美しい立居振舞い（美しく立つ、座る、挨拶、お辞儀）
4. 美しい言葉遣い（敬語の基本、言葉の心を込める）
5. 年中行事を学ぶ（五節供の意味を理解し、そこから何を学ぶのかを考える）
6. 年中行事を学ぶ（お正月のしきたりの意味を理解し、そこから何を学ぶのかを考える）
7. 食事の作法（箸の歴史と箸の作法）
8. 食事の作法（会食のマナー、会席料理をいただく時のマナー）
9. 冠婚葬祭のマナー（「冠」「婚」について、慶事のマナー）
10. 冠婚葬祭のマナー（「葬」「祭」について、弔事のマナー）
11. 贈答のしきたりとマナー
12. 日本の文化「折形」祝儀袋づくり（金封を折り、水引を結ぶ）
13. ビジネスマナー（電話対応の基本、名刺交換と紹介）
14. ビジネスマナー（来客対応、呈茶の基本作法）
15. ビジネスマナー（企業訪問のマナー、席次・総括（全15回の授業について総括する）

《成績評価の方法・基準》

授業の取り組み状況（50%）、小テスト（20%）、提出物（30%）

《授業で使用する教科書》

・小笠原敬承著「小笠原流礼法入門 見て学ぶ 日本人のふるまい」淡交社

《参考書》

・藤原正彦「国家と教養」新潮新書

《事前・事後学習》

事前学習：講師から授業終了後、次回の課題を提示し、学生はその課題に対応する。事後学習：講師からその日の学習した内容に関係する復習課題を提示し、学生はその課題に対応する。

清和気品の文化（華道）

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 秀平 彩華

《授業の概要》

花、花器、水、鉄、いける人が一体となってこそ「いけがな」であるという考えのもと、嵯峨御流を基本として講義と実習を行う。講義では、華道の歴史から花の扱い方や基本の花形についての知識、実習では、嵯峨御流の基本型を身につけていただき、生活に役立つフラワーアレンジメントの実技も行う。希望者は入門・初伝を取得できる。

《学生の到達目標》

日本の伝統文化である「いけがな」の基本、花と道具の扱い方、いけがなの基本形と約束事など華道の流派に共通する基礎知識と技術を礼儀作法と共に身につけて美生活に生かすことのできる力を養うことを到達目標とする。

《授業計画》

1. 講義 オリエンテーションと華道を学ぶ心構え
2. 実技 花の扱い、道具の扱い
3. 実技 生花から作る手作りプリザーブドフラワー
4. 実技 花材の活用～小さな花束
5. 講義 華道の歴史と嵯峨御流の花型について
6. 実技 嵯峨御流 心粧華
7. 講義 嵯峨御流 伝承花 盛花、瓶花について
8. 実技 嵯峨御流 伝承花 盛花
9. 実技 嵯峨御流 伝承花 瓶花
10. 講義 フラワーアレンジメントについての基礎知識
11. 講義 フラワーアレンジメントの基本型
12. 実技 フラワーアレンジメントについての応用作品
13. 講義 嵯峨御流 伝承花 飾盛体と色彩について
14. 実技 嵯峨御流 伝承花 飾盛体
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

筆記試験（50%）、実技の習得度および授業に取り組む姿勢（初回授業で説明）（30%）、ノートとプリントのファイル提出（20%）

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

講義の目的は、花に親しみいけがなを実生活で役立たせることを第一とし、礼儀・作法を身につけていただくことです。【授業前の心得】講義内容を予習し、実技の場合は花態や花材について下調べをしてイメージを膨らませます。事前準備が理解度をより深めます。【授業後の心得】持ち帰った花材を使い何度もいけがなをしてみます。この積み重ねにより感性に磨きがかかります。繰り返し花と向き合うことが上達につながります。

清和気品の文化（茶道）

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 中田 宗佳

《授業の概要》

400 余年の長い歴史を通して、洗練され、伝承されてきた表千家茶道を学ぶ事により、日本の伝統文化の素晴らしさに触れ、一期一会・和敬静寂で表される茶の心を探求します。和の心・礼の心を育み、無駄のない美しい所作、立居振る舞いを学びます。客の心得と作法に重点をおいた演習主体の授業になります。希望者は、表千家「入門・相伝」資格を取得することができます。

《学生の到達目標》

美しい立居振る舞いを身に付け、茶席での客の基本的な作法を習得する。茶室のしつらえや作法の流れを理解する。茶道の精神を理解し、日常生活にも通じる感性を育む。

《授業計画》

1. 受講心得、表千家流について 立居振る舞いの作法①
2. 干菓子のおしげだき方 立居振る舞いの作法②
3. 菓子器の扱い、主菓子のしげだき方
4. 薄茶のしげだき方
5. 袱紗さばきと使い方
6. 茶巾の扱い方
7. 茶碗について
8. 薄茶の点て方
9. 茶の心
10. 茶道具について
11. 席入りの作法
12. 茶会とは、茶会での挨拶
13. お茶会
14. 実技テスト（お菓子、薄茶のしげだき方）
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

受講心得の遵守、提出物等 30% 実技テスト 30% 期末テスト 40%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：抹茶、お花、書道、和菓子、四季の変化やおもてなし等、興味のある事の一つつけて授業に参加してください。総合芸術と言われている茶道が、より身近に感じる事ができます。事後学習：授業での所作や季節の風情等を思い出し、慌たしい毎日に気持ちのゆとりを持ってください。大寄せのお茶会等に出かけ、日本の伝統文化に触れる機会を作る。

キャリアデザイン演習 ※現代生活

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 ★山口 禎, 湯浅 嵩晃

《授業の概要》

卒業後の進路決定から企業受験時の選考対策、就職後のライフプラン等について、実践的な演習を通じて考えることを目的とする。なにを目指し、どこに就職し、どのような人生を歩んでいくのか、それをこの2年間で、必死に考えなければならぬ。そのためには、これまでの人生をふり振り返り、自分がどのような人物であるか整理する必要がある。なにができ、なにを求め、どのように働いていきたいのか、これまでの自分を理解して初めて、これからの自分が見えてくる。そしてそれこそが、企業の選考を突破する鍵である。グループワークやディスカッション等のアクティブラーニングを通じて、自己分析から内定獲得までの対策を集中的に実施していく。

《学生の到達目標》

「自己理解」については、自己分析シートの作成を中心に進め、わかりやすい美文と正しい書き言葉で自分の特徴を文面で相手に伝えられるようになる。「筆記試験対策」については、毎回算数の宿題を実施し、正課外の筆記試験集中講座を経て、3月以降の筆記試験選考を突破できる得点率を確保する。「面接対策」については、自分の長所や学生時代取り組んだことなどを口に出して相手に伝える機会を随所に設けており、それにより、自信を持って他者に自分について話せるようになる。

《授業計画》

1. 就職ガイダンス&今後のスケジュール
2. 業種動向理解&インターンシップについて
3. マインドマップ作成
4. 自己分析の方法
5. 自己分析シート作成
6. 履歴書の書き方
7. 履歴書作成①
8. 履歴書作成②
9. マナー講座
10. エントリーシート対策テスト
11. グループディスカッション対策
12. 面接対策
13. ライフプラン考察
14. 適性検査
15. 筆記試験&今年度就職準備報告書作成

《成績評価の方法・基準》

総括レポート (50%) ・宿題等提出状況および授業への貢献度 (50%)

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

毎回の宿題を必ず提出すること。また、本授業では、選考の予備知識の習得と、就職活動の進め方を体得することを目的としており、この授業だけで万全な対策ができるわけではない。授業で渡すワーク類も、自宅での復習にて初めて書き終える分量となっているものもある。就職活動は自分で推し進めていくものであることを十分に理解し、授業内外のツールを用いて積極的に取り組んでいくこと。

キャリアデザイン演習 ※総合保育

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 福江 慎介, 湯浅 嵩晃, ★柴田 精一

《授業の概要》

自分自身の将来としっかり向き合うために、自己分析の手法を通じて、自らの考え方を明確にするとともに物事に対する視野を一層広げることで、「自分」というものをまずしっかりと冷静に捉え、自己のキャリア形成のイメージを描く。次に就職先の選定および応募から採用試験に至る一連の就職活動の実践的な知識と方法を学ぶことにより、自己のキャリア形成に必要な態度・能力を育成する。さらに園長・施設長や本学卒業生など現職の保育者による生の声を聴く機会も取り入れることにより、実際の教育・保育現場に対する理解をよりいっそう深め、勤労観・職業観の醸成を図る。

《学生の到達目標》

就職に対する明確な目的意識を持ち、しっかりとした勤労観・職業観を形成して、進路を自ら選択・決定できる能力を養う(働く意味と心構えの理解、自己分析・自己理解、卒業後の進路に対する考え方を)。併せて社会人あるいは専門職として、スムーズに就職活動に取り組む、就職後も速やかに社会・職場に適応するための基礎知識の習得を図る(採用試験の概要、履歴書作成知識、面接対応能力、ライフデザインと金銭知識、専門職の職場の理解等)。

《授業計画》

1. 「キャリアって何」 ~キャリア、キャリアデザインとは~
2. 「就職か? 進学か?」 ~私の進路、就職だけじゃない~
3. 「福祉施設の仕事」 ~現職施設長、卒業生による施設現場の紹介~
4. 「お金に関する話」 ~明るい将来を築くための、お金に関する基礎知識~
5. 「就活基礎演習 ①」 ~自己分析、自己理解 その1~
6. 「就活基礎演習 ②」 ~自己分析、自己理解 その2~
7. 「就活基礎演習 ③」 ~履歴書作成の基礎知識 その1~
8. 「就活基礎演習 ④」 ~履歴書作成の基礎知識 その2~
9. 「就活基礎演習 ⑤」 ~採用試験とはこんなもの 筆記試験編~
10. 「就活基礎演習 ⑥」 ~採用試験とはこんなもの 実技試験編~
11. 「就活基礎演習 ⑦」 ~面接試験の基礎知識 その1~
12. 「就活基礎演習 ⑧」 ~面接試験の基礎知識 その2~
13. 「保育・教育の仕事」 ~現職保育者(卒業生)による教育・保育現場の紹介~
14. 「就活基礎演習 ⑨」 ~実際の面接こふれてみよう~
15. 「補足とまとめ授業」 ~いよいよ目前! 就活ではここに気を付けよう~

《成績評価の方法・基準》

各回授業後に提出される演習シート、課題レポートの各評価点の合計により成績を決定する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

当日の授業内容に応じた課題やレポートの作成を適宜指示する。これは学習内容の復習となるだけでなく、自分自身を振り返り、気持ちや考えを客観的に整理すること(自己分析・自己理解)になり、また将来のキャリア形成を考える上でたいへん重要な気づきへとつながるため、必ず積極的に取り組むこと。なお作成に際しては、常識ある社会人となるためのトレーニングの一環と心得て、真剣な態度で丁寧に作成することを求める。

キャリアデザイン演習 ※人間福祉

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 湯浅 嵩晃

《授業の概要》

本授業では、卒業後の進路について多角的に考えていきます。自分はどうな人間で、これから先どのような進路を歩んでいくべきなのか。座学と実践を通して、自分を見定め、進む方向性を見出し、そこから本授業の目的です。また、受験先の選考で必要となる知識や技術も身につけていく必要があります。よって本授業では、序盤で土台となる自己分析について、中盤以降では履歴書や面接の対策にあてるよう授業編成しています。自分には何ができ、何がしたいのかをしっかりと、選考もスムーズにクリアしていきます。これまでの経験を総動員し、自分像を明確化したうえで、選考対策に取り組んでいきます。

《学生の到達目標》

【序盤】自己分析シート (3P) を記入する (内容) ①自分が力を入れて努力した話を中学・高校・短大と時代別で複数書きだす (1P 目) ②①から3つのエピソードを抜き出し、各エピソードごとに同じ質問に回答する (2P 目) ③②を分析し、過去から現在の自分に横たわる共通点 (特徴/長所) を見つけ出す (3P 目) 【中盤】履歴書の該当項目を完成させる (内容) ①自己分析シートから見えてきた長所を活用し、「自己PR」を作成する②自己分析シートで整理したエピソードを活用し、「実習を通じ学んだこと」を作成する【終盤】面接で必要となる知識や注意点を知る (内容) DVD やスライドをもとにポイントとなる知識・技術について学習する

《授業計画》

1. 就職指導ガイダンス
2. 自己分析①
3. 自己分析②
4. 履歴書の書き方
5. 自己PR作成
6. ES 対策テスト
7. グループディスカッション
8. ライフプラン考察 (外部講師)
9. 介護の仕事について (外部講師)
10. 適性検査
11. 求人票の見方
12. 面接対策
13. 筆記試験対策
14. 内定後の対応/お礼状の書き方
15. 総まとめレポート

《成績評価の方法・基準》

総まとめレポート (50%) その他提出物 (50%)

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

自己分析シートはある程度授業で進めますが、分量や難易度の点から、授業内ですべて書ききらなくとも構いません。自己分析に終わりはなく、短大在籍中であっても絶えず変化していくものだからです。逆にいえば、本授業外の学業や実習、私生活にて、いかに真剣に取り組んでいくかが重要であり、それにより自己分析・履歴書・面接の精度が変わってきます。自己分析シートは必要に応じて加筆修正するようにしてください。

日本語表現A ※現代生活

1 年次 (半期)
2 単位 (講義)
担当 中井 康行

《授業の概要》

前期に引き続いて、短大での学習活動や社会生活の様々な場面で必要となる「日本語の力」の向上をめざす。後期では、より実践的にコミュニケーションの場で必要となる口語表現と文章表現の基本的な運用能力について学ぶ。さらに、現代生活学科では接続する時間帯に開講予定の関連科目 (現代生活応用演習) とも連動して、パソコンも活用し、エントリースートの作成から、企業情報の整理と紹介まで幅広い学習を行う。

《学生の到達目標》

正しい仮名遣いや送り仮名の習得、敬語法を中心とする待遇表現の習得、主語述語、修飾語被修飾語等の正しい係り受けに対する感覚を養うことを目標とする。また、慣用句や四字熟語などの伝統的言語表現の基礎知識の習得、熟語の構造の理解を通しての語相互の関係についての正確な知識を身につけることを目標とする。さらに、実践的には、自己分析を通して、自らの主張をいかに的確に伝達できるか、その基礎を築くことを目標とする。

《授業計画》

1. 語彙力確認試験
2. 仮名遣いと送り仮名
3. 手紙とはがきの基礎知識
4. 待遇表現の基礎 (1)
5. 待遇表現の基礎 (2)
6. 文のしくみの基礎 (1)
7. 文のしくみの基礎 (2)
8. 熟語の構造 (1)
9. 熟語の構造 (2)
10. 四字熟語の語相
11. 慣用表現の語相
12. 日本語表現の実際 (1)
13. 日本語表現の実際 (2)
14. 日本語表現の実際 (3)
15. 後期のまとめ

《成績評価の方法・基準》

成績評価は定期試験の結果にすべて基づく。定期試験問題は、全15回の講義中に解答した問題から、取捨選択して出題する (待遇表現の知識20%、文のしくみの知識20%、慣用表現の知識20%、熟語の構造に関する知識20%、四字熟語の知識20%)。

《授業で使用する教科書》

・丸山順徳「キャリアアップ日本語表現 二十訂版」嵯峨野書院

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

この授業が「日本語の力」を改めて向上させる最後の機会となる。授業時間内で多くの問題に解答してもらおうので、何よりも、授業そのものに集中して臨む必要がある。事後の学習としては、テキスト内の問題を改めて解答してみることもよいだろう。また、本授業で養った言語感覚や、習得した知識を「現代生活応用演習」での課題に対して役立ててもらいたい。

日本語表現A ※総合保育

1年次（半期）
2単位（講義）
担当 中井 康行

《授業の概要》

前期に引き続いて、短大での学習活動や社会生活の様々な場面で必要となる「日本語の力」の向上をめざす。後期では、より実践的なコミュニケーションの場で必要となる口語表現と文章表現の基本的な運用能力について学び、実習から就職活動に至るまでの各場面で役立てられる日本語能力の育成を主眼とする。

《学生の到達目標》

正しい仮名遣いや送り仮名の習得、初歩的な手紙文の形式の習得、敬語法を中心とする待遇表現の習得、主語述語、修飾語被修飾語等の正しい関係に対する感覚の養成、慣用句や四字熟語などの伝統的言語表現の基礎知識の習得、熟語の構造を通しての語相互の関係についての正確な感覚の養成などを目標とする。

《授業計画》

1. 語彙力確認試験(1)
2. 語彙力確認試験(2)
3. 仮名遣いと送り仮名
4. 手紙とはかきの実際
5. 待遇表現の基礎(1)
6. 待遇表現の基礎(2)
7. 文のしくみの基礎(1)
8. 文のしくみの基礎(2)
9. 熟語の構造(1)
10. 熟語の構造(2)
11. 四字熟語の語相(1)
12. 四字熟語の語相(2)
13. 慣用表現の語相(1)
14. 慣用表現の語相(2)
15. 後期のまとめ

《成績評価の方法・基準》

成績評価は定期試験の結果にすべて基づく。定期試験問題は、全15回の講義中に解答した問題から、取捨選択して出題する（待遇表現の知識20%、文のしくみの知識20%、慣用表現の知識20%、熟語の構造に関する知識20%、四字熟語の知識20%）。

《授業で使用する教科書》

・丸山顕徳「キャリアアップ国語表現 二十訂版」嵯峨野書院

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

この授業が「日本語の力」を改めて向上させる最後の機会となる。授業時間内で多くの問題に解答してもらうので、何よりも、授業そのものに集中して臨む必要がある。事後の学習としては、前期でと同様にテキスト内の問題を改めて解答してみることもよいだろう。また、就職活動を控えて、基礎的な漢字の書き取りと読みの確認問題を別途用意するので、それに挑戦して、日本語力の基礎を各自築いてほしい。

日本語表現A ※人間福祉

1年次（半期）
2単位（講義）
担当 小林 孔

《授業の概要》

日本語の運用に関しては、的確な基礎知識を身につけることが何よりも重要になってくるが、とくにその知識を、実践に移すことができなければ、学びとしての達成感を得られないであろう。そこで、本講座では、「書く」ことに主眼を置き、社会での生活場面で、しばしば直面する「書く」課題をとりあげ、①「書く」ための基礎知識、②「書く」ための基本文型、③「書く」実践、④添削と評価、の4つのプロセスをふまえながら、「書く」能力の獲得をめざしたいと考える。なお、文章力を向上させたいと思うならば、この講座では、消しゴムを使用しないことを心がけて欲しい。『学生の到達目標』について記載してください

《学生の到達目標》

「すぐに役立つ」と言うと、役立った後は、「もう用事が済んだのだ」と思いがちになるが、基礎的な学びが無駄になることはない。将来に活かせる知識を蓄え、応用のできる能力を身につける。そこで、すぐに役立つ課題をあげると、「丁寧な手紙の書き方」「人に差をつける履歴書の書き方」「レポートの正しい書き方」「自己紹介文などの作文の仕方」があげられるであろうか。これら4つの課題に関して、基本文型の把握とその応用ができる力を養う。

《授業計画》

1. 「書く」ための諸注意
2. 目上の人を想定した丁寧な書面の書き方、その基礎知識
3. 手紙に必要な書式の要素
4. 基本文型と手紙の実例
5. 近況報告の手紙を書く、もしくはお礼状を書く（グループワーク）
6. 指導と評価
7. 人に差をつける履歴書なんて書けるのか、その基礎知識
8. 基本文型と差のつく文型の実例
9. 本気で履歴書を書く
10. 指導と評価
11. 1600字のレポートの文字数は多いか、そのからくり
12. 基本文型の紹介
13. 作文とは何か違うか、その基礎知識
14. レポートを選ぶか、作文を選ぶか
15. フィードバックとまとめ

《成績評価の方法・基準》

本講座の中で設定した課題を提出し、その内容と理解度を判定して評価をつける。予定では、3つの提出物によることとなる。『書いたもの』の加算方式で評価する。お礼状30点、履歴書20点、レポート・作文50点

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

講義に必要な資料は、各課題のはじめに印刷して配布することにした。したがって、配布資料によって、事前に学習することが可能である。これを講義内容とあわせて理解を深めて欲しい。また事後学習として、添削をした提出物を返却するので、これによって、「書く」ことへの能力向上に役立ててもらいたい。

日本語表現B ※現代生活

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 中井 康行

《授業の概要》

前期開講科目として、短大での学習活動や社会生活の様々な場面で必要となる「日本語の力」の向上をめざす。最初の段階では、受講者各自がどの程度日本語の語彙の知識があるかを確認することから始める。テキストを用いる前に、こちらでプリントで用意する問題に対する解答を板書してもらい、修正すべき点を指摘しつつ、授業を進める。その上で、テキストを用いて、特に、前期においては、漢字の基礎知識の確認を主眼とし、受講者の知識が確実なものとなるようにしたい。また、漢字をめぐるクイズやパズルなども用意し、別の角度から日本語に接近し、親しみを持って学習できるようにしたい。

《学生の到達目標》

日本語の基礎知識を確認し、短期大学で学び、卒業後のキャリアに相応しい日本語の運用ができることを第一の目標とする。そのために、まずは、小学校、中学校、高等学校を通じて、各自があいまいに、あるいは間違っていて定着させてしまっている知識の有無を確認し、正確な知識となることを目標とした。特に前期では、漢字の書き取りと読みが中心となり、その習熟が中心となるが、この種の知識には限りがないので、就職活動時に求められる程度の学力を築けることを目指し、それによって、後期開講の授業へとつながるようにしたい。

《授業計画》

1. 受講上の諸注意その他
2. 日本語音力基礎
3. 日本語表現の基礎(1)
4. 日本語表現の基礎(2)
5. 日本語表現の基礎(3)
6. 漢字の部首とつくり(1)
7. 漢字の部首とつくり(2)
8. 漢字の音訓と熟語の読み(1)
9. 漢字の音訓と熟語の読み(2)
10. 漢字の音訓と熟語の読み(3)
11. 同音異義語について(1)
12. 同音異義語について(2)
13. 同訓異義語について(1)
14. 同訓異義語について(2)
15. 前期のまとめ

《成績評価の方法・基準》

成績評価は定期試験の結果にすべて基づく。定期試験問題は、全15回の講義中に解答した問題から、取捨選択して出題する(部首の知識25%、音訓の知識25%、同音異義語の知識25%)。ただし、前期の試験においては、きわめて初歩的な漢字の書き取りや読み、語彙に関する初見の問題(25%)を含めることにする。

《授業で使用する教科書》

・丸山顕徳「キャリアアップ国語表現二十訂版」嵯峨野書院

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

この授業が「日本語の力」を改めて向上させる最後の機会となる。授業時間内で多くの問題に解答してもらうので、何よりも、授業そのものに集中して臨む必要がある。事後の学習としては、プリントで用意した問題や、テキスト内の問題を改めて解答してみることもよいだろう。そのため、授業内での問題の解答には、別にノートを用意するの一案である。

日本語表現B ※総合保育

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 中井 康行

《授業の概要》

前期開講科目として、短大での学習活動や社会生活の様々な場面で必要となる「日本語の力」の向上をめざす。最初の段階では、受講者各自がどの程度日本語の語彙の知識があるかを確認することから始める。テキストを用いる前に、こちらでプリントで用意する問題に対する解答を板書してもらい、修正すべき点を指摘しつつ、授業を進める。その上で、テキストを用いて、特に、前期においては、漢字の基礎知識の確認を主眼とし、受講者の知識が確実なものとなるようにしたい。また、漢字をめぐるクイズやパズルなども用意し、別の角度から日本語に接近し、親しみを持って学習できるようにしたい。総合保育学科に関しては、9月に実施される教育実習の終了後送付する礼状の基礎知識についても学ぶ。

《学生の到達目標》

日本語の基礎知識を確認し、短期大学で学び、卒業後のキャリアに相応しい日本語の運用ができることを第一の目標とする。そのために、まずは、小学校、中学校、高等学校を通じて、各自があいまいに、あるいは間違っていて定着させてしまっている知識の有無を確認し、正確な知識となることを目標とした。特に前期では、漢字の書き取りと読みが中心となり、その習熟が中心となるが、この種の知識には限りがないので、就職活動時に求められる程度の学力を築けることを目指し、それによって、後期開講の授業へとつながるようにしたい。

《授業計画》

1. 受講上の諸注意その他
2. 日本語音力基礎
3. 日本語表現の基礎(1)
4. 日本語表現の基礎(2)
5. 日本語表現の基礎(3)
6. 漢字の部首とつくり(1)
7. 漢字の部首とつくり(2)
8. 漢字の音訓と熟語の読み(1)
9. 漢字の音訓と熟語の読み(2)
10. 漢字の音訓と熟語の読み(3)
11. 同音異義語について(1)
12. 同音異義語について(2)
13. 同訓異義語について(1)
14. 同訓異義語について(2)
15. 手紙とはがきの基礎(お礼状)

《成績評価の方法・基準》

成績評価は定期試験の結果にすべて基づく。定期試験問題は、全15回の講義中に解答した問題から、取捨選択して出題する(部首の知識25%、音訓の知識25%、同音異義語の知識25%)。ただし、前期の試験においては、きわめて初歩的な漢字の書き取りや読み、語彙に関する初見の問題(25%)を含めることにする。

《授業で使用する教科書》

・丸山顕徳「キャリアアップ国語表現二十訂版」嵯峨野書院

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

この授業が「日本語の力」を改めて向上させる最後の機会となる。授業時間内で多くの問題に解答してもらうので、何よりも、授業そのものに集中して臨む必要がある。事後の学習としては、プリントで用意した問題や、テキスト内の問題を改めて解答してみることもよいだろう。そのため、授業内での問題の解答には、別にノートを用意するの一案である。

日本語表現B ※人間福祉

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 小林 孔

《授業の概要》

自らが表現することと、表現を学ぶことは、本来、表裏一体でなければならぬ。「日本語表現A」が前者の基本を学ぶ科目であったように、「日本語表現B」は、よき表現者となるための学びのメニューをとりしめる。まず、日本語の語源をさぐる60分の講義をし、聞きとった内容をノートにとる演習を実施する。その時間内で聞きとったノートを受講生同士で点検し、自分が学びとった表現を確認するという方法である。また、講座の後半では、日本の近代詩人の中で、最も表現が難解と言われる中原中也の詩に材をとり、その表現のすみずみを、論理的に考える時間を作りたいと考える。

《学生の到達目標》

たとえば、その授業内に聞きとった表現の多さと、必ずしも多くはない表現を、自分の中で深く味わうことができたこととは、どちらが表現をよく学びとったといえるのか、これは、非常に評価が難しい。ただ、この演習に限れば、後者を到達の目標に選びたい。これは、聞きとったノートを見れば、一目瞭然と判る。聞きとった表現を、一度自分の中で理解をしてノートがとれること、これがこの演習の到達点である。

《授業計画》

1. 60分の講義メニューと聞き方ガイド
2. 春・夏・秋・冬
3. 桜と花見
4. 時鳥あれこれ
5. 五月雨
6. 涼しい文化
7. 七夕と五節供
8. 月見
9. 紅葉狩り
10. 時雨、初雪
11. 正月かざりにあやかる 以上、10テーマ
12. 中原中也『山羊の歌』『春の日の夕暮れ』を味わう
13. 「春の日の夕暮れ」から「サーカス」へ
14. 詩の表現を学ぶ
15. これからも表現を学ぶ意義を考える

《成績評価の方法・基準》

上記のとおり、10回の講義録の点検と提出を求め、その都度、評価とあわせて、今後の修正点を指摘する。したがって、毎時間の提出物の加点方式(8点×10回)で成績を評価する。また、詩の表現の理解度を見るために、最終授業で小テスト(20点)を実施する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

シラバスに従って、事前の学習をして臨んで欲しい。表現の理解を深めるための個別の指導をふまえて、事後学習を徹底し、次の受講につなげて欲しい。なお、受講に際しては、ノートを1冊用意すること。必要な資料は、担当者が配布する。

英語コミュニケーションA ※現代生活

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 ★福井 敬充

《授業の概要》

今後、外国から日本に来られる方がますます増加し、街角やお店などでは日本語がまだ十分でない外国人の方に英語を交えて日本での旅行や生活を援助する機会が増えてきます。このような社会に向けて、様々な場面での英語運用能力の基礎を身につけます。海外旅行、お店・ホテルでの接客、オフィスなどで使える英会話を学習します。短くやさしい英語を瞬間的に表現することを通して基本的な文法を復習します。ユーモアのある英文を読み、英文に慣れることで将来仕事で英文を読む機会に備えます。英語の間違いを恐れず相手と積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を最も重視します。

《学生の到達目標》

授業で学んだ短い英文を瞬間的に表現できるようになる。ペアワーク、グループワーク、ロールプレイなどのアクティブラーニングを通して海外旅行、お店・ホテルでの接客、オフィスなどで使える英語を学び、英語コミュニケーション力を高める。英語学習を通して異なる文化と自らの文化への理解を深く尊重するようになる。英語の間違いを恐れず相手と英語でコミュニケーションをとろうとする意欲、姿勢を身につける。英検2級、准2級に合格できる力をつける。

《授業計画》

1. 授業内容、評価方法等の説明
2. 口頭短文英語、ユーモア英文、海外旅行英語(機内、入国管理、タクシー)
3. 口頭短文英語、ユーモア英文、海外旅行英語(ホテル、美容院)
4. 口頭短文英語、ユーモア英文、接客・もてなし英語(飲食店、お勘定)
5. 口頭短文英語、ユーモア英文、接客・もてなし英語(販売店)
6. 口頭短文英語、ユーモア英文、接客・もてなし英語(販売店、ホテル)
7. 口頭短文英語、ユーモア英文、接客・もてなし英語(ホテル、旅館)
8. 口頭短文英語、ユーモア英文、接客・もてなし英語(クレーム、街角で)
9. 中間まとめ、これまでの復習
10. 口頭短文英語、ユーモア英文、オフィス英語(挨拶、自己紹介、受付)
11. 口頭短文英語、ユーモア英文、オフィス英語(電話での応対)
12. 口頭短文英語、ユーモア英文、オフィス英語(仕事の依頼、休暇、残業等)
13. 口頭短文英語、ユーモア英文、オフィス英語(仕事の引き受け方、断り方等)
14. 口頭短文英語、ユーモア英文、オフィス英語(日本風挨拶等)
15. まとめ、総合復習

《成績評価の方法・基準》

スピーチ、ペアワーク、グループワークなど授業への参加貢献度 40%、宿題 30%、テスト 30%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習: テーマについて興味を持ったことを本、インターネットなどで調べておく。事後学習: 授業で学んだ英会話を発音を意識して繰り返し練習する。

英語コミュニケーションA ※総合保育

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★福井 敬充

《授業の概要》

今後、外国から日本に來られる方がますます増加し、保育園や幼稚園では日本語がまだ十分でない外国人の子どもたちや保護者の方に英語を交えて日本での生活に慣れるよう援助する機会が増えてきます。このような社会に向けて、様々な場面での英語運用能力の基礎を身につけます。保育園・幼稚園、海外旅行、お店・ホテルでの接客などで使える英会話を学習します。短くやさしい英語を瞬間的に表現することを通して基本的な文法を復習します。ユーモアのある英文を読み、英文に慣れることで将来仕事で英文を読む機会に備えます。英語の間違いを恐れず相手と積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を最も重視します。

《学生の到達目標》

授業で学んだ短い英文を瞬間的に表現できるようになる。ペアワーク、グループワーク、ロールプレイなどのアクティブラーニングを通して保育園・幼稚園、海外旅行、お店・ホテルでの接客などで使える英語を学び、英語コミュニケーション力を高める。英語学習を通して異なる文化と自らの文化への理解を深く尊重するようになる。英語の間違いを恐れず相手と英語でコミュニケーションをとろうとする意欲、姿勢を身につける。幼保英検2級、3級に合格できる力をつける。

《授業計画》

1. 授業内容、評価方法等の説明
2. 口頭短文英語、ユーモア英文、海外旅行英語（機内、入国管理、タクシー）
3. 口頭短文英語、ユーモア英文、海外旅行英語（ホテル、美容院）
4. 口頭短文英語、ユーモア英文、幼保英語（登園、出席）
5. 口頭短文英語、ユーモア英文、幼保英語（室内遊び）
6. 口頭短文英語、ユーモア英文、幼保英語（屋外あそび）
7. 口頭短文英語、ユーモア英文、幼保英語（トイレ）
8. 口頭短文英語、ユーモア英文、幼保英語（昼食）
9. 口頭短文英語、ユーモア英文、幼保英語（お昼寝、お迎え）
10. 中間まとめ、これまでの復習
11. 口頭短文英語、ユーモア英文、接客・もてなし英語（飲食店、お勘定）
12. 口頭短文英語、ユーモア英文、接客・もてなし英語（販売店）
13. 口頭短文英語、ユーモア英文、接客・もてなし英語（販売店、ホテル）
14. 口頭短文英語、ユーモア英文、接客・もてなし英語（ホテル、旅館）
15. まとめ、総復習

《成績評価の方法・基準》

スピーチ、ペアワーク、グループワークなど授業への参加貢献度 40%、宿題 30%、テスト 30%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：テーマについて興味を持ったことを本、インターネットなどで調べておく。事後学習：授業で学んだ英会話を発音を意識して練習する。

英語コミュニケーションA ※人間福祉

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★福井 敬充

《授業の概要》

今後、外国から日本に來られる方がますます増加し、街角や介護・福祉施設などでは日本語がまだ十分でない外国人の方に英語を交えて日本での生活を援助する機会が増えてきます。このような社会に向けて、様々な場面での英語運用能力の基礎を身につけます。介護・福祉施設、海外旅行、お店・ホテルでの接客などで使える英会話を学習します。短くやさしい英語を瞬間的に表現することを通して基本的な文法を復習します。ユーモアのある英文を読み、英文に慣れることで将来仕事で英文を読む機会に備えます。英語の間違いを恐れず相手と積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を最も重視します。

《学生の到達目標》

授業で学んだ短い英文を瞬間的に表現できるようになる。ペアワーク、グループワーク、ロールプレイなどのアクティブラーニングを通して、介護・福祉施設、海外旅行、お店・ホテルでの接客などで使える英語コミュニケーション力を高める。英語学習を通して異なる文化と自らの文化への理解を深く尊重するようになる。英語の間違いを恐れず相手と英語でコミュニケーションをとろうとする意欲、姿勢を身につける。英語検定2級、准2級に合格できる力をつける。

《授業計画》

1. 授業内容、評価方法等の説明
2. 口頭短文英語、ユーモア英文、海外旅行英語（機内、入国管理、タクシー）
3. 口頭短文英語、ユーモア英文、海外旅行英語（ホテル、美容院）
4. 口頭短文英語、ユーモア英文、介護・福祉英語（起床、体調管理）
5. 口頭短文英語、ユーモア英文、介護・福祉英語（衣服の着脱）
6. 口頭短文英語、ユーモア英文、介護・福祉英語（車いす）
7. 口頭短文英語、ユーモア英文、介護・福祉英語（口腔ケア、排泄）
8. 口頭短文英語、ユーモア英文、介護・福祉英語（食事、服薬）
9. 口頭短文英語、ユーモア英文、介護・福祉英語（入浴、就寝）
10. 中間まとめ、これまでの復習
11. 口頭短文英語、ユーモア英文、接客・もてなし英語（飲食店、お勘定）
12. 口頭短文英語、ユーモア英文、接客・もてなし英語（販売店）
13. 口頭短文英語、ユーモア英文、接客・もてなし英語（販売店、ホテル）
14. 口頭短文英語、ユーモア英文、接客・もてなし英語（ホテル、旅館）
15. まとめ、総復習

《成績評価の方法・基準》

スピーチ、ペアワーク、グループワークなど授業への参加貢献度 40%、宿題 30%、テスト 30%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：テーマについて興味を持ったことを本、インターネットなどで調べておく。事後学習：授業で学んだ英会話を発音を意識して繰り返し練習する。

情報処理演習 A ※現代生活

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 中津 功一郎

《授業の概要》

IT 時代の情報活動を効率的に行うための基本的な情報リテラシーの習得を目指す。内容は、①Word による文書作成、②インターネットの利用法について幅広く学ぶ。Word の利用においては、単に入力するだけでなく、デザインや見栄えなどレイアウトを学生自ら考える。さらに、自ら考えたデザインを実現するための効率的な作成方法を学ぶ。また、Internet の利用法については、電子メールやネットリテラシーだけでなく、情報を見つけ出すための効率的な方法を学ぶ。

《学生の到達目標》

この授業では、コンピュータの利用法についての講義を通じて、情報を扱うための基礎知識を得ることが出来、情報を扱うための技術が習得できる。具体的には、授業を通じて、以下の能力を身につけることを目的とする。①PC を扱う上で不便を感じないタイピング能力を身につけることが出来る。②伝えたい事を分かりやすく、Word 文書として伝えるための方法を身につけることが出来る。③インターネット上での的確な情報を素早く身につけることが出来る。

《授業計画》

1. 授業のガイダンス
2. Windows の基礎と文章入力的基础
3. Word の基本操作 (既存ファイルの利用と保存)
4. Word 基礎① 日本語入力
5. Word 基礎② 文章編集
6. Word 基礎③ ページ設定
7. Internet 基礎① ブラウザの利用と検索
8. Internet 基礎② 電子メールの利用
9. Internet 基礎③ google の利用
10. Internet 基礎④ ネットリテラシー
11. Word 応用① 画像を用いた文書作成
12. Word 応用② 罫線の利用
13. Word 応用③ 表作成
14. Word 応用④ ビジネス文書の作成
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

この授業は演習形式の授業であるため、毎回課す、授業内容を確認するための課題により評価する。(60%) 課題については、未完成であったり、課題としての評価が低いものに関しては、教員からの注意点を踏まえ、再提出を行うこととする。再提出に関する評価を 10% とする。また、最終授業において、応用問題を最終課題として課す。最終課題の成績を 30% とする。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：配布資料に目を通しておく。事後学習：授業中の応用問題を課題とするので、自ら考えて課題をクリアしていく必要がある。

情報処理演習 A ※総合保育

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 藤田 朋己

《授業の概要》

現在、保育現場においては、ICT 機器の活用が不可欠となっている。また、仕事を進める上で、効率よく時間を使い、効果的な ICT 機器の活用を実現するスキルも求められている。本授業では、筆記用具と同じく ICT 機器を扱うスキルと効率的に業務をおこなうスキルの向上を目指す。ICT 機器はあくまで道具であり、表現をするための手段ではない。表現においては、個の感性やものごとの捉え方が問われるとともに、第三者に対して伝えたい内容が、正確かつわかりやすく表現できるかが重要である。個の感性を磨くとともに、多方向からものごとを見る広い視野の育成もおこなう。そのため、他者と成果物を相互評価する場面を設け交流を図る。

《学生の到達目標》

ICT 機器を的確に操作できるようになるとともに、ICT 機器を効率よく、正確に操作できるようになることを目標とする。また、何かしら作成物を作成する際には、それを手にする第三者の視点に立ち、デザイン・構成等を考えなければならぬ。自身の感性を磨き、広い視野でものごとを多方向から見ようとする姿勢を身につける。実施にあたっては、学生同士で成果物を評価し合う場面を設ける。他者の成果物から学びを得るとともに、他者に感想を伝え、アドバイスをおこなうことで、評価者としての視点を持てるようになることも目標とする。

《授業計画》

1. 授業計画の理解
2. 自己紹介カード作成演習・カードを利用した交流
3. 学内コンピュータ環境および利用方法についての理解
4. 印刷素材提供サイトの活用1 (カレンダー作成)
5. Word の基本操作・折り紙サイトの活用
6. 歌詞カード演習1 (紙面作成)
7. 歌詞カード演習2 (紙面作成・冊子印刷)
8. 歌詞カード演習3 (冊子印刷・制作冊子相互閲覧)
9. 絵文字レター作成
10. POP 作成 (注意を促すPOP)
11. カード作成・絵本サイトの活用
12. 印刷素材提供サイトの活用2 (カラーージュ作成「私の好きな・・・」)
13. 映像から情報を読み解く (意外と知らない!? 保育園・幼稚園)
14. お便りの作成演習1 (夏祭り)
15. お便りの作成演習2 (自由課題)・総括

《成績評価の方法・基準》

本授業は演習授業である。授業における説明を聞いた上で課題に取り組み、その課題を提出することが重要である。提出された課題については、修正点等のコメントをつけた上で返却する。指摘された点に注意して、以後の課題に反映して欲しい。評価方法としては、レポート評価 (40%)・演習課題評価 (60%) とする。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

伝えたいことをわかりやすく、正確に伝えるためのスキルを身につけるためには、普段の生活の中で意識を持って、目にするものに対して欲しい。また、常に自身の感性を磨き、ものごとに対する視野を広げる努力も重要である。事前学習として、これらのことを意識することを願う。提出課題については、評価とコメントをつけて返却する。事後学習として、指摘された内容を理解し、今後の演習に活かす努力を願う。

情報処理演習 A ※人間福祉

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 石橋 健

《授業の概要》

コンピュータを代表とする情報通信技術 (ICT) は社会のいたるところに普及しており、これを適切に活用するための基本的な知識である情報リテラシーを習得することは必要不可欠である。この授業では、文書作成や表計算、プレゼンのためのソフトを使用しながら、それらの操作方法だけでなく、インターネットを利用した情報検索、ネットリテラシーを学ぶ。具体的には、Word や Excel、Power Point の基本的な操作を学び、お絵描きやポスター作成、プレゼンを通じて、習得した操作方法の活用を学生自ら考える。また、情報検索や画像の使用、電子メールの利用によりネットリテラシーを学ぶ。

《学生の到達目標》

コンピュータを利用する際の抵抗をなくし、積極的に活用するための基礎となる心構えを身につけることがこの授業の到達目標である。具体的には、授業を通じて、以下の能力を身につけることを目的とする。①コンピュータを扱う上で不便を感じない能力 (タイピング能力、マウス操作など)。②伝えたいことを分かりやすく、文書やプレゼンとして伝えるための能力。③インターネット上での確かな情報を素早く見つける能力。

《授業計画》

1. 授業のガイダンス
2. コンピュータの基本操作 : 日本語入力
3. 文書作成 (1) : ファイルの作成と保存
4. 文書作成 (2) : 文書の体裁設定
5. 定型文書への入力 (1) : Word の罫線と Excel のセルの編集
6. 定型文書への入力 (2) : 入力のコピーと表計算
7. インターネット (1) : インターネットの利用と情報検索
8. インターネット (2) : 画像の利用とネットリテラシー
9. 文書作成の応用 (1) : 図形でお絵描き
10. 文書作成の応用 (2) : ポスターの作成
11. プレゼン資料の作成 (1) : Power Point の使い方
12. プレゼン資料の作成 (2) : 画像の挿入とアニメーション
13. 発表準備 (1) : 最終課題の作成
14. 発表準備 (2) : 最終課題の作成
15. 最終課題の発表

《成績評価の方法・基準》

この授業は演習形式の授業である。毎回の授業内容を確認するためのレポート (70%) と最終回で行う課題発表 (30%) で評価する。なお、レポートについては、未完成やレポートとしての評価が低いものに関して、教員からの注意点を踏まえた再提出を課すこととする。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習 : 普段使っているインターネットのサービスやパソコンのソフト、スマートフォンのアプリを本当に活用できているのか、意識をしながら積極的に使用する。また、それらを通じて浮かんだ疑問点を授業で質問するための準備をする。事後学習 : 授業中に学んだことを復習する。特にコンピュータの操作方法は実際に使用しながら振りかえる。

英語コミュニケーション B

2 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 ★福井 敬充

《授業の概要》

英語コミュニケーション A の学びの後、さらに広く深く英語表現を学びます。外国から日本に来られる方がますます増加し、保育園や幼稚園、お店、職場、などでは日本語がまだ十分でない外国人の方に英語を交えて日本での生活を援助する機会が増えてきます。このような将来に向けて様々な場面で英語運用能力の基礎を身につけます。保育園・幼稚園、オフィス、お店・ホテルでの接客などで使える英会話及び日本文化を紹介する英語を詳しく学習します。英語でちょっとした話を聞き、英文に慣れることで将来仕事で英文を読む機会に備えます。英語の間違いを恐れず相手と積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を最も重視します。

《学生の到達目標》

英語コミュニケーション A で学習した英語表現に加え、さらに広く深く英語を学ぶ。ペアワーク、グループワーク、ロールプレイなどのアクティブラーニングを通して保育園・幼稚園、オフィスなどで使える英語及び日本文化を紹介する英語を学び、英語コミュニケーション力を高める。英語学習を通して異なる文化と自らの文化への理解を深める。英語の間違いを恐れず相手と英語でコミュニケーションをとろうとする意欲、姿勢を身につける。幼保英検・英語検定 2 級、3 級に合格できる力をつける。

《授業計画》

1. 授業内容、評価方法等の説明
2. 英文ちょっとした話、幼保英語 2 (入園、登園、オフィス英語 2 (紹介、仕事の依頼)
3. 英文ちょっとした話、幼保英語 2 (室内あそび)、オフィス英語 2 (電話 1)
4. 英文ちょっとした話、幼保英語 2 (室内あそび 2)、オフィス英語 2 (電話 2)
5. 英文ちょっとした話、幼保英語 2 (昼食とおやつ)、オフィス英語 2 (会議)
6. 英文ちょっとした話、幼保英語 2 (屋外遊び)、オフィス英語 2 (職場での雑談 1)
7. 英文ちょっとした話、幼保英語 2 (病気とケガ)、オフィス英語 2 (職場での雑談 2)
8. 中間まとめ、これまでの復習
9. 英文ちょっとした話、日本文化紹介 (気候、風土)
10. 英文ちょっとした話、日本文化紹介 (日本料理 1)
11. 英文ちょっとした話、日本文化紹介 (日本料理 2)
12. 英文ちょっとした話、日本文化紹介 (着物)
13. 英文ちょっとした話、日本文化紹介 (華道)
14. 英文ちょっとした話、日本文化紹介 (茶道)
15. まとめ、総合復習

《成績評価の方法・基準》

スピーチ、ペアワーク、グループワークなど授業への参加貢献度 40%、宿題 30%、テスト 30%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習 : テーマについて興味を持ったことを本、インターネットなどで調べておく。事後学習 : 授業で学んだ英会話を発音を意識して繰り返し練習する。

現代生活學科

現代生活基礎演習

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)

担当 中井 康行, 中津 功一郎

《授業の概要》

本演習は現代生活学科各コースに共通する初年次教育科目として位置づけられる。ただ、一般に言われる初年次教育に含まれるような、ノートのとり方やレポート作成のノウハウを学ぶものではなく、また、高等学校での授業科目の補習を行うものでもない。本講義は、既に並行して始まっている大学および学科での各講義において、さらに、やがて始まる就職活動を含む社会生活全般において、様々な生起する問題とどう取り組んで行けばよいか、その手がかりを発見することを主眼に置くものである。本講義を通じて、新入学生は、ジェネリックスキルの高いメタ認知能力を向上させ、短期大学での2年間の課程だけでなく、卒業後においても、自ら考え判断する力を養い最初の一步を踏み出すことになる。

《学生の到達目標》

本演習では、ジェネリックスキルの汎用的技能（一般にはメタ認知能力と呼ばれる）の重要性を認識することを最大の目標とする。そのため直ちに成果を求めるものではなく、この技能に含まれる要素を自ら意識できるかどうか課題となる。本来各自が持っているはずのこの能力向上のために、三つのステージが用意され、そこで問題を解決してもらい、それによって、問題把握の糸口の発見、論点整理のための分類の実践、適切に問題解決するための手順の組み立て方などを、様々な作業に基づいて体感し、この技能を意識してもらい、ただし、この種の学習プログラムの性格上、到達すべき目標に対する達成度は、本演習でのみ測れるものではなく、現代生活学科全課程科目において、受講者各自が日々確かめて行くことになる。

《授業計画》

1. オリエンテーション [この授業では何を学ぶのか?]
2. ジェネリックスキルの養成基礎(1) 問題解決手順 (アルゴリズムということ)
3. ジェネリックスキルの養成基礎(2) 問題解決手順 (最適化の重要性)
4. ジェネリックスキルの養成基礎(3) 総括と導入 (分類の基礎理解に向けて)
5. ジェネリックスキルの養成基礎(4) 分類と階層と繋がり (区分と要素の分析から)
6. ジェネリックスキルの養成基礎(5) 分類と階層と繋がり (部分と全体の把握)
7. ジェネリックスキルの養成基礎(6) 総括とプレゼンテーション
8. ジェネリックスキルの実践(1) 図書館探索への導入 (観点と鑑賞について)
9. ジェネリックスキルの実践(2) 図書館探索の実践 (観点の整理と分類)
10. ジェネリックスキルの実践(3) 図書館探索の実践 (観点を変えて見てみるということ)
11. ジェネリックスキルの実践(4) 図書館探索の実践 (発表資料の作成)
12. ジェネリックスキルの実践(5) 図書館探索の実践 (論点の整理と資料の補足)
13. ジェネリックスキルの実践(6) 図書館探索の実践 (図書館探索結果の発表)
14. 現代生活基礎演習の総括(1) 振り返りレポートによる自己検証
15. 現代生活基礎演習の総括(2) 提出レポートに基づく授業内容の再確認

《成績評価の方法・基準》

各ステージでの受講者の取り組み方およびその結果に基づいて評価を行う。第1ステージではアルゴリズムの最適化のための課題(25%)について、第2ステージでは学術用語等の分類と階層化のための課題(25%)に基づいて、第3ステージでは学園図書館の蔵書を利用して、教員の提示する問題について、二人一組で相互理解を深めつつ、資料を調査し、整理し、報告できるか、そのプロセス全体について(50%)、評価を行う。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

本演習では、大学で学ぶとはどういうことかについて焦点が絞られていくので、高等学校までの授業への取り組み方をいったん忘れて臨んでほしい。そうした意識の持ち方を心がけることが事前学習の意味合いを持つ。事後学習としては、演習で学んだ知識を、他の受講科目や自らの社会生活に当てはめて考えることを求める。本演習で体感したことに基づき、科目の垣根を越えて、外へと視線を向けることが最大の事後学習となる。

現代生活応用演習

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)

担当 中井 康行, 中津 功一郎

《授業の概要》

本講義は、1年次前期開講の「現代生活基礎演習」の応用編として位置づけられる。前期で意識することばかりでなかったジェネリックスキルの汎用的技能の実践を、いくつかの課題に集約して、深化させて体感することを目指す。特に、コミュニケーション行為を、①相手の話を理解し、②まとめて、③自分の意見を加え、④伝えること、定義づけ、これに関わる力を身につけることを主眼とする。書記情報・音声情報を的確に把握し、要約することから始め、就職活動で求められるエントリーシートを素材にして、自己に関わる情報をいかにまとめ、活用するか、企業情報を題材にして、そこから何を読み取り、効果的なプレゼンテーションを行えるかを体験し、今後の学生生活と社会生活に役立ててもらいたい。

《学生の到達目標》

社会人として様々な場面で求められるコミュニケーション能力の向上が、本演習の核となる。自分の考えを簡潔で、分かりやすい文章に表現し、公場で表現できる技能を身につけることができるかが、一つの目標となる。一方で、コミュニケーションが双方向的なものであることを十分に認識してもらい、コミュニケーションの場面で過不足なく相手のメッセージを聞き取り、そのポイントを的確に把握できるようになることも目標となる。企業情報を通して、現代社会への視野を広げ、その中に自分自身を改めてどう位置づけるかを意識できるようになることを目標とする。併せて、パワーポイント等を利用した効果的なプレゼンテーション方法の習得も目標となる。

《授業計画》

1. 現代生活応用演習では何を学ぶのか? (現代生活基礎演習の振り返りから)
2. 語の概要を聞き取るための基礎 (日本語聞き取り能力確認テスト)
3. 自分のことを要約してみる (自分と構成している要素とは何か?)
4. 書記情報の要約とプレゼンテーションの準備(1)
5. 書記情報の要約とプレゼンテーションの準備(2)
6. 書記情報の要約とプレゼンテーションの準備(3)
7. コミュニケーションの実践(1) 自分の分析と相手の分析 (エントリーシートを素材に)
8. コミュニケーションの実践(2) 自分の分析と相手の分析 (企業情報へのアプローチ)
9. コミュニケーションの実践(3) PCで情報を整理し、エントリーシートにまとめる
10. 企業情報の探索とプレゼンテーションの準備(1)
11. 企業情報の探索とプレゼンテーションの準備(2)
12. 企業情報の探索とプレゼンテーションの準備(3)
13. 発表資料の再分析とプレゼンテーションの準備合わせ
14. 企業情報の探索に基づくプレゼンテーション
15. プレゼンテーションに対する講評と現代生活応用演習の総括

《成績評価の方法・基準》

本演習は四つのステージに分かれるが、第一段階として、音声内容や書記情報の要約文を提出してもらい、それを評価の対象とする(10%)。次に、エントリーシート作成を利用した提出物によって、自己分析に関わる記述能力の確認を行い、これを評価に代える(20%)。その上で、企業情報の分析結果(指定する企業のホームページを素材とする)(20%)を、原則2名1組で報告してもらい、その成果について評価する(50%)。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

「現代生活基礎演習」において体感した事柄を再考し、その都度本演習での課題に応じることが、実質的な事前学習となる。また、本演習の性格上、提示された課題に対処することが、結果として事後学習になってくる。また、文章の要約課題やエントリーシートの記述等については、受講者の個々の求めに応じて別途助言や添削を行うので、これに積極的に取り組み、事後学習を主体的に充実させてほしい。

現代生活論

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★奥田 晶子, 大江 由起, 伊藤 明子

《授業の概要》

社会環境、生活環境が変化の中で、自らの価値観を見出し、主体性をもって社会と関わるための基礎知識を学ぶ科目です。最初の5回は他人や社会との関わりの中で、将来の目的を達成するための方法として、実践できる知識について学びます。衣生活では、パーソナルカラー理論を学び、自分に似合う色・デザイン・素材・化粧の身だしなみが分かり、印象管理や衣服の整え方に役立たせます。暮らしを支える住生活では、日本の特徴的な住空間や住み方について紹介したのち、住まいや住環境を快適に維持し、健康で安全な生活環境を実現するにはどうすればよいか考察します。さらに近年の家族の変化の中で豊かな住生活とは何かについて考えます。

《学生の到達目標》

・自らのライフスタイルをマネジメントできる基礎力を身につける。テーマにそった小グループでの話し合いを通して、テーマについて理解することができる。他人との関わりの中で、摩擦の少ないコミュニケーションについて理解することができる。・自己の第一印象を管理できる自分に似合う衣服計画を身につけることができる。・生活者の視点から住まいに対する関心を持ち、快適に維持し、かつ安全に暮らしていくための問題意識をもつことができる。真に豊かな住生活とは何か、自分の住まい、身近な住生活に引き寄せて主体的に考える姿勢を養うことができる。

《授業計画》

1. コミュニケーションのとおり方 ～アクティブリスニング～
2. コミュニケーションのとおり方 ～他人との意思疎通をスムーズにするために～
3. 働く意識について考える（グループワーク）
4. あなたの価値観について知る
5. あなたの人生を設計してみよう ～ライフプランニング表の作成～
6. 快適な衣生活を送るために ～印象管理と色～
7. イメージと自己分析 パーソナルカラー（似合う色）診断
8. デザイン（形）とコーディネート～体型カバーの法則～
9. 健康的な身だしなみ ～ナチュラルメイクの方法～
10. 衣類の管理と整理収納 ～繊維別の洗濯と整理収納法～
11. 日本の住まいの特徴と住生活上の課題 ～床座と椅子座・はきものを脱いだ生活～
12. 安全な住まい ～家庭内事故と住宅内の安全対策～
13. 住まいの室内環境 ～音環境・光環境・温熱環境～
14. 住まいと住生活の管理 ～収納にかかわる問題～
15. 住まいの種類と選択 ～家族の変化と多様な住まい～

《成績評価の方法・基準》

3人の教員で1/3ずつ評価します。第1～5回：授業内外で取り組んだ課題や提出物50%、授業中の発言や積極性を考慮した参加貢献度50% 第6～10回：授業内外で取り組んだ課題や提出物50%、授業への参加貢献度50% 第11～15回：授業内外で取り組んだ課題や提出物40%、授業への参加貢献度60%

《授業で使用する教科書》

・プリント配布

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：日ごろから広く社会問題、生活問題、住まいや住環境にかかわることがらに関心を持ち、新聞やニュースなどから今日的な問題、特に若い女性の労働に関するニュースや新しい住まいの問題をとりあげた記事に注目してください。また、日ごろから自己表現のための服装にも意識し、他の女性の服装にも注目してください。事後学習：授業内容を振り返り、必要に応じて課題に取り組みしましょう。

食生活論

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★村上 道子

《授業の概要》

現在わが国民の死因は、食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣と関係するものが上位を占めており、健康の維持増進・疾病の予防に、生活習慣が大きく影響を与えている。疾患の治療（三次予防）や早期発見（二次予防）よりも、こどもの頃から健康的な生活を心がけ、病気になることを予防（一次予防）する事が重要である。健康で長生きするための生活習慣とくに食習慣について重要な事柄を学ぶ。

《学生の到達目標》

栄養の基礎知識を理解し、栄養の不足、偏りが、健康をどのように阻害するかを理解する。現代日本の食生活が取り巻く様々な問題点に関心を持つことができる。女性として母性としての食生活にも関心を持ち、一生にわたって健康で豊かな食生活を営むための知識を身につけることができる。

《授業計画》

1. 食生活の機能について
2. 健康な食生活の基本について
3. 健康なダイエットについて
4. 栄養の基本について 炭水化物
5. 栄養の基本について 脂質、たんぱく質
6. 栄養の基本について ビタミン、ミネラル
7. 身体活動について
8. スポーツ栄養と食生活について
9. 休養・ストレスについて
10. 健康を阻害する要因について
11. 疾病の予防について
12. 生活習慣病について
13. 母性と栄養について
14. 子どもの病気と栄養について
15. 子育てのための食生活について

《成績評価の方法・基準》

試験（70%）、課題提出（30%）で評価する。

《授業で使用する教科書》

・一般社団法人FLAネットワーク協会 編「食生活アドバイザー基礎公式テキスト&問題集」日本能率協会マネジメントセンター

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習は、食生活に関する本などを読み、興味を持ったものや、わからないところは調べる。事後学習は、毎回配布するプリントを勉強し、知識の定着を図る。食生活アドバイザー試験の勉強をする。

チームビルディング I (ヨーガ)

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 坂本 淑子

《授業の概要》

ヨーガ療法はインド 5000 年の伝統的ヨーガを科学的な研究をもとに一般の人や疾患を持つ人でも安全に行えるように改良して作られたものである。ヨーガは身体機能の回復を図るだけでなく、心の落ちつきや睡眠などの精神的な健康を向上させる効果のある健康法として今や世界中に広まっている。授業ではストレス対処法としてヨーガ行者たちが培った技法から、心身の不調からの健康回復や病氣予防の方法を学ぶ。また実技のアーサナや呼吸法、瞑想によって客観的に自分を捉える力、ストレス場面でも落ち着いて対処する力、集中力を養い、またグループワークによって言語化する力、他者と関わる力、アセスメントする能力を磨いていく。

《学生の到達目標》

伝統的ヨーガ、ヨーガ療法について学び、現代社会におけるストレス、ストレスによっておきる疾患を理解する。また自分自身がストレス対処能力を身につけ、自己コントロール力を養うことにより、問題解決能力、協調性など社会に出るために必要な力を身につける。同時にアーサナ、呼吸法などヨーガの実技を学び、心身両面の健康作りを実践し、実技を人に教える基礎を身につける。さらには瞑想や心理教育によって自分自身のこだわりについて理解し、認知の修正をはかることで自立的に生きる方法を学ぶ。

《授業計画》

1. ヨーガ・ヨーガ療法について
2. ストレスについて①～ストレスのメカニズム
3. ストレスについて②～ストレス性疾患
4. ストレスについて③～ヨーガ療法によるストレスマネジメント
5. ヨーガ療法における人間観～人間五蔵説
6. ヨーガ療法における病理論
7. 人間五蔵別に基づく治療・指導論
8. 自分自身をアセスメントする
9. 日常ストレスへの対処法
10. ストレスからの脱法①～ストレスは自分の中で作り出している
11. ストレスからの脱法②～心のお掃除
12. 新たな目標に向かって①～自立・独存位
13. 新たな目標に向かって②～社会との調和・社会への貢献
14. 新たな目標に向かって③～真の幸せとは
15. ストレスマネジメントまとめ

《成績評価の方法・基準》

授業への取り組み姿勢・授業後の質問及び感想文 (次回授業で全体でシェアリング) …30% (授業の内容に添った設問、自己を内観、分析するレポート提出 (グループで次回授業でシェアリング・講師が添削して返却)) …40% (実技を指導する技術 (授業内で適宜実施・内容をよく理解し人に伝えられているか) …30% 以上を総合して評価する。

《授業で使用する教科書》

・木村慧心「実践 ヨーガ療法」ガイアブックス

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：授業終了時に毎回の気づき、感想文を提出する。・授業後に毎回宿題を課し、次回授業時にレポートとして提出する。事後学習：毎回習った実技 (アーサナ・呼吸法など) を家庭で実習し、回次の授業でグループ内でインストラクションをかけられるようにする。

インターンシップ I

1 年次 (半期)
1 単位 (実習)
担当 ★山口 禎, 湯浅 嵩晃

《授業の概要》

①学生が社会人基礎力を高める②学生が仕事の仕組みを理解できる③学生が自分の役割を理解できる④学生が学んだことを就職活動で活用できる ⑤学生が自ら定めた目標の達成に向けた努力ができる

《学生の到達目標》

①学生が社会人基礎力を高める②学生が仕事の仕組みを理解できる③学生が自分の役割を理解できる④学生が学んだことを就職活動で活用できる ⑤学生が自ら定めた目標の達成に向けた努力ができる

《授業計画》

1. インターンシップガイダンス (概要説明)
2. 受入先公募
3. マッチング面談
4. インターンシップ事前ガイダンス① (全体スケジュール共有)
5. インターンシップ事前ガイダンス② (課題解決シート作成)
6. インターンシップ事前ガイダンス③ (郵送物作成)
7. インターンシップ事前ガイダンス④ (電話アポイント・挨拶訪問の仕方)
8. 電話アポイント
9. 挨拶訪問
10. インターンシップ本番
11. インターンシップ本番
12. インターンシップ本番
13. インターンシップ本番
14. インターンシップ本番
15. インターンシップ本番

《成績評価の方法・基準》

実習先指導者による評価表 (70%) と実習生の実習報告 (30%) で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：学生が希望する業種・職種を調査し、通勤可能エリアを考慮したうえで受入先候補を決定する。そのため、同時期に並行して行われるキャリアデザイン演習にて自己理解および仕事の理解を深めながら手続きを進める。事後学習：インターンシップ終了後、総括し、就職活動に取り組む。受入スケジュールの調整等は、学生本人が受入先企業と協力して行なっていくため、責任を持って取り組むこと。

簿記入門

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★羽多野 咲己

《授業の概要》

初めて簿記を学習する人を対象に、簿記の基礎を中心に、簿記とはどのような流れで行われていくのかを理解し、簡単な決算までの知識・技術を習得する。企業で行われている簿記会計情報の意義と重要性の一部を学習します。

《学生の到達目標》

初歩的な簿記の知識・技術を習熟することができる。

《授業計画》

1. 簿記の基礎
2. 資産・負債・資本
3. 貸借対照表
4. 収益・費用
5. 損益計算書
6. 取引と勘定
7. 仕訳と転記
8. 仕訳帳と総勘定元帳
9. 試算表
10. 現金と預金
11. 決算（その1）
12. 決算（その2）
13. 貸借対照表・損益計算書（その1）
14. 貸借対照表・損益計算書（その2）
15. 商品勘定（3分法）総括

《成績評価の方法・基準》

試験 60% 小テスト 20% 提出物 20%

《授業で使用する教科書》

・「最新段階式 日商簿記検定問題集3級4訂版」実教出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：教科書の要点と整理をよく読み、例題を解いてみる。事後学習：授業時の配布プリントを参考に練習問題に取り組み、授業内容を確認し知識の定着を図る。

商業簿記

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★羽多野 咲己

《授業の概要》

簿記入門を履修している人を対象に、簿記入門の学習した内容の続きから授業に入り、企業における財務諸表作成のための必要な簿記知識・技術の習熟及び会計情報の意義と重要性を学習し、日本商工会議所簿記検定3級資格取得に向けての学習を行います。

《学生の到達目標》

企業が必要としている簿記の基本的な知識と技術を習得することができる。日本商工会議所主催の簿記検定3級を受験することができるようになる。

《授業計画》

1. 小口現金出納帳
2. 仕入帳と売上帳
3. 商品有高帳
4. 売掛金と買掛金・貸倒引当金
5. 受取手形と支払手形・クレジット売掛金
6. その他の債権・債務①
7. その他の債権・債務②
8. 有形固定資産と減価償却
9. 税金
10. 決算整理
11. 収益・費用の繰り延べと見越し
12. 精算表
13. 決算その1
14. 決算その2
15. 総合問題・総括

《成績評価の方法・基準》

定期試験 60% 小テスト 20% 提出物 20%

《授業で使用する教科書》

・「最新段階式 日商簿記検定問題集3級4訂版」実教出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：教科書の要点と整理をよく読み例題を解いてみる。事後学習：授業時の配布プリントを参考に練習問題に取り組み、授業内容を確認し知識の定着を図る。

情報処理演習 B

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 中津 功一郎

《授業の概要》

IT 時代の情報活動を効率的に行うための基本的な情報リテラシーの習得を目指す。内容は、①Excel の基本操作、②関数を利用した表計算、③Excel と Word の連携について幅広く学ぶ。単に入力するだけでなく、デザインや見栄えなどレイアウトを考え、効率よく資料を作成するための技能を学ぶ。また、動画編集ソフトを利用し、写真や動画を用いて編集する技能を学ぶ。2 年生で学ぶ「広告制作演習」へのつながりも考慮している。

《学生の到達目標》

Microsoft Excel を用いて簡単な表計算ができ、ビジネス面でのコンピュータの基礎知識と Excel の利用を身につけることができる。さらに、自らが撮影した動画や写真を利用し、音楽を組み合わせた動画編集をすることができる。また、それぞれの課題については、対象者を設定する。そのため、誰のために情報を処理するのか、考える力が身につく。

《授業計画》

1. 授業のガイダンス (Excel で行う情報処理とは何か)
2. Excel の基本操作 (既存ファイルの利用と保存)
3. 効率的に情報処理するための方法: データ入力・編集
4. 効率的に情報処理するための方法: 並び替え、オートフィルタ
5. 効率的に情報処理するための方法: SUM・AVERAGE・MAX・MIN 関数の利用
6. 情報を提供する方法: 表のレイアウト、他のアプリケーションへのデータ出力
7. 情報を提供する方法: グラフ機能①
8. 情報を提供する方法: グラフ機能②
9. 情報を創り出す: IF 関数の利用
10. 情報を創り出す: SUMIF・COUNTIF 関数の利用
11. 情報を創り出す: VLOOKUP 関数の利用
12. 資料を作る際に重要とすること
13. 動画による情報提供: 動画編集①
14. 動画による情報提供: 動画編集②
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

この授業は演習形式の授業であるため、毎回課す、授業内容を確認するための課題により評価する。(60%) 課題については、未完成であったり、課題としての評価が低いものに関しては、教員からの注意点を踏まえ、再提出を行うこととする。再提出に関する評価を 10% とする。また、最終授業において、応用問題を最終課題として課す。最終課題の成績を 30% とする。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習: 配布資料に目を通しておく。事後学習: 授業中の応用問題を課題とするので、自ら考えて課題をクリアしていく必要がある。

プレゼンテーション論

1 年次 (半期)
2 単位 (講義)
担当 中津 功一郎

《授業の概要》

プレゼンテーションとは、与えられた条件の下で自分の持っている情報、事実、考えなどを相手にわかりやすく正確に伝え、受け入れてもらう行動のことである。本授業は、プレゼンテーション能力を身につけるために、いくつかの課題についての実践を通して、プレゼンテーションの意義、目的、進め方、ツールの活用を学ぶ。また、プレゼンテーションで一番大事なことは、発表者が発表内容を知識とすること。この重要性を簡単な例題から実感し、理解する。

《学生の到達目標》

本講義では、以下の能力を獲得する事を目標とする。①プレゼンテーションが苦手な理由を理解し、苦手克服ができる。②コミュニケーションの大切さを学び直し、プレゼンテーションの基礎能力を身につけることができる。③プレゼンテーションをしやすい環境づくりができる。

《授業計画》

1. 授業のガイダンス
2. プレゼンテーション力を磨くのはなぜ?
3. 聞き手について考える
4. 聞き手との意識共有①聞き手は何を知りたい? (発表準備)
5. 聞き手との意識共有②聞き手に気づかせる (発表準備)
6. 発表: 聞き手を意識したプレゼンテーション
7. プレゼンのシナリオと重要性①伝える順序が変わる (発表準備)
8. プレゼンのシナリオと重要性②伝わるシナリオ (発表準備)
9. 発表: 話しやすい環境を意識する
10. プレゼンのシナリオと重要性③まとめ
11. プレゼンテーションの話し方①緊張はしてもいい
12. プレゼンテーションの話し方②自分の言葉で話をしよう
13. 考えることの重要性
14. 最終発表準備
15. 最終発表

《成績評価の方法・基準》

授業中に課す、プレゼンテーションを課題とする。課題の結果を成績評価の 50% とする。また、授業内容を身につけるために定期試験を行い、その結果を成績評価の 50% とする。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習としては、配布された資料を読み、わからないところなどのチェックを行う。事後学習としては、毎回課される課題を振り返り学習として行い、知識を定着させる。

色彩表現

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★柴田 精一

《授業の概要》

この授業では芸術、自然、生活などの多様な視点から色彩について学習していく。色彩の表現や、光の性質、生活の場での配色等、色彩に関する基礎的知識の習得を中心に、それを応用した演習などを行い、身近でありながらも深遠な色の世界を体感する。

《学生の到達目標》

色彩についての基礎的な知識を習得すると共に、それを基に美術的な意味での色彩のみならず、衣・食・住など自身の生活の中で色彩について、その用途に応じた適切な配色ができる。また、色彩の重要性について認識し、色の効果を様々なシチュエーションに応じて活用することができる。

《授業計画》

1. 色彩について～色彩のもたらす効果～
2. 色の要素（色の三属性・色相環）
3. トーンについて
4. 社会と色彩①～会社のロゴマークのデザイン（下描き）～
5. 社会と色彩②～会社のロゴマークのデザイン（本描き）～
6. 食と色彩①～食品の販促POPのデザイン（下描き）～
7. 食と色彩②～食品の販促POPのデザイン（本描き）～
8. 住環境と色彩①～インテリアコーディネート知識～
9. 住環境と色彩②～インテリアコーディネートの実践～
10. ファッションと色彩①～パーソナルカラー～
11. ファッションと色彩②～パーソナルカラーを意識したファッション～
12. 生活と色彩～ラッピングカラー～
13. 美と色彩～色彩構成（抽象）～
14. 美と色彩～色彩構成（具象）～
15. 色彩についての総括・人と色彩

《成績評価の方法・基準》

制作課題（50%）、小テスト（30%）、レポート課題（20%）で総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習では、自身のファッションや、インテリアなど身の回りにある色彩に着目し、色彩がもたらす効果について、考察する。事後学習では、授業内で学習した色彩についての知識を用い、自身の生活に活用し、その変化を探る。

チームビルディングⅡ（アミューズメントスポーツ）

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★山口 禎、柚木 健

《授業の概要》

現代社会においては、少子高齢化、労働力不足、男女雇用均等、女性の社会進出など、様々な社会問題を解決する1つの手段として、「空の産業革命」と言われるドローンが注目されている。また、これまで人々が危険をともない出来なかったことや、素早く安価に行えることが最大のメリットです。本授業においては、これからドローンが民生活用されていく中で、様々な課題解決に向け女性が活躍する手段（ツール）として利用されていくことを踏まえ、どのように活用し今後の学生生活と社会生活に役立つものにするかを学ぶ。

《学生の到達目標》

ドローンの仕組みや法令をしっかりと学び、ドローンの民生用途について考える。その上で、ドローンの操作方法をマスターする。最終的には、ドローン本来の目的に沿って自分自身の生活や卒業後に活かせることを目標とする。

《授業計画》

1. オリエンテーション（ドローンの歴史、概要）
2. ドローンの仕組みと法令、国内市場と民生活用
3. 実習①（操作方法、セッティング、ホバリング）
4. 実習②（前回復習、前後左右移動、対面操作）
5. 実習③（前回復習、斜め移動、回避移動）
6. 実践テスト①（実習①～③の見極め）
7. 実習④（離着陸、サークル飛行）
8. 実習⑤（前回復習、8の字飛行①）
9. 実習⑥（前回復習、8の字飛行②）
10. 実践テスト②（実習④～⑥の見極め）
11. ドローンの先進事例研究
12. 実習⑦（ノーズインサークル飛行①）
13. 実習⑧（前回復習、ノーズインサークル飛行②）
14. 実習⑨（弱点課題の個人練習）
15. 実践テスト③（実習⑦～⑧の見極め）

《成績評価の方法・基準》

授業準備（20%）、授業の取り組み（40%）実践テスト（40%）、到達目標別に、基本的な内容の習得状況について、正しく操作できているかという点を評価する。

《授業で使用する教科書》

・プリントを配布

《参考書》

・必要に応じて資料を配付します

《事前・事後学習》

事前学習：授業内容について、事前にインターネット等により調べておくこと。事後学習：配布プリントを読み込んで知識の定着を図り、実践した技能を習得し将来に活かせるよう努める。その他：実践中はヘルメットを貸与するので、各自飛行訓練中は着用すること。また、体育館使用時は体育館シューズを持参すること。

ビジネス実務総論

1 年次 (半期)
2 単位 (講義)
担当 ★山口 禎

《授業の概要》

現代社会では、IT 化、グローバル化が急速に進む中で大きな変革の時代を迎えています。同時に、この変革の波はビジネスの世界にも波及し、ビジネスで求められる知識やスキルも年々高度になってきました。学生が常職するビジネスの世界でしっかりと活躍できるように、まず、ビジネスの基本的な知識とビジネス実践力をつける為に職業教育とキャリア教育の観点からこの授業を進めていきます。今まで、高等学校等では学ばなかった内容も多くありますが、民間企業では当たり前の知識として求められるものです。また、同時に秘書検定 3 級・2 級を受験する為の準備も進めます。知識として理解するだけでなく、積極的に学び、資格取得につなげてください。

《学生の到達目標》

学生が社会人としての基本的な知識を理解し、説明できるようになる。学生が社会人としてのマナーを理解し、実践できるようになる。学生が社会人としての常識を理解し、実践できるようになる。学生が多様化するビジネス環境の中で活躍できる能力を向上させる。学生が多様化するビジネス環境の中で活躍できる考え方を身につける。

《授業計画》

1. ビジネス実務のガイダンス
2. キャリアと仕事へのアプローチ
3. コミュニケーションとビジネスマナーの基本
4. 指示の受け方と報告・連絡・相談
5. 話し方と聞きかたのポイント
6. 来客対応と訪問の基本マナー
7. 会社関係でのつき合い
8. ビジネスコミュニケーションのまとめと演習 (アクティブラーニング)
9. 仕事への取り組み方
10. ビジネス文書の基本
11. 統計・データの読み方、まとめ方 (アクティブラーニング)
12. 情報収集とメディアの活用
13. 会社を取り巻く環境と経済の基本 (アクティブラーニング)
14. 仕事の実践に関するまとめ
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

定期試験 (60%)、授業中の行動・演習問題等の回答状況・レポートの作成状況 (合計 40%)

《授業で使用する教科書》

・日本能率協会「2020年度版ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト」日本能率協会マネジメントセンター・実務技能検定協会「秘書検定2級クイックマスター改定新版」早稲田教育出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：授業では事前に2020年度版ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキストを予習しておくこと。事後学習：各自が秘書検定3級及び2級を受験する為の準備を家庭で行い、資格取得に取り組むこと。

情報デザイン論

1 年次 (半期)
2 単位 (講義)
担当 中津 功一郎

《授業の概要》

前半では、情報化社会において、情報を創り出すことは重要なこと。まずは、情報が何かを理解することを目的とする。さらに、情報化社会を生きる上で、切り離すことが出来ないコンピュータのこと情報処理の全貌にわたる基礎的な知識を体系的に学ぶ。後半では、今後、人工知能やIoTが生活の中で、どのように発展していくか、また、その新技術をどのように活かすことができるのかについて学ぶ。

《学生の到達目標》

本講義では、以下の能力を獲得する事を目標とする。①現在の情報化社会を理解し、今後社会がどのように変わっていくのかをイメージすることが出来る。②変わりゆく社会生活を送るのに必要な情報を創り出す重要性が理解できる。③いろいろな情報を便利に扱うための知識の重要性が理解できる。④人工知能やIoTの基礎知識を身につけることが出来る。

《授業計画》

1. 授業のガイダンス：情報デザイン論で学ぶこと
2. 「情報とは何か」を理解する
3. 情報化社会と情報リテラシーとは
4. 情報リテラシーを身につける：ハードウェアとソフトウェア
5. 情報リテラシーを身につける：コンピュータの五大機能
6. 情報リテラシーを身につける：コンピュータと人間の違い
7. 情報リテラシーを身につける：コンピュータネットワーク
8. 情報を扱う上での注意点を考える
9. 人工知能で未来はどう変わる
10. 人工知能の仕組み：教師あり学習、教師なし学習、強化学習
11. 人工知能の導入事例
12. IoT: Internet of Thingsにより便利になる社会とは
13. 人工知能に仕事は奪われるのか
14. 人工知能に負けない人になるために
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

授業後に振り返り学習の目的で課題を課す。課題の結果を成績評価の30%とする。定期試験を行い、その結果を成績評価の70%とする。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習としては、配布された資料を読み、わからないところなどのチェックを行う。事後学習としては、毎回課される課題を振り返り学習として行い、知識を定着させる。

ビジネス実務演習 I

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 ★山口 禎

《授業の概要》

「ビジネス実務総論」で修得した知識を基礎とし、実際のビジネス現場で求められる顧客との対応、社会における企業の役割や責任と権限を理解し、問題解決のための基本的なコミュニケーションやチームワークの理解、仕事の適切な進め方などをより深く学ぶ。さらに、業務に必要なビジネス文書の作成や経営情報にかかわるデータ分析の実践的なスキルを学修します。また、プレゼンテーションの力を高める為にグループ内でのディスカッションやグループワークを実施し、社会人としての基礎力を身につけます。

《学生の到達目標》

学生は演習問題を通じて常に授業の振り返りを行う。学生はビジネス現場で求められるスキルを理解できる。学生はビジネス現場で求められるスキルを実践できる。学生は常にビジネス現場における課題を発見し、その課題を説明できる。学生は秘書検定を積極的に受検できる。

《授業計画》

1. キャリアと仕事へのアプローチ
2. 会社活動の基本
3. 話し方と聞きかたのポイント (グループ・ディスカッション)
4. 接客と営業の進め方
5. クレーム対応 (グループワーク)
6. 会議への出席とプレゼンテーション
7. チームワークと人のネットワーク
8. 仕事の進め方
9. ビジネス文書の基本
10. 統計・データの読み方、まとめ方 (グループ・ディスカッション)
11. 情報収集とメディアの活用
12. 会社数字の読み方
13. ビジネスと法律・税金の知識
14. 産業と経済の基礎知識
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

定期試験 (60%)、授業中の態度や行動・演習問題の回答状況・秘書検定チャレンジ状況 (合計40%)

《授業で使用する教科書》

・日本能率協会「2020年度版ビジネス能力検定ジョブパス2級公式テキスト」日本能率協会マネージメントセンター・実務技能検定協会「秘書検定2級クイックマスター改定新版」早稲田教育出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：2020年度版ビジネス能力検定ジョブパス2級公式テキストを予習しておくこと。また、宿題プリントを確実に解いてくること。事後学習：各自が秘書検定3級及び2級を受験する為の準備を家庭で行い、資格取得に取り組むこと。

データ処理演習 (1)

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 柴田 敬子

《授業の概要》

情報活用能力の向上を目的として、ワープロソフトWordの基本と応用を幅広く学ぶ。

《学生の到達目標》

MOS試験 (マイクロソフト オフィス スペシャリスト アソシエイト2019) Wordの合格に必要な知識と技術を習得することができる。

《授業計画》

1. 授業計画の説明
2. 基本操作の復習
3. 文書の共有と管理
4. コンテンツの書式設定
5. ページのレイアウトと再利用可能なコンテンツの適用
6. 図や画像の挿入
7. 文書の校正
8. 参考資料とハイパーリンクの適用
9. 差し込み印刷の実行
10. 模擬試験1 (解答・解説)
11. 模擬試験2 (解答・解説)
12. 模擬試験3 (解答・解説)
13. 模擬試験4 (解答・解説)
14. 模擬試験5 (解答・解説)
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

試験 (50%)、レポート・課題・提出物 (50%)

《授業で使用する教科書》

・IMOS 攻略問題集 Word 2019」

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：授業時間以外にも積極的にコンピュータを利用し操作に慣れ、幅広く意欲的に勉強してください。事後学習：MOS試験合格を目標に、模擬試験を元読りましょう。

絵本の世界

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 宮崎 博和

《授業の概要》

「絵本を知る・絵本を作る」がテーマ。絵本には子どもが初めて出会う楽しさと驚きがいっぱい詰まっています。たくさんの絵本に触れ、何が子供の心をとらえるのか、絵本は子供にとってどういう意味をもっているのか、絵本の持っている魅力とその影響力について考えます。また実際に自分で絵本を制作することで、画材や作画の技術、絵本作家の思い、絵本作りの楽しさと奥深さ、などを体感します。

《学生の到達目標》

①子供にとっての絵本の意味や役割を理解できる。 ②絵本の魅力、その影響力を実感としてとらえることができるようになる。③自分の考えを自分の絵本で伝えることができる。 ③構図、デフォルメ、擬人化などの意味を理解できる。かつ表現できる。 ④画材の種類や、その使い方を習得する。

《授業計画》

1. 絵本概論 好きな絵本や心に残る絵本についての発表
2. 図書館で絵本を読み感想を書き提出する
3. 図書館で絵本を読み感想を書き提出する
4. 図書館で読んだ絵本の中で印象深い作品を持参し発表する
5. 絵本の解説と紹介
6. 絵本の解説と紹介
7. 絵本制作と指導 画材や絵本の作り方の説明
8. 絵本制作と指導 下描き制作
9. 絵本制作と指導 下描き制作
10. 絵本制作と指導 下描き制作
11. 絵本制作と指導 原画制作
12. 絵本制作と指導 原画制作
13. 絵本制作と指導 原画制作
14. 絵本制作と指導 原画の完成
15. 完成した絵本の発表会と講評

《成績評価の方法・基準》

独創的な絵本の原案 25% 構図・構成 25% デフォルメ・擬人化 25% 学習態度 25%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習 できるだけ多くの絵本を読む。事後学習 好きな絵本を見つけ、その理由を考え、絵と文章の関係、バランスを感じながら鑑賞する。絵本の表現で、出来ることとできないところを明確にして次の授業に臨む。

文芸文化論

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 中井 康行

《授業の概要》

講義の前半期では、日常用いられる言葉からどのようにして語は作られるのか、それがどのようにして物語となるのかについて、昔話やアニメーションから夢の世界までの話＝物語を取り上げて、内容と形式の側面から考察する。これによって、茫洋として捉えがたい問題の所在を明確にするための初歩的な知識（＝分析ツール）を提供する。その上で、これら物語に関与する文化的背景に注目してもらう。後半期には、より高度な言語表現と言える小説（森鷗外の『雁』）を取り上げて、文芸作品が、社会的・文化的・歴史的事象とどのように結びつき、重層的な物語世界を形作っているか、その一端に触れてもらい、受講者の視野を切り開いていくこととする。併せて、2年次に向けてのリテラシー能力向上の基礎をも築く。

《学生の到達目標》

1年後期開講科目として、徐々に見慣れない事柄、聞きなれない言葉に接する機会が増えてくる。本講義では、大学の講義に慣れることを主眼とし、講義を聞きながら内容を把握しノートが取れるようになることを最大の目標とする。その上で、読書という行為が内包している多様な問題の分析を通じて、「情けを報せる」という本来の意味での「情報」のあり方に眼を開いてもらう。また、読まれる対象と読む行為との双方に含まれる要素を見極め、その階層性を整理することについて習熟することを目標とする。さらに、物語に隠されたメッセージを読み解く手かかりを発見し、講義において提供した知識を、分析のためのツールに替えて、以後自力で学び、考えるための備えを、受講者各自が持てるようにしたい。

《授業計画》

1. 「読む」ことと「読み解く」こと
2. 物語／話とは何か i 「コミュニケーション行為のモデルから考える」
3. 物語／話とは何か ii 「アクセスすることとアプローチすること」
4. 物語／話とは何か iii 「表層へのアクセス、深層へのアプローチ」
5. 物語／話とは何か iv 「夢というテキストが意味すること」
6. 物語／話の仕組み i 「物語の規則ということ」
7. 物語／話の仕組み ii 「物語の規則ということ（つづき）」
8. 物語／話の仕組み iii 「ストーリーとプロット」
9. 物語／話の仕組み iv 「ストーリーとプロット（つづき）」
10. 前半のまとめ
11. 世界としての小説 i （物語としての筋と構成）
12. 世界としての小説 ii （物語における地理と時間）
13. 世界としての小説 iii （物語の仕組みと主題）
14. 世界としての小説 v （物語の深層と作者の存在）
15. 後半のまとめ

《成績評価の方法・基準》

講義の前半期と後半期に分けて、講義内容の理解度を確認する設問に答えてもらい評価を行う。講義中用いた文庫本、資料プリント、ノートを利用して、講義内容をどの程度主体的に把握し(60%)、講義における論点を整理できているか(60%)を問う。解答用紙に何かを書き写せばよいという種類のものでないことを承知しておいてほしい。ただし、問われた事に対して、悪戦苦闘した痕跡が読み取れる内容であれば、評価する。

《授業で使用する教科書》

・森鷗外『雁』新潮文庫

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

授業計画の後半が始まるまでに、『雁』を通読でよいかから読しておく必要がある。普段意識せずに行っている事柄について、読書行為を通じて改めて考えてみることになる。この講義をきっかけにして、講義内容で取り上げた様々なツールや観点を、社会的文化的事象に当てはめて読み解くことに意識するよう心がけてほしい。本講義で養う能力の向上は、生涯学習の観点からも継続的に続けられるべきものであり、教室で完了するものではない。

芸術社会論

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 村上 真樹

《授業の概要》

20 世紀の芸術を中心に、アーティストによる社会的実践の歩みをたどります。これまでの常識にとらわれないアーティストの発想に注目し、そこに込められた思想を読み解くことで、新しい社会を創造していく力について考えてみたいと思います。

《学生の到達目標》

社会に能動的に働きかける様々な芸術活動についての理解を深めることによって、自分自身の生活・行動に活かせるようになる。

《授業計画》

1. 導入
2. 生活の中の芸術
3. モダン・デザインの思想
4. パブリック・アートと公共性
5. 活躍する女性アーティスト (1)
6. 活躍する女性アーティスト (2)
7. 自己表現としての芸術
8. コミュニケーションとしての芸術
9. パフォーマンスとしての芸術
10. 社会活動としての芸術
11. 現代日本のアート・プロジェクト (1)
12. 現代日本のアート・プロジェクト (2)
13. アートと大阪
14. 「すべての人は芸術家である」(ヨゼフ・ボイス)
15. まとめ

《成績評価の方法・基準》

期末レポート (70%)、発表・提出物 (30%) によって評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

・熊倉純子監修「アートプロジェクト——芸術と共創する社会」水曜社

《事前・事後学習》

事前学習：次回の学習内容について、書籍・インターネットを使って調べる。事後学習：授業内容をふり返し、社会と芸術との関係について考える。日常生活の中での「気づき」を大切にしてください。

文学の歴史（図書館サービス特論）

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 小林 孔, 中井 康行

《授業の概要》

本講義では、日本文学史を通常の文学史とは全く逆に、現代から近代へ、近代から中世へ、中世から上代へとさかのぼって概観する。15回の講義のうち前半の7回においては、平成・昭和から大正へ、大正から明治へとそれぞれの時期の代表的な小説家とその作品を紹介しつつ、近代文学の誕生期へ向けて時代をさかのぼる。後半の8回目以降は、明治初期の時代相にふれ、そこから江戸時代のさまざまな文学様式を紹介し、原点をたぐりながら、室町、鎌倉、平安朝、上代の作品世界を覗いてみたい。

《学生の到達目標》

15回の講義前半では、日本近代文学の大まかな流れと時代区分を把握できるようにすることが、本講義の最大の到達目標となる。特に明治以降多様な展開を見せる小説というジャンルに焦点を絞り、作品の一端に触れて、その表現世界の広がりや概観できるようにする。また、後半は、時代をさかのぼって、文学史としての体系化を目指すため、最終的に、総合的な歴史認識ができるようにしたい。

《授業計画》

1. 受講上の諸注意その他（時代区分ということ）
2. 現代日本文学の諸相 I
3. 現代日本文学の諸相 II
4. 近代日本文学の諸相 I
5. 近代日本文学の諸相 II
6. 近代日本文学の諸相 III
7. 近代日本文学の諸相 IV
8. 前半のまとめ
9. 近世文学の諸相 I
10. 近世文学の諸相 II
11. 中世文学の諸相 I
12. 中世文学の諸相 II
13. 中古文学の諸相
14. 上代文学の諸相
15. 後半まとめ

《成績評価の方法・基準》

成績の評価は前半と後半でそれぞれ評価を行う。前半においては、第8回のまとめに際して、授業中に基礎的な知識の確認を行い、これに基づいて成績を評価する（50%）。また、後半でも授業内容を確認するための試験を用意する（50%）。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

前半では、小説を取り上げるため、抜粋を配布してこれに基づき講義をすすめることになる。講義をきっかけとしてその小説の全体を通読したり、取り上げた小説家の他の小説へと関心を向ける事後学習が、この場合は重要となる。後半もまた、前半の方法を踏襲するため、新しく得た情報、知識を再確認するための事後学習が必要になる。

図書館概論

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★藤原 是明

《授業の概要》

図書館の社会的な存在意義と機能についての基本的な知識を解説する。

《学生の到達目標》

図書館の社会的な存在意義と機能についての基本的な知識を習得する。

《授業計画》

1. 図書館の歴史の変遷と現状
2. 図書館の社会的意義（1）ユネスコ公共図書館宣言
3. 図書館の社会的意義（2）関連法規
4. 図書館の構成要素（図書館学の五法則を含む）
5. 図書館の機能（1）収集
6. 図書館の機能（2）加工
7. 図書館の機能（3）保存
8. 図書館の機能（4）提供
9. 知的自由と図書館（図書館に関する権利宣言、図書館の自由に関する宣言）
10. 図書館の種類（1）公共図書館
11. 図書館の種類（2）学校図書館・大学図書館・専門図書館
12. 図書館の種類（3）国立図書館
13. 図書館司書の専門性（図書館員の倫理綱領を含む）
14. 図書館の経緯機関
15. 図書館の将来的展望

《成績評価の方法・基準》

レポート課題 100%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：配付資料に目を通すこと。事後学習：講義内容の復習と質問などがある場合には質問内容を整理すること。

図書館サービス概論

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★藤原 是明

《授業の概要》

図書館サービスの定義、歴史の変遷、サービスの種類、図書館サービスに関連する著作権法、図書館サービスの連携等について解説する。

《学生の到達目標》

図書館サービスの本質、歴史的経緯、サービスの種類、図書館サービスに関わる著作権法、図書館サービス体制等についての基本的な知識を習得する。

《授業計画》

1. 図書館サービスの定義（サービスのとらえかた、コミュニケーションの重要性等）
2. 日本における図書館サービスの変遷（1）図書館法制定から1960年代まで
3. 日本における図書館サービスの変遷（2）1970年代以降
4. テクニカルサービスとパブリックサービス
5. テクニカルサービス（1）選書、分類記号付与
6. テクニカルサービス（2）目録作成、装幀、排架
7. パブリックサービス（1）閲覧・貸出サービス
8. パブリックサービス（2）レファレンスサービス
9. パブリックサービス（3）図書館行事等
10. 図書館サービスと著作権（1）著作権誕生の経緯
11. 図書館サービスと著作権（2）著作権法条文解説（基本的な部分）
12. 図書館サービスと著作権（3）著作権法条文解説（図書館サービス関連部分）
13. 公立図書館のサービス体制（1）都道府県立図書館
14. 公立図書館のサービス体制（2）市町村立図書館
15. 図書館サービスの連携と協力体制の将来的展望

《成績評価の方法・基準》

レポート課題 100%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：配付資料に目を通すこと。事後学習：講義内容の復習と質問などがある場合には質問内容を整理すること。

児童サービス論

1 年次 (半期)
2 単位 (講義)
担当 ★小前 恭則

《授業の概要》

児童サービスは、公共図書館におけるサービスの大きな柱となっています。授業では、①子どもを知る、②子どもの本を知る、③子どもと本を結びつける、を中心に児童サービス論を学びます。教科書のほか、重点項目は、【NOTE】として、最も基礎となるべき点をお伝えします。必ず、絵本・児童文学を1冊ずつ目を通してください。書評に挑戦、絵本の読み聞かせ実習も予定しています。(グループワークなどのアクティブ・ラーニングを含みます)

《学生の到達目標》

①子どもの発達段階を理解し、子どもの本の特性を理解し、子どもと本を結びつける技術の基礎を習得する。②さまざまな児童サービスを通じ、すべての子どもたちに読書の喜びを伝えるために必要な考え方と方法を理解し、説明できる。③絵本の読み聞かせを実演し、本の紹介を書くことができる。

《授業計画》

1. 児童サービスの意義 児童サービスとは何か
2. 児童サービスの歴史 児童観の変遷、子どもの権利条約
3. 子どもの生活と読書 発達段階と読書
4. 児童資料の種類と特色 (1) 絵本
5. 児童資料の種類と特色 (2) 幼年文学・創作児童文学・昔話
6. 児童資料の種類と特色 (3) ノンフィクション・レファレンスなど
7. 児童資料の選択と整理 書評基礎論・蔵書構成
8. 児童サービスの諸活動 資料提供・情報サービスなど
9. 子どもと本をつなぐ方法 (1) 読み聞かせ・ストーリーテリング
10. 子どもと本をつなぐ方法 (2) ブックトーク・アニメーション
11. 子どもと本をつなぐ工夫、乳幼児サービス
12. ヤングアダルトサービス、特別支援の必要な子どもたちへのサービス
13. 学校・学校図書館との連携、子どもの読書活動の推進
14. (演習) 絵本の読み聞かせ
15. 児童サービスの運営、総括

《成績評価の方法・基準》

授業ごとのミニツツペーパーなど授業への取り組み (30%)、絵本の読み聞かせ演習と提出課題 (20%)、筆記試験 (50%) 授業で取り上げた基本的な概念や技術について、正しく理解できているかを評価し、到達目標について、その習得状況を評価する。ミニツツペーパーをもとにフィードバックします。

《授業で使用する教科書》

・堀川照代「児童サービス論 (JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ-6) 日本図書館協会

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：実際に児童コーナーを利用し、児童書や絵本に親しむこと。Vj11 (教科書) を下読みする。課題の作成や演習の準備をする。事後課題：Vj11をもとに授業内容を確認し、教科書で理解を深めること。授業で紹介した子どもの本を読んでみる。

情報資源組織論

1 年次 (半期)
2 単位 (講義)
担当 ★藤原 是明

《授業の概要》

印刷情報資源、非印刷情報資源、デジタル情報資源、ネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化について、理論的な視点から組織化の技術を解説する。

《学生の到達目標》

図書館情報資源の組織化の必要性を理解するとともに、組織化の技術の概略を理解する。

《授業計画》

1. 図書館情報資源組織化の意義
2. 書誌コントロールと標準化の意義
3. 目録法 (1) 歴史的経緯
4. 目録法 (2) 主要な目録規則
5. 主題分析の意義と手順
6. 分類法 (1) 歴史的経緯
7. 分類法 (2) 主な分類法
8. 索引法 (1) 歴史的経緯
9. 索引法 (2) 主なシソーラス
10. 書誌情報の作成と流通 (MARC と書誌ユーティリティ)
11. 書誌情報の提供 (OPAC の運用)
12. ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ
13. 多様な情報資源の組織化 (1) 地域資料
14. 多様な情報資源の組織化 (2) 政府刊行物
15. 図書館情報資源組織化の将来的展望

《成績評価の方法・基準》

レポート課題 100%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

・「情報資源組織演習」ミネルヴァ書房

《事前・事後学習》

事前学習：配付資料に目を通すこと。事後学習：講義内容の復習と質問などがある場合には質問内容を整理すること。

情報資源組織演習（1）

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★藤原 是明

《授業の概要》

多様な情報資源に関する目録（書誌データ）作成の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。

《学生の到達目標》

日本目録規則のしくみを理解して、基本的な目録（書誌データ）作成能力を習得する。

《授業計画》

1. 情報資源の組織化における日本目録規則の役割について
2. 目録（書誌データ）作成の手順について
3. 目録規則の解説と作成演習（1）情報源の優先順位に関する事項
4. 目録規則の解説と作成演習（2）タイトルに関する事項
5. 目録規則の解説と作成演習（3）責任表示に関する事項
6. 目録規則の解説と作成演習（4）版表示（版と刷りについて）に関する事項
7. 目録規則の解説と作成演習（5）出版年に関する事項
8. 目録規則の解説と作成演習（6）形態に関する事項
9. 目録規則の解説と作成演習（7）シリーズに関する事項
10. 目録規則の解説と作成演習（8）注記・ISBNに関する事項
11. 目録規則の記述部分の総合的な作成演習
12. 標目指示についての解説と作成演習
13. 書誌レコードの機軸要件（FRBR）について
14. 情報資源の記述とアクセス（RDA）と日本目録規則 2018 年版について
15. RDA の基礎的な規則の解説と作成演習

《成績評価の方法・基準》

演習課題 100%（複数回提出する演習課題の平均点）

《授業で使用する教科書》

・「情報資源組織演習」ミネルヴァ書房

《参考書》

・「日本目録規則 1987 年版改訂 3 版」日本図書館協会・「日本目録規則 2018 年版」日本図書館協会

《事前・事後学習》

事前学習：教科書の解説予定部分をあらかじめ読んでおくこと。事後学習：演習課題の提出後に、作成した課題の自己評価をすること。

情報資源組織演習（2）

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★藤原 是明

《授業の概要》

多様な情報資源に関する分類記号・件名付与の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。

《学生の到達目標》

日本十進分類法と基本件名標目表のしくみを理解して、基本的な分類記号・件名付与能力を習得する。

《授業計画》

1. 情報資源の組織化における日本十進分類法の役割について
2. 分類記号付与の手順について（請求記号のしくみも含む）
3. 日本十進分類法の解説と演習（1）日本十進分類法の特徴
4. 日本十進分類法の解説と演習（2）相関索引
5. 日本十進分類法の解説と演習（3）主題別の特徴（1）総記・哲学・歴史
6. 日本十進分類法の解説と演習（4）主題別の特徴（2）社会・科学・技術・産業
7. 日本十進分類法の解説と演習（5）主題別の特徴（3）芸術・言語・文学
8. 日本十進分類法の解説と演習（6）補助表（1）形式区分
9. 日本十進分類法の解説と演習（7）補助表（2）地理区分など
10. 日本十進分類法の解説と演習（8）分類規程
11. 日本十進分類法の総合的な演習
12. 情報資源の組織化における基本件名標目表の役割について
13. 基本件名標目表の解説
14. 基本件名標目表の演習
15. 総合演習

《成績評価の方法・基準》

演習課題 100%（複数回提出する演習課題の平均点）

《授業で使用する教科書》

・「情報資源組織演習」ミネルヴァ書房

《参考書》

・「日本十進分類法 新訂 10 版」日本図書館協会・「基本件名標目表 第 4 版」日本図書館協会

《事前・事後学習》

事前学習：教科書の解説予定部分をあらかじめ読んでおくこと。事後学習：演習課題の提出後に、作成した課題の自己評価をすること。

食生活と健康 I

1 年次 (半期)
2 単位 (講義)
担当 岩木 一巳

《授業の概要》

食生活の多様化が進む日本の食環境における調理師の役割はたいへん重要です。調理師は、単に調理の技術だけでなく「食生活と健康」に関する幅広い知識と教養の取得が必要です。この授業では、健康とは何かを理解し、健康に役立つ食生活における調理師の役割、食生活の乱れに深く関係する疾病について学びます。各授業の開始前に、授業内容の理解を助けるための資料を配布して教科書を補足すると共に、各授業の最後に、習熟度を確認するための問題を配布して自己採点します。

《学生の到達目標》

健康の概念、健康を維持増進するための食生活の在り方、調理師法に則った調理師の社会的立場づけと期待される役割、食生活の乱れが原因となる生活習慣病の予防、健康づくり、食育への調理師の取り組みなどを十分理解できるレベルに達していること。

《授業計画》

1. 健康とは何か
2. わが国の健康水準
3. 目指すべき健康とは
4. 食生活が健康に果たす役割
5. 健康的な食生活習慣づくり
6. 調理師の成り立ち
7. 調理師法の概要
8. 調理師の役割
9. 「調理師と健康」のまとめ
10. 疾病の動向
11. 疾病の予防
12. 生活習慣病とは：循環器病、がん、糖尿病、他
13. 生活習慣病の予防
14. 「食生活と疾病」のまとめ
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

期末の筆記試験の正答率 (70%)、課題レポートの回答内容の充実度合い (30%) で評価する。

《授業で使用する教科書》

・「新調理師養成教育全書 1 食生活と健康」全国調理師養成施設協会

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：教科書に目を通し、興味を持ったことや分からないところはインターネットや関連書籍で調べる。事後学習：教科書、配布プリント、確認問題を読み返して、授業内容を振り返る。そして、食育の概念も踏まえ、「食生活が健康の維持や生活習慣病の発症・重症化に重要な役割を果たしている」ことを社会に向けて率先して情報提供していただいたい。

食品と栄養の特性 I

1 年次 (半期)
2 単位 (講義)
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

食品には、色素成分、味覚成分、香り成分、栄養成分などの多くの成分が含まれており、食品の特徴を形作っている。食品と栄養の特性 I では、食品中の成分について、種類や性質、特徴、多く含まれる食品などの基礎知識について学ぶ。また、食品成分表の使い方や、CD-ROM を使った栄養価計算の方法を理解し、食品の評価と健全な食生活に役立たせる。その上で、食品についての知識を深めるために、種々の食品群について、種類や成分、食用としての価値、適正な取扱いや保存方法などについて学ぶ。

《学生の到達目標》

食品に含まれる成分の性質や特性を理解することができる。食品の特性を、調理や製菓に活用できる。食品の栄養価を計算できる。食品の知識を深め、良し悪しを判断できる。調理師取得やフードスペシャリスト資格試験合格に必要な知識を習得することができる。

《授業計画》

1. 食品学概論 食品学でどんなことを学ぶのか
2. 嗜好成分 (1) 色素成分、香り成分の種類と特徴
3. 嗜好成分 (2) 味覚成分の種類と特徴、テクスチャーについて
4. 炭水化物 (1) 炭水化物の種類と特徴
5. 炭水化物 (2) 炭水化物の特性と食品への応用
6. たんぱく質 (1) たんぱく質の種類と特徴
7. たんぱく質 (2) たんぱく質の特性と食品への応用
8. 脂質 (1) 脂質の種類と特徴
9. 脂質 (2) 脂質の特性と食品への応用
10. 食品の成分と栄養価
11. 栄養価計算の方法 (CD-ROM を使った栄養価計算)
12. 植物性食品の知識 1 穀類① (米、米加工品など)
13. 植物性食品の知識 2 穀類② (麦類、とうもろこしなど)
14. 植物性食品の知識 3 穀類③ (でんぷん類など)
15. 植物性食品の知識 4 いも類 (じゃがいも、さつまいも、やまいもなど)

《成績評価の方法・基準》

授業内の演習課題や小テスト (30%)、定期テスト (全範囲の知識) (50%)、質問や回答などの積極的な発言を考慮した授業への参加貢献度 (20%)

《授業で使用する教科書》

・(公社) 全国調理師養成施設協会「調理師養成教育全書 2 食品と栄養の特性」・「新食品成分表」東京法令出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

日ごろから食品や食物に関心を持ち、スーパーやコンビニエンスストア、デパ地下などの食品売り場を良く見て、どんな食品が売れているのか、季節や品種、価格、調理方法などに注目し、情報収集を心がける。授業前は、教科書をよく読み、興味を持ったことや分からないところはインターネットを使って調べる。授業後は、教科書やプリントを読み返して復習問題に取り組み、知識の定着を図る。

食品と栄養の特性Ⅱ

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

食品と栄養の特性Ⅰで学んだ知識をもとに、食品についての知識を深めるために、日常よく利用する身近な食品について、種類や成分、食用としての価値、調理特性、適正な取扱いや保存方法などを幅広く学ぶ。また、食品の実物サンプルや写真を見たり、食べ比べなどをして、実用に即した知識を身につける。現在市場にあふれている食品の価値を、合理的に判断できる力を養い、栄養、嗜好、衛生、経済などいろいろな面から私たちの健全な食生活に役立たせる。

《学生の到達目標》

食品素材の基礎的な知識を身につけることができる。食品に含まれる成分の性質や特性を理解し、調理や製菓に応用できる。食品の知識を深め、良し悪しを判断できる。調理師取得やフードスペシャリスト資格試験合格に必要な知識を習得することができる。

《授業計画》

1. 植物性食品の知識 5 豆類（大豆、小豆など）
2. 植物性食品の知識 6 種類（分類と特徴）
3. 植物性食品の知識 7 野菜類①（野菜の分類と成分）
4. 植物性食品の知識 8 野菜類②（利用頻度の高い野菜の特徴と目利き）
5. 植物性食品の知識 9 果実類（果実の分類と成分）
6. 動物性食品の知識 1 肉類（牛、豚、鶏肉の成分と特徴）
7. 動物性食品の知識 2 肉類加工品（ハム、ソーセージなど）
8. 動物性食品の知識 3 魚介類（魚介類の分類と成分）
9. 動物性食品の知識 4 魚介類加工品（かまぼこ、缶詰めなど）
10. 動物性食品の知識 5 卵類（卵の構造と成分、特性）
11. 動物性食品の知識 6 乳類（牛乳の種類と成分）
12. 動物性食品の知識 7 乳製品（チーズ、バター、ヨーグルトなど）
13. その他の食品 1 調味料①（砂糖、塩）
14. その他の食品 2 調味料②（醤油、味噌、酢、みりん）
15. その他の食品 3 香辛料（香辛料の種類と特性）

《成績評価の方法・基準》

授業内小テストを行なう（30%）定期テストでは全範囲の知識を問う（50%）質問や回答などの積極的な発言を考慮した授業への参加貢献度（20%）

《授業で使用する教科書》

・（公社）全国調理師養成施設協会「調理師養成教育全書2 食品と栄養の特性」

《参考書》

・「新食品成分表フーズサポーター（CD-ROM）付」東京法令出版

《事前・事後学習》

日ごろから食品や食物に関心を持ち、スーパーやコンビニエンスストア、デパートなどの食品売り場を良く見て、どんな食品が売れているのか、季節や品種、価格、調理方法などに注目し、情報収集を心がける。授業前は、教科書をよく読み、興味を持ったことや分からないところはインターネットを使って調べる。授業後は、教科書やプリントを読み返して復習問題に取り組み、知識の定着を図る。

食品と栄養の特性Ⅲ

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★瀧本 文子

《授業の概要》

食品と栄養の特性は食に携わる仕事をする上で基礎となる知識の1つである。様々な食品に含まれる栄養素の特徴と消化吸収のメカニズム、具体的に身体にどのような生理作用があるのかなどについて、基本的な栄養学を中心に学び、栄養素の種類と働き、消化・吸収・代謝など、栄養に関する基礎的な知識を習得する。

《学生の到達目標》

①健康と栄養の定義が理解できる②各栄養素の種類と働きが理解できる③三大栄養素の消化、吸収、代謝のメカニズムが理解できる④ミネラル、ビタミンの過剰症や欠乏症が理解できる

《授業計画》

1. 健康と栄養
2. 生活時間と生活リズム
3. 炭水化物（糖質）①
4. 炭水化物（糖質）②
5. 脂質
6. たんぱく質
7. 炭水化物、脂質、たんぱく質の消化と吸収
8. 炭水化物、脂質、たんぱく質の代謝
9. ミネラル①
10. ミネラル②
11. 脂溶性ビタミン
12. 水溶性ビタミン
13. 水の働きと出納、機能的成分
14. エネルギー消費
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

定期試験（70%）小テストを含む提出物（20%）質問、回答など発言を含む授業への参加貢献度（10%）で総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

・日本フードスペシャリスト協会「三訂 栄養と健康（第2版）」建帛社

《参考書》

・調理師養成教育全書2「食品と栄養の特性」全国調理師養成施設協会

《事前・事後学習》

栄養に関する正しい知識は、調理師に必要なだけでなく自らと家族の健康的な食生活を確立する上でも役に立つ知識です。ぜひ興味をもって学びましょう。事前学習：身の回りの食品にどんな栄養素が多く含まれているか確認し、興味を持ったことについてインターネット等で調べてください。事後学習：前回の授業プリントなどの見直しをしてください。

食品の安全と衛生 I

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★ 瀧本 文子

《授業の概要》

現在食に関する様々な情報の中で、特に安全・安心が強く求められている。本来食品は人に害を及ぼすものであってはならず、調理師とは実には人命を左右する職業でもある。食の安全・安心とは何か、食品衛生とは何か。それらの重要性を認識するとともに、維持・管理する法律やシステムについて学び、調理師として必要な法律、条例、ガイドライン、慣習などの幅広い知識を持ち合わせ、食に携わる人材としての基本的な衛生知識を身につける。

《学生の到達目標》

①食品従事者としての健康、衛生管理の知識を習得し実践できる ②食品衛生法および食品衛生基本法について理解できる ③食品の安全管理に関するシステムが理解できる ④各食材の衛生管理ポイントが理解できる

《授業計画》

1. 調理従事者の健康、衛生管理①服装、習慣、健康チェック
2. 調理従事者の健康、衛生管理②手洗いの重要性
3. 調理従事者の健康、衛生管理③衛生教育の重要性、食品衛生責任者、食品衛生 7 S
4. 食の安全と衛生
5. 食品衛生法①概要、目的
6. 食品衛生法②関係者の責務、清潔衛生の原則など
7. 食品衛生法③営業に関する法律
8. 食品安全基本法①目的、理念②責務と役割など
9. 食品安全行政①中央組織（リスクアナリシス）②地方組織
10. 食品営業施設の安全対策①食品営業施設②HACCP③大量調理施設衛生管理マニュアル
11. 調理作業時における安全対策①食材の衛生管理（簡易鑑別法）
12. 調理作業時における安全対策②食材の衛生管理（納入時のポイント）
13. 調理作業時における安全対策③食材の保存、管理
14. 調理作業時における安全対策④異物混入防止対策
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

定期試験（70%）小テストを含む提出物（20%）質問、回答など発言を含む授業への参加貢献度（10%）で総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

・調理師養成教育全書3「食品の安全と衛生」全国調理師養成施設協会・日本フードスペシャリスト協会「三訂 食品の安全性（第2版）」建帛社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

食品衛生の基本をまず身につけましょう。法律用語など難しい部分もありますが、調理師の仕事だけでなく日常生活にも活用できる事柄もありますので、普段の生活にもあてはめて学んでいきましょう。事前学習：食の安全に関するニュースに関心をもち、わからないことはインターネットや教科書などで調べてください。事後学習：前回の授業プリントなどの見直しをしてください。

食品の安全と衛生 II

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★ 瀧本 文子

《授業の概要》

現代においても食中毒などの健康危害は後を絶たない。調理師として食品の微生物汚染や衛生対策への理解を深めるために、食品衛生微生物の基礎知識を習得するとともに、食品に関わる危害そのものについて食中毒を中心に特徴や対策を学ぶ。食中毒の原因や発生状況などを理解し、それぞれの防止対策を調理師の立場で実践できる知識を習得する。

《学生の到達目標》

①食品の腐敗・変敗のメカニズムが理解できる②食中毒の分類、発生状況、種類、原因食品、防止方法などが理解できる③各食品やメニューについて、食中毒の危害を予測しその予防対策ができるようになる

《授業計画》

1. 食品と微生物①微生物の基礎知識
2. 食品と微生物②腐敗・変敗とその防止法
3. 食中毒の分類と発生状況
4. 細菌性食中毒①サルモネラ属菌、腸炎ビブリオ
5. 細菌性食中毒②病原性大腸菌
6. 細菌性食中毒③カンピロバクター、エルシニア、リステリア
7. 細菌性食中毒④ブドウ球菌、ボツリヌス菌
8. 細菌性食中毒⑤ウエルシ菌、セレウス菌、食中毒予防の三原則
9. ウイルス性食中毒
10. 自然毒食中毒①動物性自然毒
11. 自然毒食中毒②植物性自然毒
12. 化学性食中毒
13. 寄生虫食中毒
14. 経口感染症・その他の健康危害
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

定期試験（70%）小テストを含む提出物（20%）質問、回答など発言を含む授業への参加貢献度（10%）で総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

・調理師養成教育全書3「食品の安全と衛生」全国調理師養成施設協会・日本フードスペシャリスト協会「三訂 食品の安全性（第2版）」建帛社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

安全で安心な食事を提供するために、食品微生物をはじめとする食中毒の知識は非常に大切です。調理師という職業のためだけでなく、身近な人に対しても必要なものとして学習してください。事前学習：食の安全に関するニュースに関心をもち、わからないことはインターネットや教科書などで調べてください。事後学習：前回の授業プリントなどの見直しをしてください。

調理理論と食文化概論 I

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★村上 道子

《授業の概要》

食べ物の重要な条件である美味しさは、さまざまな要因が係りあって感じられるものである。どのような要因があるのか、それが調理とどのように関係しているのかを学ぶ。また調理方法の種類と特徴、それぞれの操作方法を学び、調理の基本技術を習得する。

《学生の到達目標》

調理技術に関する理論を理解し、知識に裏付けられた技術を調理実習に応用できるようにする。例えば、食品の酵素的褐変を理解し、調理実習で褐変を防止し、美しい料理に仕上げることが出来る。

《授業計画》

1. 調理の意義
2. 調理の目的
3. おいしさの化学的要因
4. おいしさの物理的要因
5. おいしさの心理的要因
6. おいしさの生理的要因
7. おいしさの環境的要因
8. 調理法の種類
9. 非加熱調理法
10. 加熱調理法
11. 非加熱調理操作① 浸漬、切碎など
12. 非加熱調理操作② 磨砕、成形など
13. 湿式加熱操作
14. 乾式加熱操作
15. 誘電加熱・誘導加熱

《成績評価の方法・基準》

定期試験（70%）、課題提出（30%）で評価する。

《授業で使用する教科書》

・「新編調理師養成教育全書4 調理理論と食文化概論」全国調理師養成施設協会

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習は、教科書をよく読み、興味を持ったものや、わからないところは調べる。事後学習は、毎回配布するプリントを勉強し、数回ごとに行う小テストで合格点がとれるように、復習する。

調理理論と食文化概論 II

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★村上 道子

《授業の概要》

食材料としての食品が調理上どのような特徴を持っているか、調理における諸現象、変化などを科学的に把握し、論理的な調理方法を学ぶ。食品素材別に栄養的性質、物理的性質を調理例と関係付けて学習する。

《学生の到達目標》

食品中の成分が調理によってどのように変化するかを理解する。よりよい料理に仕上げるためには、どのように調理すればよいのか考え工夫ができる。

《授業計画》

1. 米・米粉の調理科学
2. 小麦粉・そばの調理科学
3. イモ類の調理科学
4. デンプンの調理科学
5. 砂糖の調理科学
6. 大豆の調理科学
7. 小豆の調理科学
8. 種実類の調理科学
9. 野菜類の調理科学 テクスチャーなど
10. 野菜類の調理科学 色など
11. 野菜類の調理科学 栄養成分など
12. 果実類の調理科学 香りなど
13. 果実類の調理科学 酵素など
14. きこの類の調理科学
15. 海藻類の調理科学

《成績評価の方法・基準》

定期試験（70%）、課題提出（30%）で評価する。

《授業で使用する教科書》

・「新編調理師養成教育全書4 調理理論と食文化概論」公益社団法人 全国調理師養成施設協会

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習は、教科書をよく読み、興味を持ったものや、わからないところは調べる。事後学習は、毎回配布するプリントを勉強し、数回ごとに行う小テストで合格点がとれるように、復習する。

調理理論と食文化概論Ⅴ

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 大杉 加菜子

《授業の概要》

調理師はおいしい料理をつくるとともに、食文化を継承するという役割も担っている。日本・世界の食文化を知り、理解を深める。

《学生の到達目標》

調理師として、食文化の伝統や変遷の知識を身につけ、調理業務の従事に実践的に活かせるようにする。

《授業計画》

1. 食文化の成り立ち
2. 宗教と食文化（伊勢参りと古事記）
3. 食法・調理法などの多様性
4. 食文化の共通性と国際化
5. 日本の食文化史（原始時代）
6. 日本の食文化史（稲作と箸）
7. 日本の食文化史（中世時代 南蛮菓子と日本人）
8. 日本の食文化史（江戸時代 上方の食文化と徳川幕府）
9. 日本料理の食文化（日本料理様式）
10. 日本料理の食文化（茶の湯・千利休と懐石料理）
11. 日本の食文化史（典座教訓・道元禪師）
12. 日本料理の食事作法
13. 行事食と郷土料理
14. 食生活の現状
15. 食文化の未来

《成績評価の方法・基準》

試験 50% 提出物 50%

《授業で使用する教科書》

・新調理師養成教育全書4 『調理理論と食文化概論』公益社団法人全国調理師養成施設協会

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前 外食産業が盛んになっていく中で、調理師の果たす役割はなんなのか、考えてみよう。
事後 日本の食文化を学んで日本人の感性を通して見えてくる世界の食文化を考えよう。

調理実習（包丁レッスン・基礎料理Ⅰ）

1 年次（半期）
3 単位（実習）
担当 ★宮本 弥生

《授業の概要》

包丁レッスンの内容をふまえながら、調理をするにあたっての基本姿勢・技術・心構えを身につけると共に、毎回1つの素材の見極め・素材別の調理法を実習する。実習内容はまず講師がデモンストレーションし、手順・ポイント・注意点を実習を通して伝え、各自それぞれ理解した上で実習をおこなう。実習は1?人ずつで行う。なお、実習時決められた服装・身だしなみが出来ていなければ実習は受講できない。

《学生の到達目標》

素材を知り、素材の見極めができるようにし、また調理の基礎技術・心構えを取得する。

《授業計画》

1. 包丁の使い方・手入れ方法・じゃが芋について学ぶ・じゃが芋料理実習
2. ご飯の炊き方・旬について学ぶ・筍料理実習
3. いちごについて学ぶ・ジャム スコーン実習
4. 春キャベツについて学ぶ・キャベツ料理実習
5. 豆類について学ぶ・豆料理実習
6. 鶏肉について学ぶ・鶏肉料理実習
7. 出しについて学ぶ・初夏の料理実習
8. グリーンアスパラについて学ぶ・アスパラ料理実習
9. 魚について学ぶ1・魚料理実習
10. 卵について学ぶ・卵料理実習
11. 豚肉について学ぶ・肉料理実習
12. トマトについて学ぶ・トマト料理実習
13. 茄子について学ぶ・茄子料理実習
14. 魚について学ぶ2・魚料理実習
15. 夏の素材料理実習

《成績評価の方法・基準》

毎回の授業内容の取得度 50% テスト 30% ノート 20%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

・事前 毎回素材をピックアップし、授業をするので、事前に自分なりにその素材を調べてくる。
・事後 実習ノートの作成。

調理実習（基礎料理Ⅱ）

1 年次（半期）
2 単位（実習）
担当 ★宮本 弥生

《授業の概要》

前期の基礎調理Ⅰをふまえ、素材への理解を深めるとともに、献立としての調理を学ぶ。実習時決められた服装・身だしなみが出来ていなければ授業は受講できない。

《学生の到達目標》

調理の基礎技術をしっかりと身に付け、素材の見極め等もしっかりと見につけ、各自自分で調理の段取りがつけられるようになり、オリジナルな料理を作れるようになる。

《授業計画》

1. 秋の献立1 菊花吸い物・鰻まき卵・栗ご飯・スイートポテト
2. 秋の献立2 かまぼこの丸ごとグラタン・スペアリブの煮物・ハロウィンクッキー
3. 料理コンテスト 応募作品制作
4. 秋の献立3 天婦羅盛り合わせ・すっぽん仕立ての吸い物
5. 秋の献立4 巻き寿司・かこの箱寿司・赤出汁
6. 秋のおそうざい 鯖の味噌煮・切り干し大根の煮物・和風サラダ
7. 保存食 金時豆の煮物・手作りふりかけ・味噌噌
8. 冬の献立1 鰻のかば焼き・かす汁・和え物
9. おせち料理1
10. おせち料理2
11. 1人1台 クリスマスケーキ
12. 冬の献立2 海老芋と海老の炊き合わせ・湯葉かじご飯・利休饅頭
13. レストラン 献立作成
14. レストラン オープン
15. まとめ

《成績評価の方法・基準》

テスト40% 実習での課題達成度40% ノート提出 20%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

・事前 毎回、前週に次週のレシピを配布するので、材料・調理法の事前調べをする。・事後 実習終了後にはパソコンで実習ノートを作成し、提出。

調理実習（中国料理）

1 年次（半期）
2 単位（実習）
担当 伊東 成

《授業の概要》

中国料理の基礎知識及び基礎技術を段階的に学習すると共に、衛生面や調理の段取り・コミュニケーションをとりながらの作業を学ぶ。授業としてはまず実習内容のデモンストレーションを行い、手順・ポイント等を伝え、実習を行う。なお、実習時決められた服装・身だしなみが出来ていなければ授業は受講できない。

《学生の到達目標》

材料の下処理から、切り方・下準備・中華なべの扱い・仕上げ等、基礎技術の習得。

《授業計画》

1. 棒棒雞絲・青椒肉絲・什景炒飯
2. 涼拌海蜇皮・干燒大蝦
3. 老酒蒸鶏・雲吞
4. 蟹肉銀蛋・麻婆豆腐
5. 素炒時蔬・魚香茄子・魚生粥・椰子西米露
6. 春捲・蝦仁燒売・桂花香番茄
7. 干蒸魚・宮保蝦仁・鮑片蹄花
8. 紅油墨魚花・炒米粉・糖醋丸子・開口笑
9. 貴妃鶏・香味雞腿肉・魚翅湯・杏仁豆腐
10. 豆鼓排骨・糖醋魚段・高麗香蕉
11. 魚香烏肝・大良雞柳・豆乳布丁
12. XO 醬炒貝柱・糖醋肉・青蟹翠珊瑚
13. 猪肉包子・東坡肉・拔糸地瓜
14. 復習の料理
15. まとめ

《成績評価の方法・基準》

基本的技術の習得度40% テスト40% 実習ノート20%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前 毎回、次週のレシピを渡すので、材料の中国語を調べる。・事後 実習後に実習ノートをパソコンで作成し、15回終了後に提出をする。

調理実習（フランス料理）

1 年次（半期）
2 単位（実習）
担当 山口 清香

《授業の概要》

西洋料理の基本的な調理法を取り入れたメニューの講習・実習を行います。ヨーロッパの食文化、料理と関わる歴史、調理法の専門用語（フランス語）について学びます。普段あまり目にすることの出来ない珍しい食材にふれる機会もあります。

《学生の到達目標》

基本的調理技術の習得。調理に必要な知識を身につけることで、基礎をしっかりと固め将来的に多方面で活躍出来る調理師を目指す。

《授業計画》

1. 料理をはじめにあたり（調理器具の説明他）
2. 包丁の技法①（玉葱のみじん切り）
3. 仔牛の出し汁（肉料理他 2～3 品）
4. 鶏の出し汁（鶏料理他 2～3 品）
5. 魚の出し汁（魚料理他 2～3 品）
6. ソースについて（冷製料理、温製料理）
7. ポターージュについて（冷製料理、温製料理）
8. 基本的調理法①（鴨の料理他 2～3 品）
9. 基本的調理法②（エスカルゴの料理他 2～3 品）
10. 基本的調理法③（仔羊の料理他 2～3 品）
11. フライパンの扱い方（オムレツ）
12. 高級食材を使ったメニュー（フォアグラ、トリュフ、キャビア他）
13. イタリア料理のメニュー
14. 包丁の技法②（じゃがいものシャトー剥き）
15. まとめ

《成績評価の方法・基準》

ノート提出（30%） フランス料理の基本的技術の習得度（40%） フランス料理の基本的知識の習得度（30%） で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：授業で使用するプリント（レシピ）はその授業が行われる数日前には配布します。材料はフランス語で記載していますので、必ず調べて授業に臨んでください。事後学習：料理を作ることの楽しさ、難しさ、厳しさを経験すると思います。技術向上を目指し意欲的に取り組んでください。

包丁レッスン

1 年次（半期）
1 単位（実習）
担当 ★宮本 弥生

《授業の概要》

2 年間の調理実習をすすめる上で一番基本となる包丁の使い方・材料の切り方等調理の基礎の基礎をマスターする。なお、実習時決められた服装・身だしなみが出来ていなければ授業は受講できない。

《学生の到達目標》

基礎調理実習をスムーズにすすめられるように、基本的な包丁技術・調理技術だけでなく、衛生面・安全面を段階的にしっかりとマスターする。

《授業計画》

1. 授業についてのオリエンテーション
2. 包丁の名称・使い分け・持ち方・姿勢・切り方・洗い方
3. 材料を切る(1)
4. 材料を切る(2)
5. 材料を切る(3)
6. 材料の切り方 小テスト
7. 出しをひく
8. 包丁を研ぐ(菜切り・牛刀)
9. 魚を卸す(1)
10. 出し巻き卵を焼く
11. 包丁を研ぐ(出刃包丁)
12. 飾り切り(1)
13. 飾り切り(2)
14. 魚を卸す(2)
15. まとめ

《成績評価の方法・基準》

技術の達成度 70% 衛生面・安全面の達成度 30%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

基礎的な調理技術の習得には、数多くの反復練習が必要です。授業の空き時間や自宅での練習を心がけてください。

栄養学

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 大杉 加菜子

《授業の概要》

栄養学は食に携わる仕事をするうえで基礎となる知識である。食品中の栄養素にどのようなものがあるか、また、各栄養素が、摂取された後、どのように消化・吸収され、どのような生理作用を及ぼすかなどについて理解を深める。

《学生の到達目標》

健康な生活を送るためには、食事・運動の必要性を理解し、実践できる力を育てることを目標とする。またフードスペシャリスト資格取得に必要な科目なので、資格認定試験に合格できる力をつける。

《授業計画》

1. 健康とは、健康増進と栄養
2. 栄養素 炭水化物
3. 栄養素 脂質
4. 栄養素 タンパク質
5. 栄養素 水溶性ビタミン
6. 栄養素 脂溶性ビタミン
7. 栄養素 主要ミネラル
8. 栄養素 微量ミネラル
9. 糖の消化・吸収・代謝
10. 脂質の消化・吸収・代謝
11. 熱量素の代謝とエネルギー産生
12. 消費エネルギー量と摂取エネルギー量
13. 栄養状態の判定、肥満度、体脂肪率
14. 復習（三大栄養素・エネルギー産生）
15. 授業総括（グループワーク）

《成績評価の方法・基準》

試験 50% 提出物 50%

《授業で使用する教科書》

・日本フードスペシャリスト協会「三訂 栄養と健康（第2版）」建帛社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前 健康な食生活とは何か。様々な情報に関心を持つこと。事後 学習を通して自分の考えを持つような力をつけよう

食品学 I

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

食品には、色素成分、味覚成分、香気成分、栄養成分などの多くの成分が含まれており、食品の特徴を形作っている。食品と栄養の特性 I では、食品中の成分について、種類や性質、特徴、多く含まれる食品などの基礎知識について学ぶ。また、食品成分表の使い方や、CD-ROM を使った栄養価計算の方法を理解し、食品の評価と健全な食生活に役立たせる。その上で、食品についての知識を深めるために、種々の食品群について、種類や成分、食用としての価値、適正な取扱いや保存方法などについて学ぶ。

《学生の到達目標》

食品素材の基礎的な知識を身につけることができる。食品に含まれる成分の性質や特性を理解し、調理や製菓に活用できる。食品の知識を深め、良し悪しを判断できる。フードスペシャリスト資格試験合格に必要な知識を習得することができる。

《授業計画》

1. 食品学概論 食品学でどんなことを学ぶのか
2. 嗜好成分 (1) 色素成分、香気成分の種類と特徴
3. 嗜好成分 (2) 味覚成分の種類と特徴、テクスチャーについて
4. 炭水化物 (1) 炭水化物の種類と特徴
5. 炭水化物 (2) 炭水化物の特性と食品への応用
6. たんぱく質 (1) たんぱく質の種類と特徴
7. たんぱく質 (2) たんぱく質の特性と食品への応用
8. 脂 質 (1) 脂質の種類と特徴
9. 脂 質 (2) 脂質の特性と食品への応用
10. 食品の成分と栄養価
11. 栄養価計算の方法 (CD-ROM を使った栄養価計算)
12. 植物性食品の知識 1 穀類① (米、米加工品など)
13. 植物性食品の知識 2 穀類② (麦類、とうもろこしなど)
14. 植物性食品の知識 3 穀類③ (でんぷん類など)
15. 植物性食品の知識 4 いも類 (じゃがいも、さつまいも、やまいもなど)

《成績評価の方法・基準》

授業内小テストを行なう (30%) 定期テストでは全範囲の知識を問う (50%) 質問や回答などの積極的な発言を考慮した授業への参加貢献度 (20%)

《授業で使用する教科書》

・(公社) 全国調理師養成施設協会「調理師養成教育全書 2 食品と栄養の特性」・「新食品成分表」東京法令出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

日ごろから食品や食物に関心を持ち、スーパーやコンビニエンスストア、デパートなどの食品売り場を良く見て、どんな食品が売れているのか、季節や品種、価格、調理方法などに注目し、情報収集を心がける。授業前は、教科書をよく読み、興味を持ったことや分からないところはインターネットを使って調べる。授業後は、教科書やプリントを読み返して復習問題に取り組み、知識の定着を図る。

食品学Ⅱ

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

食品学Ⅰで学んだ知識をもとに、食品についての知識を深めるために、日常よく利用する身近な食品について、種類や成分、食用としての価値、調理特性、適正な取扱いや保存方法などを幅広く学ぶ。また、食品の実物サンプルや写真を見たり、食べ比べなどをして、実際に即した知識を身につける。現在市場にあふれている食品の価値を、合理的に判断できる力を養い、栄養、嗜好、衛生、経済などいろいろな面から私たちの健全な食生活に役立たせる。

《学生の到達目標》

食品素材の基礎的な知識を身につけることができる。食品に含まれる成分の性質や特性を理解し、調理や製菓に活用できる。食品の知識を深め、良し悪しを判断できる。フードスペシャリスト資格試験合格に必要な知識を習得することができる。

《授業計画》

1. 植物性食品の知識 5 豆類（大豆、小豆など）
2. 植物性食品の知識 6 種実類①（分類と特徴）
3. 植物性食品の知識 7 種実類②（チョコレート）
4. 植物性食品の知識 8 野菜類①（野菜の分類と成分）
5. 植物性食品の知識 9 野菜類②（利用頻度の高い野菜の特徴と目利き）
6. 植物性食品の知識 10 果実類（果実の分類と成分）
7. 動物性食品の知識 1 肉類（牛、豚、鶏肉の成分と特徴）
8. 動物性食品の知識 2 魚介類（魚介類の分類と成分）
9. 動物性食品の知識 3 肉類・魚介類加工品（ハム、ソーセージ、かまぼこなど）
10. 動物性食品の知識 4 卵類（卵の構造と成分、特性）
11. 動物性食品の知識 5 乳類（牛乳の種類と成分）
12. 動物性食品の知識 6 乳製品（チーズ、バター、ヨーグルトなど）
13. その他の食品 1 調味料①（砂糖、塩）
14. その他の食品 2 調味料②（醤油、味噌、酢、みりん）
15. その他の食品 3 香辛料（香辛料の種類と特性）

《成績評価の方法・基準》

授業内小テストを行なう（30%） 定期テストでは全範囲の知識を問う（50%） 質問や回答などの積極的な発言を考慮した授業への参加貢献度（20%）

《授業で使用する教科書》

・（公社）全国調理師養成施設協会「調理師養成教育全書2 食品と栄養の特性」

《参考書》

・「新食品成分表フーズサポーター（CD-ROM）付」東京法令出版

《事前・事後学習》

日ごろから食品や食物に関心を持ち、スーパーやコンビニエンスストア、デパ地下などの食品売り場を良く見て、どんな食品が売れているのか、季節や品種、価格、調理方法などに注目し、情報収集を心がける。授業前も、教科書をよく読み、興味を持ったことや分からないところはインターネットを使って調べる。授業後は、教科書やプリントを読み返して復習問題に取り組み、知識の定着を図る。

食品の安全性Ⅰ

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★瀧本 文子

《授業の概要》

「食」は生命維持、健康保持のために必要不可欠なものである。「安全」であることは絶対条件である。食の安全に関する基礎知識を学ぶとともに、食品にかかわる危害やその防止法、食品表示などについて学び、安全性を確保するための知識を習得する。

《学生の到達目標》

①食中毒の分類、種類、発生状況、防止方法などが理解できる②食品表示の意味が理解できる③食品添加物の種類、用途などが理解できる④食品汚染物質の種類、防止方法などが理解できる⑤食品の安全管理に関するシステムが理解できる

《授業計画》

1. 食品の安全性、食品従事者の衛生管理
2. 食品の腐敗・変敗とその防止法
3. 食中毒の分類と発生状況
4. 細菌性食中毒①
5. 細菌性食中毒②、ウイルス性食中毒、経口感染症
6. 自然毒食中毒
7. 化学性食中毒、寄生虫食中毒
8. 食品の安全性の確保
9. 家庭における食品の安全保持
10. 環境汚染と食品、器具及び容器包装、水の衛生
11. 食品の表示
12. 食品添加物
13. 輸入食品、遺伝子組み換え食品
14. 食品とアレルギー、発がん性物質
15. 食品の安全管理、総括

《成績評価の方法・基準》

定期試験（70%）小テストを含む提出物（20%） 質問、回答など発言を含む授業への参加貢献度（10%）で総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

・日本フードスペシャリスト協会「三訂 食品の安全性（第2版）」建帛社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

食品の安全性は日常生活にも大変関係のある内容です。フードスペシャリスト資格受験に必要なだけでなく、普段の調理や買い物などにも役立てる内容ですので、興味をもって学びましょう。事前学習：食の安全に関するニュースなどに興味をもち、わからないことはインターネット等で調べてください。事後学習：前回の授業プリントの見直しを行ってください。

食品の安全性Ⅱ

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★瀧本 文子

《授業の概要》

前期で習得した知識をもとにして、さらに食品の安全・衛生全般について事例を交えながら深く学び、食品にかかわる危害の種類や防止法、食品表示などについてより理解を深め、実践できる知識を習得する。

《学生の到達目標》

①食品従事者としての衛生知識を習得し実践できる ②各食材やメニューについて食中毒の危害を予測しその予防対策ができる ③加工食品についてアレルギー物質や食品添加物などの内容を含めた食品表示の作成ができる

《授業計画》

1. 食品従事者の衛生管理
2. 食品の腐敗・変敗とその防止
3. 細菌性食中毒とその事例①
4. 細菌性食中毒とその事例②
5. ウイルス性食中毒とその事例、事故対応
6. 自然毒食中毒とその事例
7. 化学性食中毒、寄生虫食中毒とその事例
8. 食中毒予防の実践
9. 食品の安全性の保持①異物混入
10. 食品の安全性の保持②洗浄、殺菌と消毒
11. 食品添加物の用途①
12. 食品添加物の用途②
13. 食品表示の事例
14. 食品表示の実践
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

定期試験（70%）小テストを含む提出物（20%）質問、回答など発言を含む授業への参加貢献度（10%）で総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

・日本フードスペシャリスト協会「三訂 食品の安全性（第2版）」建帛社・「前期「食品の安全性Ⅰ」配布プリント」

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

前期で学んだ内容をさらに深く学習します。普段から食中毒をはじめとする食に関するニュースなどにも関心をもって授業に臨んでください。事前学習：前期「食品の安全性Ⅰ」で配布したプリントを見直し、授業時に必ず持参してください。事後学習：前回の授業プリントなどの見直しをしてください。

洋菓子の世界

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 本美 佑佳

《授業の概要》

様々な国のお菓子の歴史や名前の由来を理解し、現在までに様々な工夫や進化してきた威容の理解を目指す。

《学生の到達目標》

講義を主として、試食とお茶を楽しみ、それぞれのお菓子の歴史を理解する。

《授業計画》

1. フランス菓子①
2. フランス菓子②
3. フランス菓子③
4. フランス菓子④
5. フランス菓子⑤
6. ドイツ菓子①
7. ドイツ菓子②
8. イタリア菓子①
9. ウィーン菓子①
10. 世界の菓子①
11. 世界の菓子②
12. 世界の菓子③
13. 世界の菓子④
14. まとめ①
15. まとめ②

《成績評価の方法・基準》

授業に取り組む姿勢・内容の理解度 レポート提出

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習 その国について、自分なりに調べる。事後学習 レポートを作成。

和菓子の世界

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 谷口 智美

《授業の概要》

社会は様々な切り口で学ぶことができる。この授業では、和菓子を通して日本の食文化と季節感を学んでいく。和菓子のルーツは、古代の「木の実」にさかのぼり、その後貴族社会、武家社会と時代を経る中で、繊細で美しい和菓子を完成させてきた。その菓子を深く学ぶことで、日本人の暮らしや季節の楽しみ方を理解していく。

《学生の到達目標》

それぞれの時代の中での「人々の暮らしと菓子の関係」を説明できる。また、季節や行事と和菓子の関係を理解できる。

《授業計画》

1. オリエンテーション 日本の季節行事と菓子
2. 和菓子のルーツ
3. 和菓子の材料
4. 京菓子と伝統行事
5. 風物詩を彩る和菓子 春・夏
6. 南蛮菓子の上陸
7. 風物詩を彩る和菓子 秋
8. 和菓子の種類
9. 江戸時代の文化と菓子
10. 交通の発達と菓子
11. 街道の和菓子
12. 洋菓子輸入の始まり
13. 風物詩を彩る和菓子 冬
14. 人生の節目と和菓子
15. 郷土の菓子、総括

《成績評価の方法・基準》

定期試験 50%、小テスト、提出物、発表内容を含む授業参加度 50%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

和菓子を深く知ることで、日本の歴史や文化を再発見できることでしょう。日々の暮らしの中で、和菓子に目を留め、美しい和菓子を通して日本人特有の繊細な季節感も学びましょう。事前学習：今回の学習分野の資料を集めたり、調べたりしておく。当番の際は発表内容をまとめる等準備をしておく。事後学習：配布プリントを見直し、知識の整理をしておく。

洋菓子入門

1 年次（半期）
3 単位（実習）
担当 ★西田 一巳

《授業の概要》

洋菓子作りに必要な基本となる項目を中心に、講義、デモンストレーション、実習を行う。作品の内容によっては、学内また学外販売を行う。基本となる項目をしっかりと理解、把握したうえで1年後期、2年時の応用、難易度が増す授業内容がよりスムーズに進むよう土台作りにあてる。

《学生の到達目標》

なぜそうなるのかといった疑問点をもちながら授業に取り組み、各項目、作業の意味や意義、作業上のポイントをしっかりと理解する。

《授業計画》

1. 菓子製造をするうえでの衛生面、作業面、心構え。器具、厨房機器の取り扱い方。
2. スポンジケーキ（共立て法、別立て法）
3. スポンジケーキ（共立て法、別立て法）
4. クッキー生地（パートシュクレ、パートサブレ）
5. クッキー生地（パートシュクレ、パートサブレ）
6. カスタードクリーム、アーモンドクリーム
7. シュー生地
8. パイ生地（パートブリゼ、フィユタージュ）
9. パイ生地（パートブリゼ、フィユタージュ）
10. パウンドケーキ（キャトルキヤール）
11. パウンドケーキ
12. パタークリーム各種
13. デコレーションケーキ（基礎）
14. デコレーションケーキ（応用）
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

授業内で学んだ項目からアイテムを決め、基本となるポイントの理解度（30%）、商品、作業の出来栄（70%）の実技試験。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前・・・フランス語レシピの材料調べ、実習項目の下調べ。事後・・・実習して上手くいかなかった事柄、疑問点を質問でクリアにしていく。

洋菓子の理論と実践（初級）

1 年次（半期）
3 単位（実習）
担当 ★西田 一巳

《授業の概要》

洋菓子入門で学んだ基本をベースに成り立つ商品を中心に、聞いて、観て、やってみて、試食して、といった五感をフルに使い、学生各自またグループで実習作業のもとチームワークや声掛け、コミュニケーションの大切さを学ぶ。学内外販売を行い、言葉で伝える力、接客のポイントも同時に学ぶ。

《学生の到達目標》

実習内容の理解はもちろんのこと商品を作るうえでの作業性、生産性、チームワークの重要性を感じさせ、習慣として身につける。

《授業計画》

1. プリン、クレームブリュレ
2. タルト菓子
3. シャルロット菓子
4. モンブラン菓子
5. チーズケーキ（レアタイプ）
6. ショートケーキ
7. チョコレートケーキ
8. ロールケーキ
9. キャラメルケーキ
10. 焼きドーナツ
11. メレンゲ菓子
12. マンシュロ各種
13. アイス、シャーベット各種
14. 生チョコレート各種
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

授業内で学んだ項目からアイテムを決め、基本となるポイントの理解度（30%）、商品、作業の出来栄（70%）の実技試験。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前・・・フランス語レシピの材料調べ、実習項目の下調べ。事後・・・実習して上手くいかなかった事柄、疑問点を質問でクリアしていく。

パンの理論と実践（基礎）

1 年次（半期）
3 単位（実習）
担当 ★亀井 知子

《授業の概要》

パン製造に関する、材料の知識を深める。パン製造に関する独自の用語、温度管理、発酵管理、製パン技法などを学ぶ。

《学生の到達目標》

製パンの基本を習得する。材料について知識を深め、製パンに応用できる。専門的な機械を扱い大量生産を可能にする。家庭など、学校の実習室とは違った環境で、学んだパンを再現できる。

《授業計画》

1. オリエンテーション、パンのレシピ見方、バターロール
2. ロールパン（手捏ね）、材料学（粉）
3. ロールパン（ミキサー）、材料学（塩）
4. 菓子パン（クリームパン）、材料学（砂糖）
5. 蒸しパン、蒸しケーキ、材料学（たまご）
6. 山型食パン、スコーン、材料学（油脂類）
7. 山型食パン（練り込み生地）、材料学（酵母菌）
8. ナポリ風ピッツァ、フォカッチャ、材料学（乳製品）
9. クロワッサン、パイ、製パン用語①
10. ミルクハース、パン・オ・レ、製パン用語②
11. 白パン、ベーグル、製パン用語③
12. シュトーレン、装飾パン、パンの種類①
13. フランスパン、サンドウィッチ、パンの種類②
14. 販売実習
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

授業の理解度（30%）、実習でのパンを製造（70%）実技試験で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：実習課題のパンをイメージし、可能な限り調べておく。事後学習：実習内でのレシピを完成させる。家庭などで学んだパンを、再現する。

和菓子の理論と実践

1 年次（半期）
2 単位（実習）
担当 ★前野 欣司

《授業の概要》

和菓子の分類や製菓材料、器具の使用法、季節の和菓子から製餡・包餡などの実践的な製菓技術等を基本から学ぶと共に、四季・風習・生活に結び付く和菓子の一つ一つの作品の意味を探索し感性も育成する。

《学生の到達目標》

実習で使用する器具・機器・材料の取り扱いが適切にできる。基本的な製菓技法を理解し、実践できるようになる。

《授業計画》

1. 製餡 包餡
2. 粒餡 桜餅
3. 母大福 生チョコ大福
4. 柑餅 粽
5. 水饅頭 乳菓餡
6. 焼菓子(乳菓・栗饅頭)
7. 三色団子 みたらし団子
8. 上用饅頭 赤飯 赤飯饅頭
9. 練り羊羹 浮島
10. 草餅 どら焼き餡
11. どら焼き 栗蒸し羊羹
12. 落雁 わらひ餅
13. 利休饅頭 葛桜
14. かりんとう饅頭 上生菓子(外郎)
15. 上生菓子(刺切)

《成績評価の方法・基準》

毎回の授業での実習作品の完成度50%、テスト50%で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：次回の実習作品についてレシピを配布するので材料の確認とどんな菓子が調べる。
事後学習：実習後、学んだ内容をノートにまとめ、疑問点は次回の授業の際に質問出来るようにしておく。

調理学

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★村上 道子

《授業の概要》

調理における諸現象、食品変化、技術上のコツなどの法則を科学的に把握し、論理的な調理方法を学ぶ。調理の理論と実習が結びつくように調理科学的要素と実際の調理性を関連付けて学ぶ。

《学生の到達目標》

調理における諸現象を科学的に把握し、実際の食生活に生かせることが出来る。栄養素の調理による変化を考慮し、食品の組み合わせ、調理により損失を減少させる工夫が出来る。

《授業計画》

1. 調理学の意義について
2. 美味しさの要因について
3. 美味しさを生み出すだしと調味について
4. 献立について
5. 炭水化物を多く含む食品（米・小麦）の調理性
6. 炭水化物を多く含む食品（イモ・豆類）の調理性
7. たんぱく質を多く含む食品（食肉）の調理性
8. たんぱく質を多く含む食品（魚介類）の調理性
9. たんぱく質を多く含む食品（卵類）の調理性
10. たんぱく質を多く含む食品（乳類）の調理性
11. たんぱく質を多く含む食品（大豆及び大豆の加工品）の調理性
12. ビタミン・ミネラルを多く含む食品（野菜類）の調理性
13. ビタミン・ミネラルを多く含む食品（果物・きのこ）の調理性
14. ビタミン・ミネラルを多く含む食品（海藻・種実）の調理性
15. ゲル化食品の調理性

《成績評価の方法・基準》

定期試験（70%）、課題提出（30%）で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習は、調理に関する本などを読み、興味を持ったものや、わからないところは調べる。
事後学習は、毎回配布するプリントを勉強し、知識の定着を図る。

家庭料理

1 年次 (通年)
3 単位 (実習)
担当 ★村上 道子

《授業の概要》

日本料理、西洋料理、中国料理の基本的な手法、調理法、コツを習得していく。技術の上達、工程の合理性、機能性のみならず、調理する真心や食に対する美意識、感性を磨いていく。

《学生の到達目標》

食品の数種類の切り方など基本的な調理技術を習得する。食中毒を起こさない食品の衛生管理能力を身につける。自主的に、段取りを考えて、献立の作り方を書いて実習することが出来る。

《授業計画》

1. オリエンテーション・米の調理・だしのとおり方・おにぎり・若竹汁
2. ご飯の炊き方・味噌汁・だし巻き卵・ほうれん草のお浸し・桜餅
3. サンドウィッチ・ロールサンド・オープンサンド・フルーツのシロップ漬け
4. 中華スープ・鶏のから揚げ・杏味の焼き菓子
5. しそご飯・かき玉汁・筑前煮・キュウリとシラスの酢の物・わらび餅
6. コンソメジュリエット・フィッシュムニエル・コーヒーゼリー
7. 五目チャーハン・クラゲの和え物・肉団子のスープ・パイナップルケーキ
8. 親子丼・茄子の赤だし・たこの辛子醤油和え・あんみつ
9. ハンバーグ・ミネストローネ・ロールケーキ
10. 冷やし中華・春巻・カスタードプディング
11. あさりの味噌汁・あじの南蛮煮・きんぴらごぼう・水ようかん
12. ドライカレー・グリーンサラダ・シュークリーム
13. ひき肉のレタス包み・棒棒鶏・ブラマンジェ
14. そうめん・かぼちゃのあんかけ・グレープフルーツゼリー
15. ビンゾワーズ・ポークピカタ・シフォンケーキ
16. ハッシュドビーフ
17. チンジャオロース・餃子・キュウリの和え物・レアチーズケーキ
18. 炊き込みご飯・魚のホイル焼き・けんちん汁・栗饅頭
19. ビーフロケット・野菜のチャウダー・マドレーヌ
20. 八宝菜・かこ玉・サツマイモの飴煮
21. 散らし寿司・蛤の粥汁・利休饅頭
22. ポトフ・マカロニグラタン・アップルケーキ
23. 中華風コーンスープ・酢豚・和え物・蒸しカステラ
24. 茶碗蒸し・ササの味噌煮・ほうれん草の白和え・ぜんざい
25. 三色色ぼろご飯・酢の物・豚汁・みたらし団子
26. チキンライス・コーンスープ・チキンソルト・ショートケーキ
27. 三杯肴・味噌仕立て雑煮・口取り三種・若草きんとん
28. 麻婆豆腐・ワンタン・中華風和え物・ペイクドチーズケーキ
29. ロールキャベツ・かぼちゃのポタージュ・シーザーサラダ・ケーキシヨコ
30. スパゲティミートソース

《成績評価の方法・基準》

レポート 70%、実習成果 30%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習は、今回のレシビを勉強し、手際よく実習できるように、予習する。事後学習は、その日の献立を振り返り、作り方を書いて復習する。

フードコーディネート論

1 年次 (半期)
2 単位 (講義)
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

フードコーディネートとは、食を提供する場面で複雑な条件を調整し、快適な食事を演出することである。そのため、フードコーディネートの基本理念や、食文化、各国料理のテーブルコーディネート、食卓のサービスとマナー、メニュープランニング、サービスマネジメントなどの幅広い知識を学び、食マネジメントの基礎とする。

《学生の到達目標》

食生活やフードビジネスの第一線の担い手として、フードコーディネーターが果たす役割と価値を理解することができる。各国料理のサービスとマナーの基礎を学び、実践できる。フードスペシャリストの資格認定試験に合格できる知識を習得することができる。

《授業計画》

1. フードコーディネートの基本理念
2. 食事の文化① 日本の食事
3. 食事の文化② 世界の食事
4. 食卓のコーディネート① 日本料理
5. 食卓のコーディネート② 中国料理・西洋料理
6. 食卓のコーディネートの実践
7. 食卓のサービスとマナーの基本
8. 日本料理・中国料理のサービスとマナー
9. 西洋料理のサービスとマナー、パーティー
10. メニュープランニングの要件
11. 料理様式とメニュー開発の基礎
12. 食空間のコーディネートの基礎
13. 食空間のコーディネート
14. フードサービスマネージメント
15. 食企画の実践

《成績評価の方法・基準》

定期試験では全範囲の知識を問う(60%) 質問や回答などの積極的な発言を考慮した授業への参加貢献度(30%) 復習問題の進捗状況(10%)

《授業で使用する教科書》

・「三訂 フードコーディネート論」建帛社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

日ごろから食や食産業に関するニュースに関心を持ち、スーパーやコンビニエンスストア、デパートなどの食品売り場を良く見て、どんな食品が売れているのか、またディスプレイや展示方法などにも注目し、情報収集を心がける。食の文化や歴史に興味を持った事は、知識を深める。授業前は、教科書をよく読み、興味を持ったことや分からないところはインターネットを使って調べる。授業後は、復習問題に取り組み、知識の定着を図る。

商品開発・販売 I

1 年次（半期）
1 単位（演習）

担当 ★山口 禎, 中井 康行, 中津 功一朗,
★奥田 晶子, ★村上 道子, ★宮本 弥生,
★西田 一巳, 藤原 是明

《授業の概要》

東住吉区・平野区の企業を中心に、「好きになろうプロジェクト」を立ち上げ、本学もこのプロジェクトに参加し、民間企業と連携して商品開発を行う。これ以外にも大阪府内の企業が参加し、プロジェクトの数は12にも及ぶ。学生はこの12のプロジェクトの中から自分にあったプロジェクトを選んで開発に取り組む。学生は民間企業の商品開発のノウハウを理解して、新しい商品・サービスの開発を行い、その取組や開発した商品を産業交流フェア等で発表する。学生は、今まで経験したことのないこの取組により大きく成長し、近い将来、社会人となった時の力とする。

《学生の到達目標》

学生は民間企業と連携し、商品やサービスの開発を具体化する。学生は共同作業を通じてチーム力を高める。学生は民間企業の考え方を説明できる。学生は共同開発を進める中で課題を発見する。学生は共同研究を進める中で課題を解決する。学生は成果を具体的に発表できる。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 参加プロジェクトの決定
3. 商品開発とは
4. 企業訪問
5. 研究開発 1
6. 研究開発 2
7. 研究開発 3
8. 研究開発 4
9. 研究開発 5
10. 研究開発 6
11. 研究開発 7
12. 成果発表準備 1
13. 成果発表準備 2
14. 成果発表準備 3
15. 成果発表

《成績評価の方法・基準》

以下の①と②の条件を全て満たすことで認定となる。①授業の3分の2以上出席すること。②商品開発の参加・貢献度の評価が「60」以上であること。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：企業訪問に積極的に参加する。昨年度の成果等を十分に理解しておく。事後学習：課題を確実にこなす。何事もチームワークを大切に取組む。

現代生活卒業研究

2 年次（半期）
1 単位（演習）

担当 ★山口 禎, 西川 仁志, 中井 康行,
藤原 是明, 中津 功一朗, ★奥田 晶子,
★村上 道子

《授業の概要》

専任教員が選定したテーマごとに分かれて研究する。テーマは現代生活に関連したものが提起され、その中で一つのテーマを担当して自主的に研究し発表する。

《学生の到達目標》

学生が自らのテーマを企画できる。学生が自らのテーマを研究調査できる。学生が自らの研究をレポート等にまとめて発表できる。学生が一人あるいはグループで発表できる。同じゼミの学生の研究発表を理解できる。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 個別ゼミのオリエンテーション
3. 卒業研究 1 グループディスカッション
4. 卒業研究 2
5. 卒業研究 3
6. 卒業研究 4 グループディスカッション
7. 卒業研究 5
8. 卒業研究 6
9. 卒業研究 7
10. 卒業研究 8 グループディスカッション
11. 卒業研究 9
12. 卒業研究 10
13. 研究発表準備 1
14. 研究発表準備 2
15. 研究発表

《成績評価の方法・基準》

以下の3つを総合的に評価する。①研究への取組 (30%) ②成果物の内容・発表内容 (50%) ③ゼミ内のグループディスカッションや全体討議での貢献度やコミュニケーション力 (20%) で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：自分で考え、計画的に行動する態度を養い、自主研究の楽しみや深みを知る。事後学習：家庭等においても自らの研究テーマに積極的に取り組む。また、グループでの討議にも積極的に関与することが重要である。

現代社会論

2 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★山口 禎, ★奥田 晶子

《授業の概要》

現在の日本社会全体の課題について理解を深める。また、それぞれの課題について、グループワークの中で、解決の糸口を見いだし、自分自身の考えを持つ。取り組む課題は①プラスチック、②南海トラフ地震、③情報社会の課題、④LGBT、⑤女性が働く環境、⑥ワークライフバランス、⑦リスク（保険・クレジットカード・社会保障制度など）の7つをテーマとする。各テーマごとに討議・ディベート等を実施し、プレゼンテーション力を高めていく。また、自分の考えをまとめ書く力も高める。

《学生の到達目標》

学生が今、日本社会が直面する課題を挙げ、説明することが出来る。学生が自身が考える課題の解決策を説明することが出来る。学生が課題や解決策をレポートにまとめることが出来る。学生がプレゼンテーションの力を高める。学生が討議やディベートに積極的に参加できる。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. マイクロプラスチックの現状と課題
3. マイクロプラスチックの現状と課題、その解決策についてのグループ討議・発表
4. 南海トラフ地震
5. 地震への備えについてのグループ討議・発表
6. 女性が働く環境（グループワーク）
7. ワークライフバランスと働く女性のための制度
8. 身の回りのリスクについて（グループワーク）
9. リスクに備える① 社会保障制度
10. リスクに備える② 医療保険・損害保険
11. お金の知識① ライフプランとお金
12. お金の知識② クレジットと電子マネー
13. グループワーク
14. LGBT について
15. LGBT についてのまとめ

《成績評価の方法・基準》

以下の内容で評価する。①レポート提出（50%）②授業の取組姿勢、グループワークへの参加態度、課題の取組状況などで判断する（50%）。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：授業内で提示した内容について、下調べする。事後学習：課題を確実にこなし、提出すること。

消費者経済学

2 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 中津 功一郎

《授業の概要》

私たち人間は、その一人ひとりが、それぞれたくさんの望みを持っている。しかし、すべての人の望みを叶えるだけの十分な資源はない。そのため、私たち人間が望むことができるだけ多く叶えるためには、モノや時間などの限られた資源を、できるだけ無駄なく用いることが大切になる。経済学とは、限られた資源を無駄なく用いるにはどうすればいいか、ということを考える学問。この授業では、消費者や企業が経済全体の中でどう行動しているのか、食品業界を対象として考える。そして、自分たちの意志決定が経済全体の中でどのような意味や効果を持つのか、という問題について、グループワークやディスカッションを通して考える。

《学生の到達目標》

本講義では、以下の能力を獲得する事を目標とする。①経済とは何かについて説明することが出来る。②消費者の立場から経済の基礎的な仕組みを理解できる。③経済学的視点で物事を考えることが出来る。

《授業計画》

1. 経済学とは何か①
2. 経済学の対象と課題
3. 買物と経済：市場とは何か
4. 消費者を取り巻く社会経済情勢：円高と円安
5. 消費者を取り巻く社会経済情勢：保険
6. 消費者を取り巻く社会経済情勢：税金
7. 市場経済と商品・生産システム
8. 消費者行動と意識①
9. 食市場の変化：外食・中食・内食
10. 主要食品の流通
11. フードマーケティング
12. 食料消費を取り巻く課題
13. 経済学とは何か②
14. 消費者行動と意識②
15. まとめ

《成績評価の方法・基準》

授業後に振り返り学習の目的で課題を課す。課題の結果を成績評価の30%とする。知識定着のため定期的に試験を行い、その結果を成績評価の70%とする。

《授業で使用する教科書》

・日本フードスペシャリスト協会「食品の消費と流通」株式会社 建帛社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習としては、配布された資料を読み、わからないところなどのチェックを行う。事後学習としては、毎回課される課題を振り返り学習として行い、知識を定着させる。

イノベーション論

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 中津 功一朗

《授業の概要》

現在の日本は、右肩上がりの成長が終わっているにもかかわらず、過去の成功から抜け出せない状況が続いています。そこで必要なのが、「新しい切り口」や「新しい捉え方」、つまり、イノベーションです。本講義では、イノベーションの基本的概念からイノベーションの機会を見つける方法や実現のために必要なことまで幅広く学び、学生は、今後の社会で活かすことができる「知識」を身につけます。

《学生の到達目標》

イノベーション論を学ぶということは、観点を考える重要性を知ることにもつながります。そのことを踏まえて、本講義では、以下の能力を獲得する事を目標とする。①現代日本において、イノベーションの重要性を理解できる。②イノベーションの機会を見つける方法を知ることができる③イノベーション実現のためのさまざまな戦略について知ることができる④観点を考えるチカラを身につけることができる。

《授業計画》

1. 短大で学ぶイノベーション論とは何か？
2. イノベーションとは何か（イノベーションの定義）
3. イノベーションとは何か（日本産業とイノベーション）
4. 定義の変化について考える
5. 市場の構造変化について考える
6. 事例研究：Googleについて考える
7. 事例研究：Appleについて考える
8. 事例研究：Facebookについて考える
9. 事例研究：Amazonについて考える
10. 事例研究：Netflixについて考える
11. 日本の未来について考える
12. 事例研究：人口減少、高齢化社会について考える
13. 事例研究：フードマーケットについて考える
14. 新しいことを推進するためには
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

授業後に振り返り学習の目的で課題を課す。課題の結果を成績評価の30%とする。知識定着のため定期試験を行い、その結果を成績評価の70%とする。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習としては、配布された資料を読み、わからないところなどのチェックを行う。事後学習としては、毎回課される課題を振り返り学習として行い、知識を定着させる。

ファイナンシャルプランニング演習

2年次（半期）
1単位（演習）
担当 谷口 智美

《授業の概要》

毎日の生活の中で直面するお金の問題：保険や年金、税金、不動産、相続、金融商品等の知識について基礎から学び、生活設計や資産設計を考えるファイナンシャル・プランナーとしてのアプローチを解説する。

《学生の到達目標》

ファイナンシャル・プランニング技能検定3級出題6分野の基礎知識を理解し、合格水準の解答を作成できる。実生活における金融面での課題にも対応できる力を身につけることができる。

《授業計画》

1. オリエンテーション、検定の概要
2. ライフプランニングと資金計画①
3. ライフプランニングと資金計画②
4. ライフプランニングと資金計画③
5. リスク管理①
6. リスク管理②
7. 金融資産運用①
8. 金融資産運用②
9. タックスプランニング①
10. タックスプランニング②
11. 不動産①
12. 不動産②
13. 相続・事業承継①
14. 相続・事業承継②
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

定期試験 70%、小テスト、提出物、発表内容を含む授業参加度 30%

《授業で使用する教科書》

・株式会社家計の総合相談センター「FP技能士3級 最速合格ブック'20→'21年版」成美堂出版・TAC株式会社「2020-2021年版 スッキリとける過去+予想問題 FP技能士3級」TAC株式会社 出版事業部

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

ファイナンシャル・プランナーに必要とされる知識は多岐にわたります。しかし3級合格は決して難しくありません。この授業で基礎知識を身につけ、自宅での反復練習を通してFP技能士3級取得を目指しましょう。ここでの学習が、実社会においてもきっと日々役に立つことでしょう。事前学習：次回分野において興味のあること、疑問点をインターネット等で調べる事後学習：教科書を読み返して、確認問題や問題集に取り組む

メディアを読む

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 中津 功一郎

《授業の概要》

我々が情報を得るための媒体（メディア）は、新聞などの文字情報からテレビなどの放送メディアへ進化し、さらにインターネットへと進化してきた。その進化の中で、多種多様なメディアが発する情報は爆発的に増加している。その中でも、誰もが自由に情報を発信・閲覧することができるインターネットにおいては、真実と異なる情報であるれかえっている。そのような現代社会の中では、必要な情報を正しく読み取る力が重要になる。本講義では、情報を本当の意味で活用するために必要な能力について考える。

《学生の到達目標》

講義では、以下の能力を獲得する事を目標とする。①情報の必要性について理解できる。②批判的思考力（クリティカルシンキング）を身につけることができる。③情報を活用するために必要なことについて自分の考えを持つことができる。

《授業計画》

1. 授業のガイダンス：メディアとは何か
2. 情報とは何か：情報と知恵の関係性について考える
3. 社会と情報の基礎：過去の歴史と情報
4. 社会と情報の基礎：現代日本と情報
5. 憲法について考える
6. 権利に関する法律とは
7. メディアについて考える：テレビ
8. メディアについて考える：新聞
9. メディアについて考える：インターネット
10. メディアについて考える：事例研究
11. メディアリテラシーが必要な理由
12. 広告とメディアについて考える
13. 戦争とメディア
14. クリティカルシンキング（批判的思考力）の必要性
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

授業後に振り返り学習の目的で課題を課す。課題の結果を成績評価の30%とする。知識定着のために定期試験を行い、その結果を成績評価の70%とする。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習としては、配布された資料を読み、わからないところなどのチェックを行う。事後学習としては、毎回課される課題を振り返り学習として行い、知識を定着させる。

大阪の人と文化

2年次（半期）
1単位（演習）
担当 小林 孔

《授業の概要》

本講座は、大阪の人と文化を広く対象としたフィールドの中から、各自の興味と関心に従ってテーマを設定し、取材をとおして、これを多くの読者に伝える、ジャーナリズムの入り口を体験する内容となる。受講生がそれぞれ取材した記事を編集し、1冊のミニコミ誌を完成させる。その完成に必要なくつかの手続きを説明し、取材の方法や記事のまとめ方、編集の方法、校正の最終過程までを指導する。ミニコミ誌「大阪まっことコミ」の発行に向け、内容の充実と努力を促す。

《学生の到達目標》

「大阪まっことコミ」（B4判20頁）を発行するためには、取材に出掛けるまでの準備と取材後の文章化と記事のデザインの3要素を十分に理解し、実践に移さなければならない。よい取材ができること、読者につたわる文章が書けること、手にとってながめてもらえる編集ができるようになる。これらを到達の目標に設定したい。学生時代に作った1冊を、就職先への手土産にしてもよいでしょう。

《授業計画》

1. 取材対象：大阪の人、大阪の文化 過去の記事の紹介
2. テーマ設定
3. 取材立案と計画①（グループワーク）
4. 取材立案と計画②（グループ発表）
5. 写真の撮り方と許可
6. 取材（フィールドワーク）
7. 取材（フィールドワーク）
8. 取材事後報告と記事の執筆
9. 記事の執筆と誌面づくり
10. 誌面づくり
11. 割付と編集
12. 全体編集と記事の修正
13. 読み合わせ
14. 最終校正
15. 発行へむけて

《成績評価の方法・基準》

取材立案計画書（30%）、取材事後報告書（30%）、および完成した担当記事の内容（40%）に基づいて、100点に換算して評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

シラバスの項目はあくまでもミニコミ誌の完成に向けた手順であり、今までに発行したミニコミ誌を読んで事前学習したい。取材のための事前準備、記事を仕上げる編集と事後の校正には、時間をかけるよう心がけて欲しい。

まちづくり研究

2 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★山口 禎

《授業の概要》

今、日本の大きな課題は、地域の少子化・高齢化・労働力不足等である。今では一般的になりつつある「まちづくり」という概念を理解し、この少子高齢化等の課題に対してにに対してどの様な観点から「まちづくり」を進めることが重要なのかを理解する。また、「まちづくりの課題解決」の方策について、各自が考えを持ち、各自のどの様な行動や考えが、「まち」を活性化させることに繋がるのか自らの考えを発表する。授業では「まちづくり」の具体的な事例を学ぶことにより、住民や団体の働きかけだけでなく、行政の考え方や実践を知り、共生することの重要性を理解する。

《学生の到達目標》

学生が日本の少子高齢化等の課題を説明できる。学生が「まちづくり」という概念を説明できる。学生が事例から課題解決の糸口を見いだす。学生が事例の「まちづくり」について、住民側の働きかけを説明できる。学生が事例の「まちづくり」について、行政側の働きかけを説明できる。学生が自身の考える「まちづくり」を説明できる。

《授業計画》

1. 「まちづくり」とは
2. 「まちづくり」についてのグループワーク
3. 駒川商店街の活性化
4. フールドワーク（駒川商店街の現状）
5. 駒川商店街とまちづくり グループワーク
6. まちづくり事例 1
7. まちづくり事例 2
8. まちづくり事例 3
9. 事例から見えてきたこと
10. 「まちづくり事例」の総括
11. 「まちづくり」で自らが取り組むべき課題決定とその解決策
12. 課題と解決策（課題研究 1）
13. 課題と解決策（課題研究 2）
14. 各自の「まちづくり案」発表 1
15. 各自の「まちづくり案」発表 2

《成績評価の方法・基準》

提出レポート（50%）、課題の提出（20%）、授業の取組姿勢・グループワークでの積極性（30%）

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：インターネット等を活用し授業で提示された課題をこなすこと。事後学習：関連する資料や新聞、本にも興味関心を持ち、「まちづくり」を身近に捉え将来の展望を得ること。

情報処理演習 B

2 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 中津 功一郎

《授業の概要》

IT 時代の情報活動を効率的に行うための基本的な情報リテラシーの習得を目指す。内容は、①Excel の基本操作、②関数を利用した表計算、③Excel と Word の連携について幅広く学ぶ。単に入力するだけでなく、デザインや見栄えなどレイアウトを考え、効率よく資料を作成するための技能を学ぶ。また、動画編集ソフトを利用し、写真や動画を用いて編集する技能を学ぶ。

《学生の到達目標》

Microsoft Excel を用いて簡単な表計算ができ、ビジネス面でのコンピュータの基礎知識と Excel の利用を身につけることが出来る。さらに、自らが撮影した動画や写真を利用し、音楽を組み合わせた動画編集をすることが出来る。また、それぞれの課題については、対象者を設定する。そのため、誰のために情報を処理するのか、考える力が身につく。

《授業計画》

1. 授業のガイダンス（Excel で行う情報処理とは何か）
2. Excel の基本操作（既存ファイルの利用と保存）
3. 効率的な情報処理するための方法：データ入力・編集
4. 効率的な情報処理するための方法：並び替え、オートフィルタ
5. 効率的な情報処理するための方法：SUM・AVERAGE・MAX・MIN 関数の利用
6. 情報を提供する方法：表のレイアウト、他のアプリケーションへのデータ出
7. 情報を提供する方法：グラフ機能①
8. 情報を提供する方法：グラフ機能②
9. 情報を創り出す：IF 関数の利用
10. 情報を創り出す：SUMIF・COUNTIF 関数の利用
11. 情報を創り出す：VLOOKUP 関数の利用
12. 資料を作る際に重要とすること
13. 動画による情報提供：動画編集①
14. 動画による情報提供：動画編集②
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

この授業は演習形式の授業であるため、毎回課す、授業内容を確認するための課題により評価する。(60%) 課題については、未完成であったり、課題としての評価が低いものに関しては、教員からの注意点を踏まえ、再提出を行うこととする。再提出に関する評価を 10% とする。また、最終授業において、応用問題を最終課題として課す。最終課題の成績を 30% とする。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：配布資料二目を通しておく。事後学習：授業中の応用問題を課題とするので、自ら考えて課題をクリアしていく必要がある。

経営学

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 中津 功一朗

《授業の概要》

経営学をはじめて学ぶ人を対象に、経営学が対象とする「企業」あるいは「会社」についての基礎知識を学び、企業活動の体系的な姿を理解できるようにします。企業とはなにか、わたしたちの社会や生活にどのように関係しているのかを具体的な企業の事例を参考にしながら学びます。

《学生の到達目標》

経営学を学ぶということは、夢を持ち、その夢を実現するためのよりよい方法を学ぶことである。本講義では、以下の能力を獲得する事を目標とする。①経営学を学ぶことで企業活動がどのように自分たちの生活に関わっているかを理解できる。②企業がお金を稼がなければならぬ意味を理解することが出来る。③経営戦略の必要性を理解できる。④最新のビジネスモデルを知識として得ることが出来る。

《授業計画》

1. 短大で学ぶ経営学とは何か
2. 会社とは（会社の社会的役割）
3. 会社とは（株式会社とは）
4. 会社とは（会社組織）
5. 日本の経営と海外の経営
6. 雇用とは
7. 大きくなり続けるために～経営戦略
8. 事例研究：ユニクロの経営戦略
9. 事例研究：しまむらの経営戦略
10. 時代とともに変わるビジネスモデル
11. 事例研究：コストコのビジネスモデル
12. 事例研究：amazonのビジネスモデル
13. シェアリングビジネスとは
14. 今後のビジネスモデル
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

授業後に振り返り学習の目的で課題を課す。課題の結果を成績評価の30%とする。知識定着のため不定期試験を行い、その結果を成績評価の70%とする。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習としては、配布された資料を読み、わからないところなどのチェックを行う。事後学習としては、毎回課される課題を振り返り学習として行い、知識を定着させる。

広告コミュニケーション論

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 中津 功一朗

《授業の概要》

広告とはアイデア、商品、サービスを広める目的で行うプレゼンテーションやプロモーションのことである。情報化社会にある近年、大企業だけでなく、多くの企業で、ホームページや動画などインターネットを通じた広告を利用しやすくなっている。また、広告事業は企業の戦略の一部であり、マーケティングについて同時に理解することが重要である。本講義では、いくつかの企業を例に挙げ、消費者と企業の広告事業を通じたコミュニケーションの重要性について、グループワークやディスカッションをしながら学ぶ。

《学生の到達目標》

本講義では、以下の能力を獲得する事を目標とする。①広告の重要性について説明することが出来る。②企業・消費者の双方の立場から広告について考えることが出来る③マーケティングの重要性について説明することが出来る。

《授業計画》

1. 広告コミュニケーション論についてのガイダンス
2. マーケティング戦略：戦略と戦術の違いについて理解する
3. 広告視点での競争戦略マネジメント：競争に勝ち抜くには
4. 事例紹介：ソフトバンクの競争戦略
5. 広告視点での競争戦略マネジメント：違いを作って、競争に勝ち抜く
6. 事例紹介：スターバックスとドトールコーヒーの競争戦略
7. マーケティングと広告：マーケティングにおける広告の位置づけ
8. マーケティングと広告：「4P」を買い手の立場から見直した「4C」
9. ブランドと広告：ブランドの重要性
10. 広告視点での競争戦略マネジメント：強みを作る
11. 企業の強みについて考える：グループワーク、ディスカッション
12. 広告視点での競争戦略マネジメント：価値を提供するとは
13. 企業の価値について考える：グループワーク、ディスカッション
14. 広告コミュニケーションの未来
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

授業後に振り返り学習の目的で課題を課す。課題の結果を成績評価の30%とする。知識の定着のため不定期試験を行い、その結果を成績評価の70%とする。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習としては、配布された資料を読み、わからないところなどのチェックを行う。事後学習としては、毎回課される課題を振り返り学習として行い、知識を定着させる。

広告制作演習

2年次（半期）
1単位（演習）
担当 中津 功一郎

《授業の概要》

この授業は広告コミュニケーション論と同時に受講する必要がある、広告制作を通して、創造力や思考力を養うものである。マーケティングを考慮しながら、キャッチコピーやロングコピーの作成、また、広告におけるデザインに実際にチャレンジする。また、グループワークを通して、チームワーク力やコミュニケーション力も同時に養う。

《学生の到達目標》

本講義では、以下の能力を獲得する事を目標とする。①広告の種類（CM、チラシ等）に関わらず、思い描いたイメージを制作できる。②消費者の立場、広告主の立場の観点を持ち、広告を制作できる。③消費者の立場、広告主の立場から、制作した広告について考察が出来る。

《授業計画》

1. 授業のガイダンス
2. テーマを決めたポスターの作成（テーマ決めとチーム作成）
3. テーマを決めたポスターの作成（取材）
4. テーマを決めたポスターの作成（取材と制作）
5. テーマを決めたポスターの作成（取材と制作）
6. テーマを決めたポスターの作成（取材と制作）
7. グループ毎に作品発表：プレゼンテーションとディスカッション
8. テーマを決めたCMの作成（テーマ決めとチーム作成）
9. テーマを決めたCMの作成（取材）
10. テーマを決めたCMの作成（取材と制作）
11. テーマを決めたCMの作成（取材と制作）
12. テーマを決めたCMの作成（取材と制作）
13. テーマを決めたCMの作成（取材と制作）
14. 発表のための準備（グループ内発表）
15. グループ毎に作品発表：プレゼンテーションとディスカッション

《成績評価の方法・基準》

授業の内容を確認するための課題により評価する。(70%) 課題については再提出を行い、再提出に関する評価を30%とする。『授業で使用する教科書・参考書』について記載してください

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、配布資料に目を通しておく。事後学習としては、授業で課された課題を個人、もしくはグループで解決しておく。

ビジネス実務演習Ⅱ

2年次（半期）
1単位（演習）
担当 森 日和

《授業の概要》

ビジネス実務総論で習得した知識を基礎として、人間関係を中心とした総合視点から、演習形式で社会生活に活きる実務能力を身につけることを学習の目的とする。多様な人間関係の中で仕事を進めるうえで、円滑なコミュニケーションを図ることがいかに重要か、ワークを通して体得していく。また、文化・教養からなるコミュニケーション能力も身につけ、社会生活で関わる方々から愛される人間育成を実務演習を通して体得していく。

《学生の到達目標》

建学の精神が体現できる。「清和気品」を以て、人から愛され、社会からも求められる人材となる。ビジネスマナー、ビジネス実務能力を身につけることにより、社会において「自主自律」ができる人材となる。

《授業計画》

1. 本授業の目的の説明および授業計画の説明・授業を受ける姿勢について
2. 現状の自己分析（社会における自己認識）
3. 社会人としての心構え・仕事に対する心構え
4. ビジネス実務 言葉遣い
5. ビジネス実務 印象管理
6. ビジネス実務 電話応対（心構え・受け方・取り次ぎ・伝言）
7. ビジネス実務 電話応対（かけ方・ケーススタディ）
8. ビジネス実務 来客応対・接遇（呈茶）
9. ビジネス実務 企業訪問・名刺交換
10. ビジネス実務 ビジネス文書・メール文書
11. ビジネス実務 報告・連絡・相談
12. ビジネス実務 接遇（案内）・席次
13. ビジネス実務 業務上のコンプライアンス
14. ビジネスと日本の文化 手紙の作法
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

授業の取り組み状況（50%）、小テスト（20%）、提出物（30%）

《授業で使用する教科書》

・小笠原敬承「小笠原流礼法入門 見て学ぶ 日本人のふるまい」淡交社

《参考書》

・藤原正彦「国家と教養」新潮新書

《事前・事後学習》

事前学習：講師から授業終了後、次回の課題を提示し、学生はその課題に対応する。事後学習：講師からその日の学習した内容に関する復習課題を提示し、学生はその課題に対応する。

データ処理演習（1）

2年次（半期）
1単位（演習）
担当 柴田 敬子

《授業の概要》

情報活用能力の向上を目的として、表計算ソフトExcelの基本と応用を幅広く学ぶ。

《学生の到達目標》

MOS試験（マイクロソフト オフィス スペシャリスト アソシエイト 2019）Excelの合格に必要な知識と技術を習得することができる。

《授業計画》

1. 授業計画の説明
2. 基本操作の復習
3. セルデータの作成
4. セルやワークシートの書式設定
5. ワークシートやブックの管理
6. 数式や関数の適用
7. 視覚的なデータの表示
8. ワークシートのデータの共有
9. データの分析と整理
10. 模擬試験1（解答・解説）
11. 模擬試験2（解答・解説）
12. 模擬試験3（解答・解説）
13. 模擬試験4（解答・解説）
14. 模擬試験5（解答・解説）
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

試験（50%）、レポート・課題・提出物（50%）

《授業で使用する教科書》

・「MOS 攻略問題集 Excel 2019」

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：授業時間以外にも積極的にコンピュータを利用し操作に慣れ、幅広く意欲的に勉強してください。事後学習：MOS試験合格を目標に、模擬試験を元読りましょう。

データ処理演習（2）

2年次（半期）
1単位（演習）
担当 柴田 敬子

《授業の概要》

情報活用能力の向上を目的として、データベースの概要およびデータベースソフト Accessの基本と応用を幅広く学ぶ。

《学生の到達目標》

基本操作を確実に理解し、Accessで作成したデータベースの利用ができる。

《授業計画》

1. 授業計画の説明
2. Accessの基本操作（1）
3. Accessの基本操作（2）
4. データベースのデータ編集（1）
5. データベースのデータ編集（2）
6. テーブルの操作（1）
7. テーブルの操作（2）
8. データベースの設計（1）
9. データベースの設計（2）
10. レポートの印刷
11. マクロの利用
12. 総合演習（1）
13. 総合演習（2）
14. 総合演習（3）
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

レポート（50%） 課題・提出物（50%）

《授業で使用する教科書》

・「Access 2019 基礎（よくわかる）」FOM出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：授業時間以外にも積極的にコンピュータを利用し操作に慣れ、幅広く意欲的に勉強してください。事後学習：MOS試験合格を目標に、模擬試験を元読りましょう。

小説を読む

2 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 中井 康行

《授業の概要》

講義の前半期と後半期で、タイプの異なる作家の代表作を取り上げ、その作品世界に様々な角度からアプローチを試みる。物語の時代背景、作品執筆時の作者周辺の状況、作者自身の原体験などを、両作品に幾重にも重ね合わせることで見えてくる物語世界の深さと広さを体感してもらう。それによって、作品世界を読み解くことが、現実世界の重層性の理解に通じていることを、受講者は学び、さらに小説を読むことが決して受動的な行為でなく、対象に働きかける能動的な行為であることを体感してもらうことになる。その上で、両作品の内包する問題が、過去のものではなく 21 世紀の現代にまで継続することを知り、事後において受講者各自に関わる読書生活の基礎を培ってもらいたいと願う。

《学生の到達目標》

文芸作品の表現世界が、過ぎ去った物語でなく、現在の自己と世界の在り方を問い返す場であることを認識し、受講者それぞれが、読みの実践を通じて、文字によって書かれた世界を生き生きと再生させる緒に辿り着けることを、目標とする。併せて、講義で提示される多様な情報に対して、それを精査し整理できる能力を培い、言語によって構成される得ない社会生活の営みに、各自が自立的に向き合える能力＝教養を養うことを目指す。また、より実際的には、講義ノートをとることが、ただ単に何かを書き写すことではなく、講義の各場面に向き合っており、自らの思考を取りまとめ整理するアクティブな作業であることを踏まえ、主体的に各自の実務能力が底上げされることを目標とする。

《授業計画》

1. 近代日本文学史概観
2. 山本周五郎という人
3. 『柳橋物語』を読むⅠ（日常性の観点から）
4. 『柳橋物語』を読むⅡ（恋愛小説の観点から）
5. 『柳橋物語』を読むⅢ（時代小説の観点から）
6. 『柳橋物語』を読むⅣ（作品の地理的状況と時代背景から）
7. 山本周五郎という作家
8. 前半のまとめ
9. 夏目漱石という人
10. 『こころ』を読むⅠ（作品を貫く三つの時間）
11. 『こころ』を読むⅡ（物語が収束する地点）
12. 『こころ』を読むⅢ（名付け得ぬものをめぐって）
13. 『こころ』を読むⅣ（人を動かすもの・人を導くもの）
14. 夏目漱石という作家
15. 後半のまとめ

《成績評価の方法・基準》

前半と後半に分けて、講義内容の理解度を筆記によって確かめ、評価を行う。その際には講義において用いた文庫本、資料プリント、ノートの持込を認める。あくまでも講義内容を正確に要約整理できているか（50%）を評価するものであり、作品の感想や解釈を求めものではない。また、それぞれの問いに応じて、講義内で展開した問題点を的確に再構成し、解答を記述できるか（50%）評価するものである点も留意してほしい。

《授業で使用する教科書》

・山本周五郎『柳橋物語・むかしもいまも』 新潮文庫・夏目漱石『こころ』 新潮文庫

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

作品の通読が事前学習として必須。講義中は、提示する問題について、その場で主体的に考え、能動的に受講することが求められる。ノートはその結果残されるものに過ぎず、ノートをとることに困難を感じる場合、講義内容を聴き取ることに集中してほしい。慣れてくれば、メモ程度のもので構わないので、記録に残す。事後学習としては、紙上にしる記憶中こころ、残された記録に基づいて、講義内容を再構成することが中心となる。

詩歌を読む

2 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 小林 孔

《授業の概要》

2 年次講義の科目として、やや専門性を備えたテーマを設定する。日本文学の中で最も短い詩形である俳諧の発句（俳句）を取り上げて、その解釈の方法を探求する。俳諧は、伝統的な詩情に新しさを加えることに眼目をおく。この基本を踏まえながら、今年は、日本の近世期の俳人、松尾芭蕉の発句を選び、その生涯と芸術についても展望できるように工夫する。半年間の講義内容を体系的に把握すると、1 冊の学術書を時間をかけて読破した充実感が得られると思う。

《学生の到達目標》

短い言葉の中に、表現の歴史（本情）が隠されている。それを理解した上で、では、何が表現の新しいさなのかを探求し、理解する姿勢が必要。到達目標は、取り上げる芭蕉の発句の本意、本情と新しみの理解にある。

《授業計画》

1. 俳諧の発句
2. 季語の扱い方
3. 伊賀上野時代の発句
4. 江戸移住直後
5. 野ざらし紀行の句 ①
6. 野ざらし紀行の句 ②
7. 古池やの句などのようにして誕生したか
8. 深川の草庵
9. 笈の小文の句 ①
10. 笈の小文の句 ②
11. 奥の細道の句 ①
12. 奥の細道の句 ②
13. 画賛の世界 ①
14. 画賛の世界 ②
15. 芭蕉の生涯と芸術

《成績評価の方法・基準》

授業内で求める課題レポートの提出（30%）と定期試験（70%）で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

講義では、平均して 3 句の発句は取り上げようとした。したがって、その時間で取り上げた句の解釈の方法を復習し、理解して欲しい。また、必ず次回に取り上げる内容を予告するので、予習に役立ててもらいたい。

絵画を読む

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 村上 真樹

《授業の概要》

ルネサンス以降の西洋絵画史を、技法・主題・思想の観点から読み解きます。それぞれの画家がその時代においていかに革新的であったかを学び、またその作品が生み出された社会的背景を確認することを通して、近代市民社会がどのように形成されていったのかを考えます。

《学生の到達目標》

西洋美術についての知識を深め、作品を受容するための感性を養うことによって、絵画をより深く味わうことができるようになる。

《授業計画》

1. 導入
2. ルネサンスの発明（レオナルド、ミケランジェロ、ラファエロ）
3. 華麗さと優美さ（バロック絵画とロココ絵画）
4. 日常生活の詩人（レンブラント、フェルメール）
5. 躍動するロマン主義（ドラクロワ、ターナー）
6. 芸術の都パリ（クールベ、ロートレック、エコール・ド・パリ）
7. 印象派の探求（マネ、モネ、ルノワール）
8. 自然と人間（コロー、ミレー、ラファエル前派）
9. 光を求めて（ゴッホ、ゴーギャン）
10. 形態から内面へ（セザンヌ、カンディンスキー、クレー）
11. スタイルの軽業師（ピカソ）
12. 想像力の冒険（キリコ、ダリ、マグリット）
13. 芸術の終焉？（マルセル・デュシャン）
14. 大量消費時代のポップ・アイドル（アンディ・ウォーホル）
15. まとめ

《成績評価の方法・基準》

期末レポート（70%）、発表・提出物（30%）によって評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

・E・H・ゴンブリッチ「美術の物語」ファイジン

《事前・事後学習》

事前学習：次回の学習内容について、書籍・インターネットを使って調べる。事後学習：授業で興味を持った画家・作品についてより深く調べる。ときには美術館にも足を運んでみてください。

映像を読む

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 村上 真樹

《授業の概要》

ヨーロッパ・アメリカの洋画を中心に、映画史を概観します。19世紀末に映画が発明されて以来、映像の文法がどのように形成されてきたかをたどるとともに、それを当時の社会状況の反映として見ることを通じて、「映像の世紀」としての20世紀を俯瞰します。

《学生の到達目標》

文化的教養としての映画についての知識を深め、作品を受容する感性を養う。また映像を分析的に見る視点を持てるようになる。

《授業計画》

1. 導入
2. 映画の発明
3. 魔術としての映画
4. ドイツ映画の黄金時代（1）
5. ドイツ映画の黄金時代（2）
6. サイレントからトーキーへ
7. 第二次世界大戦と映画（1）
8. 第二次世界大戦と映画（2）
9. イタリア映画の復興
10. フランス映画の新しい波
11. ミュージカル映画の登場
12. ハリウッドとアメリカの夢（1）
13. ハリウッドとアメリカの夢（2）
14. ハリウッドとアメリカの夢（3）
15. まとめ

《成績評価の方法・基準》

期末レポート（70%）、発表・提出物（30%）によって評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：次回の学習内容について、書籍・インターネットを使って調べる。事後学習：授業内容をふり返り、身近な映像・動画について考える。古典的な名作映画にも接してみてください。

文献学入門（図書館基礎特論）

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 小林 孔

《授業の概要》

文献学とは、残酷な学問である。文字の書かれた文献が読めなければ、それまでである。生涯、その文献が何なのか、まったくわからない。日本の古い時代の文字が読めなくても、できる質問はないのか、と言えば、それはいくらでもある。ただ、本講座の内容は、ズバリ、くずし字を読むことである。古い時代の人から手書きの写本をとりあげてみたい。物語の筋が比較的好かりやすいものをテキストとして選ぶ。半年間、今まで見たこともない世界を体験することになろう。

《学生の到達目標》

仮に到達目標を設定してみよう。もし、1行が15文字で構成されているとすれば、その中の3文字が読めないと、おそらく文脈がたどりつくことはできないだろう。つまり、1、2文字の程度は、類推ができる。それが読めたかな？といった最低ラインだろう。その最低ラインを超えてみた所が、第1の到達点である。おそらく、11回目あたりで明暗が分かることになる。受講生全員が、すらすらテキストが読めたら大成功です。

《授業計画》

1. 文献学とは 事例をととして
2. 私たちは、本当に文字が読めるのか
3. 文字のくずし方
4. 日本の文字がよめない
5. 室町時代物語の写本を読む① わずかしが読めない
6. 室町時代物語の写本を読む② 少し読めそう
7. 室町時代物語の写本を読む③ でも、意味がとれない
8. 室町時代物語の写本を読む④ まだ、意味がとれない
9. 室町時代物語の写本を読む⑤ えっ、まだ読めない
10. 室町時代物語の写本を読む⑥ 仮名文字は読める
11. 室町時代物語の写本を読む⑦ 文脈がとれる
12. 室町時代物語の写本を読む⑧ 自信がでてきた
13. 室町時代物語の写本を読む⑨ よし、読める
14. 室町時代物語の写本を読む⑩ えー、もう終わり
15. 文献学の入り口を埋め見て まとめかえて

《成績評価の方法・基準》

上記のように、くずし字を読むようにするために、到達度を測定する小テストを2回、最後に1回の、計3回のテストをする。1、2回がともに25点、最後が50点、の加算合計100点で評価を下す。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

くずし字の古典作品は、活字になっていないものをプリントで配布する。予習は効果的である。文字が慣れるためには、事後の学習によるのもよい。毎日30分以上、コピーをながめて、くずし字に親しむことをおすすめする。事後の学習を継続することである。

生涯学習概論

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★藤原 是明

《授業の概要》

人の一生をささえる「生涯学習」という考えかたや生涯学習をささえる法律や社会のしくみについて解説をする。

《学生の到達目標》

生きているかぎり、人は学ぶということを意識できるようになる。学ぶための社会のしくみを理解する。

《授業計画》

1. 生涯学習のとらえかた
2. 生涯学習の起源（ユネスコの提唱）
3. 学習社会について
4. リカレント教育について（OECDの提唱）
5. 人間の発達課題について（1）幼児期・児童期
6. 人間の発達課題について（2）青年期・壮年初期
7. 人間の発達課題について（3）中年期・老年期
8. 生涯学習にかかわる法律（教育基本法）
9. 生涯学習のための施設（1）学校施設
10. 生涯学習のための施設（2）公民館
11. 生涯学習のための施設（3）生涯学習推進センター（広域学習施設）
12. 生涯学習のための施設（4）図書館（自己学習支援施設）
13. 生涯学習のための施設（5）博物館・美術館（専門的学習施設）
14. 生涯学習のための施設（6）体育施設・青少年教育施設・女性教育施設
15. 生涯学習のための施設（7）カルチャー・センターなど

《成績評価の方法・基準》

レポート課題 100%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：配付資料に目を通すこと。事後学習：講義内容の復習と質問などがある場合には質問内容を整理すること。

図書館情報資源概論

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★藤原 是明

《授業の概要》

図書館情報資源（情報メディア）の種類と特性、運用方法等について解説する。

《学生の到達目標》

図書館情報資源（情報メディア）を取り扱うむずかしさを理解する。

《授業計画》

1. 図書館情報資源（情報メディア）のとらえかた
2. 図書館情報資源の種類と特性（1）図書
3. 図書館情報資源の種類と特性（2）逐次刊行物
4. 図書館情報資源の種類と特性（3）その他の図書館情報資源
5. 図書館情報資源の館種別構築（1）公共図書館・学校図書館
6. 図書館情報資源の館種別構築（2）大学図書館・専門図書館
7. 図書館情報資源の構成（1）複本制度と公賃権制度
8. 図書館情報資源の構成（2）排架と書庫管理
9. 図書館情報資源の構成（3）除籍
10. 図書館情報資源の保存（1）現状と考えかた
11. 図書館情報資源の保存（2）基本的な知識
12. 図書館情報資源の保存（3）実例事例の紹介
13. 図書館情報資源の評価と再構成
14. 出版流通のしくみ
15. 知る権利と図書館の自由

《成績評価の方法・基準》

レポート課題 100%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：配付資料に目を通すこと。事後学習：講義内容の復習と質問などがある場合には質問内容を整理すること。

情報サービス論

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★藤原 是明

《授業の概要》

図書館における情報サービスの意義、レファレンスサービス、情報検索、情報源の運用法、図書館利用教育、情報サービスの将来的展望等について解説する。

《学生の到達目標》

情報資源を手わたす場所の図書館と司書の役割について、その必要性を理解する。

《授業計画》

1. 図書館における情報サービスの意義
2. 図書館における情報サービスの種類（レファレンスサービス、読書相談等）
3. レファレンスサービスの理論（1）レファレンスライブラリアンの資質
4. レファレンスサービスの理論（2）情報検索行動
5. レファレンスサービスの理論（3）レファレンスプロセス
6. レファレンスサービスの理論（4）レファレンスインタビュー
7. 情報検索の理論（検索手順、検索語、検索式等）
8. 情報源の特性と利用法（1）冊子体情報源
9. 情報源の特性と利用法（2）デジタル情報源
10. 主な情報源の解説（ことば、ことから、歴史、地理、人名等）
11. 情報源の構築法（二次資料の作成も含む）
12. 図書館利用教育（1）意義と変遷
13. 図書館利用教育（2）指導内容、指導法等
14. レファレンスサービスの評価法（事例の分析と改善方法の検討）
15. 図書館における情報サービスの将来的展望

《成績評価の方法・基準》

レポート課題 100%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：配付資料に目を通すこと。事後学習：講義内容の復習と質問などがある場合には質問内容を整理すること。

情報サービス演習（1）

2年次（半期）
1単位（演習）
担当 山田 悟

《授業の概要》

この授業では、現代の情報サービスでは必須の技術となるコンピュータを用いた情報検索について、その基本的な考え方から各種データベースの利用法、さらにインターネット上での情報検索法などについて講義し、実際にコンピュータを使った演習を行う。またそれらの知識を活用した発信型情報サービスについても講義を行う。

《学生の到達目標》

図書館の情報サービスの基本的技能となる情報検索について、その概念を理解し、実行に必要な様々な知識を蓄え、利用者の質問を基に検索式等を用いた適切な情報検索の実行とその評価ができるようになる事、またインターネットを利用して有用な情報を効率的に得たり自ら情報発信ができるようになる事を目標とする

《授業計画》

1. 情報検索の概念と意義
2. CD-ROM 検索演習 (1) 人物略歴情報
3. CD-ROM 検索演習 (2) 雑誌記事情報
4. CD-ROM 検索演習 (3) 図書内容情報
5. CD-ROM 検索演習 (4) 雑誌記事原報
6. CD-ROM 検索演習 (5) 総合演習
7. 検索戦略：質問の分析と情報源選択
8. 検索戦略：検索語と索引
9. オンライン図書館目録検索
10. オンラインデータベースの利用
11. 電子ジャーナルの検索
12. インターネット検索の基本的な考え方
13. インターネット検索演習 (1) 書籍検索
14. インターネット検索演習 (2) 各種情報の検索
15. 情報発信サービス

《成績評価の方法・基準》

授業時に毎回行う課題を重視（70%）し、定期試験の成績（30%）と合わせて最終的に評価する。毎回の課題については事後に解説を行うので課題内容の理解を深めてもらう。

《授業で使用する教科書》

・田中功・齋藤泰則・松山巖 TCD-ROM で学ぶ 情報検索の演習 新訂4版J 日外アソシエーツ

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

情報検索の技術は正しい考え方に基づいて自らやり方を考え、実行後に検索結果を評価・検討することで理解が深まる。日々の生活の中で多々あるであろう情報検索の機会に、講義内容を踏まえて実行・評価をすることを心がける事。事前学習：教科書に目を通し、適切な検索方法について予め考えておく。事後学習：講義で取り上げなかったものも含めて改めて課題に取組み自身の理解度を確認する。

情報サービス演習（2）

2年次（半期）
1単位（演習）
担当 ★藤原 是明

《授業の概要》

情報サービスにおける利用者とのやりとり（対人技法）、情報検索のための道具（参考図書等）の選びかたや使いかた、情報検索の手順などの演習を通して、基本的な能力を養成する。

《学生の到達目標》

情報サービスにおける利用者とのやりとり（対人技法）、情報検索のための道具（参考図書等）の選びかたや使いかた、情報検索の手順などの演習を通して、基本的な能力を習得する。

《授業計画》

1. 図書館業務における情報サービスの位置づけ
2. 利用者とのやりとり（対人技法）の解説と演習（1）かかわり行動・質問技法
3. 利用者とのやりとり（対人技法）の解説と演習（2）気をつけること・確認すること
4. 利用者とのやりとり（対人技法）の解説と演習（3）個人空間・空間心理・心理変化
5. 情報検索のための道具について（印刷情報源・デジタル情報源・人的情報源）
6. 情報検索のための道具の種類（1）辞典・辞書
7. 情報検索のための道具の種類（2）事典・便覧・図鑑
8. 情報検索のための道具の種類（3）年表・年鑑・地図
9. 情報検索のための道具の種類（4）書誌・目録・索引
10. 情報検索の演習（1）ことば
11. 情報検索の演習（2）ことがら
12. 情報検索の演習（3）過去のこと・場所のこと
13. 情報検索の演習（4）人や団体
14. 情報検索の演習（5）文献など
15. パスファインダーについて

《成績評価の方法・基準》

演習課題 100%（複数回提出する演習課題の平均点）

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：配付資料に目を通すこと。事後学習：演習課題の提出後に、作成した課題の自己評価をすること。

図書館制度・経営論

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★藤原 是明

《授業の概要》

図書館に関連する法律の解説と、図書館経営に必要な考え方や手法について解説する。

《学生の到達目標》

図書館に関連する法律の理解と、図書館経営に関する基本的な考え方を習得する。

《授業計画》

1. 日本国憲法、教育基本法、社会教育法等（関連条文解説）
2. 図書館法（逐条解説）
3. 他館連の図書館に関する法律（1）学校図書館法
4. 他館連の図書館に関する法律（2）国立国会図書館法
5. 他館連の図書館に関する法律（3）大学設置基準等
6. 図書館サービス関連する法律（1）子どもの読書活動の推進に関する法律
7. 図書館サービス関連する法律（2）文字・活字文化振興法等
8. 図書館経営の公的基準（公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準）
9. 図書館経営の基本条件（知識、知恵、人間性）
10. 図書館マーケティング（市場調査と市場開拓）
11. 図書館サービス計画の策定方法（方針から実施案まで）
12. 図書館サービスの評価方法（量的評価と質的評価）
13. 図書館収支の運用方法（予算化と執行方法）
14. 図書館スタッフの運用方法（人的資源の活かし方）
15. 図書館運営体制の多様化（PFI制度、指定管理者制度等）

《成績評価の方法・基準》

レポート課題 100%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：配付資料に目を通すこと。事後学習：講義内容の復習と質問などがある場合には質問内容を整理すること。

図書館情報技術論

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 山田 悟

《授業の概要》

現代の図書館は業務全般に情報技術が導入され、それらの活用なしでは機能しない。情報化社会と図書館の関係性を認識した上で、書誌データに関わるデータベースの構造、情報サービスに関わる検索エンジンの仕組み、資料保存と媒体変換のためのデジタル化技術など、図書館業務遂行に必要な情報技術の知識と技能を解説する。

《学生の到達目標》

情報技術の基礎的な知識を学び、データベースの意義や電子資料の制作、利用、管理方法、コンピュータシステムの管理法など、図書館業務における情報技術の役割とその重要性が理解できるようになることを目標とする。

《授業計画》

1. 情報技術と社会
2. コンピュータの基礎
3. ネットワークの基礎
4. インターネットの基本技術
5. データベースの仕組み
6. サービエンジンの仕組み
7. 図書館における情報技術の活用
8. 図書館業務システムの仕組み
9. デジタルアーカイブ
10. 電子資料の管理技術
11. 情報発信技術とウェブページ
12. 情報システムの管理
13. 情報システムのセキュリティ
14. 情報技術の法的保護
15. 次世代の図書館サービスと今後の展望

《成績評価の方法・基準》

各講義の最後に簡単なテストを行い、講義内容の理解度について確認を行う。この確認テストの成績（30%）と学期末に行う試験成績（70%）とを合わせて成績評価とする。

《授業で使用する教科書》

・田窪直規 編集／岡紀子、田中邦英 著「改訂 図書館と情報技術」樹村房

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

現代社会はコンピュータとネットワークが普及し、図書館業務にも情報通信技術が多数活用されている。普段から身の周りにおける情報技術に目をむけ、その役割について考える習慣を身につけるようにする。事前学習：教科書に目を通し不明な部分をまとめておく。事後学習：講義内容を整理・確認し、十分に理解できていない部分については自身でも調べること。情報技術の知識を確かなものにする。

図書館情報資源特論

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 小林 孔

《授業の概要》

図書館を利用するにあたって、事前に正確な情報を、迅速に収集することが何よりも望ましい。そこで、人文科学、社会科学、自然科学、技術の各分野の特性について考えるために、それぞれの分野が内包する代表的かつ具体的な主題をとりあげ、各々の主要文献ならびに資料から、各分野へのアプローチの方法と構造を明らかにしてみたい。なお、講義への導入にあたっては、いくつかのレファレンスケースをとりあげて、理解の一助とする。

《学生の到達目標》

各分野へのアプローチの方法を理解することができる。あわせて、主要文献の特性や特色を把握する。おそらくはじめて聞く講義内容にならうから、その都度、時間内で理解度のチェックすること。自分の理解度、到達点を確認する。

《授業計画》

1. 書誌解題の目的と意義①（図書館情報とは）
2. 書誌解題の目的と意義②（図書館情報に親しむ）
3. 人文科学の書誌解題①（その特性）
4. 人文科学の書誌解題②（その特色）
5. 人文科学の書誌解題③（まとめ）
6. 社会科学の書誌解題①（その特性）
7. 社会科学の書誌解題②（その特色）
8. 社会科学の書誌解題③（まとめ）
9. 自然科学、技術の書誌解題①（特性と特色）
10. 自然科学、技術の書誌解題②（特色とまとめ）
11. 学術情報の流動化①（活用の応用に向けて）
12. 学術情報の流動化②（活用への応用）
13. 書誌解題の応用①（新しい疑問の提示）
14. 書誌解題の応用②（疑問はとけるか？）
15. まとめこかえて

《成績評価の方法・基準》

定期試験の成績、50点に、講義中に指示する5回の提出物の内容（50点）にもとづいて評価をする。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

この講座は、まず、講義内容をその時間でしっかり理解し、事後の復習によって、その理解をより確かなものにして欲しい。資格取得科目の中では、やや難解な授業内容にならう。担当者の配布する資料にあらかじめ目を通しておくとよい。直接書き込みをして、事後にまとめ直すといった手間も必要になる。

図書・図書館史

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 小林 孔

《授業の概要》

日本の書籍に例をとり、その形態、普及、交流の3点の諸相を、書写、ならびに出版の2つの視点から相互に論じ、それぞれの発生から定着までの変遷を関連づけられるよう考慮してみたい。また、收藏という行為をめぐって、公私の文庫（図書館）が果たしてきた役割と特性についても、同時に考えてみたいと思う。まお、近代の図書館史についても、これを視野に入れて講じてみたい。

《学生の到達目標》

日本の古い和装本を実際に手でふれて、書籍史の一斑を観察することができる。和装本に対する初歩的な理解を求める。あわせて、日本の図書館史の流れを体系的に把握することができる。

《授業計画》

1. 書籍の形態
2. 書籍の機能性
3. 形態の合理性①（美濃盆と半紙本）
4. 形態の合理性②（中本と小本）
5. 普及の条件
6. 普及の手段
7. 普及の実態①（本の製作現場）
8. 普及の実態②（本屋の店頭）
9. 普及と再生
10. 再生と展開
11. 図書蒐集と情報収集の接点①（読書とは）
12. 図書蒐集と情報収集の接点②（読書の風景）
13. 文庫（図書館）の発生と展開①（明治・大正）
14. 文庫（図書館）の発生と展開②（昭和戦前・戦後）
15. 近代図書館史一斑 まとめこかえて

《成績評価の方法・基準》

定期試験の成績50点に、講義中に出题する課題の内容（50点）で評価をする。

《授業で使用する教科書》

・寺田光孝「図書及び図書館史」樹村房

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

初めて知る事柄が多いはず。したがって、事前の学習は図書館史の講義に入ってからでよい。初めて知る内容は、新鮮な驚きのあるうちに復習するのがよから、何度か、前の週の内容を発問形式で尋ねることがある。事後の学習の成果を見る。

図書館実習

2 年次（半期）
1 単位（実習）
担当 ★藤原 是明

《授業の概要》

受講生の住所地または出身地の希望する図書館と調整ののち、図書館側の受入れが可能な場合、夏季に図書館実習が実現する。事前に、「実習事前調査票」を作成する。実習期間の内容は、おおむね、図書館システム操作、カウンター業務、書架整理業務等であり、実習図書館の指示に従う。終了後、「図書館実習報告書」を提出し報告会を行う（実習、ディスカッション）。実習への心構えとして、図書館の基礎知識に加え、実習図書館への感謝や熱意が大切である。※履修登録可能者は、原則として、1 年次の図書館科目の評価が「良」以上の者とする。

《学生の到達目標》

①実習先の図書館についての十分な事前調査ができる。②実習図書館の規則や指示に従って、図書館業務を理解して業務を遂行できる。③実習後の報告書作成や報告会で反省・報告ができる。

《授業計画》

1. ガイダンス
2. 実習図書館の調査(自治体における図書館の位置づけ、図書館施設、利用規則)
3. 実習図書館の調査(サービス内容、夏期催事等)による実習事前調査票の作成
4. 実技演習(装幀・修理)
5. 実技演習(排架・書架整理)
6. 実技演習(図書館システム・カウンター対応等)
7. 実習(実習図書館のプログラムや指示に従う)
8. 実習(実習図書館のプログラムや指示に従う)
9. 実習(実習図書館のプログラムや指示に従う)
10. 実習(実習図書館のプログラムや指示に従う)
11. 実習(実習図書館のプログラムや指示に従う)
12. 実習(実習図書館のプログラムや指示に従う)
13. 実習(実習図書館のプログラムや指示に従う)
14. 図書館実習報告書の作成
15. 実習報告会

《成績評価の方法・基準》

「図書館実習事前調査票」30%、「図書館実習報告書」および報告 30%、「図書館評価表」(実習館作成) 40%。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：所定の期間内に実習図書館についての十分な事前調査を行う必要がある。特に、図書館カウンターで対応できるように利用規定やサービス内容を熟知しておく。事後学習：図書館業務の全体の流れの中で、準備作業、利用者へのサービス提供内容とあり方を把握しなす。

食生活と健康 II

2 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 岩木 一巳

《授業の概要》

食生活の多様化が進む日本の食環境における調理師の役割はたいへん重要です。調理師は、単に調理の技術だけでなく「食生活と健康」に関する幅広い知識と教養の取得が必要です。この授業では、こころと体の健康づくり、食を通して健全な人間を育てていこうとする食育の活動における調理師の役割について学びます。各授業の開始前に、授業内容の理解を助けるための資料を配布して教科書を補足すると共に、各授業の最後に、習熟度を確認するための問題を配布して自己採点します。

《学生の到達目標》

調理師の役割、食生活をとりまく疾病や環境、健康づくり、食育の知識と取り組みなどを十分理解できるレベルに達していること。

《授業計画》

1. 疾病予防から健康増進へ
2. 健康増進法
3. 健康づくり対策、健康教育
4. 健康に関する食品情報
5. 「健康づくり対策」のまとめ
6. 心身相関とストレス
7. ストレスへの対処方法と心の健康
8. 「心の健康づくり」のまとめ
9. 食育とは
10. 食育の意義
11. 食育基本法
12. 食育における調理師の役割：正しい知識の提供
13. 育における調理師の役割：食育の実践活動
14. 「調理師と食育」のまとめ
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

期末の筆記試験の正答率 (70%)、課題レポートの回答内容の充実度合い (30%) で評価する。

《授業で使用する教科書》

・「新編調理師養成教育全書 1 食生活と健康」全国調理師養成施設協会

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：教科書に目を通し、興味を持ったことや分からないところはインターネットや関連書籍を用いて調べる。事後学習：教科書、配布プリント、確認問題を読み返して、授業内容を振り返る。そして、十分な知識を身に付けて、健康につながる食生活を広く啓蒙できる調理師になることが重要です。食育推進の担い手としての社会の期待に応えられるよう常日頃から研鑽していただきたいと思います。

食生活と健康Ⅲ

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 岩木 一巳

《授業の概要》

食生活の多様化が進む日本の食環境の適正化に対する調理師の役割は極めて大切です。調理師は、単に調理の技術だけでなく「食生活と健康」に関する幅広い知識と教養の取得が必要です。この授業では、「労働と健康（労働衛生）」、「環境と健康（環境衛生）」について学びます。各授業の開始前に、授業内容の理解を助けるための資料を配布して教科書を補足すると共に、各授業の最後に、習熟度を確認するための問題を配布して自己採点します。

《学生の到達目標》

① 過重労働や過労死が大きな社会問題となっている昨今の労働環境について、② 調理師として働く際の職場環境と健康の確保について、さらには、③ 身の回りの生活環境を乱す公害について、④ 人類が直面する地球環境問題について、これらの内容を十分理解できるレベルに達していること。

《授業計画》

1. 作業環境、作業条件と健康
2. 職業病、労働災害
3. 調理師の職場環境
4. 「労働と健康」のまとめ
5. 生活環境の衛生、環境因子
6. 環境条件：大気、水
7. 環境条件：住居、廃棄物、放射線
8. 環境汚染と対策：公害の歴史、空気汚染
9. 環境汚染と対策：水質汚濁
10. 環境汚染と対策：騒音、振動、悪臭
11. 環境問題：環境ホルモン
12. 環境問題：地球温暖化
13. 環境問題：酸性雨、オゾン層の破壊、循環型社会の構築
14. 環境問題のまとめ
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

期末の筆記試験の正答率（70%）、課題レポートの回答内容の充実度合い（30%）で評価する。

《授業で使用する教科書》

・「新編調理師養成教育全書 1 食生活と健康」全国調理師養成施設協会

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：教科書に目を通し、興味を持ったことや分からないところはインターネットや関連書籍を用いて調べる。事後学習：教科書、配布プリント、確認問題を読み返して、授業内容を振り返る。労働と健康、環境と健康に関する知識や情報を社会に発信し、自らは正しく行動していくことが重要です。これまで学んできた「食生活と健康Ⅰ、Ⅱ」も含めて、豊かな社会造りに貢献していただきたいと思います。

食品と栄養の特性Ⅳ

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 大杉 加菜子

《授業の概要》

近年、飽食の時代にあるにもかかわらず、生活習慣病などの疾病が増加している。適切な食生活は健康の基本であるが、個人のライフステージに見合った食事で行わなければならない。ここでは日本人の食生活の問題点を考え、各ライフステージの特性を理解し、それに適した食生活を学ぶ。

《学生の到達目標》

日本の食生活の現状を把握し、食生活指針や食事バランスガイドについて理解する。妊娠や発育・加齢などライフステージに応じた体の構造や生理的特徴を知り、必要な栄養について理解する。

《授業計画》

1. 健康づくりのための食生活指針・食事バランスガイド
2. 食事摂取基準
3. 健康とダイエット
4. ウェイトコントロール（プレゼンテーション）
5. 栄養価計算の方法
6. 栄養価計算後の献立構成の評価
7. ライフステージと栄養（妊娠・胎児期）
8. ライフステージと栄養（授乳期・母乳の利点と離乳ガイド・食育のはじまり）
9. ライフステージと栄養（乳・幼児期・虫歯・食育の大切さ）
10. ライフステージと栄養（学童/思春期・補食・食育の充実期）
11. ライフステージと栄養（成人期・生活習慣と食生活リズム）
12. ライフステージと栄養（更年期/高齢期・ホルモンと骨形成）
13. ライフステージと栄養（各ライフステージのまとめ グループワーク）
14. 情報社会と健康（ストレスとビタミンC）
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

試験 50% 提出物 50%

《授業で使用する教科書》

・日本フードスペシャリスト協会「健康と栄養」建帛社・「新食品成分表フーズサポーター（CD-ROM 付）東京法令出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前 各ライフステージに見合った食生活を知ることは身近な課題なので積極的に考え問題点を考えましょう。事後 学習したことを活かして自分自身が健康で健やかな生活を実践し、周囲の人々の意識も高めましょう。

食品と栄養の特性 V

2 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★村上 道子

《授業の概要》

健康を保つことと食生活は密接な関係にある。生活習慣と深くかかわりのある生活習慣病を中心に、各疾病について理解を深め、疾病の予防や治療に適した食事について学ぶ。

《学生の到達目標》

栄養の基礎知識をもとに、日々の自分の食事を見つめなおし、献立を立てることが出来るようになる。将来の生活習慣病などの予防や、家族の健康に役立てられるように学習し、適切なメニューを選ぶことが出来るようになる。

《授業計画》

1. 栄養の基礎知識 炭水化物
2. 栄養の基礎知識 脂質
3. 栄養の基礎知識 たんぱく質
4. 食事と栄養
5. 食事と健康
6. 健康とダイエット
7. ライフステージと栄養 妊娠～思春期
8. ライフステージと栄養 成人期、高齢期
9. 生活習慣病 脂質異常症など
10. 生活習慣病 虚血性心疾患など
11. 生活習慣病と食事 糖尿病など
12. 生活習慣病と食事 がんなど
13. 免疫について
14. 栄養と免疫
15. 食物アレルギー

《成績評価の方法・基準》

定期試験（70%）、課題提出（30%）で評価する。

《授業で使用する教科書》

・（公社）日本スペシャリスト協会「三訂 栄養と健康」建帛社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習は、教科書をよく読み、興味を持ったものやわからないところは調べる。事後学習は、毎回配布するプリントを勉強し、数回ごとに行う小テストで合格点がとれるように、復習する。

食品の安全と衛生 III

2 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★瀧本 文子

《授業の概要》

食品の安全性を脅かす可能性のある環境汚染物質などについて特徴や対策を学ぶ。また主な食品添加物や食物アレルギーについて学び、食品表示情報を正しく読み取れるよう理解を深め、実践できる知識を習得する。

《学生の到達目標》

①食品汚染物質の種類、防止方法などが理解できる ②食品添加物の種類、安全性、用途などが理解できる ③食品表示のルールが理解できる ④加工食品についてアレルギー物質や食品添加物などの内容を含めた食品表示の作成ができる

《授業計画》

1. 家庭における食品の安全保持①
2. 家庭における食品の安全保持②
3. 環境汚染と食品
4. 器具および容器包装
5. 水の衛生
6. 食品の安全流通と表示①食品表示の概要
7. 食品の安全流通と表示②食品表示制度
8. 食品の安全流通と表示③食品添加物の定義、歴史、分類
9. 食品の安全流通と表示④食品添加物の摂取量、使用基準
10. 食品の安全流通と表示⑤主な食品添加物と表示①
11. 食品の安全流通と表示⑥主な食品添加物と表示②
12. 食品の安全流通と表示⑦輸入食品、遺伝子組み換え食品
13. 食品の安全流通と表示⑧食品とアレルギー、発がん性物質
14. 食品の安全流通と表示⑨食品表示の実践
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

定期試験（70%）小テストを含む提出物（20%）質問、回答など発言を含む授業への参加貢献度（10%）で総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

・日本フードスペシャリスト協会「三訂 食品の安全性（第2版）」建帛社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

市販されている食品の表示には様々な情報が載っています。調理師としての業務のためだけでなく、自分自身や家族の安全を守るためにも、食品表示に対して自然に関心を持つようになりましょう。事前学習：身の回りの食品の表示を確認し、わからないことはインターネット等で調べてください。事後学習：前回の授業プリントの見直しを行ってください。

食品の安全と衛生Ⅳ

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

食品の安全と衛生Ⅳにおいて行なう、食品の安全性の実験や食品の品質評価を行うための理論と実験方法についてや、食品保存のための加工技術について学ぶ。また、これらを通して、科学的・論理的な考え方の基本を理解し、適切な実験報告書の作成方法を学ぶ。

《学生の到達目標》

食品の科学的なものの見方と理解、論理的な考え方、実験報告書の作成ができるようになる。
①食品の加工技術を理解し、調理や製菓に活用できるようになる。②食品の安全性の実験の目的と理論について理解することができる。③食品の安全性の実験の進め方について理解することができる。④実験についてレポート（報告書）の書き方を理解し作成できる。⑤実験結果について考察し、自分の考えをまとめることができる。

《授業計画》

1. 実験・検査方法および実験レポート作成のガイダンス
2. 微生物実験（1）環境中の微生物
3. 微生物実験（2）微生物による発酵食品
4. 食品添加物実験（1）保存料の検出
5. 食品添加物実験（2）着色料の検出
6. 食品添加物実験（3）膨張剤の特性
7. 食品のたんぱく質実験（1）分離と検
8. 食品のたんぱく質実験（2）小麦加工品
9. 鮮度検査（1）魚
10. 鮮度検査（2）卵
11. 鮮度検査（3）脂質、牛乳
12. 豆類加工品
13. 果実加工品
14. 肉類加工品
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

・実験内容を理解し、実験結果や考察が、目的に沿って書かれているか評価する（50%）
・定期試験（50%）

《授業で使用する教科書》

・プリント配布

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

基礎的な科学実験および種々の食品の衛生検査方法や加工方法を体得します。事前学習：必ず「実験テキスト」を参照し、実験内容をよく理解して取り組んでください。事後学習：実験した内容をよく精査し、実験レポートを作成して提出してください。

食品の安全と衛生Ⅴ

2年次（半期）
1単位（実習）
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

食品の安全性および品質の評価を行う目的でのアクティブ・ラーニングとして、環境中の微生物検査、食品添加物の検出、鮮度判定、食品加工の技法についてグループで実験を行う。また実験報告書を作成し、科学的・論理的な考え方の基本を理解する。

《学生の到達目標》

食品の科学的なものの見方と理解、論理的な考え方、実験報告書の作成ができるようになる。
①科学実験の進め方について理解することができる。②基本的な実験器具の取り扱いができる。③実験についてレポート（報告書）の書き方を理解し作成できる。④実験結果について考察し、自分の考えをまとめることができる。

《授業計画》

1. 実験・検査方法および実験レポート作成のガイダンス
2. 微生物実験（1）環境中の微生物
3. 微生物実験（2）微生物による発酵食品
4. 食品添加物実験（1）保存料の検出
5. 食品添加物実験（2）着色料の検出
6. 食品添加物実験（3）膨張剤の特性
7. 食品のたんぱく質実験（1）分離と検出
8. 食品のたんぱく質実験（2）小麦加工品
9. 鮮度検査（1）魚
10. 鮮度検査（2）卵
11. 鮮度検査（3）脂質、牛乳
12. 豆類加工品実験
13. 果実加工品実験
14. 肉類加工品実験
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

実験内容を理解した上で、積極的に参加し、班内での責任を全うしようとする取り組みができているか評価する（50%）
・実験レポートの期限内の提出および実験結果や考察が、目的に沿って書かれているか評価する（50%）

《授業で使用する教科書》

・プリント配布

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

基礎的な科学実験および種々の食品の衛生検査方法や加工方法を体得します。事前学習：必ず「実験テキスト」を参照し、実験内容をよく理解して取り組んでください。事後学習：実験した内容をよく精査し、実験レポートを作成して期日までに提出してください。

調理理論と食文化概論Ⅲ

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★村上 道子

《授業の概要》

食材料としての食品が調理上どのような特徴を持っているか、調理における諸現象、変化などを科学的に把握し、論理的な調理方法を学ぶ。食品素材別に栄養的性質、物理的性質を調理例と関係付けて学習する。

《学生の到達目標》

食品中の成分が調理によってどのように変化するのかを理解し、よりよい料理に仕上げるためにどのように調理すればよいのか考え工夫できる。

《授業計画》

1. 魚介類の調理科学 生食調理
2. 魚介類の調理科学 加熱調理
3. 食肉類の調理科学 加熱調理
4. 食肉類の調理科学 軟化方法
5. 卵類の調理科学 凝固性など
6. 卵類の調理科学 起泡性など
7. 乳類の調理科学 牛乳
8. 乳類の調理科学 乳製品
9. 油類の調理科学 揚げ物の調理
10. 油類の調理科学 菓子への利用
11. 調味料の調理科学 食塩など
12. 調味料の調理科学 味噌など
13. ゲル状食品の調理科学 寒天
14. ゲル状食品の調理科学 ゼラチン
15. ゲル状食品の調理科学 ベクチン

《成績評価の方法・基準》

定期試験（70%）、課題提出（30%）で評価する。

《授業で使用する教科書》

・「新編調理師養成教育全書4 調理理論と食文化概論」公益社団法人 全国調理師養成施設協会

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習は、教科書をよく読み、興味を持ったものや、わからないところは調べる。事後学習は、毎回配布するプリントを勉強し、数回ごとに行う小テストで合格点がとれるように、復習する。

調理理論と食文化概論Ⅳ

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★村上 道子

《授業の概要》

調理を能率的に行い、美しく美味しく仕上げるためには、使用目的に適した調理器具が必要である。また調理作業を円滑にするためには、施設・設備の充実が必要である。これらの調理にとって重要な事について知識と理解を深めるように学習する。

《学生の到達目標》

調理器具を上手に選択し、使いこなせるよう各種器具の特徴や調理との関連について習得する。また料理の種類別の食器について理解を深める。料理に合った鍋の大きさ、形が分かる。また料理を盛りつける器を選ぶことが出来る。

《授業計画》

1. 調理施設・設備について
2. 非加熱調理器具について 混合・攪拌用など
3. 非加熱調理器具について 圧搾・濾過用など
4. 加熱調理器具について 鍋など
5. 加熱調理器具について オーブンなど
6. 加熱調理器具について 電子レンジ
7. 冷却用機器について
8. 食器・容器について
9. 材質別の食器・容器の特徴
10. 料理別の食器の種類と特徴
11. 和食器の種類と特徴
12. 洋食器の種類と特徴
13. 中国料理の食器の種類と特徴
14. 調理と熱源について
15. 熱効率について

《成績評価の方法・基準》

定期試験（70%）、課題提出（30%）で評価する。

《授業で使用する教科書》

・「新編調理師養成教育全書4 調理理論と食文化概論」公益社団法人 全国調理師養成施設協会

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習は、教科書をよく読み、興味を持ったものや、わからないところは調べる。事後学習は、毎回配布するプリントを勉強し、数回ごとに行う小テストで合格点がとれるように、復習する。

調理理論と食文化概論VI

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 大杉 加菜子

《授業の概要》

食文化の継承者として重要な使命を実行できる調理師をめざして、世界の料理と食文化を具体的に学び、今日の日本の食生活を彩る様々な国の料理や文化を学習する。

《学生の到達目標》

食文化の継承者の役割を担い、更に新たな調理法を創造する力を身につけるための基礎を学ぶ。

《授業計画》

1. 食文化の地域性と宗教
2. 世界の郷土料理
3. 行事食（春）
4. 行事食（夏）
5. 行事食（秋）
6. 行事食（冬）
7. 現代食生活と未来の食文化
8. 西洋料理の食文化史
9. 西洋料理の食文化
10. 西洋料理の食事作法
11. 中国料理の食文化史
12. 中国料理の食文化
13. 中国料理の食事作法
14. アジア料理
15. 中東・中南米の料理

《成績評価の方法・基準》

試験 50% 提出物 50%

《授業で使用する教科書》

・新調理師養成教育全書4「調理理論と食文化概論」公益社団法人全国調理師養成施設協会

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前 世界の料理に関心を持ち、食事作法など特徴をつかもう。事後 世界の料理を知ることによって日本の食文化や和食の特徴を見つめ直そう。

調理実習（日本料理）

2年次（半期）
2単位（実習）
担当 ★茅ヶ迫 正治

《授業の概要》

1年次に行った調理実習を基本に、技術のレベルアップを図ると共に、日本料理の知識・調理師としての心構えの習得に努める。実習内容はまず講師がデモンストレーションし、手順・ポイント・注意点等を実習を通じて伝え、各自それぞれ理解した上で実習をおこなう。なお、実習時決められた服装・身だしなみが出来ていなければ授業は受講できない。

《学生の到達目標》

毎回の実習での調理技術を習得し、調理師免許の取得を目標にする。

《授業計画》

1. 出しこについて 吸い物 他
2. 魚を卸す 鯛を1尾ずつ卸し、調理
3. 煮物について1 炊き合わせ 他
4. 煮物について2 眼長煮物 他
5. 焼き物について1 肉の焼き物 他
6. 焼き物について2 鮭の塩焼き 他
7. 揚げ物について1 天麩羅盛り合わせ 他
8. 揚げ物について2 目板の唐揚げ 他
9. 蒸物について1 茶碗蒸し 他
10. 蒸物について2 魚介の蒸物 他
11. 鰻を卸して 鰻づくし
12. 季節の会席料理 初夏の献立
13. 季節の会席料理 盛夏の献立
14. 季節の会席料理 晩夏の献立
15. まとめ

《成績評価の方法・基準》

毎時間の技術の達成度40% テスト40% ノート20%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前 次週のレシピを配布するので、材料・調理法を事前に調べる。・事後 実習後、実習ノートをパソコンで作成し、15回終了後提出する。

総合調理実習

2年次（半期）

2単位（実習）

担当 ★久松 幸彦, ★宮本 弥生

《授業の概要》

調理実習室に置ける器具や機器の安全で衛生的な使用を実践する。料理の基本的特性を理論的に理解し食材、調理法などを反復しながら実習を行うと同時に、レストラン実習において円滑なグループワークの意識を醸成し、さまざまな現場を想定した実践力を高める。クラスは半分に分け、フランス料理・日本料理のレストラン実習を行う。

《学生の到達目標》

調理実習で使用される基本的な器具、機器の取り扱いが出来る。基本的な調理技法（包丁操作、煮る、焼く、蒸す）を理解し、実践できるようになる。清潔な身だしなみ、衛生的な行動ができる。

《授業計画》

1. 牛フィレのステーキ・舌平目のエスカベッシュ 他
2. 豚フィレのシャルキュティエール・サラダ 他 保存食 他
3. レストラン実習 稲荷ずし・蓮根のはさみ揚げ 他
4. シーフードのクリーム煮・ハンバーガー他 レストラン実習
5. レストラン実習 胡麻豆腐・博多煮 他
6. フルーツカッティング レストラン実習
7. レストラン実習 豚の角煮・煮びたし 他
8. スモークサーモンのオードブル・いとよりのポアレ 他 レストラン実習
9. レストラン実習 天ざる蕎麦・鱈冊 他
10. フルーツカッティング
11. 豚フィレのシャルキュティエール・サラダ 他 松花堂弁当 他
12. シーフードのクリーム煮・ハンバーガー他 レストラン実習
13. レストラン実習 豚の角煮・煮びたし 他
14. スモークサーモンのオードブル・いとよりのポアレ 他 レストラン実習
15. まとめ

《成績評価の方法・基準》

課題の達成度 40% テスト 40% ノート 20%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前 次週のレシピを配布するので、材料・調理法のフランス語を事前学習し、レストラン実習時は自分の動き等の確認をする。・事後 実習終了後に実習ノートを作成し、15回終了後提出。

調理スペシャリスト研究

2年次（半期）

2単位（実習）

担当 ★宮本 弥生, 山口 清香

《授業の概要》

実習したものを学内販売したり、オリジナルメニューの開発をし、買出しから自分たちで行い、試食会を行う。また、水耕栽培やミニ農業体験や学内レストランも実施する。時には進路別にクラスを分け、就職後に必要な知識・技術の習得にも努める。

《学生の到達目標》

1年で習得した調理技術のスキルアップを含め、自分たちで考え、話し合い、計画を立て、実行する力を身に付け、オリジナル料理で学内レストランをオープンすることを目標とする。

《授業計画》

1. オリエンテーション 1年次復習
2. 秋の食材を使った調理実習
3. レストランサービス実習
4. オリジナルメニュー作成・実習・試食会
5. 農業体験
6. 秋の食材を使った調理実習 2
7. 学内レストラン
8. レストラン実習のためのオリジナルメニュー試作
9. レストラン実習のためのオリジナルメニューレクチャー・実習
10. 学内レストラン
11. レストラン実習のためのオリジナルメニューレクチャー・実習
12. 学内レストラン
13. レストラン実習のためのオリジナルメニューレクチャー・実習
14. 学内レストラン
15. まとめ

《成績評価の方法・基準》

オリジナルメニュー完成度 30% レストラン実習での動き方 50% ノート提出 20%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前 各人オリジナルメニュー作成のための事前リサーチ等を行う。・事後 毎回、授業終了後実習ノートをパソコンで作成し、15回終了後提出。

料理プレゼンテーション演習

2年次（半期）
1単位（演習）
担当 ★宮本 弥生

《授業の概要》

自分の考えたレシピを他の学生の前で講義し、それを他の学生が実習をする。毎回、講義する人、助手をする人、講義を聞いて実習する人にわかれ、それをローテーションし、最終的にレシピをネットに公開する。

《学生の到達目標》

自分の意図したことを、正確に伝えるためには調理技術だけでなく、伝える技術も必要。また、聞くほうの人には、理解する能力も必要。それを養い、クラス以外の人にも講義したり、オリジナルレシピをネットに公開する。

《授業計画》

1. プレゼンテーションのためのスケジュール・テーマ作成
2. プレゼンテーションのためのレシピ作成
3. プレゼンテーションのための料理作成
4. プレゼンテーション・実習(学生1)
5. プレゼンテーション・実習(学生2)
6. プレゼンテーション・実習(学生3)
7. プレゼンテーション・実習(学生4)
8. プレゼンテーション・実習(学生5)
9. プレゼンテーション・実習(学生6)
10. プレゼンテーション・実習(学生7)
11. プレゼンテーション・実習(学生8)
12. プレゼンテーション・実習(学生9)
13. 発表 1
14. 発表 2
15. 発表 3

《成績評価の方法・基準》

発表時の達成度 50% レシピ50%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

・事前 使用するレシピを作成しプレゼンできるよう準備・練習・助手との打ち合わせをする。
・終了後感想を書いて、レシピとともに提出。

洋菓子の世界

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 本美 佑佳

《授業の概要》

様々な国のお菓子の歴史や名前の由来を理解し、現在までに様々な工夫や進化してきた威容の理解を目指す。

《学生の到達目標》

講義を主として、試食とお茶を楽しみ、それぞれのお菓子の歴史を理解する。

《授業計画》

1. フランス菓子①
2. フランス菓子②
3. フランス菓子③
4. フランス菓子④
5. フランス菓子⑤
6. ドイツ菓子①
7. ドイツ菓子②
8. イタリア菓子①
9. ウィーン菓子①
10. 世界の菓子①
11. 世界の菓子②
12. 世界の菓子③
13. 世界の菓子④
14. まとめ①
15. まとめ②

《成績評価の方法・基準》

授業に取り組む姿勢・内容の理解度 レポート提出

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習 その国について、自分なりに調べる。事後学習 レポートを作成。

スイーツデザイン

2 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 椿井 綾乃

《授業の概要》

見た目が可愛いところもスイーツの大きな魅力です。フェイクスイーツや雑貨作りを通して、その魅力を学びます。

《学生の到達目標》

フェイクスイーツや雑貨のデザインが出来るようになること。

《授業計画》

1. 板チョコミラーデコレーション
2. クラフトペーパーで作るチョコレートケーキBOX
3. クラフトバンドで作るショートケーキ小物入れ
4. ボーセラーツで作るスイーツプレート作り
5. グレーデコ de ドーナツアクセ
6. フェイクスイーツ（キウイゼリー）
7. マカロンタワー準備
8. マカロンタワー仕上げ
9. フェイクスイーツ（カップケーキ）
10. フェイクスイーツ（メイソンジャー準備）
11. フェイクスイーツ（メイソンジャー仕上げ）
12. フェイクスイーツ（トリプルアイスクリーム）
13. フェイクスイーツ（アメリカンドーナツプレート）
14. フェイクスイーツ（ポップコーンスコップのキーホルダー）
15. 美味しそうに見えるスイーツイラスト

《成績評価の方法・基準》

実習成果 70%、授業への取り組み 30%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：店頭、本、インターネットなどで、できるだけ多くの作品を見て、創造力を育む。
事後学習：他の作品と自分の作品を比較し、デザイン力を向上させる。

創作スイーツ

2 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★西田 一巳

《授業の概要》

創作のスイーツ実習の学生考案にむけてのレシピの考え方、書き方、デッサン、素材の相性と組み合わせ、色彩、フォルム等々、商品作りに関する様々な要素をふまえて身につける。

《学生の到達目標》

上記、概要の事柄を身につけて学生自ら、またグループで協力しながらレシピ、デッサン、商品を作り上げる。

《授業計画》

1. レシピの考え方、書き方、商品開発にむけての要点
2. 原価、原価率、販売価格、人件費等に関する説明
3. 創作ケーキ作りのグループディスカッション
4. 創作ケーキ作りのグループディスカッション
5. 創作ケーキ作りのグループディスカッション
6. 創作ケーキ作りのグループディスカッション
7. 創作ケーキ作りのグループディスカッション（まとめ、発表）
8. 創作ケーキ作りのグループディスカッション（まとめ、発表）
9. 創作ケーキ作りの個人製作案作成
10. 創作ケーキ作りの個人製作案作成
11. 創作ケーキ作りの個人製作案作成
12. 創作ケーキ作りの個人製作案作成
13. 創作ケーキ作りの個人製作案作成（まとめ、発表）
14. 創作ケーキ作りの個人製作案作成（まとめ、発表）
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

創作スイーツのレシピ作成、デッサン、商品の出来栄をグループ製作（30%）個人製作（70%）で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前・・・2年前期までで学んだ授業内容を見直し、より理解を深め創作ケーキに役立てる。
事後・・・製作した商品の良し悪しを理解し、次回につなげる。

洋菓子中級

2年次（半期）
2単位（実習）
担当 ★西田 一巳

《授業の概要》

菓子製造に携わるうえで1商品として成立する要素、知識、技術といった条件をクリアしながら、また作業時間や段取り、学生通しの声掛け、コミュニケーションも意識し取り組む。販売商品に関して仕上がりの美しさも意識し取り組む。

《学生の到達目標》

将来、菓子製造者として、現場感覚に近い環境を取り入れ、商品的、作業工程的にも授業を通じて感じ取り、社会人スタート時によりスムーズに仕事に馴染んでいけるように学生自ら、またグループで考えながら作業し、その感覚を身につける。

《授業計画》

1. プティフル各種
2. タルトレット各種
3. パイ菓子
4. パイ菓子
5. シュー菓子
6. フラン菓子
7. チーズケーキ（スフレ）
8. タルト菓子（シブースト）
9. タルト菓子（フルーツ）
10. ムース（フルーツ系）
11. ムース（チョコレート系）
12. パパロア
13. ヴェリーヌ各種
14. ヴェリーヌ各種
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

授業内で学んだ項目からアイテムを決め、基本となるポイントの理解度、ノートレポート（40%）、商品、作業の出来栄（60%）の実技試験

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前・・・フランス語レシピの材料調べ、実習項目の下調べ。事後・・・実習して上手くいかなかった事柄、疑問点を質問でクリアにして基本をベースに、ノートにまとめる。

洋菓子上級

2年次（半期）
2単位（実習）
担当 ★西田 一巳

《授業の概要》

ヨーロッパを主に世界のスイーツの中から日本人の馴染みのあるもの、特徴的なものをピックアップし、伝統菓子を学び現代風にアレンジする考えを身につける。販売向けの焼き菓子に関しては、包装ラッピングも含め、商品として成立させる。

《学生の到達目標》

伝統菓子を通じて、要点を理解し製作することと同時に、味、見栄え、形状等々、時代に合わせてアレンジする発想力を身につける。

《授業計画》

1. マドレーヌ、フィナンシェ
2. クッキー、サブレ各種
3. クッキー、サブレ各種
4. プティフル（焼き菓子系）各種
5. プティフル（焼き菓子系）各種
6. パウンドケーキ（応用）
7. ファーブルトン、ガレット
8. フロランタン、ブラウニー
9. フランクフルタークランツ
10. カルディナルジュニッテン
11. ティラミス
12. レモンパイ、チョコレートパイ
13. マカロン
14. マカロン
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

授業内で学んだ項目からアイテムを決め、基本となるポイントの理解度、ノートレポート（40%）、商品、作業の出来栄（60%）の実技試験

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前・・・フランス語レシピの材料調べ、実習項目の下調べ。事後・・・実習して上手くいかなかった事柄、疑問点を質問でクリアにして基本をベースに、ノートにまとめる。

パン応用

2年次（半期）
3単位（実習）
担当 ★亀井 知子

《授業の概要》

パン製造には、捏ねる・発酵・パンチ・成形・ホイロ・焼成など、独自の工程がある。それぞれの工程の役割を、しっかりと理解し、温度を管理することが、美味しいパン作りの秘訣になる。実習で、各工程の役割を体験しながら、習得していく。

《学生の到達目標》

あらゆる種類のパンを習得できる。材料の知識、製造工程の理解、温度管理、製品の質の向上。家庭など、学校の実習室とは違った環境で、学んだパンを再現できる。

《授業計画》

1. スコーン、ベーグル
2. バターロール（焼き込み調理パン）
3. 菓子パン（あんぱん、クリームパン、メロンパン）
4. パン・オ・ノア、パン・オ・レザン
5. グリッシーニ、シナモンロール、コーヒーケーキ
6. 角食パン、胚芽食パン、湯種食パン
7. フルーツブレッド、カンパニー、サンドウィッチ
8. クグロフ、フリオッシュ
9. クロワッサン、パン屋の焼き菓子
10. フランスパン、デニッシュ、パンキンマンデル
11. ドーナツ、カレーパン
12. 販売実習①
13. 販売実習②
14. 販売実習③
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

授業の理解度（30%）、実習でのパンを製造（70%）実技試験で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：実習課題のパンをイメージし、可能な限り調べておく。事後学習：実習内でのレシピを完成させる。家庭などで学んだパンを、再現する。

創作スイーツ実習

2年次（半期）
2単位（実習）
担当 ★西田 一巳

《授業の概要》

今まで学んだ内容の基本、応用、テクニックを駆使し自由な発想で創造力豊かに考え実践し、ものづくりの考える楽しさや難しさを感じとりながら、学生自らの気づきや発見を体験させる。

《学生の到達目標》

創造的でオリジナリティーのある商品開発には、基本をしっかりと理解したうえで成り立つ要素が高いことを再認識させる。様々な知識、経験、アイデア等が必要であることを気づかせ将来の準備にあてる。

《授業計画》

1. 創作ケーキ（焼き菓子）
2. 創作ケーキ（焼き菓子）
3. 創作ケーキ（焼き菓子）
4. 創作ケーキ（アントルメ）
5. 創作ケーキ（アントルメ）
6. 創作ケーキ（アントルメ）
7. 創作ケーキ（学生グループ製作）
8. 創作ケーキ（学生グループ製作）
9. 創作ケーキ（学生グループ製作）
10. 創作ケーキ（学生グループ製作）
11. 創作ケーキ（学生個人製作）
12. 創作ケーキ（学生個人製作）
13. 創作ケーキ（学生個人製作）
14. 創作ケーキ（学生個人製作）
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

授業内で学生が制作した商品、グループ製作（40%）個人製作（60%）で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前・・・2年前期までで学んだ授業内容を見直し、より理解を深め創作ケーキに役立てる。
事後・・・制作した商品の良し悪しを理解し、次回につなげる。

製菓技術スキルアップ

2年次（半期）
2単位（実習）
担当 ★西田 一巳

《授業の概要》

菓子製造者としての芸術性の要素であるマジパン細工、チョコレート細工、餡細工といった内容を主に、それぞれの細工に関する基礎的なことを重点にポイント、テクニックを身につける。

《学生の到達目標》

それぞれの基礎となる要素のポイントを理解し、マジパンであれどバラの花、葉が作れる。チョコレートであれば、テンパリング（温度調整作業）、餡であれば、炊き上げができるといった初期の技術的要素を身につける。

《授業計画》

1. マジパン細工（扱い方、器具の使い方、色付け）
2. マジパン細工（バラの花、葉）
3. マジパン細工（バラの花、葉）
4. マジパン細工（応用）
5. マジパン細工（個人で作品完成）
6. チョコレート細工（扱い方、テンパリングについて）
7. チョコレート細工（パーツの作り方）
8. チョコレート細工（パーツの作り方）
9. チョコレート細工（パーツの作り方）
10. チョコレート細工（個人で作品完成）
11. 餡細工（扱い方、器具の使い方、色付け）
12. 餡細工（バラの花、葉）
13. 餡細工（バラの花、葉）
14. 餡細工（応用）
15. 餡細工（個人で作品完成）

《成績評価の方法・基準》

マジパン、チョコレート、餡それぞれの個人での作品の出来栄（各25%×3種）最後まで作り上げること（25%）で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前・・・専門書やネットで調べをする。事後・・・実習内容の要点をまとめて理解を深める。

食品の安全と衛生

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★瀧本 文子

《授業の概要》

「食」は生命維持、健康保持のために必要不可欠なものである。「安全」であることは絶対条件である。食の安全に関する基礎知識を学ぶとともに、食品にかかわる危害やその防止法、食品表示などについて学び、安全性を確保するための知識を習得する。

《学生の到達目標》

①食中毒の分類、種類、発生状況、防止方法などが理解できる②食品表示の意味が理解できる③食品添加物の種類、用途などが理解できる④食品汚染物質の種類、防止方法などが理解できる⑤食品の安全管理に関するシステムが理解できる

《授業計画》

1. 食品の安全性、食品従事者の衛生管理
2. 食品の腐敗・変敗とその防止法
3. 食中毒の分類と発生状況
4. 細菌性食中毒①
5. 細菌性食中毒②、ウイルス性食中毒、経口感染症
6. 自然毒食中毒
7. 化学性食中毒、寄生虫食中毒
8. 食品の安全性の確保
9. 家庭における食品の安全保持
10. 環境汚染と食品、器具及び容器包装、水の衛生
11. 食品の表示
12. 食品添加物
13. 輸入食品、遺伝子組み換え食品
14. 食品とアレルギー、発がん性物質
15. 食品の安全管理、総括

《成績評価の方法・基準》

定期試験（70%）小テストを含む提出物（20%）質問、回答など発言を含む授業への参加貢献度（10%）で総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

・日本フードスペシャリスト協会「三訂 食品の安全性（第2版）」建帛社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

食品の安全性は日常生活にも大変関係のある内容です。フードスペシャリスト資格受験に必要なだけでなく、普段の調理や買い物などにも役立てる内容ですので、興味をもって学びましょう。事前学習：食の安全に関するニュースなどに興味をもち、わからないことはインターネット等で調べてください。事後学習：前回の授業プリントの見直しを行ってください。

食品学Ⅰ

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

食品には、色素成分、味覚成分、香気成分、栄養成分などの多くの成分が含まれており、食品の特徴を形作っている。食品と栄養の特性Ⅰでは、食品中の成分について、種類や性質、特徴、多く含まれる食品などの基礎知識について学ぶ。また、食品成分表の使い方や、CD-ROM を使った栄養価計算の方法を理解し、食品の評価と健全な食生活に役立たせる。その上で、食品についての知識を深めるために、種々の食品群について、種類や成分、食用としての価値、適正な取扱いや保存方法などについて学ぶ。

《学生の到達目標》

食品素材の基礎的な知識を身につけることができる。食品に含まれる成分の性質や特性を理解し、調理や製菓に活用できる。食品の知識を深め、良し悪しを判断できる。フードスペシャリスト資格試験合格に必要な知識を習得することができる。

《授業計画》

1. 食品学概論 食品学でどんなこと学ぶのか
2. 嗜好成分 (1) 色素成分、香気成分の種類と特徴
3. 嗜好成分 (2) 味覚成分の種類と特徴、テクスチャーについて
4. 炭水化物 (1) 炭水化物の分類と特徴
5. 炭水化物 (2) 炭水化物の特性と食品への応用
6. たんぱく質 (1) たんぱく質の分類と特徴
7. たんぱく質 (2) たんぱく質の特性と食品への応用
8. 脂質 (1) 脂質の分類と特徴
9. 脂質 (2) 脂質の特性と食品への応用
10. 食品の成分と栄養価
11. 栄養価計算の方法 (CD-ROM を使った栄養価計算)
12. 植物性食品の知識 1 穀類① (米、米加工品など)
13. 植物性食品の知識 2 穀類② (麦類、とうもろこしなど)
14. 植物性食品の知識 3 穀類③ (でんぷん類など)
15. 植物性食品の知識 4 いも類 (じゃがいも、さつまいも、やまいもなど)

《成績評価の方法・基準》

授業内小テストを行なう (30%) 定期テストでは全範囲の知識を問う (50%) 質問や回答などの積極的な発言を考慮した授業への参加貢献度 (20%)

《授業で使用する教科書》

・(公社) 全国調理師養成施設協会「調理師養成教育全書2 食品と栄養の特性」・「新食品成分表」東京法令出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

日ごろから食品や食物に関心を持ち、スーパーやコンビニエンスストア、デパートなどの食品売り場を良く見て、どんな食品が売れているのか、季節や品種、価格、調理方法などに注目し、情報収集を心がける。授業前は、教科書をよく読み、興味を持ったことや分からないところはインターネットを使って調べる。授業後は、教科書やプリントを読み返して復習問題に取り組み、知識の定着を図る。

食品学Ⅱ

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

食品学Ⅰで学んだ知識をもとに、食品についての知識を深めるために、日常よく利用する身近な食品について、種類や成分、食用としての価値、調理特性、適正な取扱いや保存方法などを幅広く学ぶ。また、食品の実物サンプルや写真を見たり、食べ比べなどをして、実用に即した知識を身につける。現在市場にあふれている食品の価値を、合理的に判断できる力を養い、栄養、嗜好、衛生、経済などいろいろな面から私たちの健全な食生活に役立たせる。

《学生の到達目標》

食品素材の基礎的な知識を身につけることができる。食品に含まれる成分の性質や特性を理解し、調理や製菓に活用できる。食品の知識を深め、良し悪しを判断できる。フードスペシャリスト資格試験合格に必要な知識を習得することができる。

《授業計画》

1. 植物性食品の知識 5 豆類 (大豆、小豆など)
2. 植物性食品の知識 6 種実類① (分類と特徴)
3. 植物性食品の知識 7 種実類② (チョコレート)
4. 植物性食品の知識 8 野菜類① (野菜の分類と成分)
5. 植物性食品の知識 9 野菜類② (利用頻度の高い野菜の特徴と目利き)
6. 植物性食品の知識 10 果実類 (果実の分類と成分)
7. 動物性食品の知識 1 肉類 (牛、豚、鶏肉の成分と特徴)
8. 動物性食品の知識 2 魚介類 (魚介類の分類と成分)
9. 動物性食品の知識 3 肉類・魚介類加工品 (ハム、ソーセージ、かまぼこなど)
10. 動物性食品の知識 4 卵類 (卵の構造と成分、特性)
11. 動物性食品の知識 5 乳類 (牛乳の種類と成分)
12. 動物性食品の知識 6 乳製品 (チーズ、バター、ヨーグルトなど)
13. その他の食品 1 調味料① (砂糖、塩)
14. その他の食品 2 調味料② (醤油、味噌、酢、みりん)
15. その他の食品 3 香辛料 (香辛料の種類と特性)

《成績評価の方法・基準》

授業内小テストを行なう (30%) 定期テストでは全範囲の知識を問う (50%) 質問や回答などの積極的な発言を考慮した授業への参加貢献度 (20%)

《授業で使用する教科書》

・(公社) 全国調理師養成施設協会「調理師養成教育全書2 食品と栄養の特性」・「新食品成分表」東京法令出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

日ごろから食品や食物に関心を持ち、スーパーやコンビニエンスストア、デパートなどの食品売り場を良く見て、どんな食品が売れているのか、季節や品種、価格、調理方法などに注目し、情報収集を心がける。授業前は、教科書をよく読み、興味を持ったことや分からないところはインターネットを使って調べる。授業後は、教科書やプリントを読み返して復習問題に取り組み、知識の定着を図る。

食品科学実験

2年次（半期）
2単位（実習）
担当 ★瀧本 文子

《授業の概要》

食品の安全性および品質の評価を行う目的でのアクティブ・ラーニングとして、環境中の微生物検査、食品添加物の検出、鮮度判定、食品加工の技法についてグループで実験を行う。また実験報告書を作成し、科学的・論理的な考え方の基本を理解する。

《学生の到達目標》

食品の科学的なものの見方と理解、論理的な考え方、実験報告書の作成ができるようになる。
①科学実験の進め方について理解できる②基本的な実験器具の取り扱いができる③実験についてレポート（報告書）の書き方を理解し作成できる④実験結果について考察し、自分の考えをまとめることができる

《授業計画》

1. 実験・検査方法および実験レポート作成のガイダンス
2. 微生物実験（1）環境中の微生物
3. 微生物実験（2）微生物による発酵食品
4. 食品添加物実験（1）保存料の検出
5. 食品添加物実験（2）着色料の検出
6. 食品添加物実験（3）膨張剤の特性
7. 食品のたんぱく質実験（1）分離と検出
8. 食品のたんぱく質実験（2）小麦加工品実験
9. 鮮度検査（1）魚
10. 鮮度検査（2）卵
11. 鮮度検査（3）脂質、牛乳
12. 豆類加工品実験
13. 果実加工品実験
14. 肉類加工品実験
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

・実験内容を理解した上で、積極的に参加し、班内での責任を全うしようとする取組みができているか評価する（50%）
・実験レポートの期限内の提出および実験結果や考察が、目的に沿って書かれているか評価する（50%）

《授業で使用する教科書》

・テキスト配布

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

基礎的な科学実験および種々の食品の衛生検査方法や加工方法を体得します。事前学習：必ず「実験テキスト」を参照し、実験内容をよく理解して取り組んでください。事後学習：実験した内容をよく精査し、実験レポートを作成して期日までに提出してください。

フードスペシャリスト論

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

フードスペシャリストとは、食に関する知識と技術を身につけた食の専門家である。食品の開発製造、流通、販売、外食を担う食品産業で、食のスペシャリストとして活躍できるように、食の本質が「おいしさ」「楽しさ」「おもてなし」にあることをしっかり認識し、食の歴史や地域の食、法律や制度、環境問題などについて、幅広い知識を学んでいく。

《学生の到達目標》

職業としてのフードスペシャリストの仕事について理解することができる。世界の食、日本の食、現代日本の食生活について理解することができる。食品産業の働きと役割について理解することができる。フードスペシャリストの資格認定試験に合格できる知識を習得することができる。

《授業計画》

1. フードスペシャリストの業務と活躍分野
2. 人類と食物
3. 世界の食（1）食作法と禁忌
4. 世界の食（2）世界各地の食事情
5. 日本の食（1）日本食物史
6. 日本の食（2）食の地域差
7. 現代日本の食生活（1）食生活の変化と現状
8. 現代日本の食生活（2）食産業・環境
9. 食品産業の役割（1）食品製造業と卸売業
10. 食品産業の役割（2）食品小売業と外
11. 食品の品質企画と表示
12. 食品の情報管理と消費者保護の制度
13. フードスペシャリスト試験対策（1）過去問対策
14. フードスペシャリスト試験対策（2）過去問対策
15. フードスペシャリスト試験対策（3）直前対策

《成績評価の方法・基準》

授業内外の課題やテスト（50%） 質問や回答などの積極的な発言を考慮した授業への参加貢献度（20%） プリント提出（10%）

《授業で使用する教科書》

・「四訂」フードスペシャリスト論 第5版 建帛社

《参考書》

・「フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集」建帛社

《事前・事後学習》

日ごろから食や食産業に関するニュースに関心を持ち、スーパーやコンビニエンスストア、デパート地下などの食品売り場を良く見て、どんな食品が売れているのか、また陳列方法などにも注目し、情報収集を心がける。授業前は、教科書をよく読み、興味を持ったことや分からないところはインターネットを使って調べる。授業後は、問題集に取り組み、知識を定着させる。

食品の官能評価・鑑別論

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★村上 道子

《授業の概要》

私たちの周りには数多くの食品が出回り、食品についての情報も氾濫している。その中から適切な食品を選択するためには、種々の食品についての知識と品質を見極める技術が必要である。そこで、化学的・物理的な食品の評価法、嗜好に直接結びつく官能的な評価法を学習する。また個別食品の特徴、品質と取り扱い方を学習する。

《学生の到達目標》

食品の品質とは何かを理解し、食品の品質を見極めることが出来る。また、フードスペシャリストの資格認定試験に合格できる知識を習得する。

《授業計画》

1. 食品に品質とは
2. 官能評価とは
3. 官能評価の目的と意義
4. 官能評価の基本と実施法
5. 化学的評価法
6. 物理的評価法
7. 個別食品（米・麦類）の鑑別
8. 個別食品（トウモロコシ・雑穀類）の鑑別
9. 個別食品（イモ・豆類）の鑑別
10. 個別食品（種実類・野菜類）の鑑別
11. 個別食品（きのこ類・果実類）の鑑別
12. 個別食品（海藻類・魚介類）の鑑別
13. 個別食品（肉類・卵とその加工品）の鑑別
14. 個別食品（乳と乳製品、油脂）の鑑別
15. 個別食品（菓子類・酒類）の鑑別

《成績評価の方法・基準》

定期試験（70%）、課題提出（30%）で評価する。

《授業で使用する教科書》

・「食品の官能評価・鑑別演習」建帛社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習は、教科書をよく読み、興味を持ったものや、わからないところは調べる。事後学習は、毎回配布するプリントを勉強し、知識の定着を図る。

食品の官能評価・鑑別演習

2年次（半期）
1単位（演習）
担当 ★村上 道子

《授業の概要》

食品の品質は、安全性がすべてに優先した上で、食品が備えている栄養性・嗜好性・生体調節機能性・商品性などを総合的に評価し決定されるものである。食品の品質を適正に評価・判断する技術を身につけるために、官能評価の基本的知識を学ぶと共に、具体的な鑑別方法を、演習を通して学ぶ。

《学生の到達目標》

食品を鑑別する方法を理解し、多くの食品の中から適切なものを選択できる力を身につける。また、フードスペシャリストの資格認定試験に合格できる知識を習得する。

《授業計画》

1. 官能評価について
2. パネル、テストの管理について
3. 2点識別試験法について
4. 2点識別試験法について
5. 2点識別試験法演習
6. 2点識別試験法について
7. 2点識別試験法演習
8. 3点識別試験法
9. 3点識別試験法演習
10. 化学的評価法と演習
11. 個別食品（茶類、コーヒー）の鑑別
12. 個別食品（ココア、清涼飲料）の鑑別
13. 個別食品（醸造食品・調味料）の鑑別
14. 個別食品（香辛料、インスタント食品）の鑑別
15. 個別食品（冷凍食品、弁当）の鑑別

《成績評価の方法・基準》

定期試験（70%）、課題提出（30%）で評価する。

《授業で使用する教科書》

・「食品の官能評価・鑑別演習」建帛社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習は、教科書をよく読み、興味を持ったものやわからないところは調べる。事後学習は、毎回配布するプリントを読み返して、知識の定着を図る。

介護食論

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

人間はいくつになっても、生きていく以上食べることは必要である。この教科では、嘔むことや、飲み込むことなどの摂食行為が難しくなった高齢者や障害者に、生きていくうえでのQOLを高める「おいしい食事」や「楽しい食事」の必要性と、介護食（嚥下食）を提供するために必要な知識（高齢者の身体的特徴、嚥下のしくみ、栄養や食品、食品衛生など）について学ぶ。

《学生の到達目標》

高齢者の身体的特徴や心理的特徴を理解することができる。介護食を作るうえで必要な、栄養素を理解し、バランスの良い介護食を考えることができる。介護食を作るために必要な食材の基礎知識を学び、日々の食生活に生かすことができる。安全な食事を提供するために、食品衛生に関する知識を身につけ、実践することができる。介護食士3級の資格取得のために必要な知識を身につけることができる。

《授業計画》

- | | |
|------------|---------------------|
| 1. 介護食士概論 | 介護食士の仕事 |
| 2. 医学的基礎知識 | ①摂食活動に関わる器官とその機能 |
| 3. 医学的基礎知識 | ②高齢者の身体機能の低下（小テスト①） |
| 4. 高齢者の心理 | ①高齢者の心理的理解 |
| 5. 高齢者の心理 | ②高齢者の食への支援 |
| 6. 栄養学 | ①五大栄養素（炭水化物・たんぱく質） |
| 7. 栄養学 | ②五大栄養素（脂質） |
| 8. 栄養学 | ③五大栄養素（ビタミン・無機質） |
| 9. 栄養学 | ④非栄養成分 |
| 10. 栄養学 | ⑤高齢者の栄養学 |
| 11. 食品学 | ①主食となる食材 |
| 12. 食品学 | ②主菜となる食材 |
| 13. 食品学 | ③副菜・その他の食材 |
| 14. 食品衛生学 | ①食品衛生とは・食中毒概論 |
| 15. 食品衛生学 | ②食中毒の予防・食品表示 |

《成績評価の方法・基準》

授業内外で取り組んだ課題や復習問題（40%）定期テストでは全範囲の知識を問う（60%）

《授業で使用する教科書》

・（公社）全国調理職業訓練協会「介護食士講座3級」・（公社）全国調理職業訓練協会「介護食士3級 問題集 *配布」

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

【事前学習】 授業範囲に当たる教科書をよく読み、理解する。高齢者の食に関するニュースや新聞に目を向け、社会状況を良く知る。【事後学習】 「介護食士3級 問題集」を用いて、授業で習った範囲について復習をする。テスト前には教科書、配布プリントをよく読み、必要な知識は覚える

介護食実習

2年次（半期）
2単位（実習）
担当 ★宮本 弥生

《授業の概要》

介護食論で学んだことを基本に、嘔む事・飲み込むことが出来にくくなった高齢者の方にも楽しんでいただける、介護食を作る人にも重荷にならない食事を実習する。

《学生の到達目標》

介護食士3級の資格習得を目標とする。

《授業計画》

1. オリエンテーション 介護食について
2. ソフト食の献立
3. 咀嚼困難な人のための献立
4. 嚥下困難な人のための献立
5. 生活習慣病予防のための献立1（糖尿病予防）
6. 生活習慣病予防のための献立2（高血圧予防）
7. 生活習慣病予防のための献立3（脂質異常予防）
8. 骨粗しょう症予防のための献立
9. おやつ・軽食
10. いろいろなものでトロミをつけた献立
11. トロミ剤を使った献立
12. 市販の介護食を使って
13. 電子レンジや炊飯器を上手に使う
14. 冬の素材を使って
15. 初春の素材を使って

《成績評価の方法・基準》

毎授業の達成度50% テスト 50%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

・事前 介護食論で習ったことを復習。・事後 実習後 実習の作成。

幼児食実習

2年次（半期）
2単位（実習）
担当 寺石 佳世

《授業の概要》

離乳食、幼児食の初期・中期・後期・完了期に分け、更にアレルギー食・おやつなども取り入れ、実習します。

《学生の到達目標》

幼児に必要な栄養等を満たし、形・色合い・デザインも含め、幼児が喜ぶお弁当が作れるようになる。

《授業計画》

1. 離乳食、幼児食の概要、調乳
2. ごっくん期、もぐもぐ期の献立
3. かみかみ期の献立
4. ばくばく期の献立 手づかみパーティー
5. おやつ1
6. ソーセージや果物をつかった飾り切り
7. 魚を使った献立
8. 肉を使った献立
9. デコレーション巻き寿司
10. おやつ2
11. 重ね煮メニュー
12. アレルギーの子どものために
13. 行事食1
14. 行事食2
15. 幼稚園児のためのオリジナル弁当制作

《成績評価の方法・基準》

毎授業の習得度 50% ノート 50%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

・寺石佳世「身体がよるこぶ食材選び」ギャラクシーブックス

《事前・事後学習》

事前学習：●配布プリントをよく読み、興味を持ったことや分からないところはインターネットを使って調べる。●次回の学習内容について興味を持ったことや分からないところはインターネットを使って調べる。事後学習：●プリントを読み返し、知識の定着を図る。●その日に学んだ実習内容を自分で実践する。

ローカルフーズ（郷土料理）

2年次（半期）
2単位（実習）
担当 ★宮本 弥生

《授業の概要》

郷土料理や各国の料理を調理し、その地方や国の文化を食を通じて深めていく。また、時には「子ども食堂」について学んだり、今話題になっている食材を実習に取り入れたいりする。なお、実習時決められた服装・身だしなみが出来ていなければ授業は受講できない。

《学生の到達目標》

これまで行ってきた調理実習の知識・技術をより深めながら、調理だけでなく、食を通じた文化の理解を深め、食に対してより幅広い興味を持つ。

《授業計画》

1. インド料理
2. 調理にも科学が必要
3. 沖縄料理
4. アラブ料理
5. ベルギー料理
6. 子ども食堂
7. 鉄板焼き料理
8. 災害時の食事
9. 北海道料理
10. 東北地方料理
11. 韓国料理
12. スイス料理
13. ベトナム料理
14. 四国料理
15. タイ料理

《成績評価の方法・基準》

毎回の実習の習得度 50% レポート 25% ノート 25%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

・事前 それぞれの地方・国に関する事前リサーチをし、レポートを提出しする。・事後 実習後は実習ノートを作成し、15回目終了時に提出。

ラッピング&ディスプレイ

2年次(半期)

1単位(演習)

担当 伊藤 明子, 櫻井 真貴子

《授業の概要》

調理・製菓の現場では、見た目の印象が売り上げや顧客獲得を左右します。季節感(旬)やセンスがある表現を演出する「ラッピング&ディスプレイ」の基本技術を学び、各自のアイデアや個性の発想力を育てながら、対象物を美しく飾るための「見せ方・包み方」、目的に応じた「色とデザインの選び方」が出来るように学習していきます。なお、ラッピングでは、必要な道具を持参しなければ授業は受講できません。

《学生の到達目標》

○おいしさをイメージする色を選ぶことが出来る。○食材の形にふさわしいデザインが分かる。○旬の演出を表現する色を選ぶことが出来る。○行事食を学び、食育が理解出来る。○テーマにふさわしい「花・器・インテリア」のコーディネートを選ぶことが出来る。○作業をする前に必要な道具を手元に揃え、適切に使うことが出来る。○箱を組み立てられ、道具を使い包装紙を綺麗に切ることが出来る。○包む素材や包み方を適切に選択することが出来る。○冠婚葬祭に合わせて、包み方や紙の柄・熨斗紙等の区別が出来る。○見栄えよく仕上げる事が出来る。

《授業計画》

1. フード・カラーコーディネートの基本(食品色彩学)
2. 食材の形とデザインの法則
3. 四季を演出するカラーコーディネートの方法
4. 行事食(1月・2月・3月・4月)と食育の知識
5. 行事食(5月・6月・7月・8月)と食育の知識
6. 行事食(9月・10月・11月・12月)と食育の知識
7. イベントやテーマにふさわしいアイデアとディスプレイ
8. 基本的な包み方「キャラメル包み」(箱の厚さ別)
9. 基本的な包み方「斜め包み(デパート包み)」
10. 基本的な包み方「スクエア包み」
11. リボンテクニック: シングルループ・ダブルリボン・一文字掛け・十字掛け・斜め掛け
12. 巾着包みと絞リ包み・ワイヤーを使ったリボンボウの作り方
13. マチ有りとマチ無しのパーパーバッグ
14. 冠婚葬祭に合わせて熨斗紙の使い方
15. 基本的な包み方とリボンテクニックの総まとめ

《成績評価の方法・基準》

2人の教員で1/2ずつ評価します。第1回~7回: 授業内で取り組んだ課題や提出物40%、授業への参加貢献度60% 第8回~15回: 授業内で取り組んだ課題や提出物30%、授業への参加貢献度30%、テスト40%

《授業で使用する教科書》

・「新色カード199a」日本色研事業株式会社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習: 次回の学習内容について興味を持ったことや分からないところはインターネットを使って調べる。事後学習: 毎回の授業後に授業内で習ったことを復習しておくこと。

カフェ実習 I

2年次(半期)

2単位(実習)

担当 堀江 茂久, 山口 清香

《授業の概要》

人々の情報交換の場所として、また情報発信の場所として機能する「カフェ」について様々な知識を学習します。創造性、表現力を養い、将来的に自分のイメージするカフェづくりを目的とします。実践的な体験授業(模擬営業)を多く取り入れることで、製作したスイーツを完成させるタイミングの技術や、人前でのパフォーマンスの仕方の等、専門の調理棟を持つ城南女子短大でしか出来ない授業を実践していきます。

《学生の到達目標》

①「カフェ」で提供される料理や菓子、ドリンク等の主に実習をメインとした授業を受講することで、調理の知識や技術を磨き、カフェクリエイターの資格取得を目指す。②体験授業を取り入れることで、作品の製作・提供の流れを考え、状況に応じた行動が出来る。③体験授業を通して飲食におけるオペレーション(キッチン・フロア・バックヤード)が理解出来る。

《授業計画》

1. カフェスイーツメニュー(ムース、ゼリーについて)
2. カフェフードメニュー(ピスタ、サラダについて)
3. カフェスイーツメニュー(クッキーやカップケーキについて)
4. カフェフードメニュー(旬の素材を使ったメニュー)
5. カフェスイーツメニュー(パン生地を使ったメニュー)
6. カフェフードメニュー(米料理とスープについて)
7. カフェスイーツメニュー(クレープについて)
8. カフェフードメニュー(グラタン料理)
9. カフェスイーツメニュー(城南スイーツカフェ実習①で行うメニュー)
10. 城南スイーツカフェ実習①
11. カフェフードメニュー(パンのメニュー)
12. カフェスイーツメニュー(城南スイーツカフェ実習②で行うメニュー)
13. 城南スイーツカフェ実習②
14. カフェフードメニュー(城南フードカフェ実習①で行うメニュー)
15. 城南フードカフェ実習①

《成績評価の方法・基準》

城南スイーツカフェ実習、城南フードカフェ実習でのレポート提出(30%) 課題についての意欲、成果(70%)で評価する。

《授業で使用する教科書》

・「カフェクリエイター3級テキスト」

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習: 自分の思い描く「カフェ」をイメージしてください。時間に余裕がある時等、お店めぐりや関連雑誌のチェック等が出来ると思います。事後学習: 将来的にどのような仕事を指望するかを決め、その目標に向けて意欲的に取り組んでください。

カフェ実習Ⅱ

2年次(半期)
2単位(実習)
担当 堀江 茂久, 山口 清香

《授業の概要》

人々の情報交換の場所として、また情報発信の場所として機能する「カフェ」について学びます。この授業では、調理や製菓の実習だけでなく、店舗経営に必要な知識、SNSやInstagramへ投稿する為の写真的撮り方、カクテル等のお酒の知識、「カフェ」について様々な角度から学習します。実践的な体験授業(模擬営業)を多く取り入れることで、製作するスイーツに個々の感性を取り入れ、創造力を高め物作りの楽しさや大変さを体験しながら、専門の調理棟を持つ城南女子短大でしか出来ない授業を実践していきます。

《学生の到達目標》

①「カフェ」で提供される料理や菓子、ドリンク等の実習や、実際に「カフェ」を運営するにはどんな知識が必要なのかについての講義を受講することで技術や知識を磨く。『カフェ実習Ⅰ』の授業と共に受講し、カフェリエーター2級の資格取得を目指す。②『カフェ実習Ⅰ』の経験を生かし、新しいスイーツを考える事が出来る。③模擬営業をすることで、経営者の立場で店舗経営を考えられる。

《授業計画》

1. 店舗経営について
2. コーヒー工場見学
3. 料理写真の技法について
4. カフェスイーツメニュー(城南スイーツカフェ実習①で行うメニュー)
5. 城南スイーツカフェ実習①
6. カフェメニューの提案①(レシピ作り)
7. カフェメニューの提案①(試作)
8. カクテルについて
9. カフェスイーツメニュー(城南スイーツカフェ実習②で行うメニュー)
10. 城南スイーツカフェ実習②
11. フードメニュー(米料理、パスタ料理)
12. カフェスイーツメニュー(城南スイーツカフェ実習③で行うメニュー)
13. 城南スイーツカフェ実習③
14. 旬の素材を使ったフードメニュー
15. 試食会

《成績評価の方法・基準》

試食会、城南スイーツカフェ実習でのレポート提出(30%) 課題に対する意欲、成果(70%)で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習:自分の思い描く「カフェ」をイメージしてください。時間に余裕がある時等、お店めぐりや関連雑誌のチェックが出来ると良いです。事後学習:将来的にどのような仕事を目指すかを決め、その目標に向けて意欲的に取り組んでください。

カフェドリンク

2年次(半期)
1単位(演習)
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

カフェの語源は、フランス語の「コーヒー」を意味する言葉であるが、現在では広い意味で、飲食物を提供するお店のことをさす。提供される飲料は、カフェの形態により様々であり、オーソドックスなものからアレンジしたものまで種類も多い。カフェドリンクでは、学外の実習を取り入れ、コーヒー、紅茶、中国茶、日本茶、ハーブティなど、幅広いソフトドリンクに触れる。専門の講師から基礎知識と技術を学び、味覚、視覚、嗅覚などの五感を使った体験を通してドリンクの世界に触れ、知識、技術、感性を高める。

《学生の到達目標》

お茶の種類と基本的な特徴が理解できる。代表的な4種のお茶を味わい、自ら淹れることができる。お茶と料理やお菓子の相性を考えることができる。カフェリエーターに必要な知識を習得することができる。

《授業計画》

1. ガイダンス
2. コーヒーの基礎知識と博物館見学
3. コーヒー焙煎体験
4. エスプレッソマシンの使い方
5. ラテアートの作り方
6. 中国茶の基礎知識
7. 中国茶の種類と淹れ方
8. 紅茶の基礎知識
9. 紅茶の種類と淹れ方
10. 紅茶の種類と淹れ方
11. 日本茶の基礎知識
12. 日本茶の種類と淹れ方
13. 日本茶のオリジナルブレンド
14. ハーブティーの基礎知識
15. ハーブティーの種類と淹れ方

《成績評価の方法・基準》

実習レポートの期限内の提出および、内容が正確に書かれているか評価する(50%) 到達目標に沿った、基本的な実習内容が正しく理解できているかという点を評価する(50%)

《授業で使用する教科書》

・プリント配布

《参考書》

・(公社)全国調理職業訓練協会「カフェリエーター3級テキスト」

《事前・事後学習》

【事前学習】実習・体験するソフトドリンクについて調べ、内容を把握しておく。【事後学習】実習・体験内容をよく思い出し、配布資料などを参考にレポートを作成し、期限内に提出する。

商品開発・販売Ⅱ

2年次（半期）
1単位（演習）

担当 ★山口 禎, 中井 康行, 中津 功一郎,
★奥田 晶子, ★村上 道子, ★宮本 弥生,
★西田 一巳, ★藤原 是明

《授業の概要》

東住吉区・平野区の企業を中心に、「好きになろうプロジェクト」を立ち上げ、本学もこのプロジェクトに参加し、民間企業と連携して商品開発を行う。これ以外にも大阪府内の企業が参加し、プロジェクトの数は12にも及ぶ。学生はこの12のプロジェクトの中から自分にあったプロジェクトを選んで開発に取り組む。学生は民間企業の商品開発のノウハウを理解して、新しい商品・サービスの開発を行い、その取組や開発した商品を産業交流フェア等で発表する。学生は、今まで経験したことのないこの取組により大きく成長し、近い将来、社会人となった時の力とする。

《学生の到達目標》

学生は民間企業と連携し、商品やサービスの開発を具体化する。学生は共同作業を通じてチーム力を高める。学生は民間企業の考え方を説明できる。学生は共同開発を進める中で課題を発見する。学生は共同研究を進める中で課題を解決する。学生は成果を具体的に発表できる。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 参加プロジェクトの決定
3. 商品開発とは
4. 企業訪問
5. 研究開発 1
6. 研究開発 1
7. 研究開発 1
8. 研究開発 1
9. 研究開発 1
10. 研究開発 1
11. 研究開発 1
12. 成果発表準備 1
13. 成果発表準備 1
14. 成果発表準備 1
15. 成果発表

《成績評価の方法・基準》

以下の①と②の条件を全て満たすことで認定となる。①授業の3分の2以上出席すること。②商品開発の参加・貢献度の評価が「60」以上であること。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：企業訪問に積極的に参加する。昨年度の成果等を十分理解しておく。事後学習：課題を確実にこなす。何事もチームワークを大切にして取り組む。

インターンシップⅡ

2年次（半期）
1単位（実習）

担当 ★山口 禎, 湯浅 嵩晃

《授業の概要》

本学との間でインターンシップ契約に合意した一般企業、食関連業種、保育・介護施設等において、主に1年生を対象に、正社員の業務の一部を担う実習を行なう。期間は夏もしくは春季の約1週間～2週間です。実習内容等は、各受入先との事前打合せにて決定する。

《学生の到達目標》

①学生が社会人基礎力を高める②学生が仕事の仕組みを理解できる③学生が自分の役割を理解できる④学生が学んだことを就職活動で活用できる ⑤学生が自ら定めた目標の達成にむかい努力できる

《授業計画》

1. インターンシップガイダンス（概要説明）
2. 受入先公募
3. マッチング面談
4. インターンシップ事前ガイダンス①（全体スケジュール共有）
5. インターンシップ事前ガイダンス②（課題解決シート作成）
6. インターンシップ事前ガイダンス③（郵送物作成）
7. インターンシップ事前ガイダンス④（電話アポイント・挨拶訪問の仕方）
8. 電話アポイント
9. 挨拶訪問
10. インターンシップ本番
11. インターンシップ本番
12. インターンシップ本番
13. インターンシップ本番
14. インターンシップ本番
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

実習先指導者による評価表（70%）と実習生の実習報告（30%）で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：学生が希望する業種・職種を調査し、通勤可能エリアを考慮したうえで受入先候補を決定する。そのため、同時期に並行して行われるキャリアデザイン演習にて自己理解および仕事の理解を深めながら手続きを進める。事後学習：インターンシップ終了後、総括し、就職活動に取り組む。受入スケジュールの調整等は、学生本人が受入先企業と協力して行なっていくため、責任を持って取り組むこと。

総合保育学科

体育（実技）

1 年次（半期）
1 単位（実技）
担当 久保田 佐世美

《授業の概要》

保育現場に必要な『歩く』『走る』『跳ぶ』の基本運動やリズム遊び・ダンスなどの基本動作を自ら体験し、指導者としてのスキルを高める。音楽（リズム）と運動の協調性と共感性、知的成長に必要な向上心と自立心、そして想像力と創造力などの基礎づくりをする。

《学生の到達目標》

運動と音楽の基礎能力を身につけ、保育現場に必要な指導法を習得する。

《授業計画》

1. 運動およびリズムについて
2. 基礎的な動き①（基礎リズム）
3. 基礎的な動き②（2 拍子）
4. 基礎的な動き③（3、4 拍子）
5. 振り付けを考えよう①（音楽に合わせて動きを考える）
6. 振り付けを考えよう②（発表）
7. 指導法と実技（基礎）①（3 歳児 1 学期）
8. 指導法と実技（基礎）②（3 歳児 2 学期）
9. 指導法と実技（基礎）③（3 歳児 3 学期）
10. 指導法と実技（基礎）④（3 歳児 1～3 学期）
11. 指導法と実技（応用）①（言葉がけの工夫）
12. 指導法と実技（応用）②（リズム遊びでのコミュニケーション）
13. 実践の発表と評価（リズムの演奏法実技）
14. 実践の発表と評価（資格認定試験）
15. リトミックの理論とダルクローズについて

《成績評価の方法・基準》

授業内での実技テスト（30%） リトミック認定試験（70%）ただし、リトミック認定試験を受けることを単位認定の最低条件とする。

《授業で使用する教科書》

・リトミック研究センター「幼稚園・保育園のためのリトミック 3 歳児」

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習については「幼稚園・保育園のためのリトミック 3 歳児用」指導書を読むこと。事後学習については、授業内で出された課題をよく理解し、知識や技能、技術の習得に努めること。この授業の成果でリトミック指導資格 2 級を取得することができる。

幼児教育基礎 I

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 油井 宏隆

《授業の概要》

幼児教育・保育に関する全般的な基礎用語・知識が理解できるようになること。基本的知識を基に保育実践の場で、子どもたちと関わる基本的スキルについて理解・実践できるようになること。保育・教育に関連する広範囲な課題についての視野を持つことができることを目指す。

《学生の到達目標》

①知識・理解乳幼児の心身の発達過程・発達段階の特徴を理解することができる。②思考力・判断力・表現力等の能力乳幼児との関わりの中で、対象児の発達の様子を心理過程も含め幅広く見ることができる。③主体的な態度・関心・意欲保育実践の場を想定し、発表・小レポート等を通して、各自の考え方を、関わり方を展開できる。

《授業計画》

1. 幼児教育・保育の背景と流れ①（歴史的背景について）
2. 幼児教育・保育の背景と流れ②（養護と教育について）
3. 幼児期における教育的・保育的関わりの大切さ①（身体的・運動的変化について）
4. 幼児期における教育的・保育的関わりの大切さ②（感覚・知覚的変化について）
5. 幼児期における教育的・保育的関わりの大切さ③（情動的変化について）
6. 幼児期における教育的・保育的関わりの大切さ④（知的・思考的変化について）
7. 諸外国での保育活動事例①（スウェーデンの教育・保育について）
8. 諸外国での保育活動事例②（イギリスの教育・保育について）
9. 諸外国での保育活動事例③（イタリアの教育・保育について）
10. 時代の変遷と教育・保育について グループワーク
11. 地域性と教育・保育について グループワーク
12. 文化と教育・保育について グループワーク
13. 地域保育実践① グループワーク（地域活動への参加）
14. 地域保育実践② グループワーク（地域活動への参加）
15. 時代・地域・文化の中の教育・保育について 振り返りと総括

《成績評価の方法・基準》

知識・理解については、授業時の基礎用語・項目の確認課題（30%）によって評価する。判断力・表現力・意欲・関心については、授業時の小レポート提出（70%）によって評価する。

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「保連機認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

保育指針等の子どもの発達と保育に関する領域については事前よく読んでおくことが望まれる。授業内で取りあげられた事項やトピックスについて、保育実践の場を想定し各自の意見・考えをさらに深めておくことが望まれる。

幼児教育基礎Ⅱ

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 油井 宏隆

《授業の概要》

幼児教育・保育に関する全般的な基礎的用語・知識がより深く理解できるようになること。基本的知識を基に保育実践の場で、子どもたちと関わる基本的スキルについて理解・実践力を高めることができる。保育・教育に関する広範囲な課題についての視野を持ち、多様な教育・保育観を持つことができるようになることを目指す。

《学生の到達目標》

①知識・理解保育・幼児教育の基本的事項・背景の流れをより深く理解することができる。②思考力・判断力・表現力等の能力幼児教育・保育のあり方についての考えを深め、幅広い視点から考察できるようになる。③主体的な態度・関心・意欲グループ発表・小レポート・実践活動等を通して、各自の考え方、関わり方を展開できる。

《授業計画》

1. 幼児教育・保育の実践的スキル研究（求められるスキルとは）
2. 保育者の表現力① 言語的コミュニケーション
3. 保育者の表現力② 非言語的コミュニケーション
4. 保育者の表現力③ 表情
5. 教育・保育の実践-言葉の世界
6. 教育・保育の実践的スキル①-神話・昔話の魅力 グループワーク
7. 教育・保育の実践的スキル②-絵本の魅力 グループワーク
8. 教育・保育の実践的スキル③-読み聞かせ グループワーク
9. 教育・保育の実践-アートの世界
10. 教育・保育の実践的スキル④-色彩の魅力 グループワーク
11. 教育・保育の実践的スキル⑤-素材の魅力 グループワーク
12. 教育・保育の実践-音楽の世界
13. 教育・保育の実践的スキル⑥-リズムの魅力 グループワーク
14. 教育・保育の実践的スキル⑦-メロディーの魅力 グループワーク
15. 教育・保育の実践力について 振り返りと総括

《成績評価の方法・基準》

知識・理解については、授業時の基礎用語・項目の確認課題（30%）によって評価する。判断力・表現力・意欲・関心については、授業時の小レポート提出（30%）・グループ発表（40%）によって評価する

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針(解説)」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領(解説)」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「保連機型認定こども園教育・保育要領(解説)」フレーベル館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

保育指針等の子どもの発達と保育に関する領域については事前よく読んでおくことが望まれる。授業内で取りあげられた事項やトピックスについて、保育実践の場を想定し各自の意見・考えをさらに深めておくことが望まれる。

情報処理演習 B

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 藤田 朋己

《授業の概要》

筆記用具と同じく ICT 機器を活用するスキルの向上を図るとともに、情報を読み取る力、情報を発信する表現力の向上を図る。保育・教育現場においては、ただ単に情報を読み取り、情報を発信すればよいという場面はない。そこには必ず思考・判断・表現が必要となる。したがって、思考力・判断力・表現力の育成をおこなう。ただし、これらの力は、すぐに身につくものではない。模擬発表として実践する場を授業内に設け、他者から学びを得る機会を作る。また、日常生活の中で常に意識することも重要であり、その積み重ねの中で養われるものである。本授業では、さまざまなテーマをもとに、そのきっかけを作り出す。

《学生の到達目標》

ICT 機器を的確に操作できるようになるとともに、ICT 機器を効率よく、正確に操作できるようになることを目標とする。また、何かしら作成物を作成する際には、それを手にする第三者の視点に立ち、デザイン・構成等を考えなければならない。自身の感性を磨き、広い視野でものごとを多方向から見ようとする姿勢を身につける。実施にあたっては、学生同士で評価し合う場面を設ける。他者から学びを得るとともに、他者に感想を伝え、アドバイス等をおこなうことで、評価者としての視点を持てるようになることも目標とする。

《授業計画》

1. 授業計画の理解・電子メールのルール理解とメール課題作成演習
2. 映像から情報を読み解く
3. 保育で活用できるサイト・「らくがきをしてみると・・・」課題提示
4. 【模擬保育発表1】「らくがきをしてみると・・・」
5. 【模擬保育発表2】「らくがきをしてみると・・・」
6. 【模擬保育発表3】「らくがきをしてみると・・・」
7. NHK for school（保育現場での活用）
8. 保育者を支援するサイトの活用
9. 動物画像ここにばを添える
10. 幸福とは・・・」フォトボエム制作
11. 「動物画像」「幸福とは・・・」制作発表相互評価
12. Excel 基本操作の理解
13. おやつの間スケジュール作成演習
14. 計算式の入力方法・グラフの作成方法理解
15. 通学区域一覧の作成演習・授業総括

《成績評価の方法・基準》

授業は主に演習・発表で構成する。授業における説明を聞いた上で演習や発表に取り組み、課題提出や発表をおこなうことが重要である。提出された課題については、修正点等のコメントを付けて返却する。指摘された点に注意して、以後の課題に反映して欲しい。評価方法としては、レポート評価（20%）・発表評価（30%）・演習課題評価（50%）とする。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

伝えたいことをわかりやすく、正確に伝えるためのスキルを身につけるためには、普段の生活の中で意識を持つことが重要である。また、常に自身の感性を磨き、ものごとに対する視野を広げる努力も重要である。事前学習として、これらのことを意識することを願う。提出課題については、評価とコメントをつけて返却する。事後学習として、指摘された内容を理解し、今後の演習に活かす努力を願う。

保育原理

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★芝田 圭一郎

《授業の概要》

保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、保育の基本を理解していく。その際、子ども・人間をどのように捉えるのかという問題が深くかかわっている。保育の思想を培ってきた先人の思想に学び、保育の本質に触れるとともに、現代の保育課題について考える。授業では毎時、ミニツツペーパーを実施し、振り返りを行う。

《学生の到達目標》

保育の基本、意義及び目的について理解する。また保育に関する法令や制度、特に保育所保育指針を理解する。そして保育の思想と歴史的変遷について学び、説明できるようになる。さらに保育の現状と課題について理解し、考察できる。

《授業計画》

1. 保育の基本理念とその概念
2. 子どもの最善の利益とその保育
3. 子ども家庭福祉と保育の社会的役割
4. 子ども家庭福祉の法体系における保育の位置づけと関連法令
5. 子ども・子育て支援制度
6. 保育所保育指針と幼保連携型認定こども園教育・保育要領
7. 保育に関する基本原則
8. 保育における環境
9. 保育の目標とねらいとその内容
10. 保育の環境と保育方法
11. 子ども理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）とその循環
12. 諸外国の保育の思想と歴史
13. 日本の保育の思想と歴史
14. 諸外国の保育の現状
15. 日本の保育の現状と課題

《成績評価の方法・基準》

定期試験（70%）、毎回の授業の最後に提出するミニツツペーパー（30%）

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として「保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書、幼稚園教育要領解説書、それぞれの第1章総則をよく読んでおくこと。事後学習として、毎時の授業内容を振り返り、ワークシート（講義ノート）をまとめておくこと。

教育原理

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 弘田 みな子

《授業の概要》

幼児期およびそれ以降の教育を支える理念、方法論、歴史の概要を俯瞰する。教育の歴史、思想史、方法論、制度などを理解することにより、幼児期の学びや発達のと、それ以降の年代での学びや発達のとを連関を理解する。

《学生の到達目標》

教育についての知見を単なる知識にとどめず、教育の理念にほどのようなものがあり、教育の基本的概念は何かを理解する。さらに、それらを現在の教育言説や制度論にまで連なる思想の流れのなかで解釈できることを目標とする。

《授業計画》

1. オリエンテーション：教育原理とは？
2. 子ども観の変遷（前近代から現代まで）
3. 文化の違いにおける子育ての諸相
4. 身体と心の発達から見る人間形成論（乳児の育ち）
5. 身体と心の発達から見る人間形成論（遊び）
6. 教育方法の歴史（幼児教育史）
7. 教育方法の歴史（モンテッソーリ教育法）
8. 教育方法の歴史（レッジョ・エミリアの教育法）
9. 教育方法の歴史（設定保育と自由保育）
10. 教育におけるカリキュラム
11. 教育と建築（校舎建築の歴史と野村保育の姿）
12. 教育と教材（遊具・教具・教科書）
13. 教職員の身分と義務
14. チーム保育／チーム学校という理念
15. レポート発表

《成績評価の方法・基準》

定期試験は実施しない。レポート発表（50%）毎回の授業の最後に提出する小レポート（50%）

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、配布する資料を読み、授業にむけての課題意識を明確にしておくこと。事後学習として、授業のまとめのワークシートを活用し、授業で取り上げたテーマに関する考察を深める。

子ども家庭福祉

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★丸目 満弓

《授業の概要》

現代社会に生きる子どもが育つ家庭は多様化・複雑化している。授業は講義方式をベースとしつつ、適宜ペアワークやグループワークを取り入れる。まず講義によって問題や課題の背景を理解し、支援を行うために必要な知識を身につける。そのうえでワーク等を通して、支援者としての価値観を形成しながら実際役割をイメージすることをめざす。

《学生の到達目標》

1. 現代社会における子どもや家庭、またそれらを取りまく環境について理解することができる
2. 子どもや保護者、家庭を支える様々な制度や取り組みについて体系的に理解することができる
3. 問題や課題を抱える当事者が持つニーズを理解することができる
4. 保育者として求められる役割、望ましい関わり方についてイメージすることができる

《授業計画》

1. オリエンテーション 一子ども家庭福祉とは何か
2. 子ども家庭福祉の歴史的背景
3. 子どもの貧困
4. 子どもの権利
5. 母子保健
6. 保育・教育施設と幼保一体化
7. 子育て支援サービス
8. 社会的養育
9. 児童虐待とドメスティックバイオレンス防止への支援
10. ひとり親家庭の支援
11. 障がいのある子どもへの支援
12. 非行少年等への対応・支援
13. 子ども家庭福祉に関わる機関
14. 子ども家庭福祉に関わる機関
15. まとめこれからの子ども家庭福祉に必要なもの・関係者に求められる関わり

《成績評価の方法・基準》

試験（60%）、授業内の取り組み（事前学習や事後学習の課題やレポート等）（40%）によって総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

・立花直樹・波田莚英治「シリーズ・新はじめて学ぶ社会福祉 児童家庭福祉論（第2版）」ミネルヴァ書房

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：新聞やニュースを読む際、現代社会における子どもや家庭に何が起きているのかを把握するよう努める。毎回提示されるキーワードについての調べ学習を行う。事後学習：毎回授業の最後に提示されるテーマについて、次回の授業までにまとめてくる。

社会福祉

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★松浦 満夫

《授業の概要》

社会福祉の歴史と理念を概観し、法律・制度と体系、諸分野について概要を学習する。社会福祉の「対象論」を理解した上で、社会福祉の視点から貧困問題と現代社会の変容を総論的に考えていく。合わせて、実践例の資料や映像資料を通じて、社会福祉の貧困問題や対人支援の方向性について理解を深める。

《学生の到達目標》

1. 保育者という対人援助の専門職をめざす者として、社会福祉に関する必要な基礎知識を修得する。2. 現代の貧困問題と自分たちが「生きつづける」現代社会の動向を幅広く考える視点を身につける。3. 特保育者として、子ども、若者、女性の貧困問題の課題を学び、支援者としての基礎的な視点を身につける。

《授業計画》

1. 現代社会における「社会福祉」とは何かについて、導入的に考察する
2. 貧困問題と社会福祉の歴史(1) 貧困問題の発生を中心に学ぶ
3. 社会福祉の歴史(2) 福祉国家から現代の社会への展開について学ぶ
4. 社会福祉の制度と体系(1) 法律と制度について理解する
5. 社会福祉の制度と体系(2) 実施機関、施設について理解する
6. 社会福祉の制度と体系(3) 現代社会の経済のしくみと社会的保障について理解する
7. 社会福祉の動向(1) 現代社会と貧困問題について学ぶ
8. 社会福祉の動向(2) 現代社会と地域福祉の実践について学ぶ
9. 社会福祉の分野と対象者(1) 貧困問題と生活保護の制度、課題を理解する
10. 社会福祉の分野と対象者(2) 高齢者、障害者の生活と支援について理解する
11. 社会福祉の分野と対象者(3) 子ども、女性への虐待、DVと支援について理解する
12. 社会福祉の動向(3) 子ども、若者、女性の貧困の現状について学ぶ
13. 社会福祉の動向(4) 子ども、若者、女性の貧困問題への支援と課題について学ぶ
14. 総括(1) 基本的な人権と社会福祉における相対差別について理解する
15. 総括(2) 人口減少社会における共生社会への展望と専門職の課題を考える

《成績評価の方法・基準》

試験（50%）、授業内容と映像視聴演習のレポート、授業に基づく事後学習によるレポート（50%）により評価を行います。

《授業で使用する教科書》

・立花直樹・波田莚英治「シリーズ・新はじめて学ぶ社会福祉 児童家庭福祉論（第2版）」ミネルヴァ書房

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

教科書は、1年後期「子ども家庭福祉」と同じものを使用します。毎回、社会福祉に関連する資料を配布し、教科書と共用しながら講義を進めます。事前学習として次回に向けて提示した内容の教科書、配布資料での予習が必要です。事後学習としては、授業資料、授業で使った映像資料をもとに復習およびレポート作成を行っていただきます。

社会的養護Ⅰ

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★松浦 満夫

《授業の概要》

貧困や児童虐待などの家族問題が深刻化する中、家庭に代わって子どもの保護・養育を行う社会的養護へのニーズがますます高まっている。社会的養護の制度体系や専門性を学ぶことで、私たちはあらためて、家族とは何か、子どもを育てるとはどのような営みかといった身近な問いを見つめなおすことができる。本授業では、社会的養護の制度体系、歴史的変遷・現状と課題について学習する。現代における社会的養護の意義、歴史的変遷について概観し、子ども家庭福祉における社会的養護の位置づけを確認する。また、社会的養護に関する制度、実施体系、専門職を理解したうえで、施設養護、家庭的養護の実際を知り、現在の社会的養護の課題について考える。

《学生の到達目標》

社会的養護の歴史、意義、基本理念、援助の枠組みを理解する。社会的養護に関する制度、実施体系、専門職を理解したうえで、施設養護の実際を知り、現在の社会的養護の課題について考える。さらに、社会的養護と関わる児童福祉施設の具体的な実践と援助者の専門性を学ぶ。

《授業計画》

1. 社会的養護とは何かを理解する
2. 社会的養護の体系について理解する
3. 子どもと家庭を取り巻く現状について学ぶ
4. 児童虐待について、事例検討と合わせて学ぶ
5. 社会的養護の歴史の理解 (1) 貧困と児童保護、セツルメントから施設養護
6. 社会的養護の歴史の理解 (2) 施設養護から地域での生活、家庭的養護
7. 社会的養護に関わる理論を学ぶ
8. 児童福祉施設の概観 (1) 児童養護施設、乳児院
9. 児童福祉施設の概観 (2) 障がい児施設、児童心理治療施設
10. 里親制度と養子縁組制度について学ぶ
11. 社会的養護の施設職員の専門性の理解 (1) 日常生活支援、個別支援
12. 社会的養護の施設職員の専門性の理解 (2) 自立支援、家庭支援
13. 社会的養護の課題の理解 (1) 虐待を受けた子どもへの支援
14. 社会的養護の課題の理解 (2) 家庭的養護と小規模ケアの課題
15. 社会的養護、家庭的養護の課題と展望について考える

《成績評価の方法・基準》

試験（50%）、授業内での演習レポートおよび授業内容をふまえた事後学習によるレポート（50%）により評価を行います。

《授業で使用する教科書》

・立花直樹・波田登英治「シリーズ新はじめて学ぶ社会福祉 児童家庭福祉論（第2版）」ミネルヴァ書房

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

教科書は、1年後期の「子ども家庭福祉」の講義でも使用します。毎回、社会的養護に関連する資料を配布し、教科書と共用しながら講義を進めます。事前学習として、次回内容の教科書、配布資料での予習が必要です。事後学習としては、授業資料、授業で使用した映像資料をもとに復習およびレポート作成をおこなっていただきます。

社会的養護Ⅱ

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★松浦 満夫、★岡田 和枝、畑瀬 剛

《授業の概要》

対象者（子ども）の理解をふまえた社会的養護の基礎的な内容について理解する。さらに、施設養護や家庭養護の現状および支援内容について具体的に理解する。また施設養護、里親制度それぞれの特徴、現状を理解し、支援計画について学んだ上、社会的養護にかかわる専門的技術の習得をめざす。さらに子ども虐待の防止と家庭支援、児童の権利擁護、保育士等の倫理についても具体的に学ぶ。演習授業では、具体的な事例をとおり、学生同士が意見を出し合いながら「頭の中で支援をイメージできる」ような展開をめざす。

《学生の到達目標》

社会的養護を必要とする子どもやその家族への理解を深め、施設を中心とした社会的養護の現場での対人支援の基礎的技量を習得する。また事例演習や支援計画での学びから、困難な状況にある子どもや家族への支援について、自ら考え、主体的に行動できるようにする。

《授業計画》

1. オリエンテーション 及び「社会的養護とは何か」について概観を学ぶ
2. 社会的養護の利用者理解① 児童養護施設を中心とした対象者の理解
3. 社会的養護の利用者理解② 乳児院を中心とした対象者の理解
4. 社会的養護の利用者理解③ 障がい児施設を中心とした対象者の理解
5. 社会的養護の施設基礎学習① 児童養護施設の支援計画の理解
6. 社会的養護の施設基礎学習② 乳児院の支援計画の理解
7. 社会的養護の施設基礎学習③ 障害児施設の支援計画の理解
8. 児童養護施設の現状と課題について学ぶ
9. 乳児院の現状と課題について学ぶ
10. 障がい児（者）施設の現状と課題について学ぶ
11. 施設保育士の基礎的実践演習 (1) 乳児院、障がい児施設での実践演習
12. 施設保育士の基礎的実践演習 (2) 児童養護施設での対人支援演習
13. 子どもの権利と社会的養護の実践について理解する
14. 施設保育士の資質と倫理について理解する
15. 社会的養護と施設保育士の課題について考察する

《成績評価の方法・基準》

各授業ごとの学習レポート（60%）、授業内容をふまえた事後学習の課題レポート（40%）で評価を行います。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

社会的養護に関連する資料を配布し、授業・演習を進めます。事前学習として次回内容の配布資料での予習が必要です。事後学習としては、授業資料・映像資料をもとに復習およびレポート作成をおこなっていただきます。最大の事後学習は、保育実習Ⅰの施設実習での実践です。実際に支援を行う際に「支援内容を頭の中にイメージできること」がもっとも大切になります。

子どもの保健

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 井上 里子

《授業の概要》

少子高齢化における子どもの健全育成には、単に子どもの身体と心の発達のみならず、子どもを取り巻く教育環境の時代的変遷を理解し、統合できる力が求められている。保育者の質と向上を目指して、保育に必要な保健知識を深め、小児の特徴的な疾病や事故を把握し、母子保健や児童福祉施策とその課題についても概説し、子どもの理解を深め、到達度の確認をする。

《学生の到達目標》

子どもの心身の健康増進を図る意義を理解し、子どもの身体発育、生理、運動、精神機能の発達と保健、また疾病とその予防法や、適切な対応を理解することができる。更に保育における環境や、衛生と安全管理、並びに施設などにおける子どもの心身の健康について、現状と課題も理解する事ができる。

《授業計画》

1. 小児の発達、発育の総論（子どもの健全な発育について）
2. 子どもの成長発達について（身長、体重などの身体発育について）
3. 生理機能①体温、呼吸、排泄
4. 生理機能②睡眠、排泄
5. 感染症：①ウイルス感染症
6. 感染症：②細菌感染症
7. 予防接種について（予防接種の現状と課題について）
8. 到達度の確認（1～7項目についてふり返り各自の達成度と課題を確認）
9. 事故と応急処置①（現場で起こりやすい事故の応急処置について）
10. 事故と応急処置②（応急対応と救命処置について）
11. 循環器・血液の病気
12. 皮膚、アレルギーの病気（子どものアレルギーの現状と課題について）
13. 眼・耳・鼻・運動器の病気
14. 子どもの精神保健：現状と課題
15. 到達度の確認（全ての項目についてふり返り各自の達成度と課題を確認）

《成績評価の方法・基準》

到達度の確認、授業への参加度や授業態度、レポートなど、総合的に評価して、60点以上を合格とする。・テスト80%・授業への参加態度・小レポートなど20%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

・巷野裕郎「子どもの保健 第7版」診断と治療社

《事前・事後学習》

事前学習：講義で配布する資料や文献を読み、医学用語やわからない事柄を調べておくこと
事後学習：配布講義プリント内容を冊子などにまとめ、再度確認して到達度確認試験に備えること
毎時の学習については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。

領域指導法（健康）

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★水野 正行

《授業の概要》

幼児の発達に即した、主体的・対話的な学びを踏まえ、具体的な保育を構想する方法を身につける。子どもの心身の健康を理解し、指導の在り方、問題解決能力などを身につける。

《学生の到達目標》

幼稚園教育の基本を踏まえ、育みたい資質・能力を理解し、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。そして幼児の発達に即して、主体的、対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を構想する力を身につける。

《授業計画》

1. 幼稚園教育要領における領域指導法「健康」のねらい及び内容について
2. 幼稚園教育要領における領域指導法「健康」の全体構造とその理解について
3. 子どもの体と心について（幼児の総論内容）
4. 幼児が身につけていく健康管理について
5. 応急手当と健康について（指導上の留意点を理解）
6. 子どもの疾病と適切な対応について①（幼稚園教育の指導上の留意点）
7. 子どもの疾病と適切な対応について②（感染症・感染経路の理解）
8. 子どもの心の発達について（幼児の認識や思考を視覚的に入れた保育）
9. 子どもの社会性の発達について（動き等を視覚的に入れた保育）
10. 「子どもの健康」を教材とした模擬保育の指導案を作成（グループで実施）
11. 「子どもの健康」を教材とした模擬保育を発表（グループで発表）
12. 「子どもの健康」を教材とした模擬保育の振り返り
13. 領域指導法「健康」のねらい及び内容を踏まえた「食育」の理解
14. 年齢別の発達と遊びについて（幼児の経験を通して）
15. 幼児の基本的な生活習慣の獲得時期の目安について

《成績評価の方法・基準》

定期試験（60%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%）

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

・「幼稚園教育要領解説（2018年3月）」フレーベル館・「保育所保育指針解説（2018年3月）」フレーベル館

《事前・事後学習》

事前学習として、配布したプリントをよく読み、理解しておく。解らないところは、インターネットを使って調べる。事後学習として、その日に学んだ授業内容について振り返りをする。

人間関係

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 川井 道子

《授業の概要》

幼児の心情、意欲、態度が育つ中で、より良い生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性」や「コミュニケーション力」を身につける過程とその指導法を理解する。

《学生の到達目標》

幼児の心情、意欲、態度が育つ中で、「学びに向かう力、人間性」や「コミュニケーション力」を身につける過程を理解する。その指導法を理解し実践できる。

《授業計画》

1. 保育内容「人間関係」の指針におけるねらいと内容
2. 身近な人々との関係性と愛着の形成について
3. 自律性の発達・成長と活動、自分でできることは自分で
4. 自主性の発達と活動、自分で考え自分で行動することについて
5. あそびの変化と自己達成感の感受
6. 友人関係と感情の共有
7. 自己の主張と他者の主張への関心
8. 集団性と共同活動、友人関係の深まり
9. 共同、共通の活動と、協力関係
10. 集団活動の中のルールと社会性
11. 友人関係の深まりと、愛他的行動
12. 共有と分かち合いの意識
13. 生活の中の社会的な関係性
14. 他者との関係性の深まり
15. 他者への理解と幼児の特性

《成績評価の方法・基準》

毎回の授業の最後に提出するレポート（80%）、総括レポート（20%）

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

教育要領・保育指針等については事前によく読んでおくことが望まれる。授業内で取りあげられた事項やトピックスについて、保育実践の場を想定し各自の意見・考えをさらに深めておくことが望まれる。

環境

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★樋口 幸

《授業の概要》

現代の子どもたちを取り巻く環境についての理解を深め、環境の構成、再構成について考察するとともに、子どもと身近な環境との関わりにおける思考や科学的概念の発達、認知的発達の特徴を踏まえ、演習を通して理解、実態の把握につなげる。

《学生の到達目標》

領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識・技能を身につける。特に領域「環境」の指導の基礎となる、現代の子どもたちを取り巻く環境とそこから生まれる現代的課題、子どもたちと身近な環境との関わりについて学び、理解する。

《授業計画》

1. 保育内容「環境」とは
2. 環境を通して行う保育とは
3. 身近な環境との関わり：園内「保育室」の環境～多様な物や道具とのかかわり～
4. 身近な環境との関わり：園内「園庭」の環境～自然の特性を活かす～
5. 身近な環境との関わり：自然環境を実践事例から見る
6. 保育内容「環境」と保育：自然との関わりと具体的な活動（自然物の遊び等）
7. 身近な環境との関わり：季節の変化と行事～運動会から～
8. 身近な環境との関わり：生き物とのかかわりを通して子どもの学び
9. 保育内容「環境」と保育：自然との関わりと具体的な活動（自然体験活動等）
10. 身近な環境との関わり：文字や標識、数や図形への関心～大縄跳びの遊びから～
11. 保育内容「環境」と保育：子どもを取り巻く、標識・文字環境と具体的な活動
12. 身近な環境との関わり：生活のなかでの情報に興味や関心を持ち遊びへとつなげる
13. 保育内容「環境」と保育：生活に關係の深い情報や施設とそれに関わる具体的な活動
14. 海外における保育環境より
15. 現代社会における課題と子どもを取り巻く環境～過去と現代の環境比較から～

《成績評価の方法・基準》

毎回の授業の最後に提出するレポート（80%）+ポートフォリオ（20%）

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、身の回りにおける環境と保育環境の違いを考え、列挙しておくこと。事後学習として、毎時授業に挙げられる環境の特色をワークシート（講義ノート）にまとめておくこと。

言葉

1年次（半期）
1単位（演習）
担当 河田 美波子

《授業の概要》

領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身につける。具体的には、人間の証といえる「言葉」の意義と機能について理解した上で、幼児の言葉を育て、豊かにする教材や実践に関する知識を身につける。

《学生の到達目標》

言葉の持つ意義と機能を理解し、乳幼児期の言葉の発達過程について説明できる。また言葉に対する感覚を豊かにする実践を通して、感性を養う。さらに児童文化財について基礎的知識を深め、発達における児童文化財の意義を理解する。

《授業計画》

1. 保育内容「言葉」とは
2. 人間こととしての言葉の意義と機能について
3. 子どもの言葉の獲得について
4. 発達過程における言葉の位置づけについて
5. 言葉に対する感覚を豊かにする実践について①言葉の美しさ・楽しさ
6. 言葉に対する感覚を豊かにする実践について②言葉遊び
7. 言葉に対する感覚を豊かにする実践について③保育への取り入れ方
8. 児童文化財の実践について①児童文化財の意義とその歴史
9. 児童文化財の実践について②児童文化財の種類とその内容
10. 児童文化財の実践について③保育への取り入れ方
11. 創作児童文化財の製作発表①絵本
12. 創作児童文化財の製作発表②紙芝居
13. 創作児童文化財の製作発表③童話
14. 幼児における言葉の伝え合いについて
15. 幼児期の終わりにまで育てほしい姿～言葉の領域について～

《成績評価の方法・基準》

児童文化財の発表に関するレポート（40%）、定期試験（60%）

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：資料をよく読む 事後学習：その日の授業を振り返り、ノートをまとめる

乳児保育 I

1年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★玉川 朝子

《授業の概要》

「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭において保育を示す。乳児期は人間形成の基礎を培う大切な時期であり、近年その重要性が謳われている。子どもが心身ともに健やかに成長していくためには、共に過ごす保育者が良き理解者・援助者としてどのように関わっていけばよいか、講義内容や学生間でのディスカッションを通し、理解を深める。さらには保育所保育指針に基づいた「養護と教育の一体化」の意味を深く知り、乳児の発達に合わせた実践的な援助や配慮のための知識を身につける。

《学生の到達目標》

・乳児保育の必要性について、また乳児の発達段階や特徴の理解・遊びの提供、生活の援助や環境について理解する。・計画の必要性や作成方法を身につける。・3歳未満児の子どもたちに必要な保育とは何かを考え、理解する。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 乳児保育の役割
3. 乳児保育の現状
4. ヒトの発達と保育の営み(0歳児)
5. ヒトの発達と保育の営み(1歳児)
6. ヒトの発達と保育の営み(2歳児)
7. 乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援
8. さまざまな施設と乳児の保育
9. 乳児の保育形態
10. 乳児の環境構成
11. 乳児の遊びと保育者の関わり
12. 乳児の生活と保育者の関わり
13. 3歳以上児の保育とのつながり
14. 乳児保育における計画・記録・評価と他職種との連携・協働
15. まとめ・総括

《成績評価の方法・基準》

定期試験(60%)、授業内で適宜提出する課題(40%)

《授業で使用する教科書》

・馬場耕一郎「乳児保育」ミネルヴァ書房

《参考書》

・「保育所保育指針」

《事前・事後学習》

一人ひとりの子どもたちへ愛情をもって関わることの大切さを学んで頂きたいと思います。実習やインターンシップ、生活の中で接する乳児の姿を注意深く観察しましょう。毎回の授業で理解したこと等を復習し、実践で生かしていけるよう、保育現場を意識しながら意欲をもって臨んでほしいと思います。

特別支援教育基礎

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★樋口 幸

《授業の概要》

「共生社会」を形成していくには、教育・保育において、インクルーシブ教育システムを構築することが重要であり、そのためには就学前から特別支援教育を着実に進めていく必要がある。この講義では、視覚教材を用いながら、特別支援教育の理念や歴史的変遷、合理的配慮を実現するための特別支援教育の実践、障害特性や援助・保育方法の基礎を学ぶ。また、保育者や家族、地域の人々が育ちあう関係についてもグループワークなどを通して考える。

《学生の到達目標》

①特別支援教育が求められた背景を理解している。②特別な支援を必要とする子どもの障害の特性および心身の発達を理解している。③特別な支援を必要とする子どもに対する教育課程や支援方法を理解している。④障害はないが、特別な教育ニーズのある子どもの困難とその対応を理解している。

《授業計画》

1. 特別支援教育の理念と基本的な考え方
2. 障害のある子どもに関する法整備と特別支援教育・保育のかかわり
3. インクルーシブ教育・保育の実現と合理的配慮
4. 知的な面の支援の必要な子どもの理解と援助
5. 身体面（視覚・聴覚）の支援の必要な子どもの理解と援助
6. 身体面（肢体不自由）・医療的ケアの支援の必要な子どもの理解と援助
7. 感覚面の支援の必要な子どもの理解と援助
8. 行動面・学習面の支援の必要な子どもの理解と援助
9. コミュニケーション面の支援の必要な子どもの理解と援助
10. 情緒面の支援の必要な子どもの理解と援助
11. 養育環境の問題（虐待・貧困など）を抱える子ども・外国にルーツをもつ子どもの困難
12. 保育の実践①発達を促す生活や遊びの環境
13. 保育の実践②子どもたちへの具体的なかかわり
14. 保護者や家族に対する理解と支援
15. 小学校・関係機関との連携について

《成績評価の方法・基準》

定期試験（50%）、講義やグループワーク時などの参加度・毎回提出のワークシート（50%）

《授業で使用する教科書》

・授業中に適宜資料を配布する

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

日頃より、障害に関する新聞記事やニュースなどに関心を持ち情報収集を心がける。インターンシップや実習で出会った子どもたちの記録を見直しておく。事後学習として、授業内で取り上げた事項の理解を深める。

障害の理解 I

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★松浦 満夫、★岡田 和枝

《授業の概要》

多様化する保育現場（保育園、乳児院、障がい児施設等）では、発達障害の理解を深めた専門的な支援が求められます。本科目では、「障がい」の基礎知識を学習し、インターンシップ実習での現場実践、事例演習や施設見学をとおして社会資源や基本的な支援方法について学びます。

《学生の到達目標》

1、障がい児者の発達保障と歴史と制度の基礎知識を学びます。2、実践事例の演習（事例検討、現場見学）から基本的な支援方法を知ります。3、現場実践とグループ演習から障がい児者への理解を深めます。

《授業計画》

1. 「障がい」の定義と特性
2. 障がいの基礎理解① 知的障害、身体障害の基礎を学ぶ
3. 障がいの基礎理解② 発達障害の基礎を学ぶ
4. 保育現場実践からの演習① インターンシップでの「気づき」からのグループ演習
5. 保育現場実践からの演習② インターンシップでの観察からのグループ演習
6. 障がい児の特性の理解① 発達の特性を学ぶ
7. 障がい児の特性の理解② コミュニケーションの特徴を学ぶ
8. 保育現場実践からの演習③ インターンシップでの保育士の支援からのグループ演習
9. 障がい児者福祉のしくみの理解① 歴史と制度の展開と障がい児者施設
10. 障がい児者福祉のしくみの理解② ノーマライゼーションと社会資源の発展
11. 保育現場実践からの演習④ インターンシップでの自らの実践からのグループ演習
12. 実践事例の演習①（児童発達支援施設の事例検討、現場見学実習）
13. 実践事例の演習②（障がい者支援事例検討、現場見学実習）
14. 実践事例の演習③（地域生活支援の事例検討、現場見学実習）
15. 総括 ～障がい児者支援の理解～

《成績評価の方法・基準》

授業や演習、見学実習での演習成果レポート（70%）と授業内容をふまえた事後学習の総括レポート（30%）で評価します。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

本科目は、本学科独自の選択科目です。集中講義方式と施設見学（実践事例検討）により、授業を進めます。本科目、1年次インターンシップ科目、2年次の「障害の理解II」を取得することで、「障害児保育基礎プログラム修了証」が授与されます。演習や見学に向けてしっかりと事前学習と「ふりかえり」の事後学習を重視します

インターンシップ IA

1 年次（半期）
2 単位（実習）
担当 総保専任教員

《授業の概要》

幼稚園、保育所、認定こども園などの役割や機能を学外実習を通して具体的に学ぶ。保育現場に関わることを通じて、保育者としての技術と理解を深める実習である。保育実践の指導者のもとで経験を積み、保育の実際を体験的・総合的に理解し、保育実践の基礎的な能力と態度を身に付け、幼稚園教諭・保育士の職務への基礎的な理解を深める。

《学生の到達目標》

①インターンシップ実習における経験を通して保育現場の様々な課題を理解を深める。②保育現場の課題を体感し、自分自身の意見を考える。③子どもと関わる保育者、子どもの発達過程を観察し、理解する。

《授業計画》

- ①インターンシップ実習は週に1日、インターンシップ先で実習を行う。
- ②期間は4月から8月までを基本とする。
- ③インターンシップ先は短大にて決定する。
- ④インターンシップ先では、職員の指導のもと、子どもや利用者に積極的に関わり、な業務、知識、技術について学習する。
- ⑤インターンシップ中には、実習日ごとにインターンシップ実習日誌を作成する。
- ⑥その日誌をもとに、課題や自己目標の達成状況を確認し、インターンシップ実習担当者より適宜、指導を受ける。
- ⑦インターンシップ実習終了後は、すみやかに実習日誌綴じ込みのレポート課題を作成した上、日誌を翌日、短大に提出する。
- ⑧「インターンシップIB」科目と連携して、事前指導を授業内で行う。
- ⑨インターンシップ実習終了後は、日誌やインターンシップ先評価内容をもとに、教員とともに内容を振り返りを行う。
- ⑩自己課題を明確にするとともに、自己目標を設定し、後期の「インターンシップIIA」へとつなげていく。

《成績評価の方法・基準》

インターンシップ実習日誌（50%）、インターンシップ先からの評価（20%）、インターンシップ実習の各レポート（計30%）から評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

インターンシップ実習に赴くための準備（体調を整える、保育の準備など）を毎時、しっかりとしておくこと。またインターンシップ実習が終了したその日にインターンシップ実習日誌を記録し、翌日に必ず提出すること。さらにインターンシップ先の子ども達に合わせ、保育技術の向上に努めること。

インターンシップ IB

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★芝田 圭一郎、★玉川 朝子、★大嶋 健吾

《授業の概要》

幼稚園、保育所、認定こども園などの役割や機能をインターンシップ IA と連携して学ぶ。乳幼児の発達過程や保育者としての技術を深めていく。学んだ知識や技術をもとに学外で実践されるインターンシップ実習に参加する。インターンシップ実習を充実させるためにも事前・事後の学習を十分に行っていく。

《学生の到達目標》

インターンシップ実習の意義と目的を理解し、自らの課題を明確にする。インターンシップ先における乳幼児の発達過程について具体的に理解する。またインターンシップ実習の計画・実践・記録や内容について具体的に理解する。そしてインターンシップ実習の事後指導を通して、総括と自己評価を行い、今後の学習に向けて課題や目標を明確にする。

《授業計画》

1. インターンシップと学外実習について
2. インターンシップ先について学ぶ①（幼稚園）
3. インターンシップ先について学ぶ②（保育所）
4. インターンシップ先について学ぶ③（認定こども園など）
5. インターンシップ先でのオリエンテーションに参加し、実習園と子どもについて理解する
6. インターンシップ実習日誌の書き方①（観察ポイント）
7. インターンシップ実習日誌の書き方②（時系列に沿った記録術）
8. インターンシップ実習日誌の書き方③（保育環境の構成）
9. グループ・ディスカッション①（インターンシップ先での経験を報告する）
10. グループ・ディスカッション②（インターンシップ先での経験を共有する）
11. グループ・ディスカッション③（ディスカッション内容を発表する）
12. インターンシップ実習の自己課題を挙げる
13. インターンシップ実習の自己課題に取り組み①（具体的な改善方法）
14. インターンシップ実習の自己課題に取り組み②（PDCA サイクル）
15. 総括を行い、インターンシップIIAに向けて確認を行う

《成績評価の方法・基準》

以下の①・②・③の要件を全て満たすことで単位認定となる①前期インターンシップ実習に8日間以上参加・出席すること②インターンシップIBの授業を3分の2以上出席すること③インターンシップIAの評価が「可」以上であること

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

保育者には誠実な姿勢がもたらされるので、インターンシップ実習に赴くために、その心構えを形成すること。毎時のインターンシップ実習から自己課題を挙げ、取り組むこと。またインターンシップ実習における自己反省をし、次回への課題を設定すること。

インターンシップⅡA

1 年次（半期）
2 単位（実習）
担当 総保専任教員

《授業の概要》

幼稚園、保育所、認定こども園などの役割や機能を学外実習を通して具体的に学ぶ。保育現場に関わることを通じて、保育者としての技術と理解を深める実習である。保育実践の指導者のもとで経験を積み、保育の実際を体験的・総合的に理解し、保育実践の基礎的な能力と態度を身に付け、幼稚園教諭・保育士の職務への基礎的な理解を深める。

《学生の到達目標》

①インターンシップ実習における経験を通して保育現場の様々な課題を理解を深める。②保育現場の課題を体感し、深く考察し、理解する。③子どもと関わる保育者、子どもの発達過程を観察し、具体的に理解する。

《授業計画》

- ①インターンシップ実習は週に1日、インターンシップ先で実習を行う。
- ②期間は10月から2月までを基本とする。
- ③インターンシップ先は短大にて決定する。
- ④インターンシップ先では、職員の手指導のもと、子どもや利用者に積極的に関わり、な業務、知識、技術について学習する。
- ⑤インターンシップ中には、実習日ごとにインターンシップ実習日誌を作成する。
- ⑥その日誌をもとに、課題や自己目標の達成状況を確認し、インターンシップ実習担当者より適宜、指導を受ける。
- ⑦インターンシップ実習終了後は、すみやかに実習日誌綴じ込みのレポート課題を作成した上、日誌を翌日、短大に提出する。
- ⑧「インターンシップⅡB」科目と連携して、事前指導を授業内で行う。
- ⑨インターンシップ実習終了後は、日誌やインターンシップ先評価内容をもとに、教員とともに内容の振り返りを行う。
- ⑩自己課題を明確にするとともに、自己目標を設定し、自分の保育技術向上へとつなげていく。

《成績評価の方法・基準》

インターンシップ実習日誌（50%）、インターンシップ先からの評価（20%）、インターンシップ実習の各レポート（計30%）から評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

インターンシップ実習に赴くための準備（体調を整える、保育の準備など）を毎時、しっかりとしておくこと。またインターンシップ実習が終了したその日にインターンシップ実習日誌を記録し、翌日に必ず提出すること。さらにインターンシップ先の子ども達に合わせ、保育技術の向上に努めること。

インターンシップⅡB

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★芝田 圭一郎、★玉川 朝子、★大嶋 健吾

《授業の概要》

幼稚園、保育所、認定こども園などの役割や機能をインターンシップⅡAと連携して学ぶ。乳幼児の発達過程や保育者としての技術を深めていく。学んだ知識や技術をもとに学外で実践されるインターンシップ実習に参加する。インターンシップ実習を充実させるために事前・事後の学習を十分に行っていく。

《学生の到達目標》

インターンシップ実習の意義と目的を理解し、自らの課題を明確にする。インターンシップ先における乳幼児の発達過程について具体的に理解する。またインターンシップ実習の計画・実践・記録や内容について具体的に理解する。そしてインターンシップ実習の事後指導を通して、総括と自己評価を行い、今後の学習に向けて課題や目標を明確にする。

《授業計画》

1. インターンシップ実習の意義と気づき
2. インターンシップ実習ⅠAの振り返り①（自己課題の列挙）
3. インターンシップ実習ⅠAの振り返り②（課題の改善方法）
4. エピソード記述の記録の録りかた①（エピソード記述の意義）
5. エピソード記述の記録の録りかた②（エピソードの観察眼）
6. 子どもの発達特性（乳児期）
7. 子どもの発達特性（幼児期）
8. 絵本と紙芝居の読み聞かせ技術について
9. グループ・ディスカッション①（インターンシップ先での経験を報告する）
10. グループ・ディスカッション②（インターンシップ先での経験を共有する）
11. グループ・ディスカッション③（ディスカッション内容を発表する）
12. インターンシップ実習の自己課題を挙げる
13. インターンシップ実習の自己課題に取り組む①（具体的な改善方法）
14. インターンシップ実習の自己課題に取り組む②（PDCAサイクルを通して）
15. 総括を行い、2年次の実習に向けて確認を行う

《成績評価の方法・基準》

以下の①・②・③の要件を全て満たすことで単位認定となる①後期インターンシップ実習に8日間以上参加・出席すること②インターンシップⅡBの授業を3分の2以上出席すること③インターンシップⅡAの評価が「可」以上であること

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

保育者には誠実な姿勢がもたらされるので、インターンシップ実習に赴くために、その心構えを形成すること。毎時のインターンシップ実習から自己課題を挙げ、取り組むこと。またインターンシップ実習における自己反省をし、次回への課題を設定すること。

幼児音楽Ⅰ

1年次(半期)
1単位(演習)

担当 山田 千智, 北田 敦子, 板垣 幾久子,
井上 裕子, 竹山 陽子, 大前 香菜子,
小林 響子, 宋 和映, 河野 多恵, 関口 大介,
奥田 美菜子

《授業の概要》

音楽教育において重要な役割を担うピアノの基礎的な演奏技術を習得するとともに、楽譜を読む上で必要となる音楽的知識を覚え、理解する。90分授業を2つに分け、全体授業と個別レッスンをを行う。個別レッスンでは、個々の演奏技術に応じたレベルの曲を選定し、課題曲を進めながらレベルアップしていく。実技試験に向けて、教則本から1曲暗譜して演奏すること、加えて童謡課題曲より1曲演奏する。1年次終わりまでにレベル2(ブルグミュラー程度)に到達することが必要。

《学生の到達目標》

ト音記号・ヘ音記号ともにすばやく音をよむことができる。16分音符(付点・休符を含む)までのリズムをよむこと、それを表現することができる。メジャーコードとマイナーコードを感覚的に聴き分けることができる。英語音名を覚えた上で基本の3和音を弾くことができる。

《授業計画》

1. 授業説明、グループ分けのためのレベルチェックテスト
2. 楽譜の見方—名称や意味を学ぶ
3. 音をすばやく読み、弾く練習①(調指について・ト音記号)
4. 音をすばやく読み、弾く練習②(ヘ音記号・大譜表)
5. 聴く力をつける練習—メジャーコードとマイナーコードの違い
6. 教育現場で歌われている生活のうたを知る—「おはよう」「おべんとう」「おかえり」
7. リズム打ち①(4分の4拍子・4分の3拍子)
8. リズム打ち②(8分の6拍子・4分の2拍子)
9. グループ発表—リズム打ち
10. コードネームについて①(英語音名を覚える)
11. コードネームについて②(単音伴奏をつける)
12. グループ発表—単音伴奏
13. コードネームについて③(メジャーコードを覚える)
14. コードネームについて④(メジャーコードを用いて伴奏を付ける)
15. グループ発表—メジャーコード

《成績評価の方法・基準》

実技試験(50%) 課題の進捗(10%) 筆記試験・毎回の小テスト(40%)

《授業で使用する教科書》

・大阪城南女子短期大学「幼児音楽曲集—大阪城南女子短期大学編—」石川特殊製本株式会社・細田 淳子 他「かんたんメソッド コードで弾き歌い」カワイ出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習: 次の課題曲等、レッスン担当教員と目標を定め、それに向けて練習しておくこと。分からないリズムや曲想がある場合は専任教員や友人に尋ね、明確にしておくこと。事後学習: 全体授業では毎回の小テストあり。よく復習しておくこと。また、得た知識が演奏のどの部分に出てきているのか、自分なりに探すこと。個別レッスンでは習得した技術をインターンシップや実習で実践出来ることが望ましい。

幼児音楽Ⅱ

1年次(半期)
1単位(演習)

担当 山田 千智, 北田 敦子, 板垣 幾久子,
井上 裕子, 竹山 陽子, 大前 香菜子,
小林 響子, 宋 和映, 河野 多恵, 関口 大介,
奥田 美菜子

《授業の概要》

音楽教育において重要な役割を担うピアノの基礎的な演奏技術を習得するとともに、童謡に簡単なコードネームを用いて自らが伴奏付けを行い、より専門的な知識・技能を養う。個別レッスンでは、幼児音楽Ⅰの続き(担当教員は異なる)で、課題曲を進めながらレベルアップしていく。実技試験に向けて、教則本から1曲暗譜して演奏すること、加えて童謡課題曲より1曲演奏する。1年次終わりまでにレベル2(ブルグミュラー程度)に到達することが必要。

《学生の到達目標》

楽譜上の音楽的指示の意味を理解し、それを表現して演奏することが出来る。自分に合った効果的な練習方法を探ることが出来る。簡単なコードネームを用いて自ら伴奏付けを行うことが出来る。

《授業計画》

1. 授業説明、グループ分けのためのレベルチェックテスト
2. 音楽記号・音楽用語について
3. コードネームについて①(セブンスコードの作り方)
4. コードネームについて②(メジャーコードとセブンスコードを用いて伴奏を付ける)
5. グループ発表—秋の童謡に伴奏を付ける
6. 聴く力をつける練習Ⅰ(リズム聴音)
7. 聴く力をつける練習Ⅱ(楽譜の書き方)
8. 聴く力をつける練習Ⅲ(旋律聴音)
9. コードネームについて③(マイナーコードの作り方)
10. コードネームについて④(マイナーコードとセブンスコードを用いて伴奏を付ける)
11. グループ発表—冬の童謡に伴奏を付ける
12. コードネームについて⑤(ディミニッシュコードの作り方)
13. コードネームについて⑥(これまで習ったコードを用いて伴奏を付ける)
14. グループ発表—任意の童謡に伴奏を付ける
15. 教育現場で求められるピアノの弾き方とは

《成績評価の方法・基準》

実技試験(50%) 課題の進捗(10%) 筆記試験・毎回の小テスト(40%)

《授業で使用する教科書》

・大阪城南女子短期大学「幼児音楽曲集—大阪城南女子短期大学編—」石川特殊製本株式会社・細田 淳子 他「かんたんメソッド コードで弾き歌い」カワイ出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習: 次の課題曲等、レッスン担当教員と目標を定め、それに向けて練習しておくこと。分からないリズムや曲想がある場合は専任教員や友人に尋ね、明確にしておくこと。事後学習: 全体授業では毎回小テストあり。よく復習しておくこと。また、得た知識が演奏のどの部分に出てきているのか、自分なりに探すこと。個別レッスンでは、習得した技術をインターンシップや実習で実践出来ることが望ましい。

うたと音楽（基礎）

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 油井 宏隆

《授業の概要》

表現つながら音楽的知識や技術を具体的な指導場面を想定して実践していく。授業時に発声やリズム打ち、表現法を習得しながら幼児の発達や学びの課程を理解し、保育に関する知識と保育技術を身に付ける。

《学生の到達目標》

学生が幼稚園での教育、保育園での保育の基本を踏まえた歌や音楽の引き出しの基礎を培い、必要な歌のレパートリーを広げ、表現することをねらいとして内容の理解できるようになる。また幼児への援助方法などを体得し、保育者として子どもたちが感じたことを自分なりに表現する方法を習得できるようになる。

《授業計画》

1. 授業概要の説明 コミュニケーションを図る歌とゲーム
2. はじまりのうた、行事のうた リズム打ち（説明及び基礎問題を実践）
3. 乗り物のうた、生活のうた リズム打ち（7問を実践）
4. リズム遊び、春のうた リズム打ち（個人発表）
5. 手遊び、うた遊び、初夏のうた コンコーネ1番
6. みんなのうた、絵かきうた、秋のうた コンコーネ2番
7. アニメソング、季節のうた、秋のうた コンコーネ3番
8. リズムソング、冬のうた コンコーネ4番
9. 身体表現を取り入れたうた（基礎）、初春のうた コンコーネ5番
10. 身体表現を取り入れたうた（応用）、春のうた コンコーネ（個人発表）
11. リズム体操を取り入れたうた 楽譜の仕組み（説明及び写譜）
12. 絵かきうた、リトミック 聴音（採り方の説明及び基礎4小節×2問）
13. 動物のうた、リズム体操 聴音（基礎問題8小節×2問）
14. 虫のうた、遊びうた 新曲採唱（基礎問題8小節×3問）
15. 個人発表（歌による表現を暗譜で行う、コードネームや音楽用語の筆記試験を行う）

《成績評価の方法・基準》

実技試験（60%）、小テスト（20%）、レポート（20%）から総合的に評価する

《授業で使用する教科書》

・岩口慎子「表現がみるみる広がる保育ソング90」明治図書

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習 配布楽譜の音採り及び音楽練習事後学習 授業時の要点及び実技の復習

うたと音楽（応用）

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 油井 宏隆

《授業の概要》

子どもたちの知識や技術をより深める指導法を実践・応用していく。授業時にはコーラスや弾き歌いによる個々のみだけでなく、グループでのハーモニーや音楽表現の幅を広げていく。子どもたちが日頃親しんでいる歌や音楽以外にも幅広い音楽を習得し、保育の引き出しとして応用力を身につけていく。

《学生の到達目標》

学生が基本的な歌い方や表現を用いて、音楽表現を展開していくことを考え、歌や音楽の引き出しの基礎を培い、自己のレパートリーの中からより具体的に表現することができるようになる。また幼児の行動や修正を考え、年齢にあった歌唱法や曲を自分で研究することができるようになる。

《授業計画》

1. わらべ歌（子守歌） 秋の歌
2. わらべ歌（遊び歌） 冬の歌
3. わらべ歌（生活の歌） 春の歌
4. コーラス①（ハーモニー） 初夏の歌
5. コーラス②（2声） 夏の歌
6. 弾き歌い①（左が1本指での伴奏） 園生活の歌
7. 弾き歌い②（左が3和音の伴奏） 行事の歌
8. 弾き歌い③（左がコードの伴奏） 遊びの歌①（絵描き歌） 楽器作り①（笛の製作）
9. 指筆法①（拍子の振り分け） 遊びの歌②（手遊びうた） 楽器作り②（打楽器の製作）
10. 指筆法②（テンポと強弱） クリスマスソング（日本語）①3つのコードネーム
11. 輪唱① クリスマスソング（英語）②色々なコードネーム
12. 輪唱② いろいろな歌 喜怒哀楽表現法
13. 楽しい歌 アニメソング①（男の子） 名曲鑑賞①（イタリア）
14. おもしろい歌 アニメソング②（女の子） 名曲鑑賞②（ドイツ）
15. まとめ

《成績評価の方法・基準》

実技試験（60%）、小テスト（20%）、レポート（20%）から総合的に評価する

《授業で使用する教科書》

・小林美実「音楽リズム 幼児のうた楽譜集（幼児教育法シリーズ）」東京書籍

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習 配布楽譜の音採り及び音楽練習事後学習 授業時の要点及び実技の復習

造形表現 I

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 ★柴田 精一

《授業の概要》

造形表現の実践を通して、「つくり出す喜び」を味わい、表現を行うための基礎的な知識と技能を培うことで、乳幼児の表現を支援する感性を養う。また、平面、立体に関する多様な材料体験を深めることで、発達に応じた乳幼児の表現について考え、理解する。

《学生の到達目標》

領域「表現」、特に造形表現への関心を広げ、材料や用具に慣れ親しむ中で、幼児の感性や想像性を豊かにする様々な材料や技法を実践的に学び、幼児の表現活動を支援するために必要な、発想力および基礎的な技能と、材料や作品鑑賞の能力を培うことができる。

《授業計画》

1. オリエンテーション 授業概要の説明
2. 描画材料 (鉛筆) の扱い方と表現
3. 描画材料 (パステル・クレパス) の扱い方と表現
4. 描画材料 (絵の具) の扱い方と表現
5. 絵の具を使用した様々な描画技法①
6. 絵の具を使用した様々な描画技法②
7. 課題制作 (平面で表す) ①～絵本の場面を表現技法で表そう：下書き～
8. 課題制作 (平面で表す) ②～絵本の場面を表現技法で表そう：着色～
9. 薄紙の扱い方と表現
10. 厚紙の扱い方と表現
11. 粘土の扱い方と表現①
12. 粘土の扱い方と表現②
13. 課題制作 (立体で表す) ①～糊状粘土を使用したフェイクスイーツ：原型～
14. 課題制作 (立体で表す) ②～糊状粘土を使用したフェイクスイーツ：仕上げ～
15. 作品鑑賞、まとめ

《成績評価の方法・基準》

提出作品 (60%)、ポートフォリオ (20%)、レポート (20%)

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

【事前学習】日常生活において目にする色や形、描画材など様々な美的なものに興味関心を持ち、それらを造形表現のどのように生かすことができるのかを考える。【事後学習】授業で学習した技法や素材などを活用し、自主的に作品作りを行う。

造形表現 II

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 大西 由佳

《授業の概要》

「造形表現 I」で学習した、造形表現に関する基本的な知識と技能を基に、身近な素材を使用した保育現場で活用できる題材を構想、制作し、保育現場で必要な材料体験について考え、その役割を理解する。

《学生の到達目標》

造形体験を通して、身近にある造形材料や幼児に体験させたい造形行為などを幼児の心情を理解しながら見つけたり考えたりできるようになる。また、表現に関する基本的な能力を制作に応用することができる。

《授業計画》

1. 身の回りの素材と乳幼児の造形活動
2. 色彩表現の基礎と応用① (カラーペンをを用いた表現)
3. 色彩表現の基礎と応用② (絵の具を用いた表現)
4. 身近材料 (自然材) の扱い方と表現① (木の枝)
5. 身近材料 (自然材) の扱い方と表現② (木の葉)
6. 身近材料 (加工材) の扱い方と表現① (緩衝材からイメージを広げる)
7. 身近材料 (加工材) の扱い方と表現② (制作)
8. 課題表現制作「子どものおもちゃー身近材料を生かして」① (構想)
9. 課題表現制作「子どものおもちゃー身近材料を生かして」② (制作)
10. 課題表現制作「くらしと造形」① (段ボールからイメージを広げる)
11. 課題表現制作「くらしと造形」② (制作)
12. 課題表現制作「壁面制作ー日本の四季」① (構想)
13. 課題表現制作「壁面制作ー日本の四季」② (色画用紙の加工)
14. 課題表現制作「壁面制作ー日本の四季」③ (貼り付け、完成)
15. 鑑賞法について

《成績評価の方法・基準》

授業への取り組み方 (造形への関心・意欲・態度) 40%、課題作品 (発想・構想・技能) 60%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

造形活動で必要となる力は、「表現することを楽しむ心」そして「物事を不思議に思う感覚」です。この授業では「造形表現 I」で学んだ基本的な知識や技能を応用し、発展的な造形活動を行います。事前学習として、普段の生活から造形活動に使用できる材料や表現について考え、授業時に活用できるようにします。事後学習としては、授業で学んだ造形表現について、教育・保育実習でいえるよう手順や準備物等の振り返りを行います。

表現法（絵本、読み聞かせ、人形劇等）

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 山田 早智

《授業の概要》

たくさんの絵本や紙芝居などを見て、実際に読んで演じたりする。また、教材作成等を通して子どもの年齢に応じた教材選びや表現方法を学び、実践できる力をつける。

《学生の到達目標》

保育における表現の大切さ、楽しさを知り、子どもに合った教材選びや表現ができることを目標とする。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 野外観察
3. 絵本の導入と色々な絵本
4. 年齢や季節に合った絵本・紙芝居選び
5. 絵本を読んでもみよう
6. 体を使った表現遊び
7. ペープサートと指人形
8. ペープサート作成
9. ペープサート発表
10. パネルシアターとエプロンシアター
11. 手遊び
12. 音楽と絵本
13. 表現してみよう
14. 表現してみよう
15. まとめ

《成績評価の方法・基準》

レポート 50%、準備・発表 50%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

多くの絵本に触れ、子ども向けの表現活動の情報を収集する。その日に学んだ授業内容と実習を結びつけて想定する。

表現法（運動遊び、屋外遊び等）

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 油井 宏隆

《授業の概要》

保育者として現場で子どもたちの前に立った時、どのような表現をしていくかを考え様々な遊びを体得していく。そのためには大きく体を動かしたり、いろいろな遊びや視聴覚教材も利用し、子どもに興味を持たせるゲームや表現法を学習していく。

《学生の到達目標》

学生が保育者にとっての表現の大切さを理解し、その表現を体を使って実践することができるようになる。いろんな遊びやゲームを行ないながらチームワークやゲームの面白さ、互いを理解し分かり合うことができるようになる。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 屋外遊び（公園での遊び実践）
3. 屋外遊び的表現法（活動）
4. 屋外遊び的表現法（振り返り）
5. 運動遊び的表現法（園での遊び）
6. 運動遊び的表現法（園でのグループワーク）
7. 屋外遊び的表現法（自転車運転マナー）
8. 運動遊び的表現法（いろいろなゲーム）
9. 身体遊び的表現法（子どもの身体表現）
10. 身体遊び的表現法（子どもの言葉表現）
11. 身体遊び的表現法（園での遊び応用編）
12. 身体遊び的表現法（ダンス）
13. 身体遊び的表現法（リトミック）
14. 運動身体遊び的表現法（体を使った表現のいろいろ）
15. まとめ

《成績評価の方法・基準》

参加貢献度 70%、課題レポート 30%等で総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習 次の課題に関するの下調べや準備をしっかりとしておく。事後学習 行なわれたことを自分なりにしっかりとまとめ、展開していけるようにノートなどにまとめておく。

教育実習 I

1 年次 (通年)
3 単位 (実習)

担当 ★芝田 圭一郎, ★丸目 満弓, ★松浦 満夫,
★岡田 和枝, ★玉川 朝子, ★大嶋 健吾

《授業の概要》

教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する授業・実習である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実践を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。

《学生の到達目標》

幼児や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付ける。

《授業計画》

1. 教育実習の意義・目的・内容について理解する
2. 各実習における目的・内容を理解し、教育現場で実習することの自覚と責任を確認する
3. 幼児理解を深め、教育実習の心構えについて理解する
4. 実習指導案の立案方法と実習日誌 (記録) を書く目的とその方法について学ぶ
5. 幼稚園の理解① (幼稚園教育要領を中心に学び、幼稚園の実態を理解する)
6. 幼稚園の理解② (一人一人にあった指導、幼児の実態を踏まえた教育活動を理解する)
7. 幼稚園の理解③ (実際の教育現場を見学し、幼稚園教育における環境を学ぶ)
8. 幼稚園の理解④ (見学会で学んだことをまとめ、グループ・ディスカッションを行う)
9. 実習日誌 (記録) の作成方法を学び、その活用法を理解する
10. 実習指導案の立案とその書き方について学び、環境を通して行う教育の意義を理解する
11. 模擬保育の実施① (実習指導案に沿って、保育指導のシミュレーションを行う)
12. 模擬保育の実施② (実習指導案に沿って、保育指導のシミュレーションを行う)
13. 実習園でのオリエンテーションに参加し、実習園と子どもの実態について理解を深める
14. 教育実習計画について、グループ・ディスカッションを通して、多面的に検討する
15. 各自の実習目標や課題意識を明確化し、実習の課題を探る
16. 教育実習の総括① (実習の体験を通して考察したことをレポートにまとめる)
17. 教育実習の総括② (実習での気づきや成果・課題を今後の学習と実践へつなげる)
18. グループ・ディスカッション① (幼稚園での実習体験を報告し、共有する)
19. グループ・ディスカッション② (幼稚園での実習体験を多面的に検討する)
20. 教育実習報告会① (他の学生の実習園や実習に関する発表を聞き、理解を深める)
21. 教育実習報告会② (幼稚園実習の意義を明確にし、今後の進路の課題を設定する)
22. 教育実習報告会③ (教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける)
23. 個人面談① (実習校からの評価を知る)
24. 個人面談② (自己評価と反省を行い、課題をさらに明確化する)
25. 個人面談③ (自分自身を多様な角度から検討して客観化を図る)
26. 個人面談④ (今後必要となる知識や技能を考え、自己目標を設定する)
27. 教材研究① (幼稚園教育における教材の必要性を知る)
28. 教材研究② (幼児の発達に即した教材について理解し、深める)
29. 教育実習における自己評価 (目標に対しての自己評価を行い、実習計画を検討する)
30. 今後の学習についての総括を行い、2 年次における学外実習に向けて確認を行う

《成績評価の方法・基準》

実習園の「教育実習評価表」に基づいて実習生を評価 (50%) し、さらに事前・事後指導の講義において実施する各種課題レポート (50%) と合算して評価する。

《授業で使用する教科書》

・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習では教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高めておくこと。事後学習では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解すること。

保育実習 I

1 年次 (通年)
4 単位 (実習)

担当 ★芝田 圭一郎, ★丸目 満弓, ★松浦 満夫,
★岡田 和枝, ★玉川 朝子, ★大嶋 健吾

《授業の概要》

保育所、児童福祉施設などの役割や機能を学外実習を通して具体的に学ぶ。観察・参加・実習という方法で保育実践に関わることを通して、保育者としての愛情と使命感を深め、能力や適性を考えるとともに課題を自覚する授業・実習である。一定の実践的指導力を有する指導者のもとで体験を積み、保育の実践を体験的・総合的に理解し、保育実践の基礎的な能力と態度を身に付ける。

《学生の到達目標》

観察実習や参加実習での子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。既存の教科目の内容を踏まえ、子ども保育及び保護者への支援について総合的に理解する。保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

《授業計画》

1. ①実習期間が基本的に、施設実習が10月下旬からの【2週間】、
2. 保育所実習が翌年2月中旬からの【2週間】とする。
3. ②施設実習の実習先は、乳児院、児童養護施設、障がい児施設、障がい者施設である。
4. 実習形態は、宿泊による実習を基本とする。
5. ③保育所実習の実習先は、児童福祉法の規定する保育所とする。
6. 通所 (通勤) での実習となる。
7. ④実習先では、職員の指導のもと、子どもや利用者と一緒に積極的に関わり、
8. 「保育」の基礎的な業務、知識、技術について学習する。
9. ⑤実習中には、実習日ごとに実習日誌を作成する。その日誌をもとに、実習課題や自己目標の達成状況を確認し、実習担当者より適宜、指導を受ける。
10. ⑥実習終了後は、すみやかに実習日誌綴じ込みのレポート課題を作成した上、
11. 日誌を実習先に提出する。
12. ⑦「保育実習指導 I」科目と連携して、事前指導を授業内で行う。
13. ⑧各実習の終了後は、日誌や実習先評価内容をもとに、教員とともに実習内容を振り返る
14. ⑨2 年次の実習へと結びつけていく。
15. 【実習に関する注意事項】
16. ①実習期間中は施設の生活に合わせて活動し、積極的に行動すること。
17. ②謙虚に学ぶ態度で指導を受け、傍聴的な態度や批判的な態度は避けること。
18. ③欠席・早退・遅刻は前もって施設及び学校へ連絡すること。
19. ④施設内の生活は、必ず職員の指示に従い、時間は正しく守り、無断で行動しないこと。
20. ⑤健康管理に留意すること。
21. ⑥子どもや利用者や接するときは、個人的感情で行動せず、常に共感と理解を持つこと。
22. ⑦個人情報取り扱い及び漏洩に注意すること。
23. ⑧指導担当職員だけでなく全職員に敬意を持ち、接すること。
24. ⑨宿舎に当てられれば部屋の整理整頓、施設内の清掃に従事すること。
25. ⑩関係者と金品の貸借をしたり、許可なく買物を依頼したりされたりしないこと。
26. ⑪社会人としての常識ははずすべからず行動をしなければならない。
27. ⑫できるだけ多くのものを学び、意欲的に行動すること。
28. ⑬乳幼児期の心身の発達に関与する保育者として規律と礼儀を守らなければならない。
29. ⑭保育者として責任ある言動をとらなければならない。
30. ⑮保育者として責任ある言動をとらなければならない。

《成績評価の方法・基準》

施設実習と保育所実習の「実習評価表」に基づいて、それぞれ評価 (合計 50%) し、また施設実習と保育所実習における実習日誌 (記録) を評価 (合計 20%) し、さらに各報告レポートをそれぞれ評価 (合計 30%) と合算して評価する。

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として施設実習、保育所実習それぞれの準備を丁寧に行うとともに、実習計画をたてること。事後学習としてそれぞれの実習を振り返り、自己評価し、課題や反省を挙げておくこと。

保育実習指導 I

1 年次 (通年)

2 単位 (演習)

担当 ★芝田 圭一郎, ★丸目 満弓, ★松浦 満夫,
★岡田 和枝, ★玉川 朝子, ★大嶋 健吾

《授業の概要》

この授業では保育所やその他の児童福祉施設の目的や機能、乳幼児の生活や保育士の職務についての学びを実習によって確かめ、深めることを目的とする。講義で学ぶ知識や技術をもとに学外で実施される施設実習及び保育所実習に参加する。これら学外実習を充実させるためにも事前・事後の学習を十分に going to 行う。

《学生の到達目標》

保育実習の意義と目的を理解し、自らの実習の課題を明確にする。実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。また実習の計画・実践・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。そして実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けて課題や目標に明確にする。

《授業計画》

1. 保育実習の意義について
2. 学外実習の目的・実習の種類
3. 学外実習の基本事項
4. 見学実習の心得・レポート作成について
5. 見学実習の振り返り① (グループディスカッションを通して)
6. 見学実習の振り返り② (報告会を行い、他者の意見を聞く)
7. 保育所の役割と保育士資格
8. 社会福祉施設としての役割と保育士資格
9. 施設類型と保育実習の課題 (乳児完)
10. 施設類型と保育実習の課題 (児童養護施設)
11. 施設類型と保育実習の課題 (障がい児施設)
12. 施設実習における計画と実践
13. 施設実習における観察、記録及び評価
14. 施設実習の振り返り① (グループワーク、グループディスカッションを通して)
15. 施設実習の振り返り② (報告会を行い、他者の意見を聞き、共有する)
16. 保育所実習での乳児へのかかわり
17. 保育所実習での幼児へのかかわり
18. 子どもの人権と最善の利益の考慮
19. プライバシーの保護と守秘義務
20. 職業間の役割分担や連携・協働
21. 保育の役割と職業倫理
22. 保育指導案の立案① (計画に基づく保育立案)
23. 保育指導案の立案② (模擬保育の実践)
24. 保育指導案の立案③ (環境を通しての保育)
25. 保育所実習における計画と実践
26. 保育所実習における観察、記録及び評価
27. 保育所実習の振り返り① (グループワーク、グループディスカッションを通して)
28. 保育所実習の振り返り② (報告会を行い、他者の意見を聞き、共有する)
29. 施設実習と保育所実習の総括と自己評価
30. 学外実習を通しての自己課題の明確化

《成績評価の方法・基準》

以下の①・②・③の要件を全て満たすことで単位認定となる①施設実習と保育所実習、それぞれ 10 日間以上かつ 80 時間以上の学外実習に参加・出席すること②保育実習指導 I の授業を 3 分の 2 以上出席すること③保育実習 I の評価が「可」以上であること

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習では保育実習生として社会福祉施設と保育所の保育活動に参画する意識を高めておくこと。事後学習ではそれぞれの学外実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、保育士資格取得までに習得すべき知識や技能等について理解すること。

保育実践演習 I

1 年次 (半期)

1 単位 (演習)

担当 総保専任教員

《授業の概要》

「子ども」「保育」に関連する全体会、ゼミによる個別演習により進行する。学生生活全般に関する指導、保育現場への参加も合わせながら、教育・保育・福祉の現場で通用する実践力の基礎を涵養する。保育に関わる専門的な授業を振り返り、保育士としての知識・技術を修得したことを確認するとともに、子どもに対する援助の技術や保育技術等について課題を掲げてグループ討議やフィールドワークによる主体的な学習を行い、問題解決能力を身につけ、保育実践への理解を深めていく。

《学生の到達目標》

①保育士としての必要な保育に関する専門的な知識・技術・教養・総合的な判断力・専門職としての倫理観等が習得・形成されたか、自らの学びを振り返る②自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する課題を分析し、対応などを多角的な視点から考察する力を習得する③①と②を踏まえ、自己課題を明確にし、保育の実践に際して必要な基礎的資質と能力を定着させる。

《授業計画》

1. ガイダンス (本教科の意義、授業の進め方、ゼミの運営、夏祭りボランティア等)
2. 保育の教材研究① (絵本・製作等の実技)
3. 保育の教材研究② (歌遊び・手遊び等の実技)
4. 保育の教材研究③ (グループ発表・ディスカッション)
5. 保育に関わる課題についての講義① (保育士の意義・役割・責任・倫理)
6. 保育に関わる課題についての講義② (子ども理解と職員間の連携)
7. 保育に関わる課題についてのグループ討議と発表① (長時間保育と子どもの発達)
8. 保育に関わる課題についてのグループ討議と発表② (特別な支援が必要な子どもの対応)
9. 保育行事 (夏祭り) の企画についてのグループ討議
10. 保育行事 (夏祭り) の準備 (グループワーク) ①
11. 保育行事 (夏祭り) の準備 (グループワーク) ②
12. フィールドワークに参加① (夏祭りボランティア)
13. フィールドワークに参加② (夏祭りボランティア)
14. フィールドワーク (夏祭りボランティア) の振り返りとグループ討議
15. 前期授業内容の総括ならびに今後の自己課題の明確化

《成績評価の方法・基準》

各種の課題レポート内容 (計 40%)、保育内容の企画・運営・参加貢献度等 (計 60%) から判断する。

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

授業において学んだ「保育者の教養・知識・技術」について考え、保育関係科目の復習を十分に行うようし続けてください。また保育所や幼稚園等での夏祭りボランティアに積極的に参加し、保育行事・保育者・子どもの理解を深めてください。さらに後期開講の「保育実践演習 II」において企画するクリスマス会の準備を進めておきましょう。

保育実践演習Ⅱ

1年次（半期）
1単位（演習）
担当 総保専任教員

《授業の概要》

「子ども」「保育」に関する全体会、ゼミによる個別演習により進行する。学生生活全般に関する指導、保育現場への参加も合わせながら、教育・保育・福祉の現場で通用する実践力の基礎を涵養する。保育に関わる専門的な授業を振り返り、保育士としての知識・技術を修得したことを確認するとともに、子どもに対する援助の技術や保育技術等について課題を掲げてグループ討議やフィールドワークによる主体的な学習を行い、問題解決能力を身につけ、保育実践への理解を深めていく。

《学生の到達目標》

①保育士としての必要な保育に関する専門的な知識・技術・教養・総合的な判断力・専門職としての倫理観等が習得・形成されたか、自らの学びを振り返る②自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する課題を分析し、対応などを多様な視点から考察する力を習得する③①と②を踏まえ、自己課題を明確にし、保育の実践に際して必要な基礎的資質と能力を定着させる。

《授業計画》

1. ガイダンス（本教科の意義、授業の進め方、ゼミの運営、クリスマス会等）
2. ピアノ演奏会指導
3. 保育実習に向けての教材研究①（責任実習指導案）
4. 保育実習に向けての教材研究②（模擬保育）
5. 保育に関わる課題についてのグループ討議と発表①（保育における安全管理）
6. 保育に関わる課題についてのグループ討議と発表②（虐待への対応）
7. 保育に関わる課題についてのグループ討議と発表③（保護者支援と子育て支援）
8. 保育行事（クリスマス会）の企画についてのグループ討議
9. 保育行事（クリスマス会）の準備（グループワーク）①
10. 保育行事（クリスマス会）の準備（グループワーク）②
11. フィールドワークに参加①（クリスマス会ボランティア）
12. フィールドワークに参加②（クリスマス会ボランティア）
13. フィールドワーク（クリスマス会ボランティア）の振り返りとグループ討議
14. 卒業研究合同発表会
15. 後期授業内容の総括ならびに今後の自己課題の明確化

《成績評価の方法・基準》

各種の課題レポート内容（計40%）、保育内容の企画・運営・参加貢献度等（計60%）から判断する。

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

授業において学んだ「保育者の教養・知識・技術」について考え、保育関係科目の復習を十分に行うよう続けてください。また保育所や幼稚園等でのクリスマス会ボランティアに積極的に参加し、保育行事・保育者・子どもの理解を深めてください。さらに2年次開講の「卒業研究Ⅰ」の履修の準備を進めておきましょう。

日本の憲法と人権

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 原田 益勝

《授業の概要》

日本国憲法の三原則は「主権在民・平和主義・基本的人権の尊重」であることは既に学んできたと思う。この講座では、15のテーマ学習によって、国民の権利を守るために憲法があることを考えていく。

《学生の到達目標》

我が国の最高法規である日本国憲法について正しく知り、その重要性、とり分け人権保障の根拠に憲法があることを理解する。

《授業計画》

1. 日本国憲法の特徴
2. 日本国憲法の基本原則
3. 人権の分類
4. 人権保障と公共の福祉
5. さまざまな自由権
6. 立憲政治と権力分立
7. 裁判所の3役割・日本の裁判
8. 内閣制度のしくみ
9. さまざまな行政
10. 国会のしくみ
11. 日本型の議会制
12. 選挙のしくみ
13. 政党政治の理念と実態
14. 地方自治の基本と住民の直接参加
15. 憲法を守る

《成績評価の方法・基準》

試験（60%）と日常のレポートなど授業への取り組み（40%）で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として日本国憲法の前文及び条文を読んでおくこと。事後学習として授業で学んだ条文について学習内容を振り返り、前文、条文を再読すること

体育（理論）

2年次（半期）
1単位（講義）
担当 ★山口 禎

《授業の概要》

子どもの心の発達をエリクソンのライフサイクル論をもとに捉える。特に乳児期・幼児期・学童期・青年期の4つの時期の発達課題を学ぶことにより子どもの心の発達を理解する。また、0歳から学童期における「子どもと睡眠」・「子どもと運動」の重要性を理解して保育者として必要な力を高める。さらに、不慮の事故やけがから子どもを守る意識を高める。最後に保育者として、自らの健康維持増進を図るため、生活習慣病の予防や健康診断の重要性について理解する。

《学生の到達目標》

学生が乳児・幼児期の発達課題を理解し、説明できる。学生が学童期の発達課題を理解し、説明できる。学生が青年期の発達課題を理解し、説明できる。学生が「子どもの睡眠」について理解し、保護者に説明できる。学生が「子どもと運動」について理解し、保護者に説明できる。学生が「子どもの事故」の現状を理解し、保育者として子どもの安全に配慮できる。学生が自らの健康維持増進を図ることができる。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 乳児期の発達課題
3. 幼児期の発達課題
4. 学童期の発達課題
5. 青年期の発達課題
6. 発達課題のまとめ
7. 発達課題についてのグループワーク
8. 発達課題についてのレポート作成
9. 子どもと睡眠
10. 子どもと運動
11. 子どもと不慮の事故Ⅰ
12. 子どもと不慮の事故Ⅱ
13. 生活習慣病Ⅰ
14. 生活習慣病Ⅱ
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

提出するレポート（30%）、グループワークの取組と小テスト（10%）、試験（60%）で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

保育者として必要な子どもに関する様々な課題を学びます。事前学習：授業で提示された課題を確実にこなしておくこと。事後学習：必ず授業の復習をしておくこと。近い将来、現場で必要不可欠な内容となります。

教育制度

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★秋山 寛

《授業の概要》

教育に関する社会的事項、制度的事項並びに学校と地域との連携、学校安全への対応について、講義とともに地域や教育現場での体験や調査活動などを通して学習する。

《学生の到達目標》

①現代の学校教育に関する社会的、制度的事項について、基礎的な知識を身に付けることができるとともに、それらに関連する課題を理解することができる。②我が国の幼稚園が日本の教育制度体系の一環として位置付けられた学校であることを理解することができるとともに、学校と地域との連携に関することが理解でき、学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付けることができる。

《授業計画》

1. 教育に関する制度的事項①「公教育の原理及び理念」
2. 教育に関する制度的事項②「日本の教育制度の変遷と憲法及び教育関係諸法令」
3. 教育に関する制度的事項③「教育制度を支える教育行政の理念と仕組み」
4. 教育に関する社会的事項①「学校を巡る近年の様々な状況と子供の生活の変化」
5. 教育に関する社会的事項②「子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題」
6. 教育に関する社会的事項③「近年の教育政策の動向」
7. 教育に関する社会的事項④「諸外国の教育事情や教育改革の動向」
8. 教育に関する制度的事項①「就学前教育における幼稚園制度」
9. 教育に関する制度的事項②「幼小連携の意義と具体的取り組み」
10. 学校と地域の連携①「地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法」
11. 学校と地域の連携②「地元地方自治体や地元商店街との連携による具体的取り組み」
12. 学校安全への対応①「学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情と危機管理」
13. 学校安全への対応②「安全管理と安全教育に関する具体的取り組み」
14. 教育に関する経営的事項①「学校経営の観点から見た学校の在り方」
15. 教育に関する経営的事項②「学校評価の基礎理論とPDCA」

《成績評価の方法・基準》

定期試験（70%）や課題レポート、ノートの整理等（30%）で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：授業中に適宜資料を配付するので、その資料をよく読み、興味を持ったことや分からないところはインターネットを使って調べる。事後学習：資料やノートを読み返して復習問題に取り組み、知識の定着を図る。

社会福祉

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★松浦 満夫

《授業の概要》

社会福祉の歴史と理念を概観し、法律・制度と体系、諸分野について概要を学習する。社会福祉の「対象論」を理解した上で、社会福祉の視点から貧困問題と現代社会の変容を総論的に考えていく。合わせて、実践例の資料や映像資料を通じて、社会福祉の貧困問題や対人支援の方向性について理解を深める。

《学生の到達目標》

1. 保育者という対人援助の専門職をめざ者として、社会福祉に関する必要な基礎知識を修得する。2. 現代の貧困問題と自分たちが「生きつづける」現代社会の動向を幅広く考える視点を身につける。3. 特保育者として、子ども、若者、女性の貧困問題の課題を学び、支援者としての基礎的な視点を身につける。

《授業計画》

1. 現代社会における「社会福祉」とは何かについて、導入的に考察する
2. 貧困問題と社会福祉の歴史(1) 貧困問題の発生を中心に学ぶ
3. 社会福祉の歴史(2) 福祉国家から現代の社会への展開について学ぶ
4. 社会福祉の制度と体系(1) 法律と制度について理解する
5. 社会福祉の制度と体系(2) 実施機関、施設について理解する
6. 社会福祉の制度と体系(3) 現代社会の経済のしくみと社会的保障について理解する
7. 社会福祉の動向(1) 現代社会と貧困問題について学ぶ
8. 社会福祉の動向(2) 現代社会と地域福祉の実現について学ぶ
9. 社会福祉の分野と対象者(1) 貧困問題と生活保護の制度、課題を理解する
10. 社会福祉の分野と対象者(2) 貧困問題と生活保護の制度、課題を理解する
11. 社会福祉の分野と対象者(3) 貧困問題と生活保護の制度、課題を理解する
12. 社会福祉の動向(3) 子ども、若者、女性の貧困の現状について学ぶ
13. 社会福祉の動向(4) 子ども、若者、女性の貧困問題への支援と課題について学ぶ
14. 総括(1) 基本的人権と社会福祉における相互援助について理解する
15. 総括(2) 人口減少社会における共生社会への展望と専門職の課題を考える

《成績評価の方法・基準》

試験（50%）、授業内容と映像視聴演習のレポート、授業にもとづく事後学習によるレポート（50%）により評価を行います。

《授業で使用する教科書》

・立花直樹 波田瑛英治「シリーズ・新はじめて学ぶ社会福祉 児童家庭福祉論（第2版）」ミネルヴァ書房

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

教科書は、1年後期「子ども家庭福祉」と同じものを使用します。毎回、社会福祉に関連する資料を配布し、教科書と共用しながら講義を進めます。事前学習として次回に向けて提示した内容の教科書、配布資料での予習が必要です。事後学習としては、授業資料、授業で使用した映像資料をもとに復習およびレポート作成を行っていただきます。

保育者・教育者論

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★太田 友子

《授業の概要》

保育者・教育者に求められる役割や資質・能力について学ぶ。授業では、保育者の「制度的位置づけ」、「社会的役割」や「倫理」について学ぶとともに、保育者としての基本的な資質・能力、責任等を学ぶ。授業では、具体的な事例を通して課題解決型の学習により理論と実践との融合を図るとともに、保育者・教育者になるにあたって、自らの課題を認識するとともに、学びつづけるための意欲や自覚を養う。

《学生の到達目標》

・現代社会における教職の社会的意義と教職の職業的特徴について理解する。・保育者・教育者に求められる基本的な資質・能力や専門性について理解する。・チームとして組織的に課題に対応することの重要性について理解する。・保育者・教育者になるために、自らを振り返り、成長課題を認識し、学生生活の改善・充実に努めようとする意欲を喚起する。

《授業計画》

1. 保育者・教育者の役割について考え、公教育の目的を理解する。
2. 他の職業と教職との違いを理解し、保育者志望の自覚を高める。
3. 教育の動向とそれに伴う法規制について理解し、保育者の役割について考える。
4. 教職職種の変遷を理解し、保育者の専門性について考える。
5. 今日社会の動向を踏まえ、教員に求められる基礎的な資質・能力について理解する
6. 学び続けるための教員研修の意義について理解する。
7. 保育者の多様な役割と園の管理・運営について理解する。
8. 組織の一員としての基礎的な資質・能力について理解する。
9. 保育者としての基礎的な資質・能力について整理し、考察する。
10. 特に配慮を要する子どもと保護者への対応について事例を通して考える。
11. これからの保育者の課題について事例を通して理解する。
12. 保育現場での事例研究を通して、専門職の職業性について考える。
13. 保育現場での事例研究を通して、学び続ける必要性を理解する。
14. 新教育課程における保育者像について考える
15. 学生である自らを振り返り、強みと弱みを整理し、進路選択に向けて意欲を喚起する。

《成績評価の方法・基準》

毎回の授業で作成する小レポート（50%） 定期試験（50%）

《授業で使用する教科書》

・秋田喜代美「今に生きる保育者論」みらい出版社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、社会における幼児教育に関する動向について関心を高めるために、授業の中で取り上げる場を毎回15分設ける。事後学習として、毎回の授業内容に関する具体的な事例について、教育実習・インターンシップ・保育実習等から考察し、次の授業で取り上げ、記録考察する場を15分設ける。

子ども家庭支援論

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★丸目 満弓

《授業の概要》

現代社会では子育てのあり方が多様化し、家庭をとりまく諸問題が複雑化している。子どもが育つ基盤である家庭の基本的役割を理解するとともに、現代の家族が抱える諸問題を「当事者の問題」としてだけでなく、社会のあり方と合わせて理解し、家庭支援の方法を学ぶ。基本的には講義形式ですめるが、一部にアクティブラーニング型の学び(事例検討をはじめとする個人ワークやグループワーク、ディスカッション)を取り入れることにより、知識の定着をはかり、具体的な家庭支援を行う保育者のあり方をイメージできることをめざす。

《学生の到達目標》

1. 家庭支援にかかわる際の保育者としての基本的視点や姿勢を身につける
2. 家庭支援を行う際に必要となる知識を身につける
3. 他の専門職・専門機関の存在や役割を知り、連携のあり方を考えることができる

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 家庭支援が求められる背景・現代的課題
3. 「家庭」とは 一多様な家庭の形態、家庭や家族の意義、役割—
4. 家庭理解① 家族における父親
5. 家庭理解② 家族における母親
6. 家庭理解③ その他(きょうだい・祖父母・親族など)
7. 保育者が家庭支援を行う際の資質
8. 保育者が家庭支援を行う際の基本的スキル
9. ライフサイクルに応じた家庭支援のあり方
10. 保育所・幼稚園・認定こども園が行う家庭支援
11. 地域子育て家庭に対する支援
12. 家庭を支える多様な社会資源① 公的サービス
13. 家庭を支える多様な社会資源② NPOなどの民間サービス
14. 家庭を支える多様な社会資源③ 専門機関(医療・福祉・教育)
15. 総括・まとめ

《成績評価の方法・基準》

試験(60%)と小レポートなど授業への取り組み(40%)を総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

・立花直樹・安田誠人・波田英治編著「保育者の協働性を高める「子ども家庭支援」「子育て支援」」晃洋書房

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：新聞やニュースを読む際、現代社会における子どもや家庭に何か起きているのかを把握するよう努める。毎回提示されるキーワードについての調べ学習を行う。事後学習：毎回授業の最後に提示されるテーマについて、次回の授業までにまとめてくる。

保育の心理学

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★岡田 和枝

《授業の概要》

子どもたちと関わる際に必要な心身の発達過程に関する基本的な知識を修得し、その心身の発達状態に応じた関わり方を考える。授業では発達理論や心理実験なども紹介し、子どもへの理解を深める。

《学生の到達目標》

①子どもの心身の発達過程・発達段階の特徴を理解し、説明することができる
②子どもの発達に応じた関わり方を考えることができる
③学んだことを自らの実習やキャリアに活かすことができる

《授業計画》

1. ガイダンス—発達とは何か
2. 胎児期の発達
3. 知覚の発達
4. 愛着の発達
5. 身体機能と運動機能の発達
6. 認知機能の発達①基礎
7. 認知機能の発達②視覚認知
8. 認知機能の発達③数量
9. 言語の発達
10. 社会性の発達①自己と感情
11. 社会性の発達②他者との関わり
12. 保育の実践の評価
13. 乳幼児の学びについて①認知的学び
14. 乳幼児の学びについて②社会的学び
15. 乳幼児の学びを支える保育

《成績評価の方法・基準》

小レポート(50%)、定期試験(50%)

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

予習：次の講義への簡単な課題を与えるので、それについて調べておく
復習：学習内容を振り返り、知識の定着を図る

子ども家庭支援の心理学

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★丸目 満弓

《授業の概要》

時代の変化にともない保護者の子育てに関する知識や経験の乏しさ、それに対する戸惑いが見られるようになった。一番身近な子育ての専門職である保育者には、保育に加えて保護者や家庭への支援も求められるようになっている。この授業では、生涯発達や成長に関する子どもの理解にはじまり、家族、さらには家族をとりまく社会との関係を学ぶこと、さらには支援を必要とする家庭が抱える課題など具体的な事例の理解を深めることを目的とする。

《学生の到達目標》

①子どもを発達的な観点から理解し、各時期における発達課題を習得する。②子どもに対する家族や家庭の意義や機能を理解し、子どもとその過程を包括的に捉える視点をもつことができる。③子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。④子どもの精神保健とその課題について理解する。

《授業計画》

1. イントロダクション
2. 乳幼児期から学童前期にかけての発達
3. 学童後期から青年期にかけての発達
4. 成人期・老年期における発達
5. 家族・家庭とは
6. 家族・家庭の意義と機能
7. 親子関係・家族関係の理解
8. 子育ての経験と親としての育ち
9. 子育てをとりまく社会的状況
10. ライフコースと仕事・子育て
11. 多様な家庭とその理解
12. 特別な配慮を要する家庭
13. 子どもの生活・生活環境とその影響
14. 子どもの心と健康
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

試験(60%)と小レポートなど授業への取り組み(40%)を総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

予習：次回の授業に向けたキーワードやテーマを伝えるので、事前に調べたり、考えをまとめておくこと 復習：毎回授業の最後に提示されるテーマについて、次回の授業までにまとめておく。

幼児理解と教育相談

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★太田 友子

《授業の概要》

社会環境の変化に伴い、子どもの育ちをめぐる環境も著しく変化するとともに、子育てに対する不安を募らせ、孤立感を抱く保護者が増加している。授業では、子ども・保護者との向かい方について、事例研究を通して教育相談の基本を学ぶ。毎時間の自力解決と「振り返り」の場を設け、課題解決力を高める。

《学生の到達目標》

対人援助職として保育者に欠かせない教育相談に関する知識・技能を習得する。自らの言動について振り返り、カウンセリングマインドの実践意欲を喚起する。方法としての教育相談を学ぶだけでなく、かかわるのない一人ひとりの幼児や保護者を大切にすることを理解する。

《授業計画》

1. 教育相談の意義について理解し、子どもとの関わり方について考える。
2. 幼児理解を深めるための保育者の基礎的な態度について理解する。
3. 保育者にとって教育相談を学ぶ意義と課題について理解する。
4. 保育者が行う教育相談の考え方について理解する。
5. 保育者が行う教育相談の進め方について事例を通して考え、理解する。
6. 発達の特徴と遊びとの関係から幼児理解について理解を深める。
7. 幼児理解を深める方法（観察・記録）について事例を通して理解する。
8. 配慮を要する子どもの理解と保護者対応について、事例を通して理解する。
9. 配慮を要する子どもの理解と集団への関わりについて、事例を通して理解する。
10. 事例を通して、保護者（家族）とのかかわり方について考える。
11. 事例を通して、幼児のつまずきや周りの子どもへの対応について考える。
12. 事例を通して、保護者（家族）とのかかわり方について考える。
13. 保育者（援助者）のストレスについて学び、組織的な取り組みの重要性を理解する。
14. 保育者（援助者）のストレスについて学び、専門機関との連携の重要性を理解する。
15. 受容・傾聴等カウンセリングの基本を自らの生活で実践を図る意欲を喚起する。

《成績評価の方法・基準》

毎回の授業で作成する小レポート（50%） 定期試験（50%）

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、社会における子どもの育ちや子育てに関する動向について関心を高めるために、授業の中で取り上げる場を毎回15分間設ける。事後学習として、授業の内容に関する具体的な事例について、教育実習、インターンシップ等から考察し、次の授業で取り上げ、記録考察する場を15分間設ける。

子どもの理解と援助

2年次（半期）
1単位（演習）
担当 ★樋口 幸

《授業の概要》

一人一人の子どもの理解するために必要な観察の視点や職員・保護者・小学校との連携、子どもの育ちにかかわる環境について考え、子どもの理解に基づく発達援助について学ぶ。また、DVD教材やグループワークなどを通して、具体的な保育現場の子どもの姿から子どもの気持ちを取り、理解するための分析力を身に付ける。

《学生の到達目標》

①保育実践において、実態に応じた一人一人の子どもの心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。②子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。③子どもを理解するための具体的な方法を理解する。④子どもの理解に基づく保育者の援助や態度の基本について理解する。

《授業計画》

1. 保育における子ども理解の意義
2. 子ども理解に基づく養育および教育の一体的展開
3. 子どもに対する共感的理解と子どもとのかかわり
4. 子どもを理解する視点①：子どもの生活や遊び
5. 子どもを理解する視点②：人的職業としての保育者
6. 子どもを理解する視点③：子どもの相互のかかわりと関係づくり
7. 子どもを理解する視点④：集団における経験と育ち
8. 子どもを理解する視点⑤：いざこざについて
9. 子どもを理解する視点⑥：保育環境の理解と構成
10. 子どもを理解する方法①：観察・記録と省察・評価
11. 子どもを理解する方法②：職員間の対話と協働
12. 子どもを理解する方法③：保護者との情報共有
13. 発達の課題に応じた援助とかがわり
14. 特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助
15. 発達の連続性と就学の支揃について

《成績評価の方法・基準》

定期試験（50%）、講義やグループワーク時などの参加度・毎回提出のワークシート（50%）

《授業で使用する教科書》

・授業中に適宜資料を配布する

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

日頃より、保育・教育に関する新聞記事やニュースなどに関心を持ち、保育者となった自分をイメージしながら積極的に授業に参加する。事後学習として、授業内で取り上げた事項の理解を深める。

子どもの食と栄養A

2年次（半期）
1単位（演習）
担当 藤井 久美子, 木村 恵子

《授業の概要》

近年子どもを取り巻く食環境は大きく変化し、子どもの肥満・やせ・欠食等の問題も多様である。子どもが健やかに育つには、健全な食生活と成長に合わせた栄養の摂取が必須である。この授業では、子どもの発達と食生活の意義を理解し、関連する基礎知識と実技を学ぶ。

《学生の到達目標》

子どもの発達と食生活の特徴、栄養と代謝、食品、食の安全性についての基礎知識を習得できる。また保育現場での子どもの健康と食生活を支援するための基礎を身につけることができるようになる。

《授業計画》

1. 子どもの健康と食生活の意義 なぜ子どもの食と栄養を学ぶのか
2. 子どもの健康と食生活の意義 子どもの食生活をめぐる現状
3. 栄養に関する基本的知識 栄養と食生活
4. 栄養に関する基本的知識 栄養素の種類と機能
5. 栄養に関する基本的知識 栄養素の消化と吸収
6. 子どもの発育・発達と食生活 乳児期の食生活1（乳汁栄養）
7. 子どもの発育・発達と食生活 乳児期の食生活2（離乳食）
8. 調理実習1（調理・離乳食）
9. 調理実習2（離乳食・ベビーフード）
10. 食物アレルギーのある子どもへの対応1（アレルギー・除去食・代替食）
11. 食物アレルギーのある子どもへの対応2（保育所での対応）
12. 日本人の食事摂取基準と調理の基本 日本人の食事摂取基準
13. 日本人の食事摂取基準と調理の基本 献立作成と調理の基本
14. 食中毒予防と衛生管理
15. 子どもの食と栄養に関するまとめ（実習先での経験を通して考える）

《成績評価の方法・基準》

試験(70%)、講義・実習時の参加貢献度・提出物・課題レポート(30%)により総合評価を行います。

《授業で使用する教科書》

・松本峰雄監修「子どもの食と栄養 演習ブック」ミネルヴァ書房

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：次回の学習内容について教科書をよく読む。事後学習：その日に学んだ授業内容について振り返り、実習体験と照らし合わせて知識の定着を図る。

子どもの食と栄養B

2年次(半期)

1単位(演習)

担当 藤井 久美子, 木村 恵子

《授業の概要》

近年子どもを取り巻く食環境は大きく変化し、子どもの肥満・やせ・欠食等の問題も多様である。子どもが健やかに育つには、健全な食生活と成長に合わせた栄養の摂取が必須である。この授業では、子どもの発達と食生活の意義を理解し、食育の意義、食を通して発達支援を学ぶ。

《学生の到達目標》

子どもの発達と食生活の特徴についての基礎知識を習得できる。また保育現場での子どもの健康と食生活を支援し、食の意義を伝える食育への基礎を身につけることができるようになる。

《授業計画》

1. 妊娠・授乳期の食生活
2. 幼児期の食生活1(身体発育・食生活の特徴)
3. 幼児期の食生活2(間食・虫歯・食行動問題)
4. 学童期・思春期の食生活
5. 生涯発達と食生活
6. 調理実習1(幼児の間食)
7. 調理実習2(アレルギー児の間食)
8. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養1(体調不良の子どもへの対応)
9. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養2(保育現場の対応と衛生安全管理)
10. 家庭における食事と栄養
11. 児童福祉施設における食事と栄養1(保育所給食)
12. 児童福祉施設における食事と栄養2(障害のある子どもの食生活)
13. 食育の基本と内容1(食育の実践)
14. 食育の基本と内容2(食育から作る)
15. 子どもの食と栄養に関するまとめ(実習先での経験を通して考える)

《成績評価の方法・基準》

試験(70%)、講義・実習時の参加貢献度・提出物・課題レポート(30%)により総合評価を行います。

《授業で使用する教科書》

・松本峰雄監修「子どもの食と栄養 演習ブック」ミネルヴァ書房

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習: 次回の学習内容について教科書をよく読む。事後学習: その日に学んだ授業内容について振り返り、実習体験と照らし合わせて知識の定着を図る。

教育方法・技術論

2年次(半期)

2単位(講義)

担当 ★宮本 和行

《授業の概要》

幼児・児童の心身の発達の過程及び特徴を理解し、学習に関する基礎的知識に基づいて保育・教育活動の中での視聴覚教材・情報機器の役割と活用方を理解する。

《学生の到達目標》

①知識・理解 幼児の心身の発達及び学習の過程についての基礎的な知識を得る。保育活動に必要な視聴覚教材とその役割、活用法について理解する。②思考力・判断力・表現力等の能力 幼児の心身の発達及び学習の過程について幅広い知識と理解を得て、適切な視聴覚教材とその役割、活用法を考えていくことができる。③主体的な態度・関心・意欲 保育実践の場を想定し、幼児の心身の発達及び学習の過程を踏まえ、適切な視聴覚教材・デバイスの選択とその活用を展開できる。

《授業計画》

1. 乳幼児期の学習環境と保育活動、社会環境と園、園庭、保育室の環境(設備)
2. 乳幼児期の視覚の発達と特徴
3. 乳幼児期の視覚能力の発達と認知能力の変化に伴う教材の選定と活用
4. 乳幼児期の聴覚の発達と特徴
5. 乳幼児期の聴覚能力の発達と認知能力の変化に伴う教材の選定と活用
6. 乳幼児期の視覚以外の五感の発達と特徴
7. 乳幼児期の感覚教材と保育活動、五感に働きかける教材の選定と活用
8. 保育活動における視聴覚機器の利用、日常にある教材と機器の利用による効果
9. 視聴覚機器の活用例、音響機器、映像機器、光源と各種の素材との効果
10. 情報機器の活用、PC、タブレットとインターネット環境
11. 諸外国での保育活動事例②、シュタイナー教育における教材活用
12. 諸外国での保育活動事例③、レゾジョエミリア市の取り組み
13. 情報機器の活用、PC、タブレットとインターネット環境
14. 電子デバイスと保育活動、電子デバイス間のデータ、教材の共有・統合による効果
15. 主体的活動と視聴覚・情報環境、保育室・園活動の中の視聴覚・情報機器の設置と保育

《成績評価の方法・基準》

授業への参加貢献度及び課題提出(60%)と定期試験(40%)で総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

教育要領・保育指針等については事前よく読んでおくことが望まれる。授業内で取りあげられた事項やトピックスについて、保育実践の場を想定し各自の意見・考えをさらに深めておくことが望まれる。

保育の計画と評価

2 年次（半期）
2 単位（講義）

担当 ★芝田 圭一郎, ★大嶋 健吾

《授業の概要》

保育の計画と評価についての基礎的な理解を深め、その上で具体的な保育の全体的計画の編成、指導計画の作成から実践、省察・評価、改善の過程について学ぶ。また保育所保育指針の理解も深め、保育の全体的計画が社会において果たしている役割や機能を学ぶ。授業では毎時、ミニッツペーパーを実施し、振り返りを行う。

《学生の到達目標》

保育の計画と評価が有する役割とその意義を理解し、保育の全体的計画の編成方法と指導計画の作成方法について具体的に説明できる。そして保育の全体的計画の編成の基本原則及び保育実践に即した保育の全体的計画編成の方法を理解する。また各保育現場の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

《授業計画》

1. 保育の計画と評価の必要性とその意義について
2. 保育の計画と評価の基本原則と社会的役割について
3. 保育所保育指針について①（保育所保育指針の位置づけと内容について）
4. 保育所保育指針について②（保育所保育指針の変遷について）
5. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領について①（その位置づけと内容について）
6. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領について②（その変遷について）
7. 保育指導計画の編成論について①（保育内容5領域を通して）
8. 保育指導計画の編成論について②（育みたい10の姿から）
9. 保育指導計画の編成論について③（保育現場に即した編成方法）
10. 保育の全体的計画の編成論について①（保育所保育指針から考える）
11. 保育の全体的計画の編成論について②（保育計画との関連性について）
12. 計画、実践、省察・評価、改善の循環（PDCA サイクル）と保育の質向上について
13. カリキュラム・マネジメントについて
14. 保育の省察と記録、自己評価と保育要領について
15. 保育の計画と評価をめぐる現在の課題（保育現場と家庭などの連携について考える）

《成績評価の方法・基準》

定期試験（70%）、毎回の授業の最後に提出するミニッツペーパー（30%）

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

前学習として保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説それぞれの保育の計画と評価に関する記述をよく読んでおくこと。事後学習として、毎時の授業内容を振り返り、ワークシート（講義ノート）をまとめておくこと。

保育内容（総論）

2 年次（半期）
1 単位（演習）

担当 ★芝田 圭一郎, ★大嶋 健吾

《授業の概要》

「保育内容」とは、保育所や幼稚園、認定こども園において、保育の目標を達成するために展開される全ての内容を意味するものである。領域を総合的に理解し、子ども理解や保育方法について総合的に捉える視点を養い、実践に即して学ぶことを目指している。

《学生の到達目標》

各法令における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期に終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を子どもの発達や実践に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。

《授業計画》

1. 保育の全体構造と保育内容
2. 保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容の理解
3. 幼稚園教育要領に基づく保育の全体構造と保育内容の理解
4. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育の全体構造と保育内容の理解
5. 保育の内容の歴史の変遷とその社会的背景
6. 子どもの発達や生活に即した保育の内容の基本的な考え方
7. 養護及び教育が一体となって展開する保育
8. 子どもの主体性を尊重する保育
9. 環境を通して行う保育
10. 生活や遊びによる総合的な保育
11. 個と集団の発達を踏まえた保育
12. 家庭や地域、小学校等との連携を踏まえた保育
13. 預かり保育などの長時間保育
14. 特別な配慮を要する子どもの保育
15. 海外等の多文化共生の保育

《成績評価の方法・基準》

毎回の講義で実施する各レポート内容（計30%）、総括レポート内容（30%）、発表内容（40%）によって評価する。

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として保育所保育指針解説書、幼稚園教育要領解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説の保育内容に関する記述をよく読んでおくこと。事後学習として、保育の多様な展開について意識し、他の科目と関連づけて保育内容を考察すること。

領域指導法（環境・表現）

2 年次（半期）
2 単位（演習）

担当 魚住 美智子, ★大嶋 健吾, ★玉川 朝子,
★柴田 精一

《授業の概要》

1) 幼児の遊びや生活における、領域「環境・表現」の位置づけと重要性について説明できる。
2) 乳幼児の認知的発達の特徴と道筋を理解し、乳幼児を取り巻く環境の諸側面への興味関心、それらとの関わり方について専門的概念を用いて説明でき、現代的課題と幼児期において身近な環境と関わることの意義について理解する。3) 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することで表現を生成する過程について理解する。4) 身の周りの環境を五感で捉え、イメージを豊かに素材の特性を活かし、共同し表現することを通じ、他者の表現を受け止め・共感し、より豊かな表現に繋げ、基礎的な知識・技能を用い、幼児の表現活動に展開させることが出来る。

《学生の到達目標》

幼児教育の基本を踏まえ、「環境・表現」両領域のねらい及び内容を理解する。子どもの発達や学びの過程、子どもの周囲を取り巻く環境と、子どもの表現方法における相互関係を理解し具体的な指導場面を想定して、保育を構想する力を身につけ、保育実践ができるようになる。

《授業計画》

1. 教育要領、保育指針、子ども園教育・保育要領の領域「環境」について
2. 教育要領、保育指針、子ども園教育・保育要領の領域「表現」について
3. 保育現場における表現と環境の関係性
4. 「環境」の基礎 1 ～自然に親しみ動物植物に触れる～
5. 「表現」の基礎 1 ～自然をテーマにした表現活動～
6. 「環境」「表現」の基礎 1 ～指導法の観点から～
7. 「環境」の基礎 2 ～モノや道具に関わって遊ぶ～
8. 「表現」の基礎 2 ～モノや道具をテーマにした表現活動～
9. 「環境」「表現」の基礎 2～指導法の観点から～
10. 「環境」の基礎 3～文字や標識、数量や図形に関心を持つ～
11. 「表現」の基礎 3～文字などをテーマにした表現活動～
12. 「環境」「表現」の基礎 3～指導法の観点から～
13. 「環境」の基礎 4～遊びや生活の情報に興味を持つ～
14. 「表現」の基礎 4～遊びや生活をテーマにした表現活動～
15. 「環境」「表現」の基礎 4～指導法の観点から～
16. 「環境」の基礎 5～現代と過去の子どもの取り巻く環境の違い～
17. 「表現」の基礎 5～現代と過去をテーマにした表現活動～
18. 「環境」「表現」の基礎 5～指導法の観点から～
19. 領域「環境・表現」の関係性～指導法の観点から～
20. グループ研究①についての方法論
21. グループ研究 1 「テーマ選定～運動会・作品展・発表会の立場より～」
22. グループ研究 2 「テーマについての企画・立案」
23. グループ研究 3 「研究発表会取り組み～プレゼンテーション準備：パワーポイント～」
24. グループ研究 4 「研究発表取り組み～実演準備：身体表現の観点から～」
25. グループ研究 5 「研究発表取り組み～プレゼンテーション準備：模造紙～」
26. グループ研究 6 「研究発表取り組み～実演準備：制作の観点から～」
27. グループ研究 7 「研究発表 指導計画作成」
28. グループ研究 8 「研究発表 模擬保育実施～保育者の観点から～」
29. グループ研究 9 「研究発表 模擬保育実施～子どもの観点から～」
30. グループ研究 10 「各研究発表①についての振り返り・総評」

《成績評価の方法・基準》

研究発表（準備、発表 60%）、と毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%）

《授業で使用する教科書》

・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・文部科学省「保育所保育指針」フレーベル館・文部科学省「幼児連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習に関しては、教育要領、保育指針、こども園教育・保育要領を熟読し、内容を理解するとともに、個別に各テーマに沿った研究に向けて理解を深める。事後学習は、授業内容及び発表などを振り返り、自身の課題を発見・抽出しその改善に努め、学外施設での発表に向けて精査する。

人間関係

2 年次（半期）
1 単位（演習）

担当 ★樋口 幸

《授業の概要》

乳幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、保育・幼児教育で保障すべき保育・教育内容に関する知識を身につける。特に領域「人間関係」の基礎理論として関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で人と関わる力が育つことを理解する。

《学生の到達目標》

乳幼児を取り巻く人間関係の意義と現代的課題を理解し、発達や生活における関係発達論的視点を理解する。具体的には、身近な大人との関係性、遊びや生活で育む人間関係、自立心と協同性の育ち、道徳性と規範意識の芽生え、家族や地域との関わりについて説明できる。

《授業計画》

1. 保育内容「人間関係」のねらいとその内容の取り扱いについて
2. 乳児期の他者との関係性①乳児期からの人への関心と愛着の形成過程について
3. 乳児期の他者との関係性②自己の認識と他者への関心、学習過程について
4. 幼児期の他者との関係性①社会性の発達とアイデンティティの芽生えについて
5. 幼児期の他者との関係性②「遊び」を中心とした関係性の展開について
6. 乳幼児期の自立心の発達と特徴①自律性の獲得と主体的活動について
7. 乳幼児期の自立心の発達と特徴②自己主張と状況への適応について
8. 乳幼児期の道徳性・規範意識の発達と特徴①仲間集団の中の行動規範の成立
9. 乳幼児期の道徳性・規範意識の発達と特徴②集団生活の中でのルール作りと主体的活動
10. 乳幼児期の社会生活との関わり①自分を取り巻く環境への理解と人間関係性について
11. 乳幼児期の社会生活との関わり②社会的存在としての関係作りと居場所作りについて
12. 乳幼児期のコミュニケーション力①非言語コミュニケーションの発達について
13. 乳幼児期のコミュニケーション力②言語能力の発達と意思伝達について
14. 乳幼児期のコミュニケーション力③社会生活に必要な SST について
15. 他者との関わりの中で育つ主体性と協同性、他者理解の発展・展開について

《成績評価の方法・基準》

定期試験（60%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%）

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼児連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：教科書をしっかりと読む。事後学習：その日の授業を振り返り、ノートをもとめる

言葉

2年次（半期）
1単位（演習）
担当 東城 大輔

《授業の概要》

領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身につける。具体的には、人間の証といえる「言葉」の意義と機能について理解した上で、幼児の言葉を育て、豊かにする教材や実践に関する知識を身につける。

《学生の到達目標》

言葉の持つ意義と機能を理解し、乳幼児期の言葉の発達過程について説明できる。また言葉に対する感覚を豊かにする実践を通して、感性を養う。さらに児童文化財について基礎的知識を深め、発達における児童文化財の意義を理解する。

《授業計画》

1. 保育内容「言葉」とは
2. 人間こととしての言葉の意義と機能について
3. 子どもの言葉の獲得について
4. 発達過程における言葉の位置づけについて
5. 言葉に対する感覚を豊かにする実践について①言葉の美しさ・楽しさ
6. 言葉に対する感覚を豊かにする実践について②言葉遊び
7. 言葉に対する感覚を豊かにする実践について③保育への取り入れ方
8. 児童文化財の実際について①児童文化財の意義とその歴史
9. 児童文化財の実際について②児童文化財の種類とその内容
10. 児童文化財の実際について③保育への取り入れ方
11. 創作児童文化財の製作発表①絵本
12. 創作児童文化財の製作発表②紙芝居
13. 創作児童文化財の製作発表③素話
14. 幼児における言葉の伝え合いについて
15. 幼児期の終わりにまで育てほしい姿～言葉の領域について～

《成績評価の方法・基準》

児童文化財の発表に関するレポート（40%）、定期試験（60%）

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：資料をよく読む 事後学習：その日の授業を振り返り、ノートをまとめる

乳児保育Ⅱ

2年次（半期）
1単位（演習）
担当 藤川 智恵美

《授業の概要》

乳幼児期は、身体的にも精神的にも人間が一生のうちで最も成長する時期であり、子どもの健全な成長の土台を作ることが大切である。とりわけ、この時期に十分な「安心感」を与えられるかが、将来の健全な情緒、心を形成するうえでとても大切である。そのため、言葉を理解できない乳児に安心感を与え、子どもの気持ちを適切に読み取り、安心感を与えるツールとしてベビーサインを学ぶ。また、子どもの成長、発達を支えていくための年齢、月齢に応じた保育実践の具体的な内容と方法の理解を深める。特別な支援が必要な子どもや保護者についても学び、保護者支援、子育て支援に関わる知識と技術を学ぶ。

《学生の到達目標》

1. 三歳未満の発達、発達を踏まえたベビーサイン育児の内容と実施方法を理解する。
2. ベビーサイン育児における保育士の役割について学び、技術を身につけて、ベビーサインアドバイザー資格を取得する。
3. 言語・コミュニケーションの様々な発達の様相を理解する。
4. 年齢、月齢に応じた具体的な保育の内容と方法を理解し、技術を習得する。
5. 保護者支援、子育て支援に関わる知識と技術を習得する。
6. 特別な支援を必要とする子ども保護者支援の知識と技術を理解する。

《授業計画》

1. オリエンテーション、ベビーサインの2つの特徴、ベビーサインの映像観賞
2. 0歳児の発達の特徴と保育のポイント、赤ちゃんの成長と話し言葉の関係
3. 0歳児の生活とあそび、人との関係、物との関係について学ぶ
4. 1歳児の発達の特徴と保育のポイント、やりとりの共有、共感の世界
5. 1歳児の生活とあそびことばの土台、の関係づくり
6. 2歳児の発達の特徴と保育のポイント、運動、食べることと声の発達関係
7. 2歳児の遊びの特徴、感覚統合について学ぶ
8. 感覚統合からのあそびを学ぶ
9. 保育者から働きかける歌あそび手遊び、わらべうたあそび、ふれあいあそびを学ぶ
10. 月齢、年齢に合った絵本、紙芝居の選び方、読み聞かせ方、楽しませ方を学ぶ
11. パペット、ペープサート、エプロンシアター、パネルシアターの作り方、演じ方を学ぶ
12. 特別な支援が必要な子どもについて事例から学ぶ
13. 特別な支援が必要な子どもを持つ親支援について考えを学ぶ
14. 親支援、子育て支援について、事例から具体的な関わりの知識、技術を学ぶ
15. 担当制と保育者同士の連携について具体的に学ぶ。まとめ学びの振り返り

《成績評価の方法・基準》

試験50%、授業への参加貢献度、課題・提出物の状況50%により、期末に評価

《授業で使用する教科書》

・著者 迫田圭子「見る、考える、創りだす 乳児保育養成校と保育室をつなぐ 理論と実践」萌文書林 出版

《参考書》

・制作 吉中みちる・まさくに「乳児保育とベビーサイン」一般社団法人 ベビーサイン協会

《事前・事後学習》

子どもは、大人の関わりで、やりとりの楽しさや自分の思い（意図）を伝えることを学びます。大人には、そのコミュニケーション意欲を支え、ことばを豊かにする大切な役割があります。このことを、ベビーサインを通して学び、保育の担い手として子ども、親支援の具体的な関わり方の知識や技術を習得しましょう。コミュニケーションのツール、ベビーサインの予習、復習をしていきましょう。

子どもの健康と安全

2 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 石原 二三代

《授業の概要》

1 年次の「子どもの保健」の基本的な理論をふまえ、保育施設で保健活動が実践、展開できるように ① 子どもの健康と健康情報の収集と評価 ② 子どもの生活習慣と健康 ③ 保育施設的环境整備 ④ 子どもによく起こる症状と疾病の予防と対応 ⑤ 保育施設の事故防止対策・対応と救急法についての知識・技術を、演習・実習・グループワークを通じて学ぶ。

《学生の到達目標》

以下の 5 項目について、保健活動が保育の場で実践できる応用的な知識と技術を習得する。
① 子どもの健康を理解し、計画的に保健活動へと展開できる。 ② 子どもの発育発達を把握し、健全な生活習慣へと導くことできる。 ③ 事故対策、感染症対策、アレルギー疾患対策を踏まえた保健的観点で保育施設的环境整備ができる。 ④ 子どもによく起こる事故の特徴を理解し、対応、救急法ができる。 ⑤ 子どもによく起こる疾病を理解し、体調不良時の対応ができる。

《授業計画》

1. 保育施設の保健活動と保健計画
2. 子どもの健康情報の把握と評価
3. 生理的機能測定の実習
4. 子どもの発育と評価
5. 子どもの身体計測実習
6. 子どもの発達と評価
7. 子どもの生活習慣と健康 ① 睡眠・活動
8. 子どもの生活習慣と健康 ② 清潔・歯の健康
9. 養護（抱き方・オムツ交換）の実習
10. 養護（座浴・更衣）の実習
11. 保育施設的环境整備
12. 保育施設の事故の対応と救急法
13. 応急手当の実習
14. 子どもの体調不良時の対応と薬の知識
15. 子どもに多い疾病の対処と予防

《成績評価の方法・基準》

授業の取り組み（30%） 演習の評価（70%）

《授業で使用する教科書》

・大西文子（編集・著者）「子どもの健康と安全」中山書店

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、1 年次の「子どもの保健」を復習して、理解を確認しておく。事後学習は、授業中に行った演習について、文献などを収集して再考察し、保育施設で実践できるように理解を深める。

子育て支援

2 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★丸目 満弓

《授業の概要》

ソーシャルワークの基礎を学びつつ、保育の専門性を背景とし、保護者に対する子育て支援の理論・意義・機能について理解する。それらをふまえた上で、保育士の行う子育て支援について、さまざまな場面や対象に即した行動見本の提示、相談助言、情報の提供など、保育相談支援の内容、方法、技術を中心に実践事例等を通して具体的に理解する。さらに事例分析を通して子育て支援に関する相談援助や個別支援計画についての理解を深める

《学生の到達目標》

1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）を行う際の基本的視点や姿勢を身につける
2. 保育相談支援を行う際に必要となる方法を身につける
3. 保育相談支援の具体的な支援がイメージできる
4. 保育士の専門性を活かした相談支援のあり方を考えることができる

《授業計画》

1. オリエンテーション 一人ひとりの保育とともに保育士の支援とは
2. 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成
3. 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解
4. 子どもや保護者が多様な他者に関わる機会や場の提供
5. 子ども及び保護者の状況・状態の把握
6. 支援の計画と環境の構成
7. 支援の実践・記録・評価・カンファレンス
8. 職員間の連携・協働および社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働
9. 保育所等における支援
10. 地域の子育て家庭に対する支援
11. 障害のある子ども及びその家庭に対する支援
12. 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援
13. 子ども虐待の予防と対応・要保児童等の家庭に対する支援
14. 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

試験(60%)と小レポートなど授業への取り組み(40%)を総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

・立花直樹・安田誠人・波田瑩英治編著「保育者の協働性を高める「子ども家庭支援」子育て支援」晃洋書房

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

予習：今回の授業に向けたキーワードやテーマを伝えるので、事前に調べたり考えをまとめておくこと 復習：毎回授業の最後に提示されるテーマについて、次回の授業までにまとめておく。

在宅保育

2年次（半期）
2単位（講義）

担当 弘田 みな子、★丸目 満弓

《授業の概要》

家庭訪問保育に必要な基本的な知識から、実践に必要とされるスキルについて扱う授業となります。保育所保育と対比をしながら、家庭訪問保育ならではの必要性の社会的背景や歴史的成りたち、実際の保育場面で必要とされる知識やスキルを、毎回テキストに沿って取り上げていきます。

《学生の到達目標》

家庭訪問保育の実際を知り、必要なスキルを身に付けることができる。家庭訪問保育者の使命についての理解を深め、保育者としての働き方の幅広さを知る事ができる。

《授業計画》

1. オリエンテーション：家庭訪問保育とは？
2. 家庭訪問保育の体系／身に着けたい保育マインド／居宅訪問型保育の概要
3. 乳幼児の生活と遊び／乳幼児の発達と心理
4. 小児の保健
5. 安全の確保とリスクマネジメント
6. 映像視聴：子どもの発達のイメージと実際を知る
7. 前半期まとめ試験①
8. 居宅訪問型保育における保護者への対応／保育者のマナー／話し方
9. 子ども虐待への知識と対応
10. 特別に配慮を要する子どもへの対応
11. 一般型家庭訪問保育の業務の流れ
12. 様々な家庭訪問保育
13. 実践演習／保育技術
14. 映像視聴：産後ケアの必要性を知る
15. 後半期まとめ試験②

《成績評価の方法・基準》

毎回の授業時に書く、授業まとめの小レポート（40%）知識確認試験①（30%）知識確認試験②（30%）

《授業で使用する教科書》

・公益社団法人 全国保育サービス協会 監修 中央法規「家庭訪問保育の理論と実際」

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、授業で扱うテーマに関して、疑問点などを明確にしたうえで授業に臨めるよう、テキスト該当箇所を読んでおくこと。事後学習として、テキストの重要箇所を再確認するとともに、授業内で問題提起した課題について考察しておくこと。

障害児保育A

2年次（半期）
1単位（演習）

担当 中島 順子

《授業の概要》

子どもに見られる様々な障害について学び、よりよい統合保育の支援について考えます。障害児保育の実際を知り、障害児保育の基本を理解します。また、障害児保育に関わる現状と課題を理解し、保護者の支援、地域の専門機関・小学校等の連携について考えます。

《学生の到達目標》

①障害児保育の基礎知識を習得する。②障害の特性にあった環境構成や保育・支援方法について理解できる。③一人ひとりの個性や特性（障害も含む）にあったことはかきわけり方について習得する。

《授業計画》

1. オリエンテーション（障害児保育の概念）
2. 障害児保育の歴史
3. 発達と障害
4. 知的障害①定義と病理
5. 知的障害②ダウン症候群
6. 発達障害①高機能自閉症スペクトラム障害
7. 発達障害②自閉症スペクトラム障害
8. 発達障害③学習障害
9. 発達障害④注意欠如多動性障害
10. 肢体不自由児
11. 視覚障害・聴覚障害・言語障害
12. 障害児保育の実際—教材作り
13. 障害児保育の実際—具体的ななかやり（インリアルアプローチ）
14. 保護者の理解と支援について
15. 学校・専門機関・医療機関との連携について

《成績評価の方法・基準》

定期試験（60%）講義・演習時の参加貢献度・提出物（40%）

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

・監修 竹田契一「保育における特別支援」日本文化科学社・編集 玉井浩「ダウン症児の学びとコミュニケーション支援ガイド」診断と治療社

《事前・事後学習》

事前学習：様々な障害について調べる。保育実習の中で一人ひとりの子どもの様子をよく観察しておきましょう。事後学習：授業後配布資料や記録をまとめ、学んだことを振り返りましょう。

障害児保育B

2年次（半期）
1単位（演習）
担当 ★岡田 和枝

《授業の概要》

障害児に対する神経心理学的なアプローチを学ぶ。すなわち、言語・行為・視覚認知など心理活動と脳の構造との関連において捉え、その観点から障害児に対する理解を深め、障害児保育における指導・支援のあり方について考える。また、障害児を取り巻く諸問題を取り上げ、保護者支援、関係機関との連携のあり方についてグループディスカッションなどを通して考える。講義では診断や支援の際に参考にされる神経心理検査、発達検査についても紹介する。

《学生の到達目標》

①障害児を神経心理学的観点から理解するための基礎を学ぶ。②子どもが抱える問題について、検査を通してとらえる手法を学ぶ。③障害児一人ひとりの特長に応じた保育の方法について考えることができる。④障害児と保護者支援のあり方について考えることができる。⑤障害児に関わる諸機関との連携について理解する

《授業計画》

1. ガイダンス障害児保育の考え方
2. 神経心理学的手法①脳の構造と高次機能について
3. 神経心理学的手法②幼児期の心と脳の発達について
4. 神経心理学的手法③神経心理学的検査、発達検査
5. 注意欠如・多動性障害 (ADHD) の理解と支援
6. 自閉症スペクトラム障害 (ASD) の理解と支援
7. 学習障害 (LD) の理解と支援
8. 発達障害の理解神経心理学的検査・発達検査からわかること
9. 気になる子ども 特性の理解と支援
10. 発達障害と医療 医療機関の現場から
11. 聴覚障害・言語障害と言語発達
12. 聴覚障害・言語障害と言語発達
13. 個別の発達を促す生活や遊びの環境
14. 保護者・家族に対する理解と支援について
15. 関係機関との連携について

《成績評価の方法・基準》

毎回の授業の最後に提出する小レポート (50%)、定期試験 (50%)

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：次の講義への簡単な課題を与えるので、それについて関連図書などを参考にしておいておく。事後学習：学習内容を振り返り、実習などでの体験と照らし合わせて理解を深めることが望まれる。

特別支援教育基礎

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★樋口 幸

《授業の概要》

「共生社会」を形成していくには、教育・保育において、インクルーシブ教育システムを構築することが重要であり、そのためには就学前から特別支援教育を着実に進めていく必要がある。この講義では、視覚教材を用いながら、特別支援教育の理念や歴史的変遷、合理的配慮を実現するための特別支援教育の実践、障害特性や援助・保育方法の基礎を学ぶ。また、保育者や家族、地域の人々が育ちあう関係についてもグループワークなどを通して考える。

《学生の到達目標》

①特別支援教育が求められた背景を理解している。②特別な支援を必要とする子どもの障害の特性および心身の発達を理解している。③特別な支援を必要とする子どもに対する教育課程や支援方法を理解している。④障害はないが、特別な教育ニーズのある子どもの困難とその対応を理解している。

《授業計画》

1. 特別支援教育の理念と基本的な考え方
2. 障害のある子どもに関する法整備と特別支援教育・保育のかかわり
3. インクルーシブ教育・保育の実現と合理的配慮
4. 知的な面の支援の必要な子どもの理解と援助
5. 身体面（視覚・聴覚）の支援の必要な子どもの理解と援助
6. 身体面（肢体不自由）・医療的ケアの支援の必要な子どもの理解と援助
7. 感覚面の支援の必要な子どもの理解と援助
8. 行動面・学習面の支援の必要な子どもの理解と援助
9. コミュニケーション面の支援の必要な子どもの理解と援助
10. 情緒面の支援の必要な子どもの理解と援助
11. 養育環境の問題（虐待・貧困など）を抱える子ども・外国にルーツをもつ子どもの困難
12. 保育の実践①発達を促す生活や遊びの環境
13. 保育の実践②子どもたちへの具体的なかかわり
14. 保護者や家族に対する理解と支援
15. 小学校・関係機関との連携について

《成績評価の方法・基準》

定期試験 (50%)、講義やグループワーク時などの参加度・毎回提出のワークシート (50%)

《授業で使用する教科書》

・授業中に適宜資料を配布する

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

日頃より、障害に関する新聞記事やニュースなどに関心を持ち情報収集を心がける。インターネットや実習で出会った子どもの記録を見直しておく。事後学習として、授業内で取り上げた事項の理解を深める。

障害の理解B

2 年次（半期）
1 単位（演習）

担当 ★松浦 満夫、★岡田 和枝

《授業の概要》

多様化する保育現場（保育園、乳児院、障がい児施設等）では、発達障害の理解を深めた専門的な支援が求められます。本科目では、「発達障がい」を中心に特別なニーズを持つ子どもや家族への支援について、基礎知識を学習し、現場実践の事例演習や施設見学をとおして、共生社会への理念や社会資源や基本的な支援方法について学びます。

《学生の到達目標》

1、障がい児者の発達保障と歴史と制度の基礎知識を学びます。2、実践事例の演習（事例検討、現場見学）から基本的な支援方法を知ります。3、共生社会をめざした「障がい児者を支える仕事や社会資源」への理解を深めます。

《授業計画》

1. 発達障がいの基礎理解① 全体的な発達の特性を学びます
2. 発達障がいの基礎理解② 対人面、コミュニケーション面の発達を学びます
3. 発達障がいの基礎理解③ 社会生活能力の発達を学びます
4. 障がい児者支援の最新の動向の理解① ノーマライゼーションについて学びます
5. 障がい児者支援の最新の動向の理解② インテグレーションについて学びます
6. 発達障がいの実践事例の演習①（社会的養育施設の実例検討、現場見学実習）
7. 発達障がいの実践事例の演習②（児童発達支援施設の実例検討、現場見学実習）
8. 保育現場での特別なニーズの理解① 保育園現場の実践者から学びます
9. 保育現場での特別なニーズの理解② 幼稚園現場の実践者から学びます
10. 保育園での利用者の多様な状況の理解①（保育園での事例検討、現場見学実習）
11. 保育園での利用者の多様な状況の理解②（幼稚園での事例検討、現場見学実習）
12. 児童福祉施設での利用者の多様な状況の理解①（児童養育施設での事例検討）
13. 児童福祉施設での利用者の多様な状況の理解②（障がい児施設での事例検討）
14. 共生社会をめざした社会資源や実践の理解① インクルージョンについて学びます
15. 共生社会をめざした社会資源や実践の理解② 共生社会に向けた課題を学びます

《成績評価の方法・基準》

授業や演習、見学実習での演習成果レポート（70%）と授業内容をふまえた事後学習の総括レポート（30%）で評価します。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

科目は、本学科独自の選択科目です。集中講義方式と施設見学（実践事例検討）により、授業を進めます。本科目と1年次のインターンシップ科目、「障害の理解 A」を取得することで、「障害児保育基礎プログラム修了証」が授与されます。演習や見学に向けてしっかりと事前学習と「ふりかえり」の事後学習を重視します。

インターンシップⅢ

2 年次（半期）
2 単位（実習）

担当 総保専任教員

《授業の概要》

幼稚園、保育所、認定こども園などの役割や機能を学外実習を通して具体的に学ぶ。保育現場に関わることを通して、保育者としての技術と理解を深める実習である。保育実践の指導者のもとで経験を積み、保育の実践を体系的・総合的に理解し、保育実践の基礎的な能力と態度を身に付け、幼稚園教諭・保育士の職務への専門的な理解を深める。

《学生の到達目標》

①インターンシップ実習における経験を通して保育現場の様々な課題を理解を深める。②保育現場の課題を体感し、考え、考察する。③子どもと関わる保育者、子どもの発達過程を観察し、具体的に理解する。④自分の保育観、教育観を深め、洗練させる。

《授業計画》

1. ①インターンシップ実習は週に1日、インターンシップ先で実習を行う。
2. ②期間は4月から8月までを基本とする。
3. ③インターンシップ先は短大にて決定する。
4. ④インターンシップ先では、職員の指導のもと、子どもや利用者により、積極的に関わり、な業務、知識、技術について学習する。
5. ⑤インターンシップ中には、実習日ごとにインターンシップ実習日誌を作成する。
6. ⑥その日誌をもとに、課題や自己目標の達成状況を確認し、
7. インターンシップ実習担当者より適宜、指導を受ける。
8. ⑦インターンシップ実習終了後は、すみやかに実習日誌綴じ込みのレポート課題を作成した上、日誌を翌日、短大に提出する。
9. ⑧他の科目と連携して、事前指導の補講を期間内で行う。
10. ⑨インターンシップ実習終了後は、日誌やインターンシップ先評価内容をもとに、
11. 教員とともに内容の振り返りを行う。
12. ⑩自己課題を明確するとともに、自己目標を設定し、
13. 自分の保育技術向上へとつなげていく。

《成績評価の方法・基準》

インターンシップ実習日誌（50%）、インターンシップ先からの評価（20%）、インターンシップ実習の各レポート（計30%）から評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

インターンシップ実習に赴くための準備（体調を整える、保育の準備など）を毎日、しっかりとしておくこと。またインターンシップ実習が終了したその日にインターンシップ実習日誌を記録し、翌日に必ず提出すること。さらにインターンシップ先の子ども達に合わせ、保育技術の向上に努めること。

幼児音楽Ⅱ

2年次(半期)
1単位(演習)

担当 山田 千智, 北田 敦子, 板垣 幾久子,
井上 裕子, 竹山 陽子, 小林 響子, 宋 和映,
河野 多恵, 関口 大介, 奥田 美菜子

《授業の概要》

子どもたちの音楽表現を引き出すようなピアノの演奏技術を習得するとともに、1年次に培った専門的な知識・技能をより高める。個別レッスンでは、幼児音楽Ⅱの続き(担当教員は異なる)で、課題曲を進めながら、さらに多様な音色・リズムが表現出来るようレベルアップしていく。実技試験に向けて、教則本から1曲暗譜で演奏すること、加えて童謡課題曲より1曲演奏する。

《学生の到達目標》

元気良く!しっとり...など多様な音色・リズムを表現して演奏することが出来る。自ら効果的な練習方法を見出すことが出来る。コードネームを用いて自らその場の雰囲気合った伴奏付けを行うことが出来る。

《授業計画》

1. 授業説明、グループ分けの為のレベルチェックテスト
2. 色々なシチュエーションに応じて伴奏の形を変える
3. 色々なシチュエーションに応じてメロディーの弾き方を変える
4. グループ発表—春の童謡に伴奏を付ける(選曲)
5. グループ発表—春の童謡に伴奏を付ける(練習)
6. グループ発表—春の童謡に伴奏を付ける(発表)
7. 聴く力をつける練習—キーボードを用いたアンサンブル
8. グループ発表—夏の童謡に伴奏を付ける(選曲)
9. グループ発表—夏の童謡に伴奏を付ける(練習)
10. グループ発表—夏の童謡に伴奏を付ける(発表)
11. より複雑な伴奏の形について
12. グループ発表—任意の童謡に伴奏を付ける(選曲)
13. グループ発表—任意の童謡に伴奏を付ける(練習)
14. グループ発表—任意の童謡に伴奏を付ける(発表)
15. まとめ—グループ発表の振り返り

《成績評価の方法・基準》

実技試験(50%) 課題の進捗(10%) 筆記試験・グループ発表(40%)

《授業で使用する教科書》

・大阪城南女子短期大学「幼児音楽曲集—大阪城南女子短期大学編—」石川特殊製本株式会社
細田 淳子 他「かんたんメソッド コードで弾き歌い」カワイ出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習: グループ発表ではメンバー内の作業がスムーズに進むよう各自準備をしてくるよう。個人レッスンでは、次の課題曲等、レッスン担当教員と目標を定め、それに向けて練習しておくこと。分からないリズムや曲想がある場合は専任教員や友人に尋ね、明確にしておくこと。事後学習: 童謡や子どもたちが好きな歌に興味を持ち、自ら伴奏付けを数多くやってみること。

総合表現の基礎

2年次(半期)
2単位(演習)

担当 油井 宏隆, ★柴田 精一, 山田 千智,
魚住 美智子

《授業の概要》

領域「表現」のねらい及び内容を理解する。また、乳幼児の発達や学びの過程を理解し、総合的な表現活動の実践を通して、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構成する方法を身に付ける。

《学生の到達目標》

保育内容の各領域を総合的に捉え、表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶことができる。音楽、造形、身体表現などの様々な表現活動を実践することによって、それらの特徴や面白さを確認し、総合的な表現活動を、構想、計画、指導、実践する力を身につけることができる。

《授業計画》

1. 領域「表現」のねらいと内容について理解する。
2. 乳幼児の表現活動の事例から、表現の指導方法を考える。
3. 総合表現の基礎 ~子どもの発育・発達に応じた音楽表現の理解・実践(0~2歳児)
4. 総合表現の基礎 ~子どもの発育・発達に応じた造形表現の理解・実践(0~2歳児)
5. 総合表現の基礎 ~子どもの発育・発達に応じた身体表現の理解・実践(0~2歳児)
6. 総合表現の基礎 ~音楽・造形・身体表現の指導法の観点からの理解・実践①(0~2歳児)
7. 総合表現の基礎 ~子どもの発育・発達に応じた音楽表現の理解・実践(3歳児)
8. 総合表現の基礎 ~子どもの発育・発達に応じた音楽表現の理解・実践(3歳児)
9. 総合表現の基礎 ~子どもの発育・発達に応じた音楽表現の理解・実践(3歳児)
10. 総合表現の基礎 ~音楽・造形・身体表現の指導法の観点からの理解・実践②(3歳児)
11. 総合表現の基礎 ~子どもの発育・発達に応じた音楽表現の理解・実践(4歳児)
12. 総合表現の基礎 ~子どもの発育・発達に応じた音楽表現の理解・実践(4歳児)
13. 総合表現の基礎 ~子どもの発育・発達に応じた音楽表現の理解・実践(4歳児)
14. 総合表現の基礎 ~音楽・造形・身体表現の指導法の観点からの理解・実践③(4歳児)
15. 総合表現の基礎 ~子どもの発育・発達に応じた音楽表現の理解・実践(5歳児)
16. 総合表現の基礎 ~子どもの発育・発達に応じた造形表現の理解・実践(5歳児)
17. 総合表現の基礎 ~子どもの発育・発達に応じた造形表現の理解・実践(5歳児)
18. 総合表現の基礎 ~音楽・造形・身体表現の指導法の観点からの理解・実践④(5歳児)
19. 総合表現に関するグループワーク「教材の選択~音楽・造形・身体表現より~」
20. 総合表現に関するグループワーク「企画・立案(保育指導案作成)」
21. 総合表現に関するグループワーク「発表内容の検討・活動」
22. 総合表現に関するグループワーク「発表内容の改善点の検討」
23. 総合表現に関するグループワーク「グループ発表①」
24. 総合表現に関するグループワーク「グループ発表②」
25. 総合表現に関するグループワーク「自・他者評価を通しての振り返り」
26. 総合表現に関するグループワーク「発表についての講評・総括」
27. 音楽表現と指導法のまとめ
28. 造形表現と指導法のまとめ
29. 身体表現と指導法のまとめ
30. 総合表現活動と指導法のまとめと課題について

《成績評価の方法・基準》

毎時の課題・レポート(40%) グループ発表(準備、発表 30%)、総括課題レポート(30%)

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針(概論)」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領(概論)」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「保通機型認定こども園教育・保育要領(概論)」フレーベル館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、次回の授業内容の予習をする。事後学習は、前回の授業内の知識を深め、技能・技術、指導法の習得に努める。

総合表現の応用

2年次（半期）
2単位（演習）

担当 油井 宏隆, ★柴田 精一, 山田 千智,
魚住 美智子

《授業の概要》

領域「表現」のねらい及び内容を理解する。また、幼児の発達や学びの過程を理解し、総合表現活動に取り組むことで、保育現場で領域「表現」に関わる、具体的な指導場面を想定した保育を構成する力を身に付ける。

《学生の到達目標》

乳幼児期に育みたい表現に関する資質・能力を理解する。総合表現活動を通して、保育現場で必要な知識・技能・指導方法を習得することができる。また、それらの活動を通して、保育者として必要で多様な表現力や実践力を身に付ける。

《授業計画》

1. 授業概要の説明（オペレッタ創作活動の意義、創り方を理解する）
2. オペレッタ創作（グループに分かれ、台本作成する）
3. オペレッタ創作（対象年齢やテーマなどに合った台本を確認する）
4. オペレッタ創作（台本の読み合わせ・改善点の確認）
5. オペレッタ創作（台本を読み合わせし、立って動く）
6. オペレッタ創作（台詞や身振りを付けて動く）
7. オペレッタ創作（役作りの改善点を検討する）
8. オペレッタ創作（音楽～テーマ曲・背景音楽・効果音を検討する）
9. オペレッタ創作（台本と音楽との整合を確認する）
10. オペレッタ創作（ダンス創作を検討する）
11. オペレッタ創作（ダンスの振り付けの練習・確認する）
12. オペレッタ創作（台本、音楽、ダンスの整合性を確認する）
13. オペレッタ創作（大小道具の企画、材料の準備をする）
14. オペレッタ創作（大小道具の制作）
15. オペレッタ創作（大小道具の舞台上での配置と動線の確認・調整）
16. オペレッタ創作（衣装の企画、材料の準備をする）
17. オペレッタ創作（衣装の制作をする）
18. 通し稽古（舞台上の立ち位置、動線を確認する）
19. 通し稽古（大小道具、衣装を用いて行う）
20. 予行①（本番を想定して行う）
21. 予行②（改善点の確認）
22. 手直し（造形物などの改善点の確認）
23. 手直し（作品全般の改善点の確認）
24. オペレッタ発表①（グループで発表する）
25. オペレッタ発表②（グループで発表する）
26. オペレッタ創作と発表の自・他班評価
27. オペレッタ創作活動の保育現場への応用について
28. 子どもがグループ発表（劇など）を行う際の保育者の援助について～準備～
29. 子どもがグループ発表（劇など）を行う際の保育者の援助について～当日～
30. 総合的表現活動と保育現場での表現活動についてのまとめ

《成績評価の方法・基準》

グループ活動・発表（60%）、課題レポート（40%）

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレール館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレール館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「保連機認定こども園教育・保育要領解説」フレール館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習については、オペレッタ創作の各活動の企画・構想を深める。事後学習は、前回の活動の改善点を探り、オペレッタの質の向上に結びつけるよう努める。

身体と運動

2年次（半期）
1単位（演習）

担当 魚住 美智子, 井上 裕子

《授業の概要》

心や身体のしなやかな乳幼児期に音楽と運動を融合させて、友だちと一緒に表現することで様々な感覚を磨くことができる表現方法を学ぶ。そして、子どもたちが想像性、創造性、協働性などが身につくように保育者として援助できる知識や技能・技術を養う。

《学生の到達目標》

領域「表現」の位置づけを学び、幼児の表現の生成する過程を理解し、幼児の身体的な表現を見出し、受け止め、共感する力を養う。また身体的な表現の基礎的知識や技能・技術を学び、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。

《授業計画》

1. 「身体と運動」の関連性と表現（音楽表現・身体表現）の意義について
2. 表現方法の基礎①（動きと強弱・テンポの関わり）
3. 表現方法の基礎②（動きと音程の関わり）
4. 表現方法の基礎③（動きと拍子の関わり）
5. 表現方法の基礎④（リズムパターン、ステップ）
6. 表現方法の応用①（補足リズム、ステップ）
7. 表現方法の応用②（空間認知と自由表現）
8. 表現方法の応用③（即時反応と自由表現）
9. 表現方法の応用④（リズムの演奏方法とステップ）
10. 3歳児の指導方法の立て方・実践
11. 4歳児の指導方法の立て方・実践
12. 5歳児の指導方法の立て方・実践
13. 年齢別指導方法の改善点検討（グループ別）
14. 年齢別指導方法・実践（グループ別）
15. 年齢別指導方法の振り返りと保育現場における課題とまとめ

《成績評価の方法・基準》

小レポート(30%)、課題レポート(30%)、リトミック検定試験(40%)但し、リトミック検定試験を受けることを単位認定の最低条件とする。

《授業で使用する教科書》

・リトミック研究センター「保育園・幼稚園のためのリトミック3歳児用年間カリキュラムとその実践」リトミック研究センター・リトミック研究センター「保育園・幼稚園のためのリトミック4歳児用年間カリキュラムとその実践」リトミック研究センター・リトミック研究センター「保育園・幼稚園のためのリトミック5歳児用年間カリキュラムとその実践」リトミック研究センター

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習については、次回の授業内容について予習をする。事後学習については、その日に学習した内容を復習し、知識や技能・技術の習得に努める。この授業の成果でリトミック指導資格1級を取得することができる。

教育実習Ⅱ

2年次（半期）
2単位（実習）

担当 ★芝田 圭一郎, ★大嶋 健吾, ★玉川 朝子

《授業の概要》

教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加する。教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を習得する。

《学生の到達目標》

幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。そして保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。

《授業計画》

1. 教育実習の概要と意義の再確認（教育実習の年間計画・指導体制・手続き・日程など）
2. 教育実習生が遵守すべき義務について理解する
3. 実習日誌（記録）の記入方法、及び観察観点について学ぶ
4. 環境を通して行う教育の意義及び教師の役割を理解する
5. 実習園でのオリエンテーションに参加し、実習校と子どもの実態について理解を深める
6. 実習園の方針、特色をまとめ、実習課題に即して、保育指導計画・実習計画を作成する
7. 各自の実習目標や課題意識を明確化し、実習の課題を探る
8. 教育実習の総括（実習での気づきや成果・課題を今後の学習と実践へつなげる）
9. グループ・ディスカッション（実習園や実習に関して報告し、実習体験を共有する）
10. 教育実習報告会①（他の学生の実習園や実習に関しての発表を聞き、理解を深める）
11. 教育実習報告会②（各自の幼稚園実習の意義を明確にし、進路の課題を設定する）
12. 個人面談①（実習校からの評価を知る）
13. 個人面談②（自分自身を多様な角度から検討して客観化を図る）
14. 学習計画・実習計画について、グループ・ディスカッションを行う
15. 教育実習の本質を知り、理解し、今後の進路に向けて総括を行う

《成績評価の方法・基準》

実習園の「教育実習評価表」に基づいて実習生を評価（50%）し、さらに事前・事後指導の講義において実施する各種課題レポート（50%）と合算して評価する。

《授業で使用する教科書》

・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼児連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、1年次の教育実習を振りかえり、自己課題を挙げておくこと。事後学習として教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解し、習得すること。

保育実習Ⅱ

2年次（半期）
2単位（実習）

担当 ★芝田 圭一郎, ★丸目 満弓, ★大嶋 健吾

《授業の概要》

保育所の役割や機能について、具体的な実践や学外実習を通して理解を深めていく。既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。保育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に保育実習に参加する。保育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、保育士資格取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を習得する。

《学生の到達目標》

子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。そして保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。さらに保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解し、実習における自己の課題を明確にさせる。

《授業計画》

1. ①実習期間に基本的に9月上旬から2週間とする
2. ②保育所実習の実習先は、児童福祉法の規定する保育所とする。
3. また通所（通勤）での実習となる。
4. ③実習先では、職員の指導のもと、子どもに積極的にかかわり保育士としての業務、知識、技術について学習する。
5. ④実習期間中に責任実習（保育）を1回以上行う。保育士の指導のもと、指導計画案作成と教材準備を行う。実施後、反省会に参加する。
6. ⑤実習中には、実習日毎に実習日誌を作成する。その日誌をもとに、実習課題や自己目標の達成状況を確認する。その実習担当者より、適宜、指導を受ける。
7. ⑥実習終了後は、速やかに実習日誌冊子綴じ込みのレポート課題を作成した上、日誌を実習先に提出する。
8. ⑦「保育実習指導Ⅱ」科目と連携して、事前指導を授業内で行う。
9. ⑧終了後は、日誌や実習先評価の内容をもとに、教員とともに実習内容の振り返りを行う。
10. ⑨前向きに自己を振り返りながら自己課題を明確にすると同時に、改善策を考へ、検討し、次の進路へとつなげる。

《成績評価の方法・基準》

保育所実習の「実習評価表」に基づいて、評価（50%）し、また実習日誌（記録）を評価（20%）し、事前・事後指導の講義において実施する各種課題レポート（30%）と合算して評価する。

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼児連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として保育所実習の準備をすするとともに、実習計画をたてること。事後学習としてそれぞれの実習を振り返り、自己評価し、課題や反省を挙げ、進路に活用していくこと。

保育実習指導Ⅱ

2年次（半期）
1単位（演習）

担当 ★芝田 圭一郎, ★丸目 満弓, ★大嶋 健吾

《授業の概要》

保育実習生として遵守すべき法令や義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に保育実習に参加する。保育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、保育士資格取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を習得する。

《学生の到達目標》

保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。そして保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。さらに実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

《授業計画》

1. 保育所実習の意義と目的、及びその内容
2. 養護と教育が一体となって行われる保育
3. 保育所の社会的役割と責任
4. 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的な理解
5. 子どもの保育と保護者支援
6. 子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わり
7. 保育の知識・技術を活かした保育実践
8. 保育の全体構想に基づく具体的な計画と実践
9. 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
10. 保育士の専門性と職業倫理
11. 保育所実習の振り返り①（グループワーク、グループディスカッションを通して）
12. 保育所実習の振り返り②（報告会を行い、他者の意見を聞き、共有する）
13. 保育所実習の振り返り③（自分自身を多様な角度から検討して客観化を図る）
14. 施設実習と保育所実習の総括と自己評価
15. 学外実習を通しての自己課題の明確化

《成績評価の方法・基準》

以下の①・②・③の要件を全て満たすことで単位認定となる①保育所実習において10日間以上かつ80時間以上の学外実習に参加・出席すること②保育実習指導Ⅱの授業を3分の2以上出席すること③保育実習Ⅱの評価が「可」以上であること

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説書」フレール館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレール館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、1年次の保育実習を振りかえり、自己課題を挙げておくこと。事後学習として保育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、保育士資格取得までに習得すべき知識や技能等について理解し、習得すること。

保育実習Ⅲ

2年次（半期）
2単位（実習）

担当 ★松浦 満夫, ★岡田 和枝

《授業の概要》

既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、児童福祉施設、障害児施設等（保育所以外）の役割や機能について、具体的な支援計画と実践、観察、記録及び自己評価等を通して総合的に学ぶ。また家庭と地域の生活実態、社会的養護や障害児支援への理解を深め、保育士・支援員としての職業倫理、具体的な実践について理解し、自己の課題を明確にする。

《学生の到達目標》

各自が将来を見据えて設定した個人課題を、現場学習（実習）により深く探求することをめざす。子どもや利用者の観察やかかわりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。そして保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。さらに保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解し、実習における自己の課題を明確にする。

《授業計画》

1. ①実習期間は、原則9月中の【2週間】とする。
2. ②施設実習先は、乳児院、児童養護施設、児童自立支援施設、障がい児施設、障がい者施設である。形態は、宿泊実習を基本とする。
3. ③実習先では、職員の指導のもと、子どもや利用者へ積極的にかかわり、「保育」や「対人支援」の基礎的な業務、知識技術について学習する。
4. ④実習期間中は、「保育実習指導Ⅲ」で事前作成した個人課題と実習計画をもとに実践を行う。支援員の指導のもと、実習内容を検討して、実施後反省会に参加する。
5. ⑤実習期間中は、実習日毎に実習日誌を記載する。その日誌をもとに、課題や自己目標達成状況を確認し、実習先担当者より、適宜、指導をうける。
6. ⑥実習終了後は、すみやかに実習日誌冊子綴じ込みのレポート課題を作成した上、日誌を実習先に提出する。
7. ⑦「保育実習指導Ⅲ」科目と連携して、事前指導を授業内で行う。
8. ⑧終了後は、日誌や実習先評価の内容をもとに、教員とともに実習内容をふりかえり、具体的な実践について理解し、自己の課題を明確にする。
9. ⑨実習を総括し、保育士としての進路に結びつけて考察する。

《成績評価の方法・基準》

施設実習の「実習評価表」に基づいて評価（60%）し、さらに事前・事後指導の講義において実施する各種課題レポート（40%）と合算して評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として施設実習の準備をするとともに、実習計画をたてること。事後学習としてそれぞれの実習を振り返り、自己評価し、課題や反省を挙げ、進路に活用していくこと。

保育実習指導Ⅲ

2年次（半期）
1単位（演習）

担当 ★松浦 満夫、★岡田 和枝

《授業の概要》

保育実習Ⅰを基礎としながら、社会的養護や障害児施設についての講義、事例検討、演習等を実施する。また家庭と地域の実情にふれて子ども家庭福祉及び社会的養護について総合的に学び、保育士としての職業倫理及び利用者・家庭支援のための知識、技術、判断力を培う。個別支援計画と実践、観察・記録、等の事前学習、実習先施設での指導、実習の総括と自己評価や課題の明確化等の事後指導を行う。

《学生の到達目標》

施設実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。グループ演習により、各自が主体的に実習課題と計画を作成して、奥深い現場学習（実習）のための基礎を築く。また学生間での成果の共有により、広く実践的な知識を身につける。そして保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。さらに実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

《授業計画》

1. プレゼンテーション (1) 1年次施設実習の振り返り
2. 事前学習講義 (1) 児童福祉施設等の状況と課題を学ぶ
3. グループ演習 (1) 共通課題について事前学習を行う
4. グループ演習 (2) 個人課題づくりに取り組む
5. プレゼンテーション (2) 実習への動機、個人課題について発表
6. 事前学習講義 (2) 児童福祉施設等での支援について学ぶ
7. 事前学習講義 (2) 児童福祉施設等での支援について学ぶ
8. グループ演習 (4) 事前学習 (2) 施設の利用者支援を学ぶ
9. グループ演習 (5) 事前学習 (3) 実習先施設の利用者について理解する
10. グループ演習 (6) 事前学習 (4) 実習先施設の利用者について理解する
11. プレゼンテーション (3) 社会的養護施設の利用者について発表と検討
12. プレゼンテーション (4) 障がい児者施設の利用者について発表と検討
13. グループ演習 (7) 社会的養護施設の現状と展望
14. 直前指導と現場学習（実習）での課題発見
15. グループ演習 (8) 現場学習（実習）の成果のまとめ

《成績評価の方法・基準》

以下の①・②・③の要件を全て満たすことで単位認定となる。①施設実習において10日間以上かつ80時間以上の学外実習に参加・出席すること。②保育実習指導Ⅱの授業を3分の2以上出席すること。③保育実習Ⅲの評価が「可」以上であること。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、1年次の施設実習、保育所実習を振りかえり、自己課題を挙げておくこと。事後学習として施設実習を経て得られた成果と課題等を考察しレポート作成するとともに、保育士資格取得までに習得すべき知識や技能等について理解し、習得すること。

教職実践演習（幼稚園）

2年次（半期）
2単位（演習）

担当 ★芝田 圭一郎、★福井 敬充、★秋山 寛、★太田 友子

《授業の概要》

幼稚園教諭に必要な教科・教職に関する知識・技能を習得するために、幼稚園教育現場の視点を取り入れ、実践的な演習等を中心に展開する。

《学生の到達目標》

幼稚園教諭に必要な、①使命感や責任感、教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③幼児理解やクラス運営力、④保育内容に即した指導力、を身につける。

《授業計画》

1. 教職の意義や教員の役割・職務内容について
2. 自己課題の認識と自己研鑽への姿勢について
3. 幼児の成長と安全、健康管理に関する教育活動について
4. 社会性や人間関係能力について
5. 教職員との協力する教育活動について
6. 保護者支援と地域貢献について
7. 豊かな人間性とその向上について
8. 幼児の特性と発達理解について
9. 幼児理解とクラス運営について①（幼児の発達と信頼関係を通して）
10. 幼児理解とクラス運営について②（集団への指導と学級づくりについて）
11. 教材研究と教育指導案について
12. 模擬保育について（年少児）（グループで発表）
13. 模擬保育について（年中児）（グループで発表）
14. 模擬保育について（年長児）（グループで発表）
15. 幼稚園・小学校の連携について

《成績評価の方法・基準》

定期試験（60%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%）

《授業で使用する教科書》

・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼児連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、教科書の「教師の役割」に関する記述をと授業内で配布した資料をよく読んでおくこと。事後学習として、その日に学んだ授業内容について振り返りをし、「教師の役割」に関して自分なりの考え、教育観を構築していくこと。

卒業研究Ⅰ

2年次（半期）
1単位（演習）
担当 総保専任教員

《授業の概要》

個別演習と全体会により進行する。自ら課題にするゼミナールを選択する。個々の興味・関心に沿って個別に分かれ、各自の課題研究を行う。指導教員の専門的研究を基礎とした個別指導を受けながら、保育・教育や乳幼児に関する今日的課題について、学生自らがテーマ選択・調査・研究・発表・討論に関わり、探求していく。また個々の課題研究を進める過程として外部機関に赴き、フィールドワークを実施し、卒業研究の参考にする。

《学生の到達目標》

①卒業研究および短大行事への主体的な参加を行い、教育・保育・福祉の現場で通用する保育者としての基本姿勢・専門的知識・技能を身につける。②乳幼児の養護、教育、及び子育てに関する今日的諸問題・課題を探求することにより、幼児教育・保育における総合的な理解を深め、問題・課題解決に向けて自らの考えを整理することができる。③これまでに学んだ科目を横断的に応用し、学生自らがテーマ選択・調査・討論等に関わり、卒業研究として明文化することができる。

《授業計画》

1. ゼミごとによるガイダンス（目的、内容、日程、方法、評価等）
2. 卒業研究発表作成に関して
3. 各自の卒業研究テーマを設定
4. 各自のテーマを確定し、論文作成計画書を作成
5. 卒業研究計画書にそっての個別指導①
6. 卒業研究計画書にそっての個別指導②
7. 卒業研究調査①
8. 卒業研究調査②
9. 外部機関へのフィールドワーク①
10. 外部機関へのフィールドワーク②
11. 外部機関へのフィールドワーク③
12. 外部機関へのフィールドワーク④
13. 中間報告書作成指導
14. 中間報告会①
15. 中間報告会②

《成績評価の方法・基準》

卒業研究の内容および作成過程（計50%）、中間報告書（50%）から評価する。

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

各自の卒業研究テーマについて、色々な方法による個別学習の積み重ねておくこと。文献学習、インターネットによる資料収集、アンケート調査、インタビュー調査、観察調査、製作、鍛錬などの多様な研究方法による学習や他の学生との議論や共同活動を積み重ねることで自分の教育観・保育観を見つめなおしていくこと。

卒業研究Ⅱ

2年次（半期）
1単位（演習）
担当 総保専任教員

《授業の概要》

個別演習と全体会により進行する。卒業研究Ⅰに引き続いて、個々の興味・関心に沿って、各自の課題研究を行う。指導教員の専門的研究を基礎とした個別指導を受けながら、保育・教育や乳幼児に関する今日的課題について、学生自らがテーマ選択・調査・研究・発表・討論に関わり、探求していく。卒業研究テーマに対して主体的に取り組む力、自らの考えを整理する力、明文化する力、他者に伝える力、などを育成し、本学での学びの集大成的な位置づけをもって、最終的に論文をまとめ、研究発表会に参加し、研究成果を発表する。

《学生の到達目標》

①卒業研究および短大行事への主体的な参加を行い、教育・保育・福祉の現場で通用する保育者としての基本姿勢・専門的知識・技能を養い、身につける。②自らの作成した卒業研究を他者に伝えるために、自らの考えを焦点化し、表現方法を工夫することによって、卒業研究としての完成度を高める。③卒業研究発表会に参加し、自分の研究内容を他者にわかりやすく、発表し、プレゼンテーションを行うことができる。

《授業計画》

1. ゼミごとによるガイダンス（目的、内容、日程、方法、評価等）
2. 卒業研究調査①
3. 卒業研究調査②
4. 卒業研究計画書にそって、各自で研究活動①
5. 卒業研究計画書にそって、各自で研究活動②
6. 卒業研究計画書にそって、各自で研究活動③
7. 卒業研究計画書にそって、各自で研究活動④
8. 卒業研究発表会のプレゼンテーション指導①
9. 卒業研究発表会のプレゼンテーション指導②
10. 卒業研究発表会のプレゼンテーション指導③
11. 卒業研究発表会（プレゼンテーション）①
12. 卒業研究発表会（プレゼンテーション）②
13. 卒業研究発表会（プレゼンテーション）③
14. 総合発表会
15. 卒業研究活動の総括

《成績評価の方法・基準》

卒業研究の内容および作成過程（計50%）、卒業研究総括レポート（50%）から評価する。

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

各自の卒業研究テーマについて、色々な方法による個別学習の積み重ねること。個別学習が主となるので、卒業研究に対して主体かつ積極的に取り組むことが求められる。また他の学生との議論や共同活動を積み重ねることで自分の教育観・保育観を見つめなおしていくこと。

人 間 福 祉 学 科

介護の基本 1 (概論、役割)

1 年次 (半期)
2 単位 (講義)
担当 ★前田 崇博

《授業の概要》

介護福祉士として必要となる介護の知識と技術を学ぶ科目である。具体的には介護が発展してきた歴史を教授する。そして介護福祉士の誕生の社会的背景や介護福祉士の役割と任務をディベートを通して一緒に考察する。また、介護福祉士が活躍する施設や機関をビデオ学習等を通してアクティブラーニング形式で課題抽出していく。

《学生の到達目標》

介護福祉士として必要となる基本的な知識と理論について学んでいく。特に、思考力、表現力、課題設定力などを修得していく。

《授業計画》

1. 介護の歴史
2. 介護の理論と哲学
3. 介護福祉士の誕生と歴史
4. 介護福祉士の倫理綱領
5. 介護保険制度 1
6. 介護保険制度 2
7. 介護保険制度 3
8. 介護老人福祉施設
9. 介護老人保健施設
10. 有料老人ホームとサ高住
11. その他の施設の説明
12. 介護の理念と事例研究
13. 居宅介護の社会資源
14. 介護福祉士とその活躍事例
15. 介護の概念規定

《成績評価の方法・基準》

毎回、その時間内の課題をミニレポートとして書く。成績としてはそのミニレポート 50%、定期試験 50%の基準で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

教科書を指定しない代わりに毎回、拙著のプリント等を配布する。しっかり専用ノートに貼付すること。また、毎回国家試験頻出キーワードを教授するので次回まで暗記して臨むことを事前・事後学習とする

介護の基本 2 (尊厳、倫理)

1 年次 (半期)
2 単位 (講義)
担当 ★多田 鈴子

《授業の概要》

介護福祉の基本となる 理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を身につける。複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる 理念を理解する。

《学生の到達目標》

「尊厳の保持」「自立支援」という介護の基本となる考え方を理解する。介護を必要とする人を生活の視点からとらえることができる。歴史的変遷を踏まえて、理解を深める。介護福祉士の取り巻く現状、役割と機能を支える仕組み、介護サービスの概要を理解することができる。

《授業計画》

1. 介護福祉士を取り巻く状況① (介護福祉士の仕事を知る)
2. 介護福祉士を取り巻く状況② (個人ワーク) 自己覚知をする
3. 介護福祉士を取り巻く状況③ (グループワーク) 映像より学ぶ
4. 高齢者擬似体験 高齢者の世界を感じる
5. 介護福祉士の役割と機能① (求められる介護福祉士像)
6. 介護福祉士の役割と機能② (それぞれの人材が担う役割)
7. 介護福祉士の役割と機能③ (グループワーク)
8. 介護福祉士の役割と機能④ (発表)
9. 介護福祉士を支える仕組み① (専門職団体のもつ役割)
10. 介護福祉士を支える仕組み② (介護福祉士会)
11. 介護福祉士を支える仕組み③ (介護福祉の倫理綱領)
12. 介護サービス① 介護サービスの特性
13. 介護サービス② 提供の場の特異性
14. 介護サービス③ 自己実現につなげる役割
15. 国家試験対策

《成績評価の方法・基準》

定期試験 70%、課題レポートなど提出物 30%で評価する。

《授業で使用する教科書》

・介護福祉士養成講座編集委員会「介護の基本Ⅱ」中央法規出版社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、教科書を読み、予習を行いましょ。事後学習として、レポートにまとめていきましょう。日頃から、介護、福祉へ関心を持ち、新聞等の報道から情報を収集し、見聞を広めていましょう。疑問や意見等は、活発に発言して意欲的に授業に取り組みましょ。

介護の基本3 (生活歴)

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 ★瀬 志保

《授業の概要》

介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を身につける。複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。この科目では、その中でも介護を必要とする人の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを理解することを目的とする。また、生活の質を向上させる余暇活動の必要性や認知症ケアに有効な各種アクティビティの効果について理解する。

《学生の到達目標》

・介護を必要とする人に対して、その生活や生きてきた生活背景(生活歴)を理解することができる。
・介護を必要とする人を個々の生活者として捉えるとともに、生活背景や時代背景を理解した上で、支援を考えることができる。
・認知症の人が住み慣れた地域での生活を継続できる活動について、説明することができる。
・生活の質を向上させる余暇活動の必要性と認知症ケアで有効な各種アクティビティの効果について説明することができる。

《授業計画》

1. 介護を必要とする人の生活を知る
2. 介護を必要とする人が生きてきた時代背景と生活史(昭和三十九年)・価値観の理解
3. 介護を必要とする人が生きてきた時代背景と生活史(平成)・価値観の理解
4. 身近な人から学ぶ生活の多様性の理解(インタビューを通して学ぶ)
5. 身近な人の時代背景の聞き取り調査結果発表
6. 地域住民の方々から学ぶ生活の多様性の理解(グループ発表)
7. 個別性の理解・生活歴から聞き取り、時代背景を知る
8. 生活歴の理解(電化製品の進化や食事の変化から知る昭和三十九年の暮らし)
9. 生活歴の理解(映画を教材に昭和三十九年のもの考え方を考える)
10. 高齢者の暮らしの現在、介護を必要とする人の理解(認知症ケア)
11. アクティビティ・ケアの基本
12. アクティビティケアの実際(運動療法、音楽療法、園芸療法)
13. アクティビティケアの実際(化装療法、料理療法、回想法)
14. その人らしさの理解
15. その人らしさを支える介護

《成績評価の方法・基準》

定期試験60%、課題レポート、小テスト40%で評価する。

《授業で使用する教科書》

・「認知症ライフパートナー検定試験3級公式テキスト」(株) エスシーアイ

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

介護を必要とする人の個々の生活背景や生活歴を知り、その人らしさについて考えていきます。身近な人へのインタビューや地域住民の方からのインタビュー内容を通して、多様な生活を知るとともに、地域での取り組みについても学んでいきます。インタビューでは、その内容をグループごとに発表をし、クラスメイトと情報共有します。認知症ケアで用いるアクティビティの種類に関しては、教科書で内容を事前に読んでおきましょう。

コミュニケーション技術1

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 ★長橋 幸恵

《授業の概要》

利用者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。信頼関係の構築や意志決定を支援するためのコミュニケーションの基本的な技術を習得する。家族の置かれている状況・場面を理解し、家族への支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技術を身につける。情報を適切にまとめ、発信するために、介護実践における情報の共有の意義を理解し、その具体的な方法や情報の管理について理解する。

《学生の到達目標》

・本人の置かれている状況を理解し、支援関係の構築や意志決定を支援するためのコミュニケーションの基本的な技術を身につけることができる。
・障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な技術をつかちようすることができる。
・コミュニケーションのタイプを自己覚知できる。
・利用者の個々にあったコミュニケーション方法を考え、思い通りに添えるコミュニケーションを考案することができる。
・コミュニケーションにより、介護実践における情報の共有の意義を理解し、その具体的な方法や情報の管理について知ることができる。

《授業計画》

1. 介護におけるコミュニケーションの基本
2. コミュニケーションの意義と定義
3. 自己のコミュニケーションスタイルはコミュニケーションを引き出す環境づくり
4. 介護におけるコミュニケーションの役割 利用者理解について考える
5. 介護における生活支援とコミュニケーション
6. 話を聴く技法
7. 利用者の感情表現を察する技法
8. 利用者へ質問する技法
9. 相対相手の介護福祉士の役割 バイステックの7原則
10. 実習中のコミュニケーションの振り返り グループワーク
11. 利用者の意欲を引き出す技法
12. コミュニケーション障害の理解
13. コミュニケーション障害のある利用者との関わり方
14. 多職種協働 チームのコミュニケーション
15. 国家試験対策 まとめ

《成績評価の方法・基準》

試験(80点)、レポート(20点)

《授業で使用する教科書》

・介護福祉士養成講座編集委員会「最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術」中央法規

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

人は他者と関わりがなければ生きていくことができないといわれています。コミュニケーションは、介護福祉士として、利用者の生活を支える上で必要です。それは、個々に合わせたコミュニケーション方法を理解しておきましょう。自己のコミュニケーションの方法について考えることで、自己のコミュニケーションスタイルについても構築できるようになります。

コミュニケーション技術 2

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 小林 孔

《授業の概要》

日本語を使いこなすには、もちろん長い時間が必要になるが、それでも日ごろからの意識の違いで、大きな差になって現れてくる。コミュニケーションの根幹は聞くことにある。介護ではこれを「傾聴」と言う。コミュニケーション技術 I をふまえて、今年度は、対人援助能力を高める表現 (共有と共感) の基本から応用の実践までを視察型に入れて、演習を組み立てる。

《学生の到達目標》

コミュニケーションのメカニズムと特性を理解することができ、同時に、他者の表現にも共感をし、これを取り込める高度な理解力を養うことができる。演習をおとして、いかに聞く姿勢とその能力が重要になってくるかを、講座の進行とともに実感する。

《授業計画》

1. 日本語運用能力とは
2. なぜ、聞くことが重要なのか
3. 声を表現する① (ディスカッション)
4. 声を表現する② (グループワーク)
5. 声を表現する③ (発表)
6. 何を聞き取るのか① (グループワーク)
7. 何を聞き取るのか② (実践と評価)
8. 聞くことと記憶
9. 記憶と記録
10. 声で自分を伝える① (ディスカッション)
11. 声で自分を伝える② (発表)
12. 理解と共感① (グループワーク)
13. 理解と共感② (発表)
14. 共有から何を考えるか① (ディスカッション)
15. 共有から何を考えるか②まとめかえて

《成績評価の方法・基準》

演習に際して、上記の授業計画から 4 つの課題を提出する。その課題に対する取り組み内容をその都度 (1 つ、2.5 点) 評価し、加算形式で 100 点に換算する。コミュニケーション技術が、日々の積み重ねにあることが実感されるであろう。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

上記の授業計画に鑑みて、授業内での理解を最も重視する。事後の確認と実践はもちろん大切であるが、今、目の前にあるコミュニケーション場面と真剣に対峙してもらいたい。なお、事前学習に必要なプリントを、担当者がその都度配布するので目を通して欲しい。

生活支援技術 1 (概論、住居)

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 ★瀬 志保

《授業の概要》

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠 (エビデンス) に基づいた介護実践を行うための知識・技術を身につけることを目的とする。生活支援を理解するために、まずは生活とはなにかを考え、生活の個性、多様性を理解する。また、ICF の視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を身につける。また、実践の根拠 (エビデンス) について、説明できる能力を養う。

《学生の到達目標》

ICF の視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、生活の豊かさや心身の活性化のための支援につながる実践を行うことができる。また、住まいの多様性を理解し、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解し、説明することができる。さらに、福祉用具を活用する意義や目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具の選択や活用することができる。

《授業計画》

1. 生活を理解する視点
2. 生活支援の考え方 (生活支援の技法)
3. ICF の視点の説明、ICF と生活支援
4. 生活支援と介護予防の視点の理解
5. 生活支援と福祉用具の活用
6. 居住環境の整備の考え方と目的
7. 住まいの役割と種類
8. 高齢者の多様な住まい (高齢者向け住宅の種類と特徴)
9. ICF の視点と居住環境のアセスメント
10. 安全な住まい (家庭内事故、自然災害、空間構成) を考えるグループワーク
11. 高齢社会と住まい
12. 住宅改修の実践
13. 住宅のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン
14. 集団生活の場における工夫と留意点
15. 国家試験対策演習、まとめ

《成績評価の方法・基準》

授業内で提示する課題レポート、小テストの合計 40 点と試験 60 点で評価する。

《授業で使用する教科書》

・「最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I」中央法規

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、高齢者や障害者の生活、特に住環境に関するニュースに興味を持ちましょう。事後学習では、居住環境等の問題点を語る事が出来るように自分でまとめておきましょう。まずは自分の住環境の調査を行い、その後、施設等の安全に配慮された住環境に関心を持ち、課題等を意識し、理解を深めていきましょう。

生活支援技術 2 (安楽、睡眠)

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 ★多田 鈴子

《授業の概要》

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠 (エビデンス) に基づいた介護実践を行うための知識・技術を身につける。ICF の視点を生活支援に活かすことの意義を理解する。自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠 (エビデンス) について、説明できる能力を身につける。介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を身につける。『学生の到達目標』について記載してください

《学生の到達目標》

住まいの多様化を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解することができる。利用者の生活環境を整えることのできる具体的な支援技術を習得することができる。また、ベッド周辺の整えを通じて、安眠と「自立に向けた睡眠の介護」に関する知識と技術を工夫することを学ぶ。居住環境の整備および、ベッド周辺の整え方の技術を習得する。自立に向けた睡眠の重要性と安眠を促す知識と技術を述べるることができる。

《授業計画》

1. 自立に向けた居住環境整備の意義と目的
2. バリアフリー展の参加
3. バリアフリー展での学びについてのディスカッション
4. ベッドメイキングの基本と実際
5. ベッドに臥床している人がいる場合のベッドメイキングの方法
6. 自立に向けた睡眠の介護、睡眠メカニズムについて
7. 安静臥床体験
8. 安静臥床体験レポート・グループワーク
9. 褥瘡予防のための知識、安眠しやすい条件
10. 安楽の技法① (足浴、湯たんぽ)
11. 安楽な体位の工夫 (安楽用具の選択・活用) 仰臥位・側臥位
12. 安楽の技法② (水枕・手浴)
13. 安楽の技法③ポジショニングについて
14. ポジショニングの学びについてのディスカッション
15. 不眠時の対応・睡眠薬について・国家試験対策・全体のまとめ

《成績評価の方法・基準》

定期試験 70%、課題レポート・提出物など 30% で評価する。

《授業で使用する教科書》

・介護福祉士養成講座編集委員会「生活支援技術 I・II」中央法規出版社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

授業をうける、事前指導として各項目の教科書を読んで学ぶ準備をしましょう。事後指導として、レポートにまとめ、振り返りを行い、しっかりと基本の技術を身につけましょう。個々の利用者を尊重するとともに、安全で安楽な自立に向けた生活支援について環境面や睡眠の介護を通して考えていきます。実技演習にふさわしい服装に整えて参加をし、積極的に取り組ましましょう。

生活支援技術 3 (移動・移乗)

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 ★瀬 志保

《授業の概要》

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるように、根拠 (エビデンス) に基づいた介護実践を行うための知識・技術を理解し、実施できることが目的である。ICF の視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、利用者が生活を営むために不可欠である「動き」の支援を通して、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術とともに、安全で安楽な移動・移乗の支援技術を習得する。また、利用者や介護者の介護負担の軽減を図るための介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用するために必要な知識と技術を身につける。

《学生の到達目標》

・ICF の視点に基づき、移乗・移乗におけるアセスメントを行うことができる。・対象者の心身状況に応じた移動・移乗に関する適切な支援について考えることができる。・自然な体の動きを知り、その動きを妨げず、利用者、介護者ともに安全・安楽に支援を実施することができる。・利用者の残存能力、潜在能力について考え、その能力を活用、引き出す支援を実施することができる。・利用者の残存能力、潜在能力に応じた福祉用具を適切に選択することができる、活用することができる。

《授業計画》

1. 自立生活を支える移動・移乗の介護
2. 移動・移乗におけるアセスメント、ICF の考え方とアセスメント
3. 歩行介助の基本的理解、歩行介助におけるアセスメント
4. 歩行介助の実際 (視覚障害者の歩行支援、片麻痺のある人の歩行支援の演習)
5. 車いす介助の基本的理解、車いす介助におけるアセスメント
6. 車いす介助の実際 (屋内での介助、屋外での介助、様々な場面での介助の演習)
7. ボディメカニクス、自立度別、上方移動、水平移動の演習
8. 自立度別、寝返り、起き上がり介助の演習①
9. 自立度別、寝返り、起き上がり介助の演習②
10. 自立度別、寝返り、起き上がり介助の演習 (福祉用具を活用)
11. 自立度別、ベッドから車いす、車いすからベッドへの移乗介助の演習
12. 自立度別、ベッドから車いす、車いすからベッドへの移乗介助の演習 (福祉用具を活用)
13. 移動・移乗のための道具、用具の理解
14. 移動の介護における他職種との役割と協働
15. 国家試験対策演習、移動・移乗における生活支援技術の振り返り

《成績評価の方法・基準》

定期試験 60%、演習振り返りレポート、小テスト 40% で評価する。

《授業で使用する教科書》

・「最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I」中央法規

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

この授業では、利用者役と介護者役を通し、介護される側の気持ちを知る機会となる授業です。また、実際に体を動かしながら行う演習科目のため、事前準備として次回演習する項目を教科書で確認しておきましょう。また、授業後にはその日行った演習で工夫をした点や分からなかった点等をまとめるレポートを作成し、適切な支援が行えるように配布プリント等で復習し、学びを深めましょう。

生活支援技術 4（食事、口腔ケア）

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★多田 鈴子

《授業の概要》

本人主体の生活が継続できるよう、根拠（エビデンス）に基づいた介護実践を行うための知識・技術を身につける。ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解する。自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得し、実践の根拠（エビデンス）について、説明できる能力を身につける。介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を身につける。

《学生の到達目標》

自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得し、実践の根拠について、説明できる能力を身につけることができる。利用者の自立・自律を尊重し、適切な支援技術を用いて、安全に生活支援が出来る知識と技術を習得し学ぶことができる。利用者が食事を通して健康を維持し、生活を楽にすることができるように、「自立に向けた食事の介護」を学ぶ。利用者の心身の状況に応じて、おいしく、安全に自立に向けた食事が摂れるように支援技術を習得する。口腔ケアの意義と具体的な方法の知識・技術を学ぶ。

《授業計画》

1. 自立に向けた食事の介護の意義と目的
2. 「おいしく食べる」ための基礎知識
3. 「安全に食べる」ための基礎知識
4. 自立に向けた食事の介護 自立に向けた食事介助支援 座位①
5. 自立に向けた食事の介護（ディスカッション）
6. 摂食・嚥下障害のメカニズムの理解
7. 摂食・嚥下障害における介護 水分補給の重要性①
8. 摂食・嚥下障害における介護 飲み込みやすい食事の工夫②
9. 実習で学んだ食事環境整備や支援についてまとめる
10. 実習で学んだ食事環境整備や支援について（グループワーク）
11. 口腔ケアの意義と目的（嚥下維持・向上・義歯清掃）
12. 口腔ケアの実際① 自立度の高い方の支援
13. 自立に向けた食事の介護における自助具の活用
14. 生活支援の食事の介護における国家試験対策（小テスト）①
15. 生活支援の食事の介護における国家試験対策（小テスト）②

《成績評価の方法・基準》

定期試験 70%、課題レポート・小テスト 30% で評価する。

《授業で使用する教科書》

・介護福祉士養成講座編集委員会「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」中央法規出版社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

授業をうける、事前学習として各項目の教科書を読んで学ぶ準備をしましょう。事後指導として、レポートにまとめ、振り返りを行い、しっかりと基本の技術を身につけましょう。利用者の心身状況に応じた食事の支援について、安全面・環境面を含め、利用者主体の生活支援のあり方について考えていきます。実技演習に適した身だしなみに留意し、積極的に関わり合います。

生活支援技術 5（排泄）

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★多田 鈴子

《授業の概要》

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠（エビデンス）に基づいた介護実践を行うための知識・技術を身につける。ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解する。自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得し、実践の根拠（エビデンス）について、説明できる能力を身につける。介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を身につける。

《学生の到達目標》

対象者の能力を活用、発揮し、自立に向けた生活支援技術の基礎的な知識・技術を習得することができる。実践の根拠について説明できる能力を身につけることができる。排泄介護のみにとらわれず、日常生活を過ごすための自立に向けた排泄の支援を考えることができる。利用者の心身の状況に応じた適切な排泄介護の知識・技術を習得できる。

《授業計画》

1. 排泄の意義と目的排泄行為の意味の理解
2. 排泄リズムと排泄のアセスメント 動作分析
3. 感染防止の基礎知識（ノロウイルス他）排泄の基礎知識（文化・年代による違い）
4. 自立に向けた排泄の介護① トイレ誘導と介助
5. 自立に向けた排泄の介護② トイレ誘導と介助
6. 自立に向けた排泄の介護③ 尿器・便器の選択と介助 Pトイレ紹介
7. 排泄異常・排泄障害の理解 さまざまな排泄介助 機能低下と排泄
8. 自立に向けた排泄の介護④ オムツの種類と選択、介助（陰部洗浄）
9. 自立に向けた排泄の介護⑤ ゲスト講師のオムツの種類と選択、介助
10. 内臓障害理解（腎機能障害/透析（膀胱/直腸障害）
11. 心地よい排泄のための環境・レポート振り返り
12. 問題演習
13. オムツ体験レポート（提出）排泄まとめ
14. オムツの種類と選択、介助（グループワーク）
15. オムツの種類と選択、介助（まとめ）

《成績評価の方法・基準》

定期試験 70%、課題レポート・提出物など 30% で評価する。

《授業で使用する教科書》

・介護福祉士養成講座編集委員会「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」中央法規出版社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

授業をうける、事前学習として各項目の教科書を読んで学ぶ準備をしましょう。事後学習として、レポートにまとめ、振り返りを行い、しっかりと基本の技術を身につけましょう。利用者の心身状況に応じた排泄の支援について、安全面・環境面を含め、利用者主体の生活支援のあり方について考えていきます。実技演習に適した身だしなみに留意し、積極的に関わり合います。

生活支援技術6（着脱、清潔・入浴）

1年次（半期）
1単位（演習）
担当 ★長橋 幸恵

＜授業の概要＞

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠（エビデンス）に基づいた介護実践を行うための知識・技術を身につける。ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解する。自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠（エビデンス）について、説明できる能力を身につける。介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を身につける。

＜学生の到達目標＞

・利用者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術をまた、実践の根拠について、説明できる。・住まいの多様性を理解し、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について考察できる。・清潔保持についての理解ができ、説明することができる。・入浴介助（一般浴槽・機械浴槽）の際の安全な技術を習得し、介助の方法を利用者に説明しながら介助することができるようになる。・着脱介助演習では、利用者の身体状況を把握し、自立支援や自己選択を考えながら、実践できる力を身につける。・利用者の尊厳の保持や個々の生活を理解し、本人主体の生活が継続できるように、介護福祉士ができることを考える。

＜授業計画＞

1. 着脱のアセスメント・福祉用具の活用方法
2. 清潔の保持 利用者の身じたくとは
3. 衣類の選択に必要な視点 服を着用する目的（グループディスカッション）
4. 着脱介助における環境整備のポイント
5. 着脱介助演習① 自立度の高い利用者の場合（自立支援）
6. 着脱介助演習② 一部介助・全介助の利用者の場合
7. 入浴・清潔保持の意義と目的 アセスメントや入浴の効果について知る
8. 入浴に関するアセスメント・バイタルチェック
9. 安全で快適な入浴を支援するための環境整備と福祉用具の活用方法
10. 自立支援を活用した、一般浴槽での安全で快適な入浴方法演習
11. 機械浴槽の安全で快適な入浴方法演習①
12. 機械浴槽の安全で快適な入浴方法演習②
13. クリーニングを使用して、洗髪をベッド上で介助する方法と清拭について
14. 安全で快適な入浴介助のまとめ
15. 国家試験対策 まとめ

＜成績評価の方法・基準＞

授業総括（70点）、レポート（30点）

＜授業で使用する教科書＞

・介護福祉士養成講座編集委員会「最新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ」中央法規・介護福祉士養成講座編集委員会「最新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ」中央法規・「書いて覚える！ワークノート」ユーキャン

＜参考書＞

指定なし

＜事前・事後学習＞

入浴・着脱の演習で技術を習得し、実践に活かせる力を身につけるために、事前に演習内容について教科書で、事前学習をしておきましょう。演習後は、振り返りの演習レポートを書いてもらいます。演習後に自己にて、まとめて書くことで、実習前にも確認することができます。実践できるように備えましょう。技術は、何度も繰り返し演習することで、身につけることができます。事後にも、授業で学んだことを自己演習しておきましょう。

介護過程 1

1年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★瀬 志保

＜授業の概要＞

介護を必要とする人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。特に、この科目では介護過程の骨格となるアセスメントやニーズの焦点化、計画の作成、評価という一連のプロセスの基本的な解説を通して、介護過程を展開することで、介護を科学的に実践するための思考過程であることを理解することを目的とする。

＜学生の到達目標＞

・科学的に根拠を持って考えることができるために、介護実践における介護過程の意義を述べるができる。・介護過程を展開するための一連のプロセスを理解し、各内容について説明することができる。・個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じたアセスメントすることができる。

＜授業計画＞

1. 介護過程とは（介護過程の意義と目的）
2. 介護過程の考え方の背景
3. 介護過程のプロセス（アセスメント、計画の立案、実施、評価）
4. 生活支援の考え方と介護過程の必要性（具体的な場面から、必要なことの検討）
5. アセスメントの理解（アセスメントの方法、情報収集、基本的な情報項目）
6. 日本介護福祉士会 生活7領域、日常生活自立度判定基準と寝たきり度判定基準
7. 生活課題の明確化（デマンドとニーズの説明）
8. ICFの視点から考えるアセスメントの実際（事例を通して）
9. 計画の立案（介護計画の目的）
10. ケアプランと介護計画（個別介護計画）との関連
11. 介護計画の具体的な支援内容と支援方法
12. 介護計画の具体的な支援内容と支援方法
13. 介護計画の評価
14. 介護過程とケアマネジメントの関係性、チームアプローチにおける介護福祉士の役割
15. 振り返りのディスカッション、国家試験対策演習

＜成績評価の方法・基準＞

課題レポート、用語確認小テスト40%、定期試験60%で評価します。

＜授業で使用する教科書＞

・「最新・介護福祉士養成講座9 介護過程」中央法規

＜参考書＞

指定なし

＜事前・事後学習＞

各科目で学んだ知識や技術を統合し、進めていく科目となるため、他の科目で習った内容や用語等があれば、教科書で事前に調べておきましょう。また、授業後には授業内で習った専門用語を確認し、意味などを確実に覚えられるようにしましょう。介護を必要とする方は、どのような生活を望まれているのかをアセスメントを行い、考えていきます。この科目は、介護過程2、3、4、5と学びを積み上げていく、継続的に学ぶ科目です。

介護過程 2

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 ★前田 崇博

《授業の概要》

介護福祉士が人生設計をするケアプラン、介護計画について学んでいく高齢者等の自己決定権を尊重して自己実現に向けて、生活課題の分析をして、最善の方法、そして QOL と QOD の向上が見込まれる計画について考察していく。特に、毎回長寿高齢者のビデオを使ってアセスメント演習をする。さらに介護保険系の施設、居宅サービスといった社会資源について学び、どのような組み合わせが最善なのか毎回考えていく。また、国家試験の事例研究問題、総合問題に対応する知識・技術を習得していく。

《学生の到達目標》

1. 相談機関でも対応できるインテークとアセスメント能力をつける 2. 担当高齢者の人生設計するための社会資源の知識を習得する 3. 事例研究、ケーススタディでの自分の援助方針、介護計画をプレゼンテーションできるようにする。4. 将来、介護支援専門員やサービス提供責任者になれる社会福祉援助技術を習得する。5. 介護福祉士としてのケアマネジメント能力を習得する。

《授業計画》

1. 介護過程の理論と方法
2. 高齢者アセスメントの基礎理論
3. 介護過程とアセスメントの理論と方法
4. 長寿高齢者の生活課題分析
5. 認知症高齢者の生活実態
6. 認知症高齢者の介護計画
7. 孤立化、貧困化の高齢者の生活実態
8. 施設介護の課題と問題
9. 居宅介護の課題と問題
10. 介護過程のケーススタディ 1
11. 介護過程のケーススタディ 2
12. 介護福祉士のインターベンション事例研究
13. 介護福祉士のモニタリング事例研究
14. 介護過程のバズセッション
15. 高齢者対象の介護過程の役割と機能

《成績評価の方法・基準》

定期試験 40%、ミニレポート 30%、発表プレゼンテーション 30%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

予習として、前回の事例等を復習して授業に臨みましょう。授業で扱った内容、用語やその意味についても、繰り返し暗記しておきましょう。国家試験並びに最終介護実習のための知識・技術・対人能力を養成する科目です。

介護総合演習 I A

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 ★瀬 志保

《授業の概要》

実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながる内容を実施する。実習終了後には、実習を振り返りを行い、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合を行うとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を身につける。また、質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解する。介護実践における安全 (リスクマネジメント) を管理するための基礎的な知識・技術を理解し、考察する力を身につける。

《学生の到達目標》

・介護実習の種別について、事前に学習し説明することができる。・自己の実習する施設についての理解を深め、実習に臨むことができる。・知識と技術の統合を自己にて行うことができる。・介護福祉士としての、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養うことができる。・自ら積極的にコミュニケーションを図ることができる。・自分自身の考えを確立させ、自己覚知することができる。・エビデンスに基づいた介護を理解し、考察することができる。・実習の評価を真摯に受け止め、自己課題を明確にし、次回の実習につなげることができる。

《授業計画》

1. 介護総合演習 I A の意義と目的、授業の進め方の説明
2. 介護実習の意義・目的 介護実習の年間計画
3. 施設における対人サービスの実際 介護福祉士としてのマナー・接遇
4. 実習施設の種別の理解、オリエンテーションについて
5. 実習日誌の書き方①
6. 実習日誌の書き方②
7. 実習に向けての自己課題の設定 目標の設定し、達成するための具体的な方法を考える
8. カンファレンス進め方、カンファレンス用紙の書き方
9. 実習直前ガイダンス 実習の心得
10. 実習中の自己の振り返りと課題の明確化
11. 実習記録の整理 実習施設へのお礼状の書き方
12. 実習事後指導、実習の振り返り (グループディスカッション)
13. 実習報告会① 個人発表
14. 実習報告会② グループ発表
15. 実習評価のフィードバック 次回の実習にむけての自己課題の明確化

《成績評価の方法・基準》

グループディスカッション (30 点)、実習報告発表 (40 点)、レポート (30 点)

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

介護実習 I A の事前、事後の学習をサポートする科目であり、介護実習をより実りの多いものにするための科目です。実習の意義と目的を理解し、実習施設について事前調査をネットや学校にある資料などを用いて行いましょう。また、実習後は、自分自身の実習を振り返り、次回につながる課題や目標の設定についても考えましょう。

介護総合演習 I B

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 ★瀬 志保

《授業の概要》

実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながる内容を実施する。実習終了後は、実習の振り返りを行い、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合を行うとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を身につける。また、質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解する。さらに、介護実践における安全 (リスクマネジメント) を管理するための基礎的な知識・技術を理解し、考察する力を身につける。

《学生の到達目標》

・介護実習の種別を事前に学習し、説明することができる。・自己の実習する施設についての理解を深め、実習に臨むことができる。・知識と技術の統合を自己にて行うことができる介護福祉士としての、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養うことができる。・自ら積極的に利用者、施設関係職員などとコミュニケーションを図ることができる。・自分自身の考えを確立させるとともに、エビデンスに基づいた介護を理解し、考察することができる。・実習の評価を真摯に受け止め、自己覚知するとともに、自己課題を明確にし、次回の実習につなげることができる。

《授業計画》

1. 介護総合演習 I B の意義と目的、授業の進め方の説明
2. 実習に求められる取り組み姿勢 介護福祉士としてのマナー・接遇
3. 実習施設の種別の理解、オリエンテーションについて
4. 実習日誌の記入方法①
5. 実習日誌の記入方法②
6. 実習に向けての自己課題の設定 目標の設定と達成するための具体的方法の検討
7. 実習直前ガイダンス 実習の心得
8. 実習中の自己の振り返り①
9. 実習中の自己の振り返り②
10. 実習中の自己の振り返りと課題の明確化
11. 実習記録の整理 実習施設へのお礼状の書き方
12. 実習の振り返り 施設ごとにグループディスカッション
13. 実習報告会① 個人発表
14. 実習報告会② グループ発表
15. 実習評価のフィードバック 次回の実習に向けての自己課題の明確化

《成績評価の方法・基準》

グループディスカッション (30 点)、実習報告発表 (40 点)、レポート (30 点)

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

介護実習 I B の事前、事後学習のサポート科目です。介護実習をより実りの多いものにするために、福祉専門職として、望ましい態度や振る舞いについて、日頃から考えてみましょう。また事前学習として、実習の意義と目的を理解し、実習施設について事前調査をネットや学校にある資料などを用いて行いましょう。さらに実習後は、自分自身の実習を振り返り、次回につながる課題や目標の設定についても考えましょう。

介護総合演習 I C

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 ★瀬 志保

《授業の概要》

実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながる内容を実施する。実習終了後は、実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合を行うとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を身につける。また、質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解する。さらに、介護実践における安全 (リスクマネジメント) を管理するための基礎的な知識・技術を理解し、考察する力を身につける。

《学生の到達目標》

介護実習の種別を事前に学習し、自らの言葉で説明することができる。・自己の実習する施設についての理解を深め、実習に臨むことができる。介護福祉士として、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養うことができる。・自分自身の考えを確立させるとともに、エビデンスに基づいた介護を理解し、考察することができる。・実習の評価を真摯に受け止め、自己覚知するとともに、次回の実習につなげることができる。・自ら利用者、施設関係職員などとコミュニケーションを図ることができる。

《授業計画》

1. 介護実習 I C とは (施設の種別の理解・説明・日程期間などの説明)
2. 介護実習 I C の意義と目的 (実習のマニュアルにて説明する)
3. 介護実習 I C で求められる応用的な技能・知識・介護観とは何か
4. オリエンテーションに向けての指導・提出書類の作成
5. 実習に向けて自己課題と実習目標の立案 (担当者個別指導)
6. 実習目標の清書 (担当者個別指導)
7. 実習直前指導 (担当教員指導・巡回確認)
8. 実習中の自己の振り返り①
9. 実習中の自己の振り返り②
10. 実習成果報告 (1) 実習での学び個人発表
11. 実習の振り返り 施設ごとにグループワーク
12. 実習の振り返り 施設ごとの概要 グループワーク発表
13. 実習事後指導①自己評価表と施設評価面の振り返り
14. I C 段階のフィードバック (担当教員より評価表にて)
15. 次回の実習に向けての自己課題の明確化

《成績評価の方法・基準》

実習終了後の成果発表 (50%) 課題提出物・レポート (50%) で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習では、介護実習 I A・I B での学びを振り返ることで、知識や技術の理解度を把握し、自分の目標や課題をしっかりと理解しておきましょう。事後学習では、目標に対して自分自身の苦手なことを明確にして、次の学び目標につなげていきましょう。介護実習 I C の実習前後の学習を行う科目であり、実習をより多いものにするための授業です。事前準備を整え、緊張感を持って受講しましょう。

介護実習 I A

1 年次 (半期)
2 単位 (実習)
担当 ★瀬 志保

《授業の概要》

介護福祉士の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成することを目的とする。また、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得し、実践の根拠 (エビデンス) について説明できる能力を身につける。さらに、地域における様々な場面において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基本的な能力を身につける。

《学生の到達目標》

・介護実習の種類について、事前に学習し説明することができる。・自己の実習する施設についての理解を深め、実習に臨むことができる。・知識と技術の統合を自己にて行うことができる介護福祉士としての、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養うことができる。・自ら積極的に利用者、施設関係職員などとコミュニケーションを図ることができる。・エビデンスに基づいた介護を理解するとともに、自分自身の考えを確立させ、考察することができる。・実習の評価を真摯に受け止め、自己覚知をし、自己課題を次回の実習につなげることができる。

《授業計画》

1. 実習期間は6月中旬とし、実習日数は12日間とする。
2. 介護総合演習 I A で学んだ事前指導をよく理解し、実習に臨む。
3. 介護保険法や障害者総合支援法に準拠する利用者に関する生活支援の実際を学ぶ。
4. 利用者を支える職員の業務の実際と基本的な生活の流れを理解する。
5. 実習指導者の指導のもと、基本的な生活場面での支援について観察を中心として学ぶ。
6. 自己の実習目標に基づき、日々の実習目標を作成し、実施する。
7. 自己の目標課題を達成できるように学びを深める。
8. 一日1枚 (両面 A 4) の日誌を適切な表現で丁寧に記入し、提出する。
9. 実習期間中は、決められた時間を守り、体調管理をする。
10. 実習中に登学日を設置し、日誌の指導や学びの確認を行う。
11. 利用者、職員と礼儀正しく接し、コミュニケーションを行う。
12. カンファレンスで目標の達成状況を確認し、実習指導者、担当教員から指導を受ける。
13. 実習終了後は、日誌の整理をし、内容についての振り返りをする。
14. 実習評価から実習指導者の指導を受け止め、次回の実習課題を考える。
15. 実習終了後、実習目標の達成状況を評価する。

《成績評価の方法・基準》

施設の実習指導者による評価 (30 点)、担当教員による評価 (70 点)

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

介護総合演習にて、事前事後学習を行い、サポートしていきます。実習中に、わからない介護用語や技術等があれば、教科書などで調べたり、実習施設の方こそ場で質問を行い、すぐに解決していくようにしましょう。また、実習目標を達成するためには、毎日の実習目標が重要となります。実習内容を振り返り、自分は何を学びたいのかをしっかりと考えて、翌日の目標を立案していきましょう。

介護実習 I B

1 年次 (半期)
2 単位 (実習)
担当 ★瀬 志保

《授業の概要》

地域における様々な場面において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基本的な能力を身につける。また、介護福祉士の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成する。自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。さらに、実践の根拠 (エビデンス) について、説明できる能力を身につける。

《学生の到達目標》

・介護実習の種類について、事前に学習し説明することができる。・自己の実習する施設についての理解を深め、実習に臨むことができる。・知識と技術の統合を自己にて行い、介護福祉士としての介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養うことができる。・自ら積極的に利用者、施設関係職員などとコミュニケーションを図ることができる。・言語的コミュニケーションのみならず、非言語的コミュニケーションを活用実践することができる。・エビデンスに基づいた介護を理解するとともに、自分自身の考えを確立させ、考察することができる。・実習の評価を真摯に受け止め、自己覚知を行い、次回の実習につなげることができる。

《授業計画》

1. 実習期間は10月下旬とし、12日間の障害者支援施設などで実習する。
2. 介護総合演習 I B で学んだ事前指導をよく理解し、実習に臨む。
3. 事前訪問を行い、実習指導者からオリエンテーションを受ける。
4. 利用者の生活課題について考える。
5. 安全性、快適性について観察をし、環境整備の重要性を学ぶ。
6. 学内で学んだ知識・技術を実習施設で実践し、その根拠について考察する。
7. 地域における施設の役割・意識について、実習施設の取り組みから学ぶ。
8. 障害者対応に合わせた、コミュニケーション技術を学ぶ。
9. 自己の目標の達成状況を確認し、指導を受ける。
10. 実習中に登学日を設置し、日誌の指導や学びの確認を行う。
11. 実習目標に基づいた内容で支援場面を具体的に表現し、実習日誌に記録する。
12. カンファレンスで目標の達成状況を確認し、実習指導者、担当教員から指導を受ける。
13. 実習終了後は、日誌の整理をし、内容についての振り返りをする。
14. 実習評価から、実習指導者の指導を受け止め、次回の実習課題を考える。
15. 実習終了後、実習目標の達成状況を評価する。

《成績評価の方法・基準》

施設の実習指導者による評価 (30 点)、担当教員による評価 (70 点)

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

介護総合演習で事前事後学習を行い、サポートしていきます。実習に行くまでに、わからない介護用語や技術等があれば、教科書などで調べ学習をし、確認しておきましょう。実習時に疑問があれば、その場で質問を行い、すぐに解決していくようにしましょう。また、実習目標を達成するためには、毎日の実習目標が重要となります。実習内容を振り返り、自分は何を学びたいのかをしっかりと考えて、翌日の目標を立案していきましょう。

介護実習 I C

1 年次 (半期)
2 単位 (実習)
担当 ★瀬 志保

《授業の概要》

地域における様々な場面において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う応用的な能力を身につける。また、実践の根拠 (エビデンス) について、説明できる能力を身につける。そのために、利用者の生活を理解するため、アセスメント能力 (情報収集) を身につけ、本人の望み、希望等を理解する。また、介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを理解する。多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを知る。

《学生の到達目標》

・介護福祉士としての、介護実践に必要な観察力、判断力及び思考力を養うことができる。
・根拠に基づく介護を理解するとともに、自分自身の考えを確立させ、考察することができる。
・利用者の生活におけるニーズを知り、障害に応じた適切な生活支援技術を得ることができる。
・また、多職種との連携の実際を学び、介護福祉士の果たす機能や役割を理解することができる。
・実習評価を真摯に受け止め、自己覚知をし、自己課題を明確にさせ、次回の実習につなげることができる。

《授業計画》

1. 実習期間は2月中旬とし、17日間の施設介護実習とする。
2. 介護総合演習 I Cで学んだ事前指導をよく理解し、実習に臨む。
3. 介護老人福祉施設、介護老人福祉施設等において実習する。
4. 事前質問を行い、実習指導者からオリエンテーションを受ける。
5. 専門職の業務内容について把握し、地域における施設の役割・意義について理解する。
6. 入浴・排泄・着脱・食事・移動といったADLに対応した生活支援技術の実践を行う。
7. 多職種との連携のなかで、介護福祉士としての専門性を理解する。
8. 買い物や趣味の活動などADLの「買い物や趣味の生活支援技術の実践を行う。
9. レクリエーションを中心とした余暇活動支援を学ぶ。
10. 実習中に登学日を設置し、日誌の指導や学びの確認を行う。
11. 利用者の生活課題を抽出するために、アセスメントを行う。
12. カンファレンスで目標の達成状況を確認し、実習指導者と担当教員から指導を受ける。
13. 実習終了後は、日誌の整理をし、内容についての振り返りをする。
14. 実習評価から、実習指導者の指導を受け止め、次回の実習課題を考える。
15. 実習終了後に、実習目標の達成状況を評価する。

《成績評価の方法・基準》

施設の実習指導者による評価 (30点) 担当教員による評価 (70点)

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

実習の目的や内容など、実習に関する詳細は「介護実習マニュアル」を参照しましょう。実習では、「何を、どう学びたいのか」というはっきりさせておくことが大切です。目的意識を明確にし意欲的に実習に取り組みましょう。わからないことがあれば、すぐに実習指導者や実習担当者などに質問や助言を仰ぎ、疑問を解決していきましょう。

発達と老化の理解 2

1 年次 (半期)
2 単位 (講義)
担当 ★宮崎 恭子

《授業の概要》

人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。特に老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や、高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を習得することを目的とする。

《学生の到達目標》

老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化を知る。また、高齢者に多くみられる疾病と身体的不調の訴えや症状出現の特徴を理解する。それとともに、高齢者の生活への影響や、健康の維持・増進を含めた生活について考え、高齢者の暮らしを支える介護福祉士として必要な知識の習得をし、その役割について自身の考えをまとめることができる。適宜、小テストを行い知識の習得の振り返りを行うことで、知識の定着ができる。

《授業計画》

1. 高齢者における病気の割合やその症状の現れ方の特徴
2. 廃用症候群、老年症候群
3. 高齢者の生じやすい症状や病気 (かゆみ、褥瘡、不眠)
4. 高齢者の生じやすい症状や病気 (意識障害、発熱、脱水)
5. 高齢者の生じやすい症状や病気 (深部静脈血栓症、運動器不安定症)
6. 高齢者に多い病気と日常生活 (糖尿病)
7. 外部監師 (糖尿病認定看護師) による講義と実習
8. 高齢者に多い病気と日常生活 (脂質異常症と心筋梗塞)
9. 高齢者に多い病気と日常生活 (高血圧、脳卒中)
10. 高齢者に多い病気と日常生活 (骨折・骨粗鬆症)
11. 高齢者に多い病気と日常生活 (感染症)
12. 要介護高齢者の介護で出合う病気 (脳、精神、呼吸器、心臓・血管)
13. 要介護高齢者の介護で出合う病気 (腎臓、消化器、骨・関節、筋肉、泌尿器)
14. 要介護高齢者の介護で出合う病気 (皮膚、目・耳・歯・口腔、感染症、血液・代謝)
15. 要介護高齢者にかかわる介護福祉士と保健・医療職との連携を考える (グループワーク)

《成績評価の方法・基準》

グループワークへの参加 20点 (話し合い参加の積極性、グループへ貢献する作業能力、うなづきや相槌などのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など)、小テスト・レポート 30点、定期試験 50点で評価する。

《授業で使用する教科書》

・林 泰史・長田 久雄「最新介護福祉全集9 発達と老化の理解」メチカルフレンド社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、高齢者を理解するために、さまざまな情報を興味をもって調べましょう。また、高齢者に多くみられる疾病と症状、状態の知識の定着を図るため、小テストを適宜します。授業の復習を行い、小テストを受けるようにしましょう。事後学習として、小テストの結果を振り返り、その部分を再度復習しましょう。高齢者の生活の観点から考えてみましょう。

認知症の理解 1

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★宮崎 恭子

《授業の概要》

2025年には、認知症の人が約700万人となる。その方々を支える専門職の一端を担うのが介護福祉士である。認知症の人を取り巻く歴史的な背景や、国の施策を理解し、また、認知症といった疾患を医学的・依職として学ぶことが、認知症の人を理解することにつながる。適切なかわり方やケアを行うために、知識を習得し、自身の介護観を構築することができるようにする。さらに、認知症の人が、たとえ認知症となったとしても住み慣れた場所で暮らし続けることができるか、どのような支援があるのか、医療職との連携をするために必要なことは何かと考える力を養成することを目的とする。

《学生の到達目標》

認知症の人が、その尊厳を侵されず、一人の人として尊重され、その後の暮らしを継続させていくためには介護福祉士として何が出来るのか、どうすべきなのか、どのようにしたいのかなどといったことが考えられるようになる。そのためには、認知症の人の過去、現在、未来を知り、また、医学的な知識も習得し、理解を深める、自身の介護観を構築することが必要である。今後増えるであろう認知症の人の介護を担うリーダーとしての資質も高めることができる。さらに、暮らしを支えるサポート体制を知り、多職種連携・協働による支援を考えることもできる。

《授業計画》

1. 認知症とは何か・報道、本、DVD などからとらえた認知症について考える
2. 認知症ケアの歴史（認知症の人の過去と現在、現在から未来へ）を知る
3. 認知症ケアの理念と視点をグループで話し合いをし、自身の介護観の一助とする
4. 認知症の人のさまざまな症状（中核症状）を理解する
5. 認知症の人のさまざまな症状（BPSD）を理解する
6. 脳のしくみを知る理解する（小テスト）
7. 認知症の原因疾患（アルツハイマー型認知症、血管性認知症）を理解する
8. 認知症の原因疾患（レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症）を理解する
9. 認知症の原因疾患（その他）を理解する（小テスト）
10. 認知症の診断と治療を知る
11. 認知症の予防について知り、実践する（グループワーク）
12. 認知症の人の心理を考える（グループワーク）
13. 地域の方を活かすサポート体制を知る
14. 地域の方を活かすサポート体制、チームアプローチの実際を調べる
15. 認知症に関する制度や関係機関を調べる

《成績評価の方法・基準》

グループワークへの参加 20 点（話し合い参加の積極性、グループへ貢献する作業能力、うなづきや相槌などのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など）、小テスト・レポート 30 点、定期試験 50 点で評価する。

《授業で使用する教科書》

・介護福祉士養成講座編集委員会「最新・介護福祉士養成講座第 13 巻 認知症の理解」中央法規

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

超高齢化社会となった日本において今後、増え続けるとされている認知症の人を尊重、理解することは、介護福祉士として大切なことです。認知症の人のことを理解するうえでも、事前学習として、さまざまな報道や、本、DVD などから情報を得、自分なりの考え、知識の獲得に努めましょう。事後学習として、認知症ケアについて基礎的な知識の振り返りとともに、自身の介護観の構築に努めましょう。

認知症の理解 2

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★瀬 志保

《授業の概要》

2025年には認知症の人が約700万人となると見込まれている。その方々を支える専門職の一端を担うのが介護福祉士である。利用者の一番身近な存在である介護福祉士として、認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、本人主体のケアが実践できる力を養う。また、ご本人のみならず、家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援を考察できることや地域で支えるサポート体制を知り、多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を理解することを目的とする。

《学生の到達目標》

・地域社会の中で認知症の人が尊厳を持ち、今までの生活を継続していくために必要となる認知症ケアについて、説明することができる。・基礎的な知識として、地域で支えるサポート体制を理解することができる。・本人主体のケアを実践するために、認知症の人の生活、家族、社会との関わりを理解し、説明することができる。・認知症の人の生活を支えている家族の課題等にも目を向け、介護負担の軽減や介護を継続するために必要となる基礎的な知識を学び、サポートすることができる。

《授業計画》

1. 認知症の人の介護をしていくために（当事者の声に学ぶ）
2. 認知症の人の体験演習（DVD等映像から認知症の疑似体験を通して考える）
3. 認知症の症状と環境との関係（中核症状、周辺症状の復習と環境の変化を和らげる支援）
4. 環境によるはたらきかた
5. 若年性認知症の人の生活の理解と支援（若年性認知症の状況を知る）
6. 若年性認知症の人の生活の理解と支援（DVD等映像から必要な支援のあり方考える）
7. 認知症の人への関わりの基本（グループワーク）
8. 認知症ケアの実際①「一人」中心ケア
9. 認知症ケアの実際②認知症の人へのケア
10. 認知症ケアの実際③認知症の人へのさまざまなアプローチ
11. 家族が背負う四つの苦しみ、家族へのレスパイトケア
12. 家族へのエンパワメントの基本、家族会と介護者教室
13. 認知症の人の地域生活支援①（認知症施策推進総合戦略について）
14. 認知症の人の地域生活支援②（認知症サポーター等の社会資源）
15. 認知症の人の地域生活支援③多職種連携と協働

《成績評価の方法・基準》

認知症ケアに関する内容の課題レポート、授業内容確認小テスト 40%、定期試験 60%で評価する。

《授業で使用する教科書》

・「最新・介護福祉士養成講座 13 認知症の理解」中央法規

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

少子高齢化社会の日本で、今後、増え続けるであろう認知症の人を地域で支えていくために、認知症について多くの人々が理解し、生活を支えていけるよう、家族、地域のサポート体制について学びます。認知症の理解1で学んだ、認知症に関する歴史、症状、原因となる疾患の理解は不可欠です。この科目の受講に際して、事前準備として中核症状やBPSD等について復習をしておきましょう。事後学習では、教科書で内容を復習しましょう。

障害の理解 1

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★山本 永人

《授業の概要》

介護に必要な人は高齢者のみならず、障害を持つ人々もその対象です。この授業では、講師の現場体験をもとに、介護福祉士に求められる障害の基本的な知識を学習します。最初に障害の理念や考え方を押さえ、その後介護現場で出会うことのできる障害を中心にその特性や支援のあり方を具体的に解説します。

《学生の到達目標》

介護福祉士として対人援助の現場で活躍するための基本的な障害を持つ人々の特性を十分に理解する。特に現場で対応する機会が多い脳性マヒ、筋ジストロフィー、脳血管疾患（高次脳機能障害を含む）、脊髄損傷などの身体障害、精神発達障害や自閉症スペクトラム障害などの知的障害、統合失調症や気分障害などの精神障害などの障害を社会的モデルやノーマライゼーションをはじめとした理念、我が国の障害者福祉の変遷を踏まえながら理解する。そのうえでの当たり前の人間として接することのできる介護福祉士の基本的な障害者観や支援における基本的な姿勢を身につける。

《授業計画》

1. 障害者の範囲とその実態（人権としての視座・障害者の定義・範囲）
2. わが国の障害者福祉の歴史①（石井亮一・糸賀一雄、憲法25条 生存権）
3. わが国の障害者福祉の歴史②（措置制度から利用契約制度へ 国際障害者年）
4. 障害者福祉の基本的な理念①（ノーマライゼーション）
5. 障害者福祉の基本的な理念②（リハビリテーション）
6. 肢体不自由者の障害特性とその支援①（麻痺の種類・脳性マヒ・筋ジストロフィー）
7. 肢体不自由者の障害特性とその支援②（脳血管障害・高次脳機能障害・脊髄損傷）
8. 知的障害の理解①（知的障害者とは 法的定義）
9. 知的障害の理解②（ピアジェの発達段階論 支援のポイントとして 就労支援）
10. 自閉症スペクトラム障害の理解①（自閉症とは その歴史 自閉症の三つ組）
11. 精神障害の理解①（統合失調症）
12. 精神障害の理解②（気分障害・依存症）
13. 発達障害の理解（ADHD・LD・高機能自閉症）
14. 障害のある当事者の人から ケーススタディ
15. 障害とはを考えるディスカッション

《成績評価の方法・基準》

試験 80% レポート 20%

《授業で使用する教科書》

・前田 崇博「やさしく学ぶ介護の知識③ ころとからだのしくみ」久美出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：教科書 p89～p144 を繰り返し熟読すること。授業のそれぞれの単元に該当する部分を、シラバスに（ ）で示しているキーワードを中心に事前に調べておきましょう。（30分）
事後学習：授業で配布されたプリントを使って、シラバスに示されているキーワードの意味や内容を振りかえり、自身の知識や障害者観に反映できたかどうか確認しましょう。（60分）

ころとからだのしくみ 2（医学知識）

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★緒方 都

《授業の概要》

介護実践に必要な根拠となる心身の構造や機能について理解し、身体的・心理的・社会的側面を総合的にとらえるための知識を身につける。対象者の生活を支援するという観点から、医療職と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識を身につける。各臓器のしくみを知り、どのような病気によりどのような不都合がおき、その状況をどう介護しなければならぬかを学び、根拠とともに考える。また高齢者や障がい者に多い疾患についての特徴などを原因と関連性を考えながら知る。国家試験該当範囲の出題基準内容も組み込みながら、必要な基礎医学知識と関連知識もあわせて学ぶ。

《学生の到達目標》

1. ころとからだのしくみについて、おもな病気や障害の基礎的事項を説明することができる。
2. それぞれの病気や障がいについて必要な介護の視点を具体的に述べる事ができる。
3. 多職種連携に必要な基本的な医学用語を理解し、使うことができる。

《授業計画》

1. オリエンテーション からだ地図を描いてみる 体の部位・臓器の名称
2. からだのしくみの理解 身体各部の名称と臓器の位置の確認 基本的な医学用語
3. からだのしくみの理解 骨と筋肉の名称はたらき 関節の種類・名称はたらき 小テスト
4. からだのしくみの理解 骨小テスト 呼吸器のしくみ 呼吸器の病気
5. からだのしくみの理解 呼吸器小テスト 循環器のしくみ 心臓・血管の病気調べまとめ
6. からだのしくみの理解 血液のはたらき、アレルギー、アナフィラキシー
7. からだのしくみの理解 循環器小テスト 消化管のしくみ 消化器系の病気 口腔しくみ
8. からだのしくみの理解 泌尿器のしくみ 泌尿器の病気 生殖器のしくみ 女性のからだ
9. からだのしくみの理解 生命の維持と恒常性 バイタルサインの測定演習
10. からだのしくみの理解 中枢神経と末梢神経 神経の病気
11. からだのしくみの理解 感染のしくみを調べる 感染症
12. からだのしくみのまとめ 小テスト
13. からだのしくみの理解 国家試験対策演習
14. ころとからだのしくみの理解 人間の欲求・自己実現と尊厳 ころとからだのしくみの基礎
15. ころとからだのしくみのまとめ からだのしくみのまとめ小テスト

《成績評価の方法・基準》

試験 70%、レポート・小テスト 30%で評価する

《授業で使用する教科書》

・小坂橋喜久代編「最新介護福祉全書 12 ころとからだのしくみ」メヂカルフレンド社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、該当内容の範囲を教科書や配布プリントで予習しておきましょう。また授業内で小テストを実施しますので、プリントやノートなどで復習しておきましょう。介護を実践するために必要な知識ですが自分自身のからだを知ることであります。医学用語や疾患名など慣れない言葉も多いと思いますが、多職種連携の共通言語として理解できるようにしましょう。

こころとからだのしくみ3 (身じたく、食事、入浴)

1 年次 (半期)
2 単位 (講義)
担当 ★緒方 都

《授業の概要》

介護実践に必要な根拠となる心身の構造や機能について理解し、身体的・心理的・社会的側面を総合的にとらえるための知識を身につける。対象者の生活を支援するという観点から、医療職と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識を身につける。ここでは特に、身じたく・食事・入浴に関連したこころとからだのしくみを学び、機能の低下や障害が生活に及ぼす影響について考える。介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する。国家試験該当範囲の出題基準内容を組み込みながら、必要な基礎医学知識と関連知識もあわせて学ぶ。『学生の到達目標』について記載してください。

《学生の到達目標》

1. 根拠に基づいた生活支援が行えるよう、身じたくに関連したこころとからだのしくみの基礎的な知識を理解し、機能低下や障害が生活に及ぼす影響について述べることができる。
2. 根拠に基づいた生活支援が行えるよう、食事に関連したこころとからだのしくみの基礎的な知識を理解し、機能低下や障害が生活に及ぼす影響について述べるができる。3. 根拠に基づいた生活支援が行えるよう、入浴・清潔に関連したこころとからだのしくみの基礎的な知識を理解し、機能低下や障害が生活に及ぼす影響について述べるができる。

《授業計画》

1. オリエンテーション 消化器系のしくみ
2. 食事に関するしくみの理解① 介護食に関する情報収集
3. 食事に関するしくみの理解② 情報収集のまとめと発表
4. 食事に関するしくみの理解③ 栄養素のエネルギー、食事バランスガイド 自身の食評価
5. 食事に関するしくみの理解④ 食欲のしくみ、血糖値、五感
6. 食事に関するしくみの理解⑤ 小テスト、摂食嚥下のしくみ、口腔のしくみ
7. 食事に関するしくみの理解⑥ 消化と吸収、消化器のしくみ、消化酵素、治療食調べ
8. 食事に関するしくみの理解⑦ 機能低下や障害が及ぼす影響、窒息 誤嚥、脱水
9. 身じたくに関するしくみ① 小テスト、身じたくの必要性、顔を構成する骨と筋肉
10. 身じたくに関するしくみ② ものが見えるしくみ、眼の構造、眼の病気
11. 身じたくに関するしくみ③ 耳の構造、鼻の構造、爪の構造、小テスト
12. 清潔に関するしくみ① 皮膚のよたつきと構造、発汗、汚れのしくみ
13. 清潔に関するしくみ② 入浴・清潔保持の意義と目的
14. 清潔に関するしくみ③ 入浴がからだに及ぼす影響、静水圧、ヒートショック
15. まとめ 国家試験問題演習

《成績評価の方法・基準》

試験70% 小テスト、レポートなど提出物30%で評価する。

《授業で使用する教科書》

・小椋喜久代編「最新介護福祉全書12 こころとからだのしくみ」メヂカルフレンド社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習としては、該当内容の範囲を教科書や配布プリントで予習しておきましょう。また授業内で小テストを実施しますので、プリントやノートなどで復習しておきましょう。介護を実践するために必要な知識ですが自分自身のからだを知ることもあります。医学用語や疾患名など慣れない言葉も多いと思いますが、多職種連携の共通言語として理解できるようになります。

こころとからだのしくみ4 (排泄、睡眠、終末期)

1 年次 (半期)
2 単位 (講義)
担当 ★緒方 都

《授業の概要》

介護実践に必要な根拠となる心身の構造や機能について理解し、身体的・心理的・社会的側面を総合的にとらえるための知識を身につける。対象者の生活を支援するという観点から、医療職と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識を身につける。ここでは特に、排泄・休息と睡眠・人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみを学び、機能の低下や障害が生活に及ぼす影響について考える。介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する。国家試験該当範囲の出題基準内容を組み込みながら、必要な基礎医学知識と関連知識もあわせて学ぶ。

《学生の到達目標》

1. 根拠に基づいた生活支援が行えるよう 排泄に関連したこころとからだのしくみの基礎的な知識を理解し、機能低下や障害が生活に及ぼす影響を述べるができる。
2. 根拠に基づいた生活支援が行えるよう、睡眠と休息に関連したこころとからだのしくみの基礎的な知識を理解し、機能低下や障害が生活に及ぼす影響を述べるができる。
3. 人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響を述べるができる。その生活支援に必要な知識と介護を根拠とともに説明することができる。

《授業計画》

1. オリエンテーション 泌尿器系のしくみ
2. 排泄に関するしくみの理解① 排便のしくみ、消化器の解剖、消化器の病気
3. 排泄に関するしくみの理解② 排尿のしくみ、泌尿器の解剖、泌尿器の病気
4. 排泄に関するしくみの理解③ 排泄障害について
5. 排泄に関するしくみの理解④ 小テスト、機能低下と影響、変化の気づき、アセスメント
6. 睡眠に関するしくみの理解① 睡眠のパターン、自身の睡眠日記を記録する
7. 睡眠に関するしくみの理解② 睡眠日記から睡眠についてディスカッション、睡眠障害
8. 睡眠に関するしくみの理解③ 睡眠とホルモン、まとめプリント
9. 睡眠に関するしくみの理解④ 小テスト
10. 終末期に関するこころの理解① 人生の最終段階にある人の心の理解、読後感の発表
11. 終末期に関するこころの理解② 死の受容過程の理解、キューラーロス
12. 終末期に関するしくみの理解③ 死の捉えかた、生物学的死、法律的死、医学的死
13. 終末期に関するしくみの理解④ 臨終期の体の変化、死後の体の変化、グループケア
14. 終末期の理解⑤ 「介護現場でのみとりについて」外部講師による講義(グループワーク)
15. 終末期に関する理解⑥ まとめ 小テスト

《成績評価の方法・基準》

試験70% 小テスト、レポートなど提出物30%で評価する

《授業で使用する教科書》

・小椋喜久代編「最新介護福祉全書12 こころとからだのしくみ」メヂカルフレンド社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習としては、該当内容の範囲を教科書や配布プリントで予習しておきましょう。また授業内で小テストを実施しますので、プリントやノートなどで復習しておきましょう。介護を実践するために必要な知識ですが自分自身のからだを知ることもあります。終末期は家族の支援も考えましょう。医学用語や疾患名など慣れない言葉も多いと思いますが、多職種連携の共通言語として理解できるようになります。

人間福祉基礎 I

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★山本 永人

《授業の概要》

介護福祉士を目指す学生へ自分の介護観について考えることで、自分の理想とする介護福祉士像を構築していく。他者の価値観も聞くことで、多様な考え方も理解し、一人ひとり専門的能力を向上できるようにディスカッションをする。基本的な利用者の生活を理解して幸せな人生設計することについても考える。

《学生の到達目標》

自分の目指す介護について述べるができる。他者の意見を傾聴できるとともに、積極的に自己の考えを発言することができる。自身の支援者としてのストロングポイントや自己課題の認識等、自己覚知ができる。利用者の幸せがどのようなことか、考えることができるようになる。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 出合いのグループワーク（福祉的なビンゴゲーム）
3. あなたのコミュニケーションスタイルは
4. エンパワメントのためのお絵かき 温めの言葉を考える
5. ロールプレイ もしも障害の赤ちゃんが産まれたら
6. 14の心で聴く
7. 自己開示のための私マップ
8. 介護福祉士に大切なからだほどこだ
9. リーダーシップを考える
10. 好き嫌いの延長戦に 自分の価値観の変容
11. 人間知恵の輪 命を支えるために 風の電話が伝えること
12. 先輩たちが活躍している現場から① 目指すべき支援者の姿
13. 先輩たちが活躍している現場から② 目指すべき支援者の姿
14. 5分間プレゼンテーション 自分の目指すべき方向とは
15. 振り返りのディスカッション

《成績評価の方法・基準》

毎回、振り返りシートの記入を行います。その内容の評価が50%5 分間プレゼンテーション30%レポート 20%（振り返りシートとは別にレポート課題を最後に設定します。）

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習について 毎回の授業前に「考えるヒント」を配布します。そこに記載されているキーワードについて自分の考えをまとめてください。(30分)事後学習について 毎回の授業後に「振り返りシート」の記入を行います。それぞれの授業で行ったワークショップ等の学びを自分自身で整理してください。(90分)

人間福祉基礎 II

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★多田 鈴子

《授業の概要》

介護福祉士を含めた社会福祉に関わるものとして人間の生活を理解し、その援助方法を理解する。生活には、どのような要素が含まれどの部分が援助の対象になるのかを明らかにしたい。生活の中で生じる諸問題に注目し、映像やグループワークを通して考えていく。

《学生の到達目標》

対人援助職である介護福祉士が持つべき価値観や倫理観を身につけることができる。人間の生き方を理解し必要な援助内容を考えられる能力を養うことができる。介護現場に求められる、社会人として必要な能力も養うことができる。

《授業計画》

1. 人間福祉基礎IIとは何か。
2. 生活歴へのアプローチ（自分史を考える）
3. 映像より考える①（認知症を学ぶ）
4. 映像より考える②（障害者の事例を通して）
5. 映像より考える③（介護福祉士の仕事）
6. 介護現場の現状の理解① 施設にて行事参加
7. 介護現場の現状の理解② 施設にて行事参加
8. グループワーク①絵本の読み聞かせ
9. グループワーク②絵本の読み聞かせ
10. 課外活動①（地域の清掃）
11. 課外活動②（地域のふれあい）
12. グループワーク（季節の壁画を作成）
13. グループ活動①（工場見学）
14. グループ活動②（工場見学・ディスカッション）
15. 課題レポート

《成績評価の方法・基準》

グループワーク並びにプレゼンテーション50% レポート提出50%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、何事にも興味をもちテーマを考えて授業に取り組み、毎回、自分の気持ちを伝えましょう。事後学習として、少人数の授業形態であり、協力して学びましょう。介護福祉士としての資質や感性を高めていきましょう。何事にも興味をもち参加しましょう。

大阪の人と文化

1 年次（半期）
1 単位（講義）
担当 小林 孔

《授業の概要》

本講座は、大阪の人と文化を広く対象としたフィールドの中から、各自の興味と関心に従ってテーマを設定し、取材をとおして、これを多くの読者に伝える、ジャーナリズムの入り口を体験する内容となる。受講生がそれぞれ取材した記事を編集し、1冊のミニコミ誌を完成させる。その完成に必要ないくつかの手続きを説明し、取材の方法や記事のまとめ方、編集の方法、校正の最終過程までを指導する。ミニコミ誌「大阪まっとコミ」の発行に向け、内容の充実を努めたい。

《学生の到達目標》

「大阪まっとコミ」（B4判20頁）を発行するためには、取材に出掛けるまでの準備と取材後の文章化と記事のデザインとの3要素を十分に理解し、実践に移さなければならぬ。よい取材ができること、読者につたわる文章が書けること、手にとってながめてもらえる編集ができるようになる。これらを到達の目標に設定したい。学生時代に作った1冊を、就職先への手土産にしてもよいでしょう。

《授業計画》

1. 取材対象、大阪の人、大阪の文化 過去の記事の紹介
2. テーマ設定
3. 取材立案と計画①（グループワーク）
4. 取材立案と計画②（グループ発表）
5. 写真の撮り方と許可
6. 取材（フィールドワーク）
7. 取材（フィールドワーク）
8. 取材事後報告と記事の執筆
9. 記事の執筆と誌面づくり
10. 誌面づくり
11. 割付と編集
12. 全体編集と記事の修正
13. 読み合わせ
14. 最終校正
15. 発行へむけて

《成績評価の方法・基準》

取材立案計画書（30%）、取材事後報告書（30%）、および完成した担当記事の内容（40%）に基づいて、100点に換算して評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

シラバスの項目はあくまでもミニコミ誌の完成に向けた手順であり、今までに発行したミニコミ誌を読んで事前学習にしたい。取材のための事前準備、記事を仕上げる編集と事後の校正には、時間をかけるように心がけて欲しい。

社会のしくみと実践（デュアル実践）

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★前田 崇博, ★山本 永人, 湯浅 嵩晃

《授業の概要》

働きながら学ぶデュアル教育システムの並走科目で、介護福祉士としての役割・任務、禁止事項などを学ぶ。特に、基本となるコミュニケーションスキルや接遇、面接の訓練を取り入れる。また、デュアル中に訪問指導をしてスキルアップを図り、報告レポートを作成する。

《学生の到達目標》

1. 介護福祉士の職員として働く、倫理、マナーを修得する 2. 基本的なコミュニケーション技術を修得する 3. プロとして働く、職業倫理、自己洞察力、社会的責任力をつけていく。

《授業計画》

1. 介護福祉士の役割とコミュニケーションスキル1
2. 介護福祉士の役割とコミュニケーションスキル2
3. 介護福祉士の倫理綱領と職業倫理
4. 選択できる施設リストとそのスクリーニング
5. 介護施設の仕事1
6. 介護施設の仕事2
7. 接遇トレーニング1
8. 接遇トレーニング2
9. 訪問指導1
10. 訪問指導2
11. 訪問指導3
12. 訪問指導4
13. 訪問指導5
14. 各種書類作成
15. プレゼンテーション

《成績評価の方法・基準》

毎回の演習評価50%と3回実施する介護福祉士の仕事についてのレポート50%で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

デュアルは介護福祉士としての役割と任務を求められる実践。プロ意識と職業倫理の醸成を第一の目的に日々自己管理の記録をつけてください。そして社会人としての資質も向上した上でデュアル実践に臨んでください。

社会のしくみと実践（デュアル入門）

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 小林 孔

《授業の概要》

人間福祉学科では、専門性をいち早く社会体験の中に組み入れて、提携施設での実践を試みる「デュアル」システムを開講する。その実施に先立って、基本的な了解事項を把握し、それらを踏まえたうえで、実施にあたっての自己目標と計画を立ててみたい。施設での就労に関わる基礎知識を習得しておくことで、今後の就職活動にも役立てられよう。自身の適性に合わせて、無理のない運用ができるよう、個別に指導する場面も多くなると思う。

《学生の到達目標》

自身の適性に基づく施設を選択し、目標を設定して実施計画を立案できること。

《授業計画》

1. デュアルシステムの活用（オリエンテーション）
2. 履歴書の提出に向けて
3. 施設の種別と適性
4. 施設のプレゼンテーション ①
5. 施設のプレゼンテーション ②
6. 施設のプレゼンテーション ③
7. 施設のプレゼンテーション ④
8. 施設のプレゼンテーション ⑤
9. 施設のプレゼンテーション ⑥
10. 施設の選択と書類作成
11. デュアル実施計画の立案
12. 訪問と面談
13. 訪問と面談
14. 報告書の作成
15. 総括と自己評価

《成績評価の方法・基準》

計画・立案書の提出（60%）と報告書の提出（40%）で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

計画を立て、実施をするまでには、いくつもの手続きと確認が必要になる。丁寧な事後点検が大切である。

国家試験対策講座 I

1 年次（通年）
2 単位（演習）
担当 人福専任教員

《授業の概要》

介護福祉士の国家試験受験準備をする基幹科目である。各科目で習った頻出キーワードや難解な事例問題、総合問題を再度学習する機能と役割がある。また、『介護福祉特論Ⅱ』と連動することで全学年の学生が一堂に会する科目であり、相互ティーチングによるチューター機能のある科目である。さらに、全教員も揃う科目として設定されているので、全試験範囲を網羅することが可能となる。不得意な領域をなくすよう個別指導も徹底していく。

《学生の到達目標》

1. 国家試験頻出キーワードを整理、暗記していく 2. 苦手な領域の問題について徹底的に学ぶ 3. 相互ティーチングにより教員としてのロールプレイも経験する 4. 難解な事例問題は他の学生の見解や介護観を理解し考察する 5. 問題の読解力、解析力を身につけていく 6. 学習の仕方、継続的な受験勉強方法、ノート作成方法を学ぶ 7. 定期的に模擬、練習テストをすることで到達度を自己管理していく。

《授業計画》

1. 社会の理解の要約講義A(社会福祉法制、制度論)
2. 過去問題の練習と解説
3. チューター制による相互学習
4. 学内作成模擬試験
5. 模擬試験の講評と自己学習
6. 介護の基本領域の要約講義
7. 過去問題の練習と解説
8. チューター制による相互学習
9. 学内作成模擬試験
10. 模擬試験の講評と自己学習
11. 生活支援技術領域の要約講義
12. 過去問題の練習と解説
13. チューター制による相互学習
14. 学内作成模擬試験
15. 模擬試験の講評と自己学習
16. ところとからだの領域の要約講義A
17. 過去問題の練習と解説
18. チューター制による相互学習
19. 学内作成模擬試験
20. 模擬試験の講評と自己学習
21. ところとからだの領域の要約講義B(医療的ケア含む)
22. 過去問題の練習と解説
23. チューター制による相互学習
24. 学内作成模擬試験
25. 模擬試験の講評と自己学習
26. 介護過程・総合学習の領域の要約講義
27. 過去問題の練習と解説
28. チューター制による相互学習
29. 学内作成模擬試験
30. 模擬試験の講評と自己学習

《成績評価の方法・基準》

各項目の5 回目にする試験成績 50%、1 月に実施する国家試験直前試験の成績 50%

《授業で使用する教科書》

・介護福祉士国家試験受験対策研究会「介護福祉士国家試験過去問題集 2021」中央法規出版社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

自分で問題集を進めていくことが事前学習、授業後にオリジナルノートを作成していくことが事後学習です。

人間の尊厳と自立

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★山本 永人

《授業の概要》

講師の知時障害者施設での実務経験を基盤に、介護福祉士の支援の土台となる、人間の尊厳の保持、自立支援の必要性について、その考え方や理念を学び、介護場面における倫理的対応が可能となる判断力を養う。特に暮らしや命についての倫理観や生命観などを重視する。

《学生の到達目標》

介護とは単に生活のお手伝いをするのではなく、その人の最大限の幸せを目指すものである。そのことを前提とした介護福祉士になる。自身の仕事の立ち位置にふさわしい、命への畏敬やヒューマンイズムなど考え方の柱となる考え方ができるようになる。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 介護福祉士の仕事における人間の尊厳と自立の意義【教科書第1章】
3. 人間の尊厳と介護の関係【教科書第2章】 * マズローの欲求階層説
4. 介護における自立のもつ意味（1）【教科書第3章】 * 自立と自律の整理
5. 介護における自立のもつ意味（2）【教科書第3章】 * ICF・リハビリテーション
6. 人権思想から導かれる人間の尊厳と自立【教科書第4章】 * 生存権・憲法25条
7. 生活支援における価値について（1）【教科書第5章】 * 憲法11条・憲法13条
8. 生活支援における価値について（2）【教科書第5章】 * 介護福祉士倫理綱領
9. 人間関係の下に実現される人間の尊厳【教科書第6章】 * 認知症、人間の多面的理解
10. 人間の尊厳と自立と介護福祉士養成教育体系【教科書第7章】 * 生活支援技術・介護過程
11. 人間の尊厳と権利擁護【教科書第8章】 * アドボカシー・虐待の防止
12. ケーススタディ① 問題解決に向けてのワーク * ホームレス
13. ケーススタディ② 問題解決に向けてのワーク * 重症心身障害
14. ケーススタディ③ 問題解決に向けてのワーク * ハンセン氏病
15. ケーススタディ① 問題解決に向けてのワーク * 精神の障害

《成績評価の方法・基準》

テスト 80% レポート 20%

《授業で使用する教科書》

・黒澤貞夫「介護福祉士養成テキスト1 人間の尊厳と自立」建帛社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：教科書の授業部分を熟読すること。特に各授業計画における*印を焦点に事前準備を行います。(30分) 事後学習：配布されたプリントを中心に、本日の授業を振り返り、そのテーマを十分自分の知識や価値観に反映させましょう。(90分)

人間関係とコミュニケーション

2年次（半期）
1単位（演習）
担当 ★前田 崇博

《授業の概要》

介護福祉士として必要な人間関係学と社会福祉援助技術論を教授する。具体的には、人間関係を表現するマッピング技法や家族相関図の技術的修得、様々な場面でコミュニケーション力を養成するケーススタディ、事例研究を教示していく。また、手話、点字、触手話、指文字といった特殊な技法の理解を進める教材も提供する。さらに、アドボカシー、エンパワメント、ストレングスといった社会福祉援助方法も習得できるようロールプレイング演習などのアクティブラーニング方法も導入して授業運営していく。

《学生の到達目標》

人間関係について、様々な側面から学んでいくことで、援助観、福祉観を養っていく。また、ケーススタディや事例研究を通して、洞察力、考察力、ケアマネジメント力を身につけていき、応用的なステップとしてロールプレイング演習で自己表現力を醸成・発揮出来るようにする。

《授業計画》

1. コミュニケーションの理論と方法
2. 人間関係学
3. 高齢者の困難事例の考察1
4. 高齢者の困難事例の考察2
5. 障害者の困難事例の考察
6. 児童虐待のケーススタディ
7. 生活保護と生活困窮のケーススタディ
8. 言語的コミュニケーション
9. 非言語的コミュニケーション
10. カウンセリング技法
11. ケアマネジメントの理論と方法
12. 国家試験とコミュニケーション
13. 多職種連携コミュニケーション
14. 介護福祉士のコミュニケーションスキル
15. 人間関係とコミュニケーション

《成績評価の方法・基準》

毎回する演習内容で5段階評価をつける。その成績50%と期末試験50%で評価する（授業で使用する教科書・参考書）について記載してください

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

毎回の演習と次回準備して欲しいテーマを提示するので予習・準備して授業に臨みましょう。事後学習は生活場面でコミュニケーション技術を何回も練習してみましょう。

社会福祉概論（社会の理解）

2 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★前田 崇博

《授業の概要》

介護福祉士にとって必要となる社会福祉の知識について教授している。特に介護福祉士の環境である法律、制度、施設体系について教授する。具体的には日本国憲法、社会福祉法、社会福祉六法、介護保険法などの基幹法とそれに関連する相談所などを教員、学生協働の双方向コミュニケーションをとれるディベートを頻繁に実施することにより学びを深めていく。また、国家試験の頻出キーワードが毎回 10 語教示するがこれも全員で演習を通してその場で覚えていく。また社会福祉に関する課題・問題を各種のアクティブラーニングで抽出していく。

《学生の到達目標》

32 の法律・憲章、そして 5 つの政策・制度体系、150 語に及ぶ国家試験関連キーワードについて学んでいく。特に、法律に関しては条文も含めしっかり理解していく。重要キーワードに関しては、毎回しっかり暗記していく。

《授業計画》

1. 社会福祉の定義と哲学
2. 社会福祉六法
3. 日本国憲法と民法・刑法・少年法
4. 高齢者福祉論
5. 児童福祉論
6. 身体障害者福祉論
7. 知的障害者福祉論
8. 精神保健福祉論
9. 生活保護と生活困窮者自立支援制度
10. 家族福祉論
11. 地域福祉論
12. 介護福祉士と介護保険
13. 社会福祉制度論
14. 海外の社会福祉
15. 社会福祉総論

《成績評価の方法・基準》

毎回、授業後に学びの復習としてのミニレポートを課します。また、期末テストも実施します。前者後者それぞれ 50% ずつの基準で評価します

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

・ 福田素生「系統看護学講座社会福祉・社会福祉」医学書院

《事前・事後学習》

毎回、国家試験に関わるキーワードを 10 個提示します。通常のノートとは別に単語帳を作成し、次回の授業までに暗記しましょう。事後学習はキーワード 10 個を 10 回ずつノートに書きましょう。

社会保障論（社会の理解）

2 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★山本 永人

《授業の概要》

社会保障制度はわが国の人々が安心して生活を営むためのきわめて重要なセーフティネットの役割を果たしています。その制度の骨格やサービスの内容を概説します。税金や社会保険の財源を使いながらどのようにその制度を組み立てているのか基本的な部分を中心に学びます。

《学生の到達目標》

介護を实践するなかで、その背景となる社会保障制度の役割を理解し説明できるようになる。利用者の生活支援に活かせる知識をみにつける。

《授業計画》

1. 社会福祉の定義とその専門性について【教科書第 1 章】
2. 社会保障制度の基本的な仕組み【教科書第 1 章】
3. 現代社会の変化と社会保障【教科書第 2 章】
4. 社会保険制度① 医療保険(1)【教科書第 3 章】
5. 社会保険制度① 医療保険(2)【教科書第 3 章】
6. 社会保険制度② 年金保険【教科書第 5 章 p120~p137】
7. 社会保険制度③ 労働保険【教科書第 5 章 p137~p144】
8. 社会保険制度④ 介護保険制度(1)【教科書第 4 章】
9. 社会保険制度④ 介護保険制度(2)【教科書第 4 章】
10. 公的扶助制度① 生活保護制度【教科書第 6 章】
11. 公的扶助制度② 生活保護制度・社会手当【教科書第 6 章】
12. 障害者の福祉【教科書第 7 章 p175~p189】
13. 障害者総合支援法に基づく障害者サービス【教科書第 7 章 p189~p203】
14. 児童の福祉【教科書第 7 章 p204~p221】
15. 社会保障制度の今後の課題 振り返りのディスカッション

《成績評価の方法・基準》

試験 80% レポート 20%

《授業で使用する教科書》

・ 福田 素生「系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③」医学書院

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：シラバスの各単元の教科書（範囲は上記【 】で示す）を授業前に熟読しておきましょう。（30 分）事後学習：配布されたプリントと教科書を今一度振り返り、それぞれの制度やサービスの内容を確認しましょう。（60 分）

社会学

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★前田 崇博

《授業の概要》

介護福祉士の必須項目である『社会の理解』の内容を教授する。具体的には、各種社会学の領域ごとに現在介護福祉士として必要となってくる課題性の高いテーマを提供して、みんなで考察、自由に発言するバズセッション方式をとる。また、介護関連のニュースもしっかり理解、そして自分の意見を発言するプレゼンテーションの場を設定する。介護、福祉に関連する社会事象を専門的視点から分析、問題提起していくアクティブラーニング的授業形態で様々なことを教示する。

《学生の到達目標》

介護福祉士として社会で生きていくために必要な知識、法律・制度、組織などを学んでいく。またニュース素材もしっかり理解していくことでジャーナリストとしての視点も修得していくことが目標である。さらにディスカッションによって他の人間の意見を積極傾聴していく姿勢もやしなう。

《授業計画》

1. 介護福祉士に必要な社会学
2. 介護福祉士に必要な家族社会学
3. 介護福祉士に必要な海外文化と宗教社会学
4. 介護福祉士に必要なマスコミ社会学
5. 介護福祉士に必要な地域社会学
6. 介護福祉士に必要な教育社会学
7. 介護福祉士に必要な社会心理学
8. ソシオロジスト演習1
9. ソシオロジスト演習2
10. ソシオロジスト演習3
11. 社会システムの理解1
12. 社会システムの理解2
13. 消費経済学と家政学
14. 社会学と歴史
15. サブカルチャーの理解

《成績評価の方法・基準》

毎回、社会学のテーマを個人的に整理する。そして発表、ミニレポートで評価する方法で50%、期末試験50%で評価する

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

毎回、事後学習として授業で示したキーワードや社会問題について関連記事を探しましょう。そして事後学習として次回の授業に持参しましょう。

介護の基本4（リハビリテーション）

2年次（半期）
1単位（演習）
担当 ★瀬 志保

《授業の概要》

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を身につける。複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。また、ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から、個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解することを目的とする。

《学生の到達目標》

1、生活の継続性を支援するために、個々の心身状況に応じたリハビリテーションの考え方を理解する。また、それに関連する環境整備に必要な知識や技術を習得する。2、自立を支援するために必要な補装具、日常生活用具、福祉用具貸与、購入種目について、理解を深めることができる。3、地域での生活を継続するために必要な知識として、介護予防の重要性について学び、継続した支援について考えることができる。

《授業計画》

1. リハビリテーションとは
2. リハビリテーションの種類（医学的、教育、社会、職業リハビリテーション）
3. 福祉用具の理解と選択時のポイント（補装具、日常生活用具）
4. 介護保険の住宅改修、対象工事
5. 障害別リハビリテーションの実際（脳卒中の原因と症状、歩行介助の演習）
6. 障害別リハビリテーションの実際（脳卒中の原因と症状、移乗介助の演習）
7. 障害別リハビリテーションの実際（パーキンソン病の原因と症状、歩行介助の演習）
8. 障害別リハビリテーションの実際（関節リウマチの原因と症状、具体的な支援）
9. 障害別リハビリテーションの実際（脊椎損傷の原因、具体的な支援）
10. 障害別リハビリテーションの実際（高齢者に多い骨折部位と具体的な支援）
11. 国際生活機能分類（ICF）の視点の理解
12. 関連職種との役割と地域での介護予防の取り組み（訪問リハビリテーションを事例として）
13. 国家試験対策演習（過去問を解き、解説）
14. 国家試験対策演習（過去問を解き、解説）
15. まとめ

《成績評価の方法・基準》

演習振り返りレポート、課題レポート、小テスト40%、定期テスト60%で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

障害や病気により、福祉用具を活用する方や支援が必要となる方に対して、自立を支援するために必要となる知識と技術を見につけられるよう、学びを深めていきます。各疾患の原因や支援技術を演習や映像、資料等で学んでいきます。授業前には各疾患の復習を、演習後には技術の振り返りを行い、実践につなげられる材料としましょう。

介護の基本5（多職種連携）

2 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★長橋 幸恵

《授業の概要》

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を身につける。複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解する。介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、介護サービスや地域連携等、フォーマル・インフォーマルな支援を理解する。

《学生の到達目標》

・介護を必要とする利用者のライフスタイルが理解できる。・介護実践における多職種連携と地域における支援機関のネットワークの実際を調べ理解できる。・専門職の概要について知り、利用者にとり多職種連携（チームアプローチ）しているのかを理解する。

《授業計画》

1. 介護を必要とする利用者理解
2. 介護実践での多職種連携①チームアプローチとは何か
3. 介護実践での多職種連携②専門職の仕事
4. 介護実践での多職種連携③専門職の仕事
5. 利用者を取り巻く多職種連携の実際 事例検討グループワーク
6. 介護実践での地域連携①概要
7. 介護実践での地域連携②地域にかかわる機関の理解
8. 利用者を取り巻く地域連携の実際 事例検討グループワーク
9. 利用者の人生を理解する① ライフサークル
10. 利用者の人生を理解する② 介護福祉士の力を地域で発揮する
11. 介護福祉士に求められる能力
12. 自己のライフスタイルについて考える
13. 生活者として自身がよりよく生きる グループワーク
14. まとめ問題
15. 国家試験対策 まとめ

《成績評価の方法・基準》

試験（60点）、グループワークへの取り組み（30点）、レポート（10点）

《授業で使用する教科書》

・介護福祉士養成講座編集委員会「最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ」中央法規・「書いて覚える！ワークノート」ユーキャン

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

実習先等で出会う多職種の方が利用者にとりどのように関わっているのか、事前にレポートにてまとめることができ、多職種の方の仕事内容を理解できるようにしましょう。事前に多職種の仕事内容についても関心を持ち、利用者との関わりについても、知っておくとよいでしょう。事後は、ワークノートにて、学んだところの確認問題をしましょう。

介護の基本6（リスクマネジメント）

2 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★長橋 幸恵

《授業の概要》

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を身につける。複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解する。介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、介護サービスや地域連携等、フォーマル・インフォーマルな支援を理解する。

《学生の到達目標》

・介護における安全確保の重要性について考えることができる。・安全な生活とは何かを理解することができる。・リスクマネジメントの必要性とその過程が理解できる。・災害についての知識や、実際に災害時に必要な設備や備品等についての知識がある。・ストレスマネジメントを理解することができる。・介護職のこころとからだの健康を考えることができる。

《授業計画》

1. 介護における安全確保の重要性
2. 的確な観察と根拠に基づく判断力の必要性
3. 介護におけるリスクマネジメントに必要な視点
4. 身体拘束 利用者ストレスとリスク
5. 介護ストレスへの対応 こととからだの健康 ストレスマネジメント
6. 介護事故事例検討①個人ワーク
7. 介護事故事例検討②グループワーク
8. 事故防止、安全対策のためのリスクマネジメントのしくみ①
9. 事故防止、安全対策のためのリスクマネジメントのしくみ②
10. 事故報告書の書き方
11. 災害時対策①基本的知識 リスクマネジメントの視点
12. 災害時対策②東日本大震災の際の施設事例を通して
13. 介護職の健康管理安全確保 感染予防のための対策
14. まとめ問題
15. 国家試験対策

《成績評価の方法・基準》

試験（60点）、グループワークへの取り組み（30点）、レポート（10点）

《授業で使用する教科書》

・介護福祉士養成講座編集委員会「介護の基本Ⅱ」中央法規・「書いて覚える！ワークノート」ユーキャン

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

生活する上でどのようなところにリスクがあるか、日頃から考えることから、はじめてください。そこで、リスクはどのようなところに潜んでいるのか、利用者にとって安全な暮らしとは何かを考えてください。事後は、ワークノートで学んだところの確認問題をしましょう。

生活支援技術 7 (家事支援)

2 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 ★長橋 幸恵

《授業の概要》

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠 (エビデンス) に基づいた介護実践を行うための知識・技術を身につける。ICF の視点を生活支援に活かすことの意義を理解する。自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠 (エビデンス) について、説明できる能力を身につける。介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を身につける。

《学生の到達目標》

・住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解することができる。・利用者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠について、説明できる。・生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得することができる。

《授業計画》

1. 家庭生活にかかわる基本知識
2. 被服生活の知識① 繊維製品の取扱いに関する表示記号及びその表示
3. 被服生活の知識② 衣類のしみ抜き、アイロン、防虫剤の種類、裁縫道具の名称
4. 被服生活の演習 ポーチを作成 基本的な縫い方・ボタンつけの方法
5. 被服生活の演習 ポーチを作成 基本的な縫い方・ボタンつけの方法
6. 家事援助① 掃除・ごみ捨て
7. 家事援助② 洗濯
8. 家事援助③ 訪問介護
9. 家事援助④ 衣類・寝具収納方法
10. 食生活の知識 5 大栄養素、ビタミン、ミネラル、食品、調理
11. 食生活の演習 保存方法 保存食 めか床作成
12. 日本の行事と食
13. 生活家計の考え方① 家計における収入と支出
14. 生活家計の考え方② 高齢者を取り巻く経済社会 年金、クーリングオフ、悪質商法
15. 国家試験対策 まとめ

《成績評価の方法・基準》

試験 (70 点)、演習 (20 点)、レポート 10 点

《授業で使用する教科書》

・介護福祉士養成講座編集委員会「最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I」中央法規・「書いて覚える! ワークノート」ユーキャン

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

年齢の家事支援を支える上で、普段の家事の基礎知識が必要になってきます。事前に自己の生活についても、洗濯、掃除、調理等の家事を実施し、事前学習しておくとうまいでしょう。事後には、習ったことを活かし、家事を自宅でも行なっておくと良いでしょう。

生活支援技術 8 (事例検討)

2 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 ★多田 鈴子

《授業の概要》

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠 (エビデンス) に基づいた介護実践を行うための知識・技術を身につける。ICF の視点を生活支援に活かすことの意義を理解する。自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠 (エビデンス) について、説明できる能力を身につける。介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を身につける。

《学生の到達目標》

基本的な生活支援技術の復習をし、様々な介護場面において必要とされる知識・技術を適切に実施できる応用力を身につけることができる。また、実技試験問題を通して事例問題を読み解く力を復習することができる。対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援技術の基礎的な知識・技術を習得することができる。実践の根拠について、説明できる能力を身につけることができる。

《授業計画》

1. 事例より基本的な生活支援技術を検討し、復習する①環境整備
2. 事例より基本的な生活支援技術を検討し、復習する②環境整備
3. 事例より基本的な生活支援技術を検討し、復習する③移動・移乗
4. 事例より基本的な生活支援技術を検討し、復習する④移動・移乗
5. 事例より基本的な生活支援技術を検討し、復習する⑤食事
6. 事例より基本的な生活支援技術を検討し、復習する⑥排泄
7. 心身状況と様々な場面に応じた生活支援技術①
8. 心身状況と様々な場面に応じた生活支援技術②
9. 生活支援技術におけるセーフティマネジメント①
10. 生活支援技術におけるセーフティマネジメント②
11. 実技試験①
12. 実技試験②(学びの振り返り・グループワーク)
13. 生活支援技術・国家試験対策演習①
14. 生活支援技術・国家試験対策演習②
15. 生活支援技術・国家試験対策演習③

《成績評価の方法・基準》

技術チェックレポート 70%、課題レポート・小テスト 30% で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、基本的な生活支援技術の学びの復習をおこなうことが必要でしょう。事後学習は応用的な学びをレポートに残しましょう。介護実習での経験を踏まえ、技術の復習とともに、利用者一人ひとりの心身状態に応じた適切な支援について考えていきます。演習にふさわしい服装・態度で参加し、積極的に参加しましょう。

生活支援技術9（身じたく、アクティビティ）

2 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★長橋 幸恵

《授業の概要》

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠（エビデンス）に基づいた介護実践を行うための知識・技術を身につける。ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解する。自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠（エビデンス）について、説明できる能力を身につける。介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を身につける。

《学生の到達目標》

・生活の豊かさや心身の活性化のための支援について考えることができる。・レクリエーションの必要性について理解できる。・個々に応じたレクリエーションを計画し、立案する力を身につける。・レクリエーションを実施することができる。・チームでレクリエーションの動きを考え、安全にも配慮した実施ができる。・利用者の生活する上での「楽しみ」を発見することができる。・清潔保持について考えることができる。・整容介助を安全に行なうことのできる知識・技術を身につける。

《授業計画》

1. 自己紹介シート作成
2. 小物作り
3. ペーパークラフト
4. 園芸療法
5. レクリエーション・アクティビティプログラム計画・立案①
6. レクリエーション・アクティビティプログラム計画・立案②
7. 施設にてレクリエーション実践
8. 口腔機能向上（リハビリテーション・体操）
9. 整容介助（髻割り・耳、鼻の清潔・爪きり）
10. クッキングレクリエーション
11. クッキングレクリエーション
12. 行事計画グループワーク①
13. 行事計画グループワーク②
14. レクリエーション・行事 プレゼンテーション
15. 誕生日カード作成

《成績評価の方法・基準》

提出物（50点）レクリエーション計画・取り組み（30点）プレゼンテーション（20点）

《授業で使用する教科書》

・「介護度別 高齢者の生活レクリエーション」黎明書房

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

利用者が生活の中での余暇時間に「楽しみ」を見つけてもらえるようなレクリエーションを考えて下調べをして、計画・立案しましょう。教科書にてレクリエーションの基本的な、事前学習してください。レクリエーション実施後は、自分がどのように行動すればよかったのを振り返り、今後のレクリエーション実施に活かしてください。

生活支援技術10（終末期、薬の知識）

2 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★緒方 都

《授業の概要》

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠（エビデンス）に基づいた介護実践を行うための知識・技術を身につける。ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解する。自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠（エビデンス）について、説明できる能力を身につける。特に、人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践についてグループワークや体験談などから理解する。また、介護福祉士として必要な薬の知識を学ぶ。

《学生の到達目標》

1. 人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響を考え、その生活支援を行うために必要となる基礎的な知識と介護を根拠とともに説明することができる。2. 終末期の介護におけるチームケアを具体的に述べる。3. おもな疾患の病態と医薬品との関係、薬の副作用や使用方法、注意点を説明できる。

《授業計画》

1. 薬の知識① 内服薬について、経口薬、舌下薬、飲み方演習
2. 薬の知識② 外用薬について、湿布薬、点眼薬、軟膏、使用方法演習
3. 薬の知識③ 基礎知識、よく使われる薬の効果と副作用、保管方法
4. 薬の知識④ 実習現場での薬についてのまとめと発表、小テスト
5. 終末期の介護① 介護におけるみとりのとらえかた、グループワーク
6. 終末期の介護② 理解者になるための援助的コミュニケーション
7. 終末期の介護③ 終末期の意義と介護の役割、自己決定
8. 終末期の介護④ ICFの考え方と終末期におけるアセスメントの視点
9. 終末期の介護⑤ 終末期における介護の実際、キューブラー・ロス 国語課題演習
10. 終末期の介護⑥ 危篤時における介護の実際、観察、安楽の工夫、小テスト
11. 終末期の介護⑦ 「介護現場でのみとりについて」外信館翻訳による講義
12. 終末期の介護⑧ 現場でのみとりについてのグループワーク
13. 終末期の介護⑨ 死後のケア、エンゼルケア 国語課題演習
14. 終末期の介護⑩ 多職種での役割と協働、グループワーク
15. まとめ

《成績評価の方法・基準》

試験 70% 小テスト・レポートなど 30%で評価する。

《授業で使用する教科書》

・介護福祉士養成講座編集委員会「最新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術II」中央法規

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習としては、該当内容の範囲を教科書や配布プリントで予習しておきましょう、また授業内で小テストを実施しますので、プリントやノートなどで復習しておきましょう。介護実践するために必要な知識です。薬や疾患名など慣れない言葉も多いと思いますが、多職種連携の共通言語として理解できるようになりましょう。

介護過程 3

2 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★山本 永人

《授業の概要》

講師の実務経験を基に、障害者の事例を中心とした協働的ケーススタディを通じて、アセスメント、ニーズの抽出、目標の設定、計画の立案などの介護過程を展開する意義や内容を学ぶ授業です。

《学生の到達目標》

障害者の介護過程の展開にあたり、その QOL を向上するためのすくれた着眼点をもつ。障害者の生活課題の特性を科学的に依拠するものとして理解できる。展開を行う上で他者との協働性をみにつける。

《授業計画》

1. 障害のある人の介護過程とその意義
2. 障害のある人の生活課題の特性
3. 障害のある人の協働的ケーススタディ①【脳性マヒの事例から】
4. 問題解決のためのアセスメント
5. 計画の立案
6. サービス計画の発表と相互評価および振り返り
7. 障害のある人の協働的ケーススタディ②【就労している知的障害者の事例から】
8. 問題解決のためのアセスメント
9. 計画の立案
10. サービス計画の発表とおよび振り返り
11. 障害のある人の協働的ケーススタディ【高次脳機能障害の事例から】
12. 問題解決のためのアセスメント
13. 計画の立案
14. サービス計画の発表と相互評価および振り返り
15. 障害のある人への QOL の向上のために

《成績評価の方法・基準》

試験 80% レポート 20% 試験は展開したケーススタディの事例の中から出題する

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：ケーススタディで示された障害について自身の出来る範囲で情報を収集しましょう。(30分) 事後学習：当日配布されたプリントや演習での進捗状況をふまえ、自身か障害のあるひとへの介護過程としてどのような着眼点があったのか、他者との協働をどのように行われたのかを確認しましょう。(60分)

介護過程 4

2 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★多田 鈴子

《授業の概要》

介護実習Ⅱにて介護過程を展開し、利用者個々に応じた介護サービスを提供できる能力を養う。実習で受け持った利用者の一連の介護過程を振り返り、事例研究としてまとめることで「介護過程の実践的展開」の向上を図る。介護過程が現場でどのように活用され、利用者の生活支援につながっていくのかについて、実習を受け持った利用者の一連の介護過程を振り返り、事例研究としてまとめることによって、介護過程の実践的展開を習得する。

《学生の到達目標》

受け持ち利用者の心身状態に合わせた援助方法を計画・立案することができる。広い視野での情報収集、利用者主体の課題抽出の重要性、課題に即した介護計画の立案・実施を一連の流れとして理解することができる。介護実践における介護過程の意義の理解を踏まえ、介護過程を展開するためのプロセスと着眼点を理解できる。個々の事例を通して、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につなげることができる。

《授業計画》

1. 介護過程の実践的展開の実際
2. 長寿高齢者の事例分析①（DVDより事例からの個人ワークでのアセスメント）
3. 長寿高齢者の事例分析（生活課題の抽出）②
4. 長寿高齢者の事例分析③中間経過発表（情報収集の状況理解）
5. 長寿高齢者の事例分析④中間経過発表（利用者の全体像の発表）
6. 介護過程実践演習①
7. 介護過程実践演習②（グループワーク）
8. 介護過程実践演習③（プレゼンテーション）
9. 介護事例研究①（事例研究まとめ）
10. 介護事例研究②（事例研究まとめ）
11. 介護事例研究③（プレゼンテーション）
12. 介護事例発表企画①（パワーポイント作成）
13. 介護事例発表企画②（パワーポイント作成）
14. 介護事例発表準備①
15. 介護事例発表準備②（リハーサル）

《成績評価の方法・基準》

学生シンポジウム発表 50%、課題レポート・提出物 50%にて評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、「介護過程1・2・3」での授業を振り返り、介護過程の意義、目的を常に考えて進めていきましょう。事後学習として、その日の学びをレポートに記入しておき、次につなげましょう。利用者の介護実習Ⅱで接する利用者支援の様々な場面を通して、介護過程の実践的展開を学びます。各科目で学んだ知識や技術を活用し、利用者が望む生活に何が必要なのか、何をすればいいのかを考え、実践しましょう。

介護過程 5

2 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★長橋 幸恵

《授業の概要》

介護実習Ⅱにて介護過程を展開し、利用者個々に応じた介護サービスを提供できる能力を養う。実習で受け持った利用者の一連の介護過程を振り返り、事例研究としてまとめることで「介護過程の実践的展開」の向上を図る。介護過程が現場でどのように活用され、利用者の生活支援につながっていくのかについて、実習を受け持った利用者の一連の介護過程を振り返り、事例研究としてまとめることによって、介護過程の実践的展開を習得する。

《学生の到達目標》

受け持ち利用者の心身状態に合わせた援助方法を計画・立案することができる。広い視野での情報収集、利用者主体の課題抽出の重要性、課題に即した介護計画の立案・実施を一連の流れとして理解することができる。介護実践における介護過程の意義を理解を踏まえ、介護過程を展開するためのプロセスと着眼点を理解できる。個々の事例を通して、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につなげることができる。介護過程の実践を事例研究としてまとめることによって、振り返り・発表することで実践能力を身につけることができる。

《授業計画》

1. 介護過程の実践的展開の実際
2. 介護実践演習① 事例分析
3. 介護実践演習② グループワーク
4. 長寿高齢者の事例分析①中間経過発表（情報収集の状況理解）
5. 長寿高齢者の事例分析②最終発表（利用者の全体像の発表）
6. プレゼンテーション方法
7. 介護事例研究演習①（ケースレポート作成）
8. 介護事例研究演習②（ケースレポート作成）
9. 介護事例研究演習③（ケースレポート作成）
10. 事例研究発表会の企画①（発表原稿作成）
11. 事例研究発表会の企画②（発表原稿作成）
12. 事例研究発表会の準備（パワーポイント作成）
13. 事例研究発表会
14. 事例研究発表会
15. 事例研究発表会の振り返り・まとめ・発表

《成績評価の方法・基準》

事例研究発表（50%）、課題レポート・ケースレポート（50%）で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、「介護過程1・2・3・4」での授業を振り返り、介護過程の意義、目的を常に考えて進めていきたいと思います。事後学習として、その日の学びをレポートに記入しておき、次につなげたい。全ての科目の知識・技術を使い、受け持ち利用者に関する適切な支援を導き出していき、介護過程の実践的展開を学びます。介護総合演習とも連携させ、事例研究発表会・レポート集の作成など、多くの学びに取り組みたい。

介護総合演習 I C

2 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★長橋 幸恵

《授業の概要》

実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながる内容を実施する。実習を振り返り、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を身につける。質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解する。介護実践における安全（リスクマネジメント）を管理するための基礎的な知識・技術を理解し、考察する力を身につける。

《学生の到達目標》

介護実習の種別について、事前に学習し説明することができる。自己の実習する施設についての理解を深め、実習に臨むことができる。介護福祉士として必要な介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養うことができる。自分自身の考えを確立させ、自己覚知することができる。エビデンスに基づいた介護を理解し、考察することができる。実習の評価を真摯に受け止め、次回の実習につなげることができる。

《授業計画》

1. 介護実習 I C とは（施設の種別の理解・説明・日程期間などの説明）
2. 介護実習 I C の意義と目的（実習のマニュアルにて説明する）
3. 介護実習 I C で求められる応用的な技能・知識・介護観とは何か
4. オリエンテーションに向けての指導・提出書類の作成
5. 実習目標の制作（担当者個別指導）
6. 実習目標の書写（担当者個別指導）
7. 実習直前指導（担当教員指導・巡回確認）
8. 実習成果報告①実習での学び個人発表 3分
9. 実習成果報告②実習での学び個人発表 3分
10. 介護実習 I C 段階のフィードバック（担当教員より評価表にて）
11. 実習事後指導①自己評価表と施設評価の振り返り
12. 実習事後指導②レポート
13. 振り返りグループワーク・施設ごとの概要 発表
14. 介護過程への取り組み、実習記録の取り方、報告の仕方
15. まとめ 介護実習Ⅱに向けての自己目標を考える

《成績評価の方法・基準》

実習終了後の成果発表（50%）、課題提出物・レポート（50%）で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習では、介護実習 I A・I B での学びを振り返ることで、自分の目標や課題をしっかりと理解しておきましょう。事後学習では、目標に対して自分自身の苦手なことを明確にして、次の学び目標につなげていきたいと思います。介護実習 I C の実習前後の学習を行う科目であり、実習をより多いものにするための授業です。事前準備を整え、緊張感を持って受講しましょう。

介護総合演習Ⅱ

2年次（半期）
1単位（演習）
担当 ★長橋 幸恵

《授業の概要》

実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながる内容を実施する。実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を身につける。質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解する。介護実践における安全（リスクマネジメント）を管理するための基礎的な知識・技術を理解し、考察する力を身につける。

《学生の到達目標》

介護実習の種類別について、事前に学習し説明することができる。自己の実習する施設についての理解を深め、実習に臨むことができる。知識と技術の統合を自己にて行うことができる介護福祉士としての、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養うことができる。自ら積極的にコミュニケーションを図ることができる。自分自身の考えを確立させ、自己覚知することができる。エビデンスに基づいた介護を理解し、考察することができる。実習の評価を真摯に受け止め社会人に向けての第一歩につなげることができる。

《授業計画》

1. 介護過程への取り組み(アセスメント)
2. 介護過程への取り組み(アセスメントの分析)
3. 介護過程への取り組み(プランニング)
4. 実際の介護過程について(事例検討を通してディスカッション)
5. オリエンテーションにむけての指導・提出書類の作成
6. 実習目標の設定 下書き(担当者個人指導)
7. 実習目標の設定 清書(担当者個人指導)
8. 実習事前指導(担当教員・巡回確認)
9. 実習成果報告(1)介護過程発表(個人)
10. 実習成果報告(2)介護過程発表(個人)
11. 介護実習Ⅱ段階のフィードバック(担当教員)自己評価をする
12. 事例研究作成指導(リハーサル)
13. 事例研究作成指導・合同実習発表会準備
14. 事例研究発表会(代表者)
15. まとめ(2年間の実習の総括)(発表)

《成績評価の方法・基準》

個人発表50%・事例研究レポート50%で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

介護実習Ⅱ前後の学習を行う科目です。介護実習Ⅱでの必須の介護過程の具体的な展開方法や、実習後のケースレポートの作成を行います。最後の実習をより多いものにするための総合演習ですので、積極的に参加し、取り組む姿勢を重視します。事前学習として、しっかりと目標を設定し、自分自身力をつけましょう。事後学習として介護福祉士として実践での学びの総仕上げとなるような知識・技術の確認をしましょう。

介護実習ⅠC

2年次（半期）
2単位（実習）
担当 ★長橋 幸恵

《授業の概要》

地域における様々な場面において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う応用的な能力を身につける。また、実践の根拠（エビデンス）について、説明できる能力を身につける。利用者の生活を理解するため、アセスメント能力（情報収集）を身につけ、本人の望み、希望等を理解する。介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを理解する。多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを知る。

《学生の到達目標》

利用者の生活におけるニーズを知り、障害に応じた適切な生活支援技術を習得することができる。また、多職種との連携の実践を学び、介護福祉士の果たす機能や役割を理解することができる。

《授業計画》

1. 介護実習ⅠC(12日間)施設介護実習
2. オリエンテーションをおこなう
3. 入浴・排泄・着脱・食事・移動といったADLに対応した介護
4. 買い物や趣味の活動などIADLの・買い物や趣味の生活支援
5. 認知症の方とのかかわり
6. レクリエーションを中心とした余暇活動支援
7. 多職種との連携のなかで、介護福祉士としての専門性を理解する
8. 個々の利用者に応じた応用的な介護方法を習得する
9. アセスメントする。(介護過程用紙1を記入する)
10. 利用者ニーズを理解する
11. 介護老人福祉施設、介護老人福祉施設等において実習する
12. 実習指導者および担当教員によるカンファレンスを行う
13. 実習中に登学日を設定し、学びの確認をする
14. ヒヤリハット報告書を記入する
15. 実習中・終了時は、学生の到達目標を評価する

《成績評価の方法・基準》

施設の実習指導者による評価(30点)担当教員による評価(70点)

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

実習の目的や内容など、実習に関する詳細は「介護実習マニュアル」を参照しましょう。実習では、「何を、どう学びたいのか」というはっきりさせておくことが大切です。目的を明確にし意欲的に実習に取り組みましょう。

介護実習Ⅱ

2 年次（半期）
4 単位（実習）
担当 ★長橋 幸恵

《授業の概要》

地域における様々な場面において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う応用的な能力を身につける。対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実施する。多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを知る。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を身につける。介護福祉士としての自己の介護観を創造する。

《学生の到達目標》

受け持ち利用者の介護過程を通して、利用者個々にあった介護実践の重要性と展開方法を理解する。また、施設が地域福祉で果たす役割と介護福祉士の専門性について多職種との連携を通して考察する力を養う。

《授業計画》

1. 介護実習Ⅱ (22 日間) 施設介護実習
2. オリエンテーションをおこなう
3. 多職種と密なチームアプローチや介護専門職としての職業倫理
4. 基準に適合した介護老人福祉施設、介護老人保健施設にて実習を行う
5. 実習中・終了時に学生の到達目標を評価する
6. 実習指導者および担当教員によるカンファレンスを行う
7. 実習期間中に登学日を設け、学びの確認をする
8. 実習中に登学日を設け、学びの確認をする
9. 安全性、リスクマネジメントについて考える
10. 個々の利用者に応じた応用的な介護方法を習得する
11. 介護過程を中心とした実践する応用能力を習得する
12. 介護過程用紙 1・2・3 を記入する
13. レクリエーションや余暇時間の必要性について考える
14. 対象者について事例研究をまとめる
15. 実習中・終了時は、学生の到達目標を評価する

《成績評価の方法・基準》

施設の実習指導者による評価（30点） 担当教員による評価（70点）

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

今までの介護実習の総まとめとなる科目です。事前学習として、生活支援技術の応用的実践と介護過程の実施を復習しておきましょう。ここでは、総合的に実習に取り組む姿勢が求められます。事後学習としては、実習での振り返りを通して、これから介護福祉士として求められる役割についても理解を深めましょう。

発達と老化の理解 1

2 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★宮崎 恭子

《授業の概要》

人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。特に人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクルの各期（乳児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解することを目的とする。適宜、小テストを行い知識の定着を図る。

《学生の到達目標》

人間の成長と発達の基本的な考え方を身につけることができる。ライフサイクルの各期（乳児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期）を理解し、その身体的・心理的・社会的特徴を知り、その各期の発達課題及び特徴的な疾病について知ることで、対人援助職である介護福祉士として人間について考え、介護の役割を考える力を養うことができる。

《授業計画》

1. 人間の成長と発達の考え方・原則・影響する因子、ライフサイクルと発達課題
2. 発達理論（フロイト、エリクソン、ピアジェ、ボウルビイ）
3. 形成的成長（身長、体重、頭立、胸囲、身体バランス、生殖器と乳房、歯、骨）
4. 身体機能の発達（呼吸、循環、血液、ホルモン、体温、消化、体液、腎臓、皮膚、免疫）
5. 精神運動機能の発達、心理社会的発達
6. 発達段階別にみた成長と発達、発達の評価
7. 社会からみた老年期、ライフサイクルのなかの老年期
8. 老化に伴う心身の変化の特徴
9. 加齢による生理機能の全体の低下
10. 加齢による変化と日常生活への影響
11. 知的・認知機能、精神機能の変化と日常生活への影響
12. 身体機能の低下の予防
13. 精神機能の低下の予防（高齢者とうつ病）
14. 高齢者の気持ちを理解する（グループワーク）
15. 高齢者の気持ちを踏まえたかかわり（グループワーク）

《成績評価の方法・基準》

グループワークへの参加 20 点（話し合い参加の積極性、グループへ貢献する作業能力、うなづきや相槌などのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など）、小テスト・レポート 30 点、定期試験 50 点で評価する。

《授業で使用する教科書》

・林 泰史/長田 久雄「最新介護福祉全集9 発達と老化の理解」メチカルフレンド社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、人間の成長過程を知り、その成長過程のなかでどのように発達していくのかを自分自身とあてはめて考えてみましょう。事後学習として、授業で学んだことを復習し、適宜行う小テストに臨みましょう。また、人間が一生、成長・発達をしていることを知り、たとえ介護が必要であるとしても同じであることを理解し、介護福祉士としての介護観を構築する上での考えるきっかけとしましょう。

障害の理解 2

2 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★宮崎 恭子

《授業の概要》

障がいのある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障がいのある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。医学的・心理的側面から、障がいによる心身への影響や心理的な変化を理解することを目的とする。また、障がいのある人のライフステージや障がいの特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOL を高める支援につながる内容とする。

《学生の到達目標》

障がいのある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得し、介護の観点から根拠のある支援を考える力を養う。利用者理解に基づき、自立に向けた支援を行えること、たとえ障がいがあるとしても、その人の QOL を高める支援を考えることができる力を養う。

《授業計画》

1. 視覚障害についての基礎知識、視覚障害のある人の心理（グループワーク）
2. 視覚障害の日常生活への影響とその評価、視覚障害について的小テスト
3. 聴覚障害についての基礎知識、聴覚障害のある人の心理（グループワーク）
4. 聴覚障害の日常生活への影響、聴覚障害について的小テスト
5. 言葉二障害の定義と分類、発音や発生に障害のある人、脳の障害に起因する言葉の障害
6. 言葉二障害のある人の心理、言葉の障害の日常生活への影響、小テスト
7. 内臓障害の定義と動向、心臓の機能的障害のある人（グループワーク）
8. 呼吸器の機能的障害のある人、腎臓の機能的障害のある人
9. 排泄器管（膀胱、直腸）の機能的障害のある人、小腸の機能的障害のある人
10. 肝臓の機能的障害のある人、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能的障害のある人、小テスト
11. 精神障害についての基礎知識、日常生活への影響とアセスメントの視点
12. 精神障害者の福祉、高次脳機能的障害のある人を理解する視点
13. 認知系障害のある人の理解、行為系二障害のある人の理解
14. 全介助を要する状態をもたらすもの、寝たきり状態の人
15. 難病の人、精神障害・高次脳機能的障害・全介助について的小テスト

《成績評価の方法・基準》

グループワークへの参加 20 点（話し合い参加の積極性、グループへ貢献する作業能力、うなづきや相槌などのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など）小テスト・レポート 30 点、定期試験 50 点で評価する。

《授業で使用する教科書》

・谷口 敏代「最新介護福祉全集 11 障害の理解」メヂカルフレンド社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、障害のある人の心理や身体機能に関する基礎知識などの、さまざまな情報に興味を持ち調べてみましょう。事後学習として、その知識の定着のための小テストを行いますので、振り返りをして、より深い学びを心がけましょう。そして、その知識を根拠に、自身の介護・支援のあり方を考えてみましょう。

こころとからだのしくみ 1（概論、移乗・移動）

2 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★宮崎 恭子

《授業の概要》

介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解することを学習の目的とする。介護実践には、観察力・判断力が必要となる。そのためにも、その力の基盤となる知識を学ぶことが重要となる。また、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えることができるようにする。生活を行う上で、その場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について学ぶ必要があることを理解し、介護福祉士としての知識として学ぶことを目的とする。

《学生の到達目標》

介護実践に必要な観察力・判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解することができる。生活支援を行う際必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害について、対象者自身や生活に及ぼす影響について理解することができる。

《授業計画》

1. 生きているしくみの理解（からだの成り立ちの理解）
2. 生きているしくみの理解（生命活動を調節するしくみ）
3. 生きているしくみの理解（外界の変化に対応し、調節・修復・再生するしくみ）
4. 生きているしくみの理解（ヒトの一生のリズム）
5. 生きているしくみの振り返り（小テスト、グループワーク）
6. こころのしくみ（脳のつくりと働きの理解）
7. こころのしくみ（こころと脳のつながり）
8. こころのしくみ（人間の行動を引き起こすこころのしくみ）
9. こころのしくみ（社会的人間としてのこころのしくみ）
10. こころのしくみの振り返り（小テスト、グループワーク）
11. 活動・移動に関連したこころとからだの基礎知識（骨、関節、筋、神経）
12. 活動・移動に関連したこころとからだのしくみ（目的、生理的・心理的意味、動作など）
13. 活動・移動に関連したこころとからだのしくみ（体位、歩行、ボディメカニクス）
14. 機能の低下・障害が及ぼす活動・移動への影響（グループワーク）
15. 生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携（グループワーク）

《成績評価の方法・基準》

グループワークへの参加 20 点（話し合い参加の積極性、グループへ貢献する作業能力、うなづきや相槌などのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など）、小テスト・レポート 30 点、定期試験 50 点で評価する。

《授業で使用する教科書》

・小坂橋 喜久代・松田 たみ子「最新介護福祉全集 12 こころとからだのしくみ」メヂカルフレンド社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

高齢者、障害者の介護を行う上で、医療的な知識が必要となります。事前学習として、なぜ必要となるのか、どのような知識が必要なのかを考えて、自身で調べてみましょう。授業後には、その知識の定着のための小テストも行いますので、振り返りをしましょう。事後学習として、その知識を根拠とした介護を考えてみましょう。

医療的ケア 1 (吸引)

2 年次 (半期)
2 単位 (講義)
担当 ★宮崎 恭子

《授業の概要》

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」等についての基礎的な知識を理解することを目的とする。特に、喀痰吸引について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的な知識、実施手順方法を理解する内容とする。各単元ごとに小テストを行い、後期医療的ケア演習の時に安全手技が行えるようにする。

《学生の到達目標》

医療が必要となった人の安全で安楽かつ、QOL を保持できるような暮らしを継続するために、介護福祉士として何が出来るのかを考えることができる。そして、個人の尊厳を守り、自立を支援することを理念とし、医療的な倫理も考慮することができる力を養い、暮らしと密接に結びつけた介護福祉士の行う医療的ケアができる。

《授業計画》

1. なぜ医療的ケアを学ぶのか、人間と社会
2. 保険医療制度とチーム医療 (小テスト)
3. 安全な療養生活①たんの吸引の安全な実施
4. 安全な療養生活②経管栄養の安全な実施
5. 安全な療養生活③救急蘇生法 (小テスト)
6. 清潔保持と感染予防①感染予防
7. 清潔保持と感染予防②滅菌と消毒 (小テスト)
8. 健康状態の把握①身体・精神の健康
9. 健康状態の把握②バイタルサイン (小テスト)
10. 高齢者及び障害児・者のたんの吸引①呼吸のしくみ
11. 高齢者及び障害児・者のたんの吸引②いつもと違う呼吸状態
12. 高齢者及び障害児・者のたんの吸引③たんの吸引とは (小テスト)
13. 高齢者及び障害児・者のたんの吸引④人工呼吸器・子どもの吸引
14. 高齢者及び障害児・者のたんの吸引⑤家族の気持ち・感染症
15. 高齢者及び障害児・者のたんの吸引⑥安全確認
16. 高齢者及び障害児・者のたんの吸引⑦急変・事故対応、事前対策 (小テスト)
17. 高齢者及び障害児・者のたんの吸引⑧手順書 (器具・器材の説明)

《成績評価の方法・基準》

授業内の小テスト (6 回) の平均点にて評価する。

《授業で使用する教科書》

・川井 太加子「最新介護福祉全集 13 医療的ケア」メヂカルフレンド社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

介護福祉士として、今後担っていくかかわりにはならない医療的な分野についての興味を持ち、さまざまな観点から考えられるように、事前に教科書などで調べておきましょう。振り返りの小テストを単元ごとに行います。事後学習として、復習をし、学びを深めましょう。この授業は、後期の医療的ケア演習において必要となる知識です。

医療的ケア 2 (経管栄養)

2 年次 (半期)
2 単位 (講義)
担当 ★緒方 都

《授業の概要》

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」等についての基礎的な知識を理解し、特に経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的な知識、実施手順方法を理解する内容とする。各単元ごとに小テストを行い、後期医療的ケア演習時に安全な手技が行えるようにすることを目的とする。

《学生の到達目標》

1 経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的な知識を述べる事ができる。2 感染予防なども含め、安全に留意した実施手順方法を理解し手順を述べる事ができる。

《授業計画》

1. 高齢者および障害児・者の経管栄養①消化器のしくみとはたらき
2. 高齢者および障害児・者の経管栄養②経管栄養とは 用いる器具、清潔保持
3. 高齢者および障害児・者の経管栄養③注入内容に関する知識
4. 高齢者および障害児・者の経管栄養④実施上の留意点 小テスト
5. 高齢者および障害児・者の経管栄養⑤子どもの経管栄養
6. 高齢者および障害児・者の経管栄養⑥経管栄養に関する感染と予防 急変・事故対応
7. 高齢者および障害児・者の経管栄養⑦国家試験対策
8. 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順①実施手順の流れ 準備物品
9. 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順②留意点の確認 小テスト
10. 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順③パート別演習 注入準備
11. 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順④パート別演習
12. 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順⑤観察・報告・連絡
13. 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順⑥まとめ 小テスト
14. 高齢者および障害児・者のたんの吸引実施手順①感染予防
15. 高齢者および障害児・者のたんの吸引実施手順②ヒヤリハット、アクシデント
16. 高齢者および障害児・者のたんの吸引実施手順③緊急対応
17. 高齢者および障害児・者のたんの吸引実施手順④まとめ 小テスト

《成績評価の方法・基準》

授業内の小テストで評価する

《授業で使用する教科書》

・川井太加子「最新介護福祉全集 13 医療的ケア」メヂカルフレンド社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

教科書を読み授業の内容を予習しておきましょう。復習は、教科書や配布プリントなどで、知識の定着に努めましょう。教科書に付いている DVD も活用しましょう。振り返りの小テストを単元ごとに行います。後期の医療的ケア演習に必要な安全で確実な知識を身に付けましょう。

医療的ケア演習

2年次（半期）

1単位（演習）

担当 ★宮崎 恭子, ★緒方 都

《授業の概要》

前期の「医療的ケア1（吸引）」「医療的ケア2（経管栄養）」の授業を踏まえ、安全で安楽な手技が確実にできるようにすることを目的とする。手技の根拠として、両授業の内容が挙げられる。医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

《学生の到達目標》

生活支援を行う専門職として、医療的な依存度が高くても利用者や家族が「その人らしい暮らし」を達成できるようにこのような支援・介護を行えばよいのかを考慮し、医療的ケアで習得する技術の必要性を捉えることができる。また、利用者の状況に応じて、安全・安楽かつ確実に実施できる。吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）、経管栄養（胃ろうまたは腸ろう・経鼻経管）それぞれ決められた項目で、手順どおりに実施できる。5回目の評価時には、全ての項目で「手順どおりに実施できている」となる。また、救急蘇生法が実施できるようにする。

《授業計画》

1. 口腔内吸引①
2. 口腔内吸引②
3. 口腔内吸引③
4. 鼻腔内吸引①
5. 鼻腔内吸引②
6. 気管カニューレ内部吸引①
7. 気管カニューレ内部吸引②
8. 気管カニューレ内部吸引③
9. 胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養①
10. 胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養②
11. 胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養③
12. 経鼻経管栄養①
13. 経鼻経管栄養②
14. 救急蘇生法①
15. 救急蘇生法②

《成績評価の方法・基準》

規定されている評価方法による実技評価（5項目で、5回目の評価時には、全ての項目で「手順どおりに実施できている」となればよい。できるまで実技を行う。

《授業で使用する教科書》

・川井 太加子「最新介護福祉全集13 医療的ケア」メヂカルフレンド社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、前期の「医療的ケア1・2」の授業の復習をし、演習の根拠を学んでおきましょう。また、教科書についているDVDを何度も見たり、事前に渡す資料を熟読し、演習の流れを覚えるようにしましょう。事後学習として、授業にてできなかったところを自習しましょう。

ボランティア演習

2年次（半期）

1単位（演習）

担当 ★長橋 幸恵

《授業の概要》

国内外のボランティア活動について学んだ上で、地域ボランティアや施設ボランティアの実践をする集中講義にてボランティアの必要性を考え実施することで身につきます。無償の福祉活動について理論・実践の両面を徹底的に学び演習する。災害ボランティアについての十分な準備や心構えを知る。

《学生の到達目標》

・自ら進んで社会活動に参加できる。・災害時のボランティア活動を知り、できることを自己にて見つける。・ボランティア活動により、自己の成長を感じることができる。・ボランティアを通して、人との交流をもつことができる。

《授業計画》

1. 活動したいボランティア先の計画
2. 活動したいボランティア先の計画
3. ボランティア活動
4. ボランティア活動
5. ボランティア活動
6. ボランティア活動
7. ボランティア活動
8. ボランティア活動
9. ボランティア活動
10. ボランティア活動
11. ボランティア活動
12. ボランティア活動
13. ボランティア活動
14. ボランティア活動
15. ボランティア活動 報告

《成績評価の方法・基準》

ボランティア活動レポート（100点）

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

自分の興味のある場所にボランティアにさんかしてみませんか。そのために事前の下調べして、ボランティア活動をしましょう。ボランティア後は、ボランティア活動報告書を提出してもらいます。

介護食実習

2年次（半期）
2単位（実習）
担当 ★宮本 弥生

《授業の概要》

介護食論で学んだことを基本に、嘔吐事・飲み込むことが出来にくくなった高齢者の方にも楽しんでいただける、介護食を作る人にも重荷にならない食事を実習する。

《学生の到達目標》

介護食士3級の資格取得

《授業計画》

1. オリエンテーション 介護食について
2. ソフト食の献立
3. 咀嚼困難な人のための献立
4. 嚥下困難な人のための献立
5. 生活習慣病予防のための献立1（糖尿病予防）
6. 生活習慣病予防のための献立2（高血圧予防）
7. 生活習慣病予防のための献立3（脂質異常予防）
8. 骨粗鬆症予防のための献立
9. おやつ・軽食
10. いろいろなものトロミをつけた献立
11. トロミ剤を使った献立
12. 市販の介護食を使って
13. 電子レンジや炊飯器を上手に使う
14. 冬の食材を使って
15. 初春の食材を使って

《成績評価の方法・基準》

毎授業の達成度50% テスト 50%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

・事前 介護食論で習ったことを復習。・事後 実習後 実習の作成。

介護食論

2年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

人間はいつになっても、生きていく以上食べることは必要である。この教科では、嘔吐ことや、飲み込むことなどの摂食行為が難しくなった高齢者や障害者に、生きていくうえでのQOLを高める「おいしい食事」や「楽しい食事」の必要性と、介護食（嚥下食）を提供するために必要な知識（高齢者の身体的特徴、嚥下のしくみ、栄養や食品、食品衛生など）について学ぶ。

《学生の到達目標》

高齢者の身体的特徴や心理的特徴を理解することができる。介護食を作るうえで必要な、栄養素を理解し、バランスの良い介護食を考えることができる。介護食を作るために必要な食材の基礎知識を学び、日々の食生活に生かすことができる。安全な食事を提供するために、食品衛生に関する知識を身につけ、実践することができる。介護食士3級の資格取得のために必要な知識を身につけることができる。

《授業計画》

- | | |
|------------|---------------------|
| 1. 介護食士概論 | 介護食士の仕事 |
| 2. 医学的基礎知識 | ①摂食活動に関わる器官とその機能 |
| 3. 医学的基礎知識 | ②高齢者の身体機能の低下（小テスト①） |
| 4. 高齢者の心理 | ①高齢者の心理的理解 |
| 5. 高齢者の心理 | ②高齢者の食への支援 |
| 6. 栄養学 | ①五大栄養素（炭水化物・たんぱく質） |
| 7. 栄養学 | ②五大栄養素（脂質） |
| 8. 栄養学 | ③五大栄養素（ビタミン・無機質） |
| 9. 栄養学 | ④非栄養成分 |
| 10. 栄養学 | ⑤高齢者の栄養学 |
| 11. 食品学 | ①主食となる食材 |
| 12. 食品学 | ②主菜となる食材 |
| 13. 食品学 | ③副菜・その他の食材 |
| 14. 食品衛生学 | ①食品衛生とは・食中毒概論 |
| 15. 食品衛生学 | ②食中毒の予防・食品表示 |

《成績評価の方法・基準》

授業内外で取り組んだ課題や復習問題（40%）定期テストでは全範囲の知識を問う（60%）

《授業で使用する教科書》

・（公社）全国調理職業訓練協会「介護食士講座3級」・（公社）全国調理職業訓練協会「介護食士3級 問題集 *配布」

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

【事前学習】 授業範囲に当たる教科書をよく読み、理解する。高齢者の食に関するニュースや新聞に目を向け、社会状況を良く知る。【事後学習】 「介護食士3級 問題集」を用いて、授業で習った範囲について復習をする。テスト前には教科書、配布プリントをよく読み、必要な知識を覚える

介護予防運動指導

2年次（半期）

1単位（演習）

担当 ★宮崎 恭子, 小笠原 資子

《授業の概要》

高齢者への介護予防を推進するためには、要支援・要介護の状態に陥るリスクを早期に、的確に把握するとともに、その身体機能の維持・向上を個々の状態に応じて安全に、効果的に行うことが重要である。このようなことを踏まえて、介護予防運動指導員として、筋力向上トレーニングを指導する力を養う。地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターが認定する資格であり、資格試験に修了することを目的とする。適宜、小テストを行い知識の定着を図る。

《学生の到達目標》

高齢者が本来持っている身体機能を十分に活かすための質の高い筋力向上トレーニングや生活習慣の確立を目指し介護予防を推進することで健康寿命を延ばす支援ができる。また、要支援・要介護となるリスクを述べることができる。資格試験を修了し、介護予防運動指導員として高齢者への運動指導をすることができるようになる。地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターが行う資格試験に修了することで、介護予防運動指導員として登録することができる。

《授業計画》

1. 老年学、介護予防概論
2. 地域づくりによる介護予防論、高齢者の社会参加と介護予防
3. 介護予防・日常生活支援総合事業と介護予防コーディネーション、行動科学特論
4. 認知症予防概論
5. 認知症予防実習（グループワーク）
6. 介護予防評価学特論
7. 介護予防評価学実習（グループワーク）
8. 高齢者筋力向上トレーニング特論
9. 高齢者筋力向上トレーニング実習（グループワーク）
10. 高齢者筋力向上トレーニング実習（グループワーク）
11. 高齢者筋力向上トレーニング実習（グループワーク）
12. 転倒予防概論
13. 転倒予防実習（グループワーク）
14. 尿失禁予防概論
15. 尿失禁予防実習（グループワーク）
16. 口腔機能向上特論
17. 口腔機能向上実習（グループワーク）
18. 高齢者栄養改善活動特論
19. 介護予防福祉学
20. リスクマネジメント
21. フレイル・サルコペニア予防特論、うつ・孤立・閉じこもり予防特論

《成績評価の方法・基準》

グループワークへの参加80点、小テスト20点で評価する。

《授業で使用する教科書》

・地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター「介護予防運動指導員養成講座テキスト」
地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターが行う修了試験は、8割の出席が無ければ受けることができません。体調を整え、出席を心がけましょう。別途、費用（指定テキスト代金、検定試験費用など）がかかります。事前学習として、介護予防について興味を持ち、特に運動の側面から自分なりに調べてみましょう。事後学習として、それぞれの単元の項目を復習し、資格試験を修了できるよう学びましょう。

ゼミナール2

2年次（半期）

1単位（演習）

担当 小林 孔, ★山本 永人

《授業の概要》

1年次の「ゼミナール1」の成果を踏まえて、本学科での卒業論文を完成させる。400字詰め原稿用紙15枚以上を目標に、各自が研究テーマを探究し、その過程のなかで得た情報を論理的に組み立て、独創性が発揮されていけば、大成功である。できれば、それが、今後にも活かされ、自分自身の探究心の支柱となれればよい。研究テーマは、介護、福祉に限定されるものではなく、社会科学、人間科学全般に及んでもよい。

《学生の到達目標》

6000字以上の文章は、おそらく未知の領域にあるだろう。それを完成することができればよい。ただし、盗作、剽窃があってはならない。自分で選んだテーマに責任をもち、自分らしい考え方を、筋道をととして書くことができる。

《授業計画》

1. 論文の書き方講座
2. テーマの明確化
3. 問題提起
4. 参考文献レファレンス
5. 仮説を立てる
6. 証明の手続き①（従来の学説を確かめる）
7. 証明の手続き②（従来の学説への疑問点）
8. 証明の手続き③（自分なりの見解をたてる）
9. 論文の体裁
10. 証明の手続き④（その見解は正しいか？）
11. 証明の手続き⑤（説得力）
12. 序論、結論の再点検
13. 論文の点検と推敲
14. 完成
15. 論文の口頭質問

《成績評価の方法・基準》

提出した論文（70%）と、その論文に関する口頭質問（30%）の成績をあわせて評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

提出期限内に論文が出るよう、計画的に実践あるのみ。担当教員が論文完成のサポートを授業の事前及び事後に行うことにする。論文の書き方に関する参考文献は、参照する必要はなく自分のテーマに従った書き方を指導する。

社会のしくみと実践（デュアルB）

2年次（半期）
1単位（演習）
担当 ★前田 崇博

《授業の概要》

働きながら学ぶデュアル教育システムの実践編的な科目の機能と役割を持つ。介護福祉士としての資質、倫理、そして様々な技術を実践を通して学んでいく。また、具体的な介護の仕事がどのようなものか、また、自分の『適性』『適職性』を自己覚知していくトレーニングでもある。また、自分のライフワークとしての介護方法論やその理念、哲学を実践を通して学んでいく。

《学生の到達目標》

1. プロとしての介護福祉士の倫理、哲学を習得する 2. 介護福祉士としての八徽と任務を学ぶ 3. 介護福祉士以外の専門職の役割と任務を学ぶ

《授業計画》

1. デュアル概論
2. 介護福祉士総論
3. 介護の技術
4. 福祉の技術
5. 多職種との協働1
6. 多職種との協働2
7. 施設職員としての心構え
8. 介護福祉士としての課題解決
9. スーパービジョンを学ぶ
10. ケアマネジメントを学ぶ
11. リスクマネジメントを学ぶ
12. タイムテーブルを意識したデュアル実践
13. チームワークを意識したデュアル実践
14. 施設環境を意識したデュアル実践
15. デュアル実践カンファレンス

《成績評価の方法・基準》

デュアルの内容と報告レポートむ70%、学内課題レポート30%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

デュアルをした施設種別と実際に行く施設について学んでおくこと。また、他の人のデュアルも参考に厳しい自己点検をして毎回臨んでください。

社会のしくみと実践（デュアルC）

2年次（半期）
1単位（演習）
担当 ★前田 崇博

《授業の概要》

働きながら学ぶデュアル教育システムの応用、卒業修科目という位置づけ。実際のデュアルに伴走していく基幹科目である。また、苦情解決等のロールプレイング演習もとり入れる。学内の全コマでアクティブラーニング形式の教授法を採用して、介護福祉士としての資質向上をはかっていく。また、時期的に就職が決まっているため、有償のインターンシップのような役割を持った実践をレポートしていく科目でもある。そのため、訪問指導、ケアカンファレンス、スーパービジョンをしていく。

《学生の到達目標》

1. 自己覚知能力 2. 自己分析能力 3. 介護福祉士として働く能力 4. チームケア構築能力 5. 介護福祉士の役割と任務遂行能力 6. 各種スーパービジョンの遂行能力

《授業計画》

1. デュアル実践諸注意
2. オリエンテーション
3. 訪問指導1
4. ケアカンファレンス1
5. 訪問指導2
6. ケアカンファレンス2
7. 訪問指導3
8. 訪問指導4
9. 個別スーパービジョン
10. 集団スーパービジョン
11. ピアスーパービジョン
12. ライブスーパービジョン
13. セルフスーパービジョン
14. 学内反省会
15. 学内報告会

《成績評価の方法・基準》

訪問指導、ケアカンファレンス等の報告内容40%、期末レポート60%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、施設種別や対象者理解を進めておくこと事後学習としては、簡単な業務日誌を作成していくこと。

インターンシップ2 (キャリアアップ)

2年次 (半期)
1単位 (演習)
担当 ★前田 崇博

《授業の概要》

介護福祉士としてのステップアップである施設長などの管理職、またはケアマネジャーの基本的役割や任務を教授する科目である。学内講義で基本内容を教示、ディスカッションとロールプレイング演習で内容を確認する。さらに自己覚知や接遇演習、リスクマネジメントも実践する。そして合格点に達した場合、2種類の体験実習を経験させる。講義、演習、実習を織り交ぜたアクティブラーニングの短期集中インターンシップである。

《学生の到達目標》

介護福祉士の次のステージのためのインターンシップを経験する。特に、施設長が集結するカンファレンスでの組織運営力を学ぶ。ケアマネジャーに密着同行して相談・助言、そしてケアマネジメント力を養っていく。

《授業計画》

1. コミュニケーション演習1
2. コミュニケーション演習2
3. コミュニケーション演習3
4. 接遇とマナー演習1
5. 接遇とマナー演習2
6. 接遇とマナー演習3
7. ソーシャルアドミニストレーション
8. 施設介護の課題と問題
9. 自己覚知演習1
10. 自己覚知演習2
11. ロールプレイングトレーニング
12. 介護福祉士の役割と任務
13. ケアカンファレンス演習
14. 介護福祉士の仕事と任務
15. 自己評価のためのレビュー

《成績評価の方法・基準》

講義、演習等の形式で実施する発表内容の評価50%とインターンシップ実習での評価50%。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

毎回、次の演習、実習のテーマを教示します。しっかり予習して臨んでください。また事後学習として施設の種別や職員役割・任務について自分で調べてノートに記載していきましょう。

海外研究

2年次 (半期)
1単位 (演習)
担当 ★長橋 幸恵

《授業の概要》

福祉の先進国である北欧諸国を実際に訪問し、高齢者や障害者の生活の場を見学し、利用者とのふれあいを通しながら、福祉に関して国際比較できる力を養う。SQCによる施設見学プログラムを行い、北欧の高齢者・障害者の生活の場を実際に目で見て感じる。日本とは違う福祉についても学ぶ。スヌーズレンが実際にどのように生活に取り入れられているのかについても理解する。

《学生の到達目標》

海外研修にてスウェーデンの福祉を知ることにより、より広い視野で福祉を考える力を身に付けます。ノーマライゼーション等、世界レベルでの福祉実践がされることにより、グローバルな社会福祉の思想や価値観を備えた国際感覚豊かな介護福祉士の素養を身につけることができる。

《授業計画》

1. 事前学習 (スウェーデンについて知ろう 気候・通貨・日本との時差)
2. 事前学習 (スウェーデンの暮らしについて)
3. 事前学習 (スウェーデンの食文化、フィーカ)
4. 事前学習 (スウェーデン語)
5. 事前学習 (スウェーデンの福祉政策について)
6. 研修プログラム 日程表の確認
7. 研修プログラム しおり作成
8. 研修プログラム しおり作成
9. 高齢者視察 特別な住居
10. 高齢者視察 特別な住居
11. 高齢者視察 特別な住居
12. 障害者視察 特別な住居
13. 障害者視察 特別な住居
14. 障害者視察 特別な住居
15. まとめ

《成績評価の方法・基準》

しおり作成20%、レポート80%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、スウェーデンの福祉・文化・伝統・食文化等について事前に調べておきましょう。事後学習では、高齢者・障害者施設での学び、日本との福祉の違いについても語れるように研修後、まとめのレポートを書くようにしましょう。スウェーデンを実際に訪問できることは人生の中でも、あまりできない経験です。ぜひ、他国の福祉を知り、自分自身の体験・経験から、学びにつなげていきましょう。

介護福祉特論 1

2 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 人福専任教員

《授業の概要》

介護福祉士の国家試験受験準備をする基幹科目である。各科目で習った頻出キーワードや難解な事例問題、総合問題を再度学習する機能と役割がある。また、国家試験対策 I と連動することで全学年の学生が一堂に会する科目であり、相互ティーチングによるチューター機能のある科目である。さらに、全教員も揃う科目として設定されているので、全試験範囲を網羅することが可能となる。不得意な領域をなくすよう個別指導も徹底していく。

《学生の到達目標》

1. 国家試験頻出キーワードを整理、暗記していく 2. 苦手な領域の問題について徹底的に学ぶ 3. 相互ティーチングにより教員としてのロールプレイも経験する 4. 難解な事例問題は他の学生の見解や介護観を理解し考察する 5. 問題の読解力、解析力を身につけていく 6. 学習の仕方、継続的な受験勉強方法、ノート作成方法を学ぶ 7. 定期的に模擬、練習テストをすることで到達度を自己管理していく。

《授業計画》

1. 社会の理解の要約講義 A (社会福祉法制、制度論)
2. 過去問題の練習と解説
3. チューター制による相互学習
4. 学内作成模擬試験
5. 模擬試験の講評と自己学習
6. 介護の基本領域の要約講義
7. 過去問題の練習と解説
8. チューター制による相互学習
9. 学内作成模擬試験
10. 模擬試験の講評と自己学習
11. 生活支援技術の領域の要約講義
12. 過去問題の練習と解説
13. チューター制による相互学習
14. 学内作成模擬試験
15. 模擬試験の講評と自己学習

《成績評価の方法・基準》

各項目の 5 回目にする試験成績 50%、1 月に実施する国家試験直前試験の成績 50%

《授業で使用する教科書》

・介護福祉士国家試験受験対策研究会「介護福祉士国家試験過去問題集 2021」中央法規出版社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

自分で問題集を進めていくことが事前学習、授業後にオリジナルノートを作成していくことが事後学習です。

介護福祉特論 2

2 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 人福専任教員

《授業の概要》

介護福祉士の国家試験受験準備をする基幹科目である。各科目で習った頻出キーワードや難解な事例問題、総合問題を再度学習する機能と役割がある。また、国家試験対策 I と連動することで全学年の学生が一堂に会する科目であり、相互ティーチングによるチューター機能のある科目である。さらに、全教員も揃う科目として設定されているので、全試験範囲を網羅することが可能となる。不得意な領域をなくすよう個別指導も徹底していく。

《学生の到達目標》

1. 国家試験頻出キーワードを整理、暗記していく 2. 苦手な領域の問題について徹底的に学ぶ 3. 相互ティーチングにより教員としてのロールプレイも経験する 4. 難解な事例問題は他の学生の見解や介護観を理解し考察する 5. 問題の読解力、解析力を身につけていく 6. 学習の仕方、継続的な受験勉強方法、ノート作成方法を学ぶ 7. 定期的に模擬、練習テストをすることで到達度を自己管理していく。

《授業計画》

1. こころからたの領域の要約講義 A
2. 過去問題の練習と解説
3. チューター制による相互学習
4. 学内作成模擬試験
5. 模擬試験の講評と自己学習
6. こころからたの領域の要約講義 B
7. 過去問題の練習と解説
8. チューター制による相互学習
9. 学内作成模擬試験
10. 模擬試験の講評と自己学習
11. 介護過程と総合問題の領域の要約講義
12. 過去問題の練習と解説
13. チューター制による相互学習
14. 学内作成模擬試験
15. 模擬試験の講評と自己学習

《成績評価の方法・基準》

各項目の 5 回目にする試験成績 50%、1 月に実施する国家試験直前試験の成績 50%

《授業で使用する教科書》

・介護福祉士国家試験受験対策研究会「介護福祉士国家試験過去問題集 2021」中央法規出版社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

自分で問題集を進めていくことが事前学習、授業後にオリジナルノートを作成していくことが事後学習です。

医療系集中講義科目

現代生活学科・人間福祉学科

医学一般

1, 2 年次 (半期)
2 単位 (講義)
担当 椿井 禎子

《授業の概要》

人体の構造と機能、薬の基礎知識、検査、医療用語、感染症、栄養など、医学に関する一般的な内容について学習する。授業はテキストと配布プリントで進めていく。

《学生の到達目標》

医学に関する一般的な知識を習得することで、「医療管理秘書士」、「医療情報事務士」の資格取得を目指す。

《授業計画》

1. オリエンテーション—人体の構造について
2. 解剖・生理—骨格系・筋系
3. 解剖・生理—循環器系
4. 解剖・生理—呼吸器系
5. 解剖・生理—消化器系
6. 解剖・生理—泌尿器系・生殖器系
7. 解剖・生理—内分泌系
8. 解剖・生理—神経系
9. 解剖・生理—感覚器系
10. 薬の基礎知識
11. 検査概論
12. 感染症
13. 栄養
14. 医療用語・病名略語
15. 医学一般のまとめ

《成績評価の方法・基準》

筆記試験 70%、提出物 20%、授業への取り組み 10%により評価

《授業で使用する教科書》

・「医学一般」一般社団法人 医療教育協会

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：シラバスを確認してテキストを一読していただくこと。事後学習：配布プリント、テキストを毎回見直しして知識を定着させること。

医療管理学

1, 2 年次 (半期)
2 単位 (講義)
担当 椿井 禎子

《授業の概要》

医療機関事務管理、医療関連法規、医療を支える職種、医療保険制度、高齢化社会の保健医療福祉等について学習する。法律用語は難しくテキストを読んでもなかなか理解できないことが多いので、できる限り平易な言葉に置き換え、又実例を挙げて解説していく。

《学生の到達目標》

医療事務関連の資格取得に必要な知識を習得すること。特に「医療管理秘書士」の資格取得を目指す。

《授業計画》

1. オリエンテーション—医療事務の仕事と資格について
2. 医療機関組織の概略
3. 各医療機関組織の役割と運営
4. 医療機関事務管理の専門性と必要な基本知識
5. 医療と情報
6. 医療法 (1)
7. 医療法 (2)
8. 医師法
9. 保健師助産師看護師法
10. 薬剤師法・臨床検査技師法・その他
11. 医療保険 (1)
12. 医療保険 (2)
13. 労働者災害補償保険法
14. 介護保険制度
15. 医療管理学のまとめ

《成績評価の方法・基準》

筆記試験 70%、レポート 20%、授業への取り組み 10%により評価

《授業で使用する教科書》

・「メディカルシステム論」一般社団法人 医療教育協会

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：シラバスを確認してテキストを一読していただくこと。事後学習：配布プリントとテキストを見直しし知識を定着させること。

医療秘書実務

1, 2 年次 (半期)
2 単位 (講義)
担当 井上 里子

《授業の概要》

医療秘書・医療事務には、常に患者様及び家族の置かれている状況や気持ちを理解して、医療サービスを行うことがもたられている。その中で、社会組織における医療や倫理、医療秘書・医療事務の役割や業務を解りやすく概説する。

《学生の到達目標》

医療事務・医療秘書に必要な知識を理解する。病院職員の倫理や医療サービスの位置付けと実務について習得する。及び2年次に受験する「医療管理秘書士」、「医療事務士」の合格を目標とする。

《授業計画》

1. 社会の仕組みとしての医療
2. 医療秘書と医療事務の役割
3. 医療の倫理 (病院の特性と倫理)
4. インフォームドコンセント
5. 患者の心理の理解①医療従事者に望むこと
6. 患者の心理の理解②医療従事者に求められる要素
7. 医療秘書実務①受付の業務
8. 医療秘書実務②接遇用語について
9. 医療秘書実務③応対の基本態度
10. 医療機関での応対①患者受付の種類と役割
11. 医療機関での応対②患者受付の実際のポイント
12. 医療機関での応対③患者受付 (窓口受付) の実際
13. 医療秘書・医療事務に必要な医療用語
14. 全体のまとめ
15. 総括

《成績評価の方法・基準》

試験 80%、レポート 20%、授業態度による総合評価とする。

《授業で使用する教科書》

・「メディカルシステム論」

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

医療現場や医療情報などに、関心を持ち医療用語など理解するように努める。

医療事務総論及び演習レセプトコンピュータ

2 年次 (半期)
2 単位 (演習)
担当 尾崎 好子, 柴田 敬子

《授業の概要》

近代医療の高度化が進む中で、医療事務に対する専門性と必要性は医療機関では高く評価されている。健康保険法をはじめ各種医療保険制度の仕組みや診療報酬請求事務等に関する知識を養う。また、医療事務では診療行為の料金化と医療機関の経営、診療報酬請求業務について、相当な知識が要求されている為その技能を養う。

《学生の到達目標》

診療録 (カルテ) を理解し、患者に請求できる医療費を読み取る力を身につけます。

《授業計画》

1. 医療保険制度の概要
2. 医療費のしくみ
3. 診療報酬請求事務
4. 初診料
5. 再診料
6. 入院料
7. 医学管理等料
8. 在宅医療料
9. 投薬料
10. 注射料
11. 処置料・手術料・麻酔料
12. 検査料・画像診断料
13. リハビリテーション料・精神科専門療法料
14. 放射線総合診療料・病理診断料
15. まとめ

《成績評価の方法・基準》

課題・レポート・提出物 (40%)、試験の成績点 (60%)

《授業で使用する教科書》

・一般社団法人医療教育協会「診療報酬請求の実務診療報酬請求演習」一般社団法人医療教育協会
・一般社団法人医療教育協会「医科診療報酬点数表」一般社団法人医療教育協会

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

・講義は基礎の積み重ねですので、毎回受講した内容を復習しノートや資料を整理して下さい。
・講義中配布した練習問題等は自主学習にも使用して下さい。

専攻科介護福祉専攻

社会福祉概論(社会の理解)

1 年次(半期)
2 単位(講義)
担当 ★前田 崇博

《授業の概要》

保育士と介護福祉士にとって必要となる社会福祉の知識について教授している。特に介護福祉士の環境である法律、制度、施設体系について教授する。具体的には日本国憲法、社会福祉法、社会福祉六法、介護保険法などの基幹法とそれに関連する相談所などを教員、学生協働の双方向コミュニケーションをとれるディベートを頻繁に実施することにより学びを深めていく。また、国家試験の頻出キーワードが毎回 10 語教示するがこれも全員で演習を通してその場で覚えていく。また社会福祉に関する課題・問題を各種のアクティブラーニングで抽出していく。

《学生の到達目標》

32 の法律・憲章、そして 5 つの政策・制度体系、150 語に及ぶ国家試験関連キーワードについて学んでいく。特に、法律に関しては条文も含めしっかりと理解していく。重要キーワードに関しては、毎回しっかりと暗記していく。【授業計画】について授業回ごとに記載してください

《授業計画》

1. 社会福祉の定義と哲学
2. 社会福祉六法
3. 日本国憲法と民法・刑法・少年法
4. 高齢者福祉論
5. 児童福祉論
6. 身体障害者福祉論
7. 知的障害者福祉論
8. 精神保健福祉論
9. 生活保護と生活困窮者自立支援制度
10. 家族福祉論
11. 地域福祉論
12. 介護福祉士と介護保険
13. 社会福祉制度論
14. 海外の社会福祉
15. 社会福祉総論

《成績評価の方法・基準》

毎回、授業後に学びに復習としてのミニレポートを課します。また、期末テストも実施します。前者後者それぞれ 50%ずつの基準で評価します

《授業で使用する教科書》

・福田素生「系統看護学講座 社会保障・社会福祉」医学書院

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

毎回、国家試験に関わるキーワードを 10 個提示します。通常のノートとは別に単語帳を作成し、次回の授業までに暗記していきましょう。

社会保障論(社会の理解)

1 年次(半期)
2 単位(講義)
担当 ★山本 永人

《授業の概要》

社会保障制度はわが国の人々が安心して生活を営むためのきわめて重要なセーフティネットの役割を果たしています。その制度の骨格やサービスの内容を概説します。税金や社会保険の財源を使いながらどのようにその制度を組み立てているのか基本的な部分を中心に学びます。

《学生の到達目標》

介護を実践するなかで、その背景となる社会保障制度の役割を理解し説明できるようになる。利用者の生活支援に活かせる知識をみにつける。

《授業計画》

1. 社会福祉の定義とその専門性について【教科書第 1 章】
2. 社会保障制度の基本的な仕組み【教科書第 1 章】
3. 現代社会の変化と社会保障【教科書第 2 章】
4. 社会保険制度① 医療保険(1)【教科書第 3 章】
5. 社会保険制度① 医療保険(2)【教科書第 3 章】
6. 社会保険制度② 年金保険【教科書第 5 章 p120~p137】
7. 社会保険制度③ 労働保険【教科書第 5 章 p137~p144】
8. 社会保険制度④ 介護保険制度(1)【教科書第 4 章】
9. 社会保険制度④ 介護保険制度(2)【教科書第 4 章】
10. 公的扶助制度① 生活保護制度【教科書第 6 章】
11. 公的扶助制度② 生活保護制度・社会手当【教科書第 6 章】
12. 障害者の福祉【教科書第 7 章 p175~p189】
13. 障害者総合支援法に基づく障害者サービス【教科書第 7 章 p189~p203】
14. 児童の福祉【教科書第 7 章 p203~p221】
15. 社会保障制度の今後の課題 振り返りのディスカッション

《成績評価の方法・基準》

試験 80% レポート 20%

《授業で使用する教科書》

・福田 素生「系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③」医学書院

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：シラバスの各単元の教科書(範囲は上記【 】で示す)を授業前に熟読しておきましょう。(30 分) 事後学習：配布されたプリントと教科書を今一度振り返り、それぞれの制度やサービスの内容を確認しましょう。(60 分)

介護の基本 1 (概論・役割)

1 年次 (半期)
2 単位 (講義)
担当 ★前田 崇博

《授業の概要》

保育士を有する介護福祉士として必要となる介護の知識と技術を学ぶ科目である。具体的には介護が発展してきた歴史を教授する。そして介護福祉士の誕生の社会的背景や介護福祉士の役割と任務をディベートを通して一緒に考察する。また、介護福祉士が活躍する施設や機関をビデオ学習等を通してアクティブラーニング形式で課題抽出していく。

《学生の到達目標》

保育士として、そして介護福祉士として必要となる基本的な知識と理論について学んでいく。特に、思考力、表現力、課題設定力などを修得していく。

《授業計画》

1. 介護の歴史
2. 介護の理論と哲学
3. 介護福祉士の誕生と歴史
4. 介護福祉士の倫理綱領
5. 介護保険制度 1
6. 介護保険制度 2
7. 介護保険制度 3
8. 介護老人福祉施設
9. 介護老人保健施設
10. 有料老人ホームとサ高住
11. その他の施設の説明
12. 介護の理念と事例研究
13. 居宅介護の社会資源
14. 介護福祉士とその活躍事例
15. 介護の概念規定

《成績評価の方法・基準》

毎回、その時間内の課題をミニレポートとして書く。成績としてはそのミニレポート 50%、定期試験 50%の基準で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

教科書を指定しないかわりに毎回、拙著のプリント等を配布する。しっかり専用ノートに貼付すること。また、毎回国家試験頻出キーワードを教授するので次回まで暗記して臨むことを事前・事後学習とする

介護の基本 2 (尊厳・倫理)

1 年次 (半期)
2 単位 (講義)
担当 ★多田 鈴子

《授業の概要》

介護福祉の基本となる 理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を身につける。複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる 理念を理解する。

《学生の到達目標》

「尊厳の保持」「自立支援」という介護の基本となる考え方を理解する。介護を必要とする人を生活の視点からとらえることができる。歴史的変遷を踏まえて、理解を深める。介護福祉士の取り巻く現状、役割と機能を支える仕組み、介護サービスの概要を理解することができる。

《授業計画》

1. 介護福祉士を取り巻く状況① (介護福祉士の仕事を知る)
2. 介護福祉士を取り巻く状況 (個人ワーク) ②
3. 介護福祉士を取り巻く状況 (グループワーク) ③
4. 高齢者擬似体験 高齢者の世界を感じる
5. 介護福祉士の役割と機能①
6. 介護福祉士の役割と機能 (ディスカッション) ②
7. 介護福祉士の役割と機能③
8. 介護福祉士の役割と機能 (発表) ④
9. 介護福祉士を支える仕組み① (贈与団体)
10. 介護福祉士を支える仕組み② (介護福祉士の役割)
11. 介護福祉士を支える仕組み③
12. 介護サービス①介護サービスの特性
13. 介護サービス②提供の場の特長
14. 介護サービス③自己実現につながる役割
15. 国家試験対策

《成績評価の方法・基準》

定期試験 70%、課題レポートなど提出物 30%で評価する。

《授業で使用する教科書》

・介護福祉士養成講座編集委員会「介護の基本Ⅱ」中央法規出版社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、教科書を読み、予習を行いましょう。事後学習として、レポートにまとめていきましょう。日頃から、介護、福祉に関心を持ち、新聞等の報道から情報を収集し、見聞を広めていきましょう。疑問や意見等は、活発に発言して意欲的に授業に取り組みしましょう。

介護の基本3（生活歴）

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★瀬 志保

《授業の概要》

介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を身につける。複雑化、多様化、高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。この科目では、その中でも介護を必要とする人の個別性を尊重するために、生活の多様性や社会との関わりを理解することを目的とする。また、生活の質を向上させる余暇活動の必要性や認知症ケアに有効な各種アクティビティの効果を理解する。

《学生の到達目標》

・介護を必要とする人について、その生活や生きてきた生活背景（生活歴）を理解することができる。・介護を必要とする人を個々の生活者として捉えるとともに、生活背景や時代背景を理解し、支援を考えることができる。・認知症の人が住み慣れた地域での生活を継続できる活動について、説明することができる。・生活の質を向上させる余暇活動の必要性と認知症ケアで有効な各種アクティビティの効果について説明することができる。

《授業計画》

1. 介護を必要とする人の生活を知る
2. 介護を必要とする人が生きてきた時代背景と生活史（昭和三十九年）・価値観
3. 介護を必要とする人が生きてきた時代背景と生活史（平成）・価値観
4. 地域住民から学ぶ生活の多様性の理解（地域住民へのインタビューを通して学ぶ）
5. 地域住民の方から学ぶ生活の多様性の理解（生活歴をまとめた内容をグループ発表）
6. 個別性の理解・生活歴から身近な人から聞き取り、時代背景を知る
7. 身近な人の時代背景の聞き取り調査の発表
8. 生活歴の理解（電化製品の進化や食事の変化から知る昭和三十九年の暮らし）
9. 生活歴の理解（映画を教材に昭和三十九年のもの考え方を学ぶ）
10. 高齢者の暮らしの現在、介護を必要とする人の理解（認知症ケア）
11. アクティビティ・ケアの基本
12. アクティビティケアの実践（運動療法、音楽療法、園芸療法）
13. アクティビティケアの実践（化療療法、料理療法、回想法）
14. その人らしさの理解
15. そのひとらしさを支える介護

《成績評価の方法・基準》

定期試験 60%、課題レポート、小テスト 40% で評価する。

《授業で使用する教科書》

・「認知症ライフパートナー検定試験 3 級公式テキスト」(株) エスシーアイ

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

介護を必要とする人の個々の生活背景や生活歴を知り、その人らしさについて考えていきます。身近な人へのインタビューや地域住民の方々からの体験談を通して、多様な生活を知るとともに、地域での取り組みについても学んでいきます。インタビュー後は、その内容を個人、グループごとに発表できるように、内容をまとめておきましょう。また、アクティビティの種類に関しては、教科書で内容を事前に読んでおきましょう。

介護の基本4（リハビリテーション）

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★瀬 志保

《授業の概要》

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を身につける。複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。また、ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から、個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解することを目的とする。

《学生の到達目標》

1. 生活の継続性を支援するために、個々の心身状況に応じたリハビリテーションの考え方を理解する。また、それに関連する環境整備に必要な知識や技術を習得する。2. 自立を支援するために必要な補装具、日常生活用具、福祉用具貸与、購入種目について、理解を深めることができる。3. 地域での生活を継続するために必要な知識として、介護予防の重要性について学び、継続した支援について考えることができる。

《授業計画》

1. リハビリテーションとは
2. リハビリテーションの種類（医学的、教育、社会、職業リハビリテーション）
3. 福祉用具の理解と選択時のポイント（補装具、日常生活用具）
4. 介護保険の住宅改修、対象工事
5. 障害別リハビリテーションの実践（脳卒中の原因と症状、歩行介助の演習）
6. 障害別リハビリテーションの実践（脳卒中の原因と症状、移乗介助の演習）
7. 障害別リハビリテーションの実践（パーキンソン病の原因と症状、歩行介助の演習）
8. 障害別リハビリテーションの実践（関節リウマチの原因と症状、具体的な支援）
9. 障害別リハビリテーションの実践（脊椎損傷の原因、具体的な支援）
10. 障害別リハビリテーションの実践（高齢者に多い骨折部位と具体的な支援）
11. 国際生活機能分類（ICF）の視点の理解
12. 関連職種との役割と地域での介護予防の取り組み（訪問リハビリテーションを事例として）
13. 国家試験対策演習（過去問を解き、解説）
14. 国家試験対策演習（過去問を解き、解説）
15. まとめ

《成績評価の方法・基準》

演習振り返りレポート、課題レポート、小テスト 40%、定期テスト 60% で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

障害や病状により、福祉用具を活用する方や支援が必要となる方に対して、自立を支援するために必要となる知識と技術を見につけられるよう、学びを深めていきます。各疾患の原因や支援技術を演習や映像、資料等で学んでいきます。授業前には各疾患の復習を、演習後には技術の振り返りを行い、実践につなげられるようにしましょう。

介護の基本5（多職種連携）

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★長橋 幸恵

《授業の概要》

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を身につける。複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解する。介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、介護サービスや地域連携等、フォーマル・インフォーマルな支援を理解する。

《学生の到達目標》

・介護を必要とする利用者のライフスタイルが理解できる。・介護実践における多職種連携と地域における支援機関のネットワークの実際を調べ理解できる。・専門職の概要について知り、利用者にとり多職種連携（チームアプローチ）しているのかを理解する。

《授業計画》

1. 介護を必要とする利用者理解
2. 介護実践での多職種連携①チームアプローチとは何か
3. 介護実践での多職種連携②専門職の仕事
4. 介護実践での多職種連携③専門職の仕事
5. 利用者を取り巻く多職種連携の実際 事例検討グループワーク
6. 介護実践での地域連携①概要
7. 介護実践での地域連携②地域にかかわる機関の理解
8. 利用者を取り巻く地域連携の実際 事例検討グループワーク
9. 利用者の人生を理解する① ライフサークル
10. 利用者の人生を理解する② 介護福祉士の力を地域で発揮する
11. 介護福祉士に求められる能力
12. 自己のライフスタイルについて考える
13. 生活者として自身がよりよく生きる グループワーク
14. まとめ問題
15. 国家試験対策 まとめ

《成績評価の方法・基準》

試験（60点）、グループワークへの取り組み（30点）、レポート（10点）

《授業で使用する教科書》

・介護福祉士養成講座編集委員会「最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ」中央法規・「書いて覚える！ワークノート」ユーキャン

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

実習先等で出会う多職種の方が利用者にとりどのように関わっているのか、事前にレポートにてまとめることができ、多職種の方の仕事内容を理解できるようにしましょう。事後は、ワークノートで学んだ所の確認問題をしましょう。

介護の基本6（リスクマネジメント）

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★長橋 幸恵

《授業の概要》

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を身につける。複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解する。介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、介護サービスや地域連携等、フォーマル・インフォーマルな支援を理解する。

《学生の到達目標》

・介護における安全確保の重要性について考えることができる。・安全な生活とは何かを理解することができる。・リスクマネジメントの必要性とその過程が理解できる。・災害についての知識や、実際に災害時に必要な設備や備品等についての知識がある。・ストレスマネジメントを理解することができる。・介護職のこころとからだの健康を考えることができる。

《授業計画》

1. 介護における安全確保の重要性
2. 的確な観察と根拠に基づく判断力の必要性
3. 介護におけるリスクマネジメントに必要な視点
4. 身体拘束 利用者ストレスとリスク
5. 介護ストレスへの対応 こととからだの健康 ストレスマネジメント
6. 介護事故事例検討①個人ワーク
7. 介護事故事例検討②グループワーク
8. 事故防止、安全対策のためのリスクマネジメントのしくみ①
9. 事故防止、安全対策のためのリスクマネジメントのしくみ②
10. 事故報告書の書き方
11. 災害時対策①基本的知識 リスクマネジメントの視点
12. 災害時対策②東日本大震災の際の施設事例を通して
13. 介護職の健康管理安全確保 感染予防のための対策
14. まとめ問題
15. 国家試験対策

《成績評価の方法・基準》

試験（60点）、グループワークへの取り組み（30点）、レポート（10点）

《授業で使用する教科書》

・介護福祉士養成講座編集委員会「最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ」中央法規・「書いて覚える！ワークノート」ユーキャン

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

生活する上でどのようなところにリスクがあるか、日頃から考えることから、はじめましょう。そこで、リスクはどのようなところに潜んでいるのか、利用者にとって安全な暮らしとは何かを考えましょう。事後は、ワークノートで学んだ所の確認問題をしましょう。

コミュニケーション技術 1

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★長橋 幸恵

《授業の概要》

利用者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。信頼関係の構築や意志決定を支援するためのコミュニケーションの基本的な技術を習得する。家族の置かれている状況、場面を理解し、家族への支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技術を身につける。情報を適切にまとめ、発信するために、介護実践における情報の共有化の意義を理解し、その具体的な方法や情報の管理について理解する。

《学生の到達目標》

・本人の置かれている状況を理解し、信頼関係の構築や意志決定を支援するためのコミュニケーションの基本的な技術を身につけることができる。・障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な技術をかつようすることができる。・コミュニケーションのタイプを自己覚知できる。・利用者の個々にあったコミュニケーション方法を考え、思い通りに添えるコミュニケーションを考案することができる。・コミュニケーションにより、介護実践における情報の共有化の意義を理解し、その具体的な方法や情報の管理について知ることができる。

《授業計画》

1. 介護におけるコミュニケーションの基本
2. コミュニケーションの意義と定義
3. 自己のコミュニケーションスタイルはコミュニケーションを引き出す環境づくり
4. 介護におけるコミュニケーションの役割 利用者理解について考える
5. 介護における生活支援とコミュニケーション
6. 話を聴く技法
7. 利用者の感情表現を察する技法
8. 利用者へ質問する技法
9. 相談相手の介護福祉士の役割 バイステックの7原則
10. 実習中のコミュニケーションの振り返り グループワーク
11. 利用者の意欲を引き出す技法
12. コミュニケーション障害の理解
13. コミュニケーション障害のある利用者との関わり方
14. 多職種協働 チームのコミュニケーション
15. 国家試験対策 まとめ

《成績評価の方法・基準》

試験（80点）、レポート（20点）

《授業で使用する教科書》

・介護福祉士養成講座編集委員会「最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術」中央法規

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

人は他者と関わりがなければ、生きていくことができないといわれています。コミュニケーションは、介護福祉士として、利用者の生活を支える上で必要です。それには、個々に合わせたコミュニケーション方法を理解しておきましょう。自己のコミュニケーションの方法について考えることで、自己のコミュニケーションスタイルについて構築できるようになります。

コミュニケーション技術 2

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 小林 孔

《授業の概要》

日本語を使いこなすには、もちろん長い時間が必要になるが、それでも日ごろからの意識の違いで、大きな差になって現れてくる。コミュニケーションの根幹は聞くことにある。介護ではこれを「傾聴」と言う。コミュニケーション技術1をふまえて、今年度は、対人援助能力を高める表現（共有と共感）の基本から応用の実践までを視野に入れて、演習を組み立てる。

《学生の到達目標》

コミュニケーションのメカニズムと特性を理解することができ、同時に、他者の表現にも共感をし、これを取り込める高度な理解力を養うことができる。演習をとおして、いかに聞く姿勢とその能力が重要になってくるかを、講座の進行とともに実感する。

《授業計画》

1. 日本語運用能力とは
2. なぜ、聞くことが重要なのか
3. 声を表現する①（ディスカッション）
4. 声を表現する②（グループワーク）
5. 声を表現する③（発表）
6. 何を聞き取るのか①（グループワーク）
7. 何を聞き取るのか②（実践と評価）
8. 聞くことと記憶
9. 記憶と記録
10. 声で自分を伝える①（ディスカッション）
11. 声で自分を伝える②（発表）
12. 理解と共感①（グループワーク）
13. 理解と共感②（発表）
14. 共有から何を考えるか①（ディスカッション）
15. 共有から何を考えるか② まとめかいて

《成績評価の方法・基準》

演習に際して、上記の授業計画から4つの課題を提出する。その課題に対する取り組み内容をその都度（1つ、25点）評価し、加算形式で100点に換算する。コミュニケーション技術が、日々の積み重ねにあることが実感されるであろう。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

上記の授業計画に鑑みて、授業内での理解を最も重視する。事後の確認と実践はもちろん大切であるが、今、目の前にあるコミュニケーション場面と真剣に対峙してもらいたい。なお、事前学習に必要なプリントを、担当者がその都度配布するので目を通して欲しい。

生活支援技術 1 (概論・住居)

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 ★瀬 志保

《授業の概要》

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるように、根拠 (エビデンス) に基づいた介護実践を行うための知識・技術を身につけることを目的とする。生活支援を理解するために、まずは生活とはなにかを考え、生活の個別性、多様性を理解する。また、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を身につける。また、実践の根拠 (エビデンス) について、説明できる能力を養う。

《学生の到達目標》

ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、生活の豊かさや心身の活性化のための支援につながる実践を行うことができる。また、住まいの多様性を理解し、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解し、説明をすることができる。さらに、福祉用具を活用する意義や目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具の選択や活用をすることができる。

《授業計画》

1. 生活を理解する視点
2. 生活支援の考え方 (生活支援の技法)
3. ICFの視点的説明、ICFと生活支援
4. 生活支援と介護予防の視点的理解
5. 生活支援と福祉用具の活用
6. 居住環境の整備の考え方と目的
7. 住まいの役割と種類
8. 高齢期の多様な住まい (高齢者向け住宅の種類と特徴)
9. ICFの視点と居住環境のアセスメント
10. 安全な住まい (家庭内事故、自然災害、空調構成) を考えるグループワーク
11. 高齢社会と住まい
12. 住宅改修の実践
13. 住宅のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン
14. 集団生活の場における工夫と留意点
15. 国家試験対策演習、まとめ

《成績評価の方法・基準》

課題レポート、小テストの合計 40 点と試験 60 点で評価する。

《授業で使用する教科書》

・「最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I」中央法規

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、高齢者や障害者の生活、特に住環境に関するニュースに興味を持ち、課題について考えましょう。事後学習では、居住環境等の問題点を語る事が出来るように自分でまとめていきましょう。まずは自分の住環境の調査を行い、その後は学校や施設等の安全に配慮された住環境の調査を実施し、住環境の違いや工夫点などの理解を深めていきましょう。

生活支援技術 2 (安楽・睡眠)

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 ★多田 鈴子

《授業の概要》

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるように、根拠 (エビデンス) に基づいた介護実践を行うための知識・技術を身につける。ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解する。自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠 (エビデンス) について、説明できる能力を身につける。介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を身につける。

《学生の到達目標》

住まいの多様化を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解することができる。利用者の生活環境を整えることのできる具体的な支援技術を習得することができる。また、ベッド周辺の整えを通じて、安眠と「自立に向けた睡眠の介護」に関する知識と技術を工夫することができる。居住環境の整備および、ベッド周辺の整え方の技術を習得することができる。睡眠の重要性と安眠を促す知識と技術を述べることができる。

《授業計画》

1. 自立に向けた居住環境整備の意義と目的
2. バリアフリー展の参加
3. バリアフリー展での学びについてのディスカッション
4. ベッドメイキングの基本と実際
5. ベッドに臥床している人がいる場合のベッドメイキングの方法
6. 自立に向けた睡眠の介護、睡眠メカニズムについて
7. 安静眠床体験
8. 安静眠床体験レポート・グループワーク
9. 褥瘡予防のための知識、安眠しやすい条件
10. 安楽の技法① (足浴、湯たんぽ)
11. 安楽な体位の工夫 (安楽用具の選択・活用) 仰臥位・側臥位
12. 安楽の技法② (水枕・手浴)
13. 安楽の技法③ ポジショニングについて
14. ポジショニングの学びについてのディスカッション
15. 不眠時の対応・睡眠薬について・国家試験対策・全体のまとめ

《成績評価の方法・基準》

定期試験 70%、課題レポート・提出物など 30% で評価する。

《授業で使用する教科書》

・介護福祉士養成講座編集委員会「生活支援技術 I・II」中央法規出版社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

授業をうける、事前指導として各項目の教科書を読んで学ぶ準備をしましょう。事後指導として、レポートにまとめ、振り返りを行い、しっかりと基本の技術を身につけましょう。個々の利用者を尊重するとともに、安全で安楽な自立に向けた生活支援について環境面や睡眠の介護を通して考えていきます。実技演習にふさわしい服装を整えて参加をし、積極的に取り組みましょう。

生活支援技術 3 (移動・移乗)

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 ★瀬 志保

《授業の概要》

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるように、根拠 (エビデンス) に基づいた介護実践を行うための知識・技術を身につける。ICF の視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、利用者が生活を営むために不可欠である「動き」の支援を通して、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術とともに、安全で安楽な移動・移乗の支援技術を習得する。また、利用者や介護者の介護負担の軽減を図るための介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用するために必要な知識と技術を身につける。

《学生の到達目標》

・ ICF の視点に基づき、移乗・移乗におけるアセスメントを行うことができる。・対象者の心身状況に応じた移動・移乗に関する適切な支援について考えることができる。・自然な体の動きを知り、その動きを妨げず、利用者、介護者ともに安全・安楽に支援を実施することができる。・利用者の残存能力、潜在能力について考え、その能力を活用、発揮する支援を実施することができる。・利用者の残存能力、潜在能力に応じた福祉用具を選択、または活用することができる。・国家試験問題を解くために、移動・移乗に関する専門用語を理解することができる。

《授業計画》

1. 自立生活を支える移動・移乗の介護
2. 移動・移乗におけるアセスメント、ICF の考え方とアセスメントの視点
3. 歩行介助の基本的理解、歩行介助におけるアセスメント
4. 歩行介助の実際 (視覚障害者の歩行支援、片麻痺のある人の歩行支援の演習)
5. 車いす介助の基本的理解、車いす介助におけるアセスメント
6. 車いす介助の実際 (屋内での介助、屋外での介助、様々な場面での介助の演習)
7. ボディメカニクス、自立度別、上方移動、水平移動の演習
8. 自立度別、寝返り、起き上がり介助の演習①
9. 自立度別、寝返り、起き上がり介助の演習②
10. 自立度別、寝返り、起き上がり介助の演習 (福祉用具を活用)
11. 自立度別、ベッドから車いす、車いすからベッドへの移乗介助の演習
12. 自立度別、ベッドから車いす、車いすからベッドへの移乗介助の演習 (福祉用具を活用)
13. 移動・移乗のための道具、用具の理解
14. 移動の介護における他職種との役割と協働
15. 国家試験対策演習、移動、移乗における生活支援技術の振り返り

《成績評価の方法・基準》

定期試験 60%、演習レポート、小テスト 40% で評価する。

《授業で使用する教科書》

・「最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I」中央法規

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

この授業では、利用者役と介護者役を通し、介護される側の気持ちを知る機会となる授業です。また、実際に体を動かしながら行う演習科目のため、事前準備としてその項目の教科書を読んでおき、どのような演習を行うのかを確認しておきましょう。また、授業後にはその日行った演習で工夫をした点や分からなかった点などをまとめるレポートを作成し、適切な支援が行えるように配布プリント等で復習し、学びを深めましょう。

生活支援技術 4 (食事・口腔ケア)

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 ★多田 鈴子

《授業の概要》

本人主体の生活が継続できるように、根拠 (エビデンス) に基づいた介護実践を行うための知識・技術を身につける。ICF の視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、利用者が生活を営むために不可欠である「動き」の支援を通して、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術とともに、安全で安楽な移動・移乗の支援技術を習得する。また、利用者や介護者の介護負担の軽減を図るための介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用するために必要な知識と技術を身につける。

《学生の到達目標》

自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得することができる。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につけることができる。利用者の自立・自律を尊重し、適切な支援技術を用いて、安全に生活支援が出来る知識と技術を習得し学ぶことができる。利用者が食事を通して健康を維持し、生活を楽しむことができるように、「自立に向けた食事の介護」を学ぶ。利用者の心身の状況に応じて、おいしく、安全に自立に向けた食事が摂れるように支援技術を習得する。口腔ケアの意義と具体的な方法の知識・技術を学ぶ。

《授業計画》

1. 自立に向けた食事の介護の意義と目的
2. 「おいしく食べる」ための基礎知識
3. 「安全に食べる」ための基礎知識
4. 自立に向けた食事の介護 自立に向けた食事介助支援 座位①
5. 自立に向けた食事の介護 (ディスカッション)
6. 摂食・嚥下障害のメカニズムの理解
7. 摂食・嚥下障害における介護 水分補給の重要性①
8. 摂食・嚥下障害における介護 飲み込みやすい食事の工夫②
9. 実習で学んだ食事環境整備や支援についてまとめる
10. 実習で学んだ食事環境整備や支援について (グループワーク)
11. 口腔ケアの意義と目的 (嚥下維持・向上・義歯清掃)
12. 口腔ケアの実際① 自立度の高い方の支援
13. 自立に向けた食事の介護における自助具の活用
14. 生活支援の食事の介護における国家試験対策 (小テスト) ①
15. 生活支援の食事の介護における国家試験対策 (小テスト) ②

《成績評価の方法・基準》

定期試験 70%、課題レポート・小テスト 30% で評価する。

《授業で使用する教科書》

・介護福祉士養成講座編集委員会「生活支援技術 I・II」中央法規出版社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

授業をうける、事前学習として各項目の教科書を読んで学ぶ準備をしましょう。事後学習として、レポートにまとめ、振り返りを行い、しっかりと基本の技術を身につけましょう。利用者の心身状況に応じた食事の支援について、安全面・環境面を含め、利用者主体の生活支援のあり方について考えていきます。実技演習に適した身だしなみに留意し、積極的に関わりましょう。

生活支援技術 5 (排泄)

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 ★多田 鈴子

《授業の概要》

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠 (エビデンス) に基づいた介護実践を行うための知識・技術を身につける。ICF の視点を生活支援に活かすことの意義を理解する。自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得し、実践の根拠 (エビデンス) について、説明できる能力を身につける。介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を身につける。

《学生の到達目標》

対象者の能力を活用、発揮し、自立に向けた生活支援技術の基礎的な知識・技術を習得することができる。実践の根拠について説明できる能力を身につけることができる。排泄介護のみにとらわれず、日常生活を過ごすための自立に向けた排泄の支援を考えることができる。利用者の心身の状況に応じた適切な排泄介護の知識・技術を習得できる。

《授業計画》

1. 排泄の意義と目的排泄行為の意味の理解
2. 排泄リズムと排泄のアセスメント 動作分析
3. 感染防止の基礎知識 (ノロウィルス他) 排泄の基礎知識 (文化・年代による違い)
4. 自立に向けた排泄の介護①トイレ誘導と介助
5. 自立に向けた排泄の介護②トイレ誘導と介助
6. 自立に向けた排泄の介護③尿器・便器の選択と介助 P トイレ紹介
7. 排泄異常・排泄障害の理解 ささまざまな排泄介助 機能低下と排泄
8. 自立に向けた排泄の介護④オムツの種類と選択、介助 (陰部洗浄)
9. 自立に向けた排泄の介護⑤ ゲスト講師のオムツの種類と選択、介助
10. 内臓障害理解 (腎臓障害/透析) (膀胱/直腸障害)
11. 心地よい排泄のための環境・レポート振り返り
12. 問題演習
13. オムツ体験レポート (提出) 排泄まとめ
14. オムツの種類と選択、介助 (グループワーク)
15. オムツの種類と選択、介助 (まとめ)

《成績評価の方法・基準》

定期試験 70%、課題レポート・提出物など 30% で評価する。

《授業で使用する教科書》

・介護福祉士養成講座編集委員会「生活支援技術 I・II」中央法規出版社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

授業をうける、事前学習として各項目の教科書を読んで学ぶ準備をしましょう。事後学習として、レポートにまとめ、振り返りを行い、しっかりと基本の技術を身につけましょう。利用者の心身状況に応じた排泄の支援について、安全面・環境面を含め、利用者主体の生活支援のあり方について考えていきます。実技演習に適した身だしなみに留意し、積極的に取り組みましょう。

生活支援技術 6 (着脱、清潔・入浴)

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 ★長橋 幸恵

《授業の概要》

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠 (エビデンス) に基づいた介護実践を行うための知識・技術を身につける。ICF の視点を生活支援に活かすことの意義を理解する。自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠 (エビデンス) について、説明できる能力を身につける。介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を身につける。

《学生の到達目標》

・利用者の能力を活用、発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術をまた、実践の根拠について、説明できる。・住まいの多様性を理解し、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について考察できる。・清潔保持についての理解ができ、説明することができる。・入浴介助 (一般浴槽・機械浴槽) の際の安全な技術を習得し、介助の方法を利用者に説明しながら介助することができるようになる。・着脱介助演習では、利用者の身体状況を把握し、自立支援や自己選択を考えながら、実践できる力を身につける。・利用者の尊厳の保持や個々の生活を理解し、本人主体の生活が継続できるように、介護福祉士ができることを考える。

《授業計画》

1. 着脱のアセスメント・福祉用具の活用方法
2. 清潔の保持 利用者の身じたくとは
3. 衣類の選択に必要な視点 服を着用する目的 (グループディスカッション)
4. 着脱介助における環境整備のポイント
5. 着脱介助演習① 自立度の高い利用者の場合 (自立支援)
6. 着脱介助演習② 一部介助・全介助の利用者の場合
7. 入浴・清潔保持の意義と目的 アセスメントや入浴の効果について知る
8. 入浴に関するアセスメント・バイタルチェック
9. 安全で快適な入浴を支援するための環境整備と福祉用具の活用方法
10. 自立支援を活用した、一般浴槽での安全で快適な入浴方法演習
11. 機械浴槽の安全で快適な入浴方法演習①
12. 機械浴槽の安全で快適な入浴方法演習②
13. クリーニングを使用して、洗髪をベッド上で介助する方法と清拭について
14. 安全で快適な入浴介助のまとめ
15. 国家試験対策 まとめ

《成績評価の方法・基準》

授業総括 (70 点)、レポート (30 点)

《授業で使用する教科書》

・介護福祉士養成講座編集委員会「最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I」中央法規・介護福祉士養成講座編集委員会「最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術 II」中央法規・「書いて覚える! ワークノート」ユーキャン

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

入浴・着脱の演習で技術を習得し、実践に活かせる力を身につけるために、事前に演習内容について教科書で、事前学習をしておきましょう。演習後は、振り返りの演習レポートを書いてもらいます。演習後に自己にて、まとめて書くことで、実習前にも確認することができます。実践できるように備えましょう。技術は、何度も繰り返し演習することで、身につけることができます。事後にも、授業で学んだことを自己演習しておきましょう。

生活支援技術 7 (家事支援)

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 ★長橋 幸恵

《授業の概要》

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠 (エビデンス) に基づいた介護実践を行うための知識・技術を身につける。ICF の視点を生活支援に活かすことの意義を理解する。自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠 (エビデンス) について、説明できる能力を身につける。介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を身につける。

《学生の到達目標》

・住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解することができる。・利用者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠について、説明できる。・生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得することができる。

《授業計画》

1. 家庭生活にかかわる基本知識
2. 被服生活の知識① 繊維製品の取扱いに関する表示記号及びその表示
3. 被服生活の知識② 衣類のしみ抜き、アイロン、防虫剤の種類、裁縫道具の名称
4. 被服生活の演習 ポーチを作成 基本的な縫い方・ボタンつけの方法
5. 被服生活の演習 ポーチを作成 基本的な縫い方・ボタンつけの方法
6. 家事援助① 掃除・ごみ捨て
7. 家事援助② 洗濯
8. 家事援助③ 訪問介護
9. 家事援助④ 衣類・寝具収納方法
10. 食生活の知識 5 大栄養素、ビタミン、ミネラル、食品、調理
11. 食生活の演習 保存方法 保存食 めか床作成
12. 日本の行事と食
13. 生活家計の考え方① 家計における収入と支出
14. 生活家計の考え方② 高齢者を取り巻く経済社会 年金、クーリングオフ、悪質商法
15. 国家試験対策 まとめ

《成績評価の方法・基準》

試験 (70 点)、演習 (20 点)、レポート 10 点

《授業で使用する教科書》

・介護福祉士養成講座編集委員会「最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I」中央法規・「書いて覚える! ワークノート」ユーキャン

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

高齢者の家事支援を支える上で、普段の家事の基礎知識が必要になってきます。事前に自己の生活についても、洗濯、掃除、調理等の家事を実施し、事前学習しておくとい良いでしょう。事後には、習ったことを活かし、家事を自宅でも行なっておくと良いでしょう。

生活支援技術 8 (事例検討)

1 年次 (半期)
1 単位 (演習)
担当 ★瀬 志保

《授業の概要》

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠 (エビデンス) に基づいた介護実践を行うための知識・技術を身につけることを目的とする。また、ICF の視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を身につける。各生活支援技術で学んだ知識と技術を総合的に実践できるために必要となる応用力を身につける。そのため、様々な場面設定から適切な支援を考え、その根拠を説明し、実践できる力を養うことを目的とする。

《学生の到達目標》

・基本的な生活支援技術を実施することができる。・利用者の心身状況や環境からアセスメントし、適切な支援技術を考え、根拠を説明することができる。・様々な介護場面において、適切な支援技術で自立支援の視点を基つき、実施することができる。・実技試験問題演習を通して、事例問題から適切な支援を導き出し、実施することができる。・国家試験問題演習を通して、事例問題を読み解く力を習得し、介護福祉士に必要な知識と技術を定着させることができる。

《授業計画》

1. 事例を読み、適切な支援技術を実施する (ベッドメイキング、シーツ交換)
2. 事例を読み、適切な支援技術を実施する (片麻痺のある利用者の生活支援)
3. 事例を読み、適切な支援技術を実施する (視覚障害者の利用者の生活支援)
4. 事例を読み、適切な支援技術を実施する (食事の支援)
5. 事例を読み、適切な支援技術を実施する (ベッドへの移乗介助、車いすへの移乗介助)
6. 事例を読み、適切な支援技術を実施する (ベッドからの起き上がり)
7. 実習施設で実施した様々な場面に応じた支援技術の紹介 (個人ワーク)
8. 実習施設で実施した様々な場面に応じた支援技術の演習 (グループワーク)
9. 生活支援技術実技試験
10. 実技試験の問題解説と振り返り
11. 国家試験対策演習 (生活支援技術 住居、睡眠、終末期)
12. 国家試験対策演習 (生活支援技術 移動・移乗、食事)
13. 国家試験対策演習 (生活支援技術 口腔ケア、排泄、身じたく)
14. 国家試験対策演習 (生活支援技術 着脱、清潔、入浴、家事支援)
15. 介護保険における住宅改修と福祉用具貸与、特定福祉用具購入の理解

《成績評価の方法・基準》

演習振り返りレポート、実技試験振り返りレポート、小テスト 50%、実技試験 50% で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

・「最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I」中央法規・「最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術 II」中央法規

《事前・事後学習》

この科目は、生活支援技術の基本的な知識と技術を踏まえ、事例から適切な支援技術を考え、支援を行う内容となります。授業前には、各生活支援技術で学んだ内容のポイントを事前に確認しておくことが必要となります。また、授業後には、演習で分からなかった部分を教科書等で確認をし、次回の演習の際に実施できるようにしておきましょう。

生活支援技術9（身じたく・アクティビティ）

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★長橋 幸恵

《授業の概要》

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠（エビデンス）に基づいた介護実践を行うための知識・技術を身につける。ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解する。自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠（エビデンス）について、説明できる能力を身につける。介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を身につける。

《学生の到達目標》

・生活の豊かさや心身の活性化のための支援について考えることができる。・レクリエーションの必要性について理解できる。・個々に応じたレクリエーションを計画し、立案する力を身につける。・レクリエーションを実施することができる。・チームでレクリエーションの動きを考え、安全にも配慮した実施ができる。・利用者の生活する上での「楽しみ」を発見することができる。・清潔保持について考えることができる力を身につける。・整容介助を安全に行なうことのできる知識・技術を身につける。

《授業計画》

1. 自己紹介シート作成
2. 小物作り
3. ペーパークラフト
4. 園芸療法
5. レクリエーション・アクティビティプログラム計画・立案①
6. レクリエーション・アクティビティプログラム計画・立案②
7. 施設にてレクリエーション実践
8. 口腔機能向上（リハビリテーション・体操）
9. 整容介助（髻剃り・耳、鼻の清潔・爪きり）
10. クッキングレクリエーション
11. クッキングレクリエーション
12. 行事計画グループワーク①
13. 行事計画グループワーク②
14. レクリエーション・行事 プレゼンテーション
15. 誕生日カード作成

《成績評価の方法・基準》

提出物（50点）レクリエーション計画・取り組み（30点）プレゼンテーション（20点）

《授業で使用する教科書》

・「介護度別 高齢者の生活レクリエーション」黎明書房

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

利用者が生活の中での余暇時間に「楽しみ」を見つけてもらえるようなレクリエーションを考えて調べをして、計画・立案しましょう。事前に、教科書にてレクリエーションの基本的な確認しておいてください。レクリエーション実施後は、自分がどのように行動すればよかったのかを振り返り今後のレクリエーション実施に活かしてください。

生活支援技術10（終末期・薬の知識）

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★緒方 都

《授業の概要》

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠（エビデンス）に基づいた介護実践を行うための知識・技術を身につける。ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解する。自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠（エビデンス）について、説明できる能力を身につける。特に、人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践についてグループワークや体験談などから理解する。また、介護福祉士として必要な薬の知識を学ぶ。

《学生の到達目標》

1 人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響を考え、その生活支援を行うために必要となる基礎的な知識と介護を根拠とともに説明することができる。2 終末期の介護におけるチームケアを具体的に述べる事ができる。3 おもな疾患の病態と医薬品との関係、副作用や使用方法、注意点を説明できる。

《授業計画》

1. 薬の知識① 内服薬について、経口薬、舌下薬、飲み方演習
2. 薬の知識② 外用薬について、湿布薬、点眼薬、軟膏、使用方法演習
3. 薬の知識③ 基礎知識、よく使われる薬の効果と副作用、保管方法
4. 薬の知識④ 現場での薬についてまとめと発表、小テスト
5. 終末期の介護① 介護におけるみとりのとらえかた、グループワーク
6. 終末期の介護② 理解者になるための援助的コミュニケーション
7. 終末期の介護③ 終末期の意義と介護の役割、自己決定
8. 終末期の介護④ ICFの考え方と終末期におけるアセスメントの視点 国家試験対策問題
9. 終末期の介護⑤ 終末期における介護の実際、キューブラー・ロス
10. 終末期の介護⑥ 危篤時における介護の実際、観察、安楽の工夫
11. 終末期の介護⑦ 「介護現場でのみとりについて」外部講師による講義
12. 終末期の介護⑧ 現場でのみとりについてのグループワーク
13. 終末期の介護⑨ 死後のケア、エンゼルケア
14. 終末期の介護⑩ 多職種での役割と協働、グループケア
15. 終末期の介護⑪ まとめ 国家試験対策問題演習

《成績評価の方法・基準》

試験70% レポートなど提出物30%で評価する。

《授業で使用する教科書》

・介護福祉士養成講座編集委員会「最新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術II」中央法規

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習としては、該当内容の範囲を教科書や配布プリントで予習しておきましょう、また授業内で小テストを実施しますので、プリントやノートなどで復習しておきましょう。介護を実践するために必要な知識です。薬や疾患名など慣れない言葉も多いと思いますが、他職種連携の共通言語として理解できるようにしましょう。

介護過程 1

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★瀬 志保

《授業の概要》

本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。特に、この科目では介護過程の骨格となるアセスメントやニーズの焦点化、計画の作成、評価という一連のプロセスの基本的な解説を通して、介護過程は介護を科学的に実践するための思考過程であることを理解することを目的とする。

《学生の到達目標》

・科学的に根拠を持って考えることができるために、介護実践における介護過程の意義を述べることができる。
・介護過程を展開するための一連のプロセスを理解し、各内容について説明することができる。
・個別の事例を通して、対象者の状態や状況に応じたアセスメントを行うことができる。

《授業計画》

1. 介護過程とは（介護過程の意義と目的）
2. 介護過程の考え方の背景
3. 介護過程のプロセス（アセスメント、計画の立案、実施、評価）
4. 生活支援の考え方と介護過程の必要性（具体的な場面から、必要なことの検討）
5. アセスメントの理解（アセスメントの方法、情報収集、基本的な情報項目）
6. 日本介護福祉士会 生活7領域、日常生活自立度判定基準と寝たきり度判定基準
7. 生活課題の明確化（デマンドとニーズの説明）
8. ICFの視点から考えるアセスメントの実際（事例を通して）
9. 計画の立案（介護計画の目的）
10. ケアプランと介護計画（個別介護計画）との関連
11. 介護計画の具体的な支援内容と支援方法
12. 介護計画の実施の際の留意点
13. 介護計画の評価内容
14. 介護過程とケアマネジメントの関係性、チームアプローチにおける介護福祉士の役割
15. 振り返りのディスカッション、国家試験対策演習

《成績評価の方法・基準》

課題レポート、用語確認小テスト40%、定期試験60%で評価します。

《授業で使用する教科書》

・「最新・介護福祉士養成講座9 介護過程」中央法規

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

各科目で学んだ知識や技術を統合し、進めていく科目となるため、他の科目で習った内容や用語等があれば、教科書で事前に調べておきましょう。また、授業後には授業内で習った専門用語を確認し、意味などを確実に覚えられるようにしましょう。介護を必要とする方は、どのような生活を望まれているのかをアセスメントを行い、考えていきます。この科目は、介護過程2、3、4、5と学びを積み上げていく、継続的に学ぶ科目です。

介護過程 2

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★前田 崇博

《授業の概要》

介護福祉士が人生設計をするケアプラン、介護計画について学んでいく高齢者等の自己決定権を尊重して自己実現に向けて、生活課題の分析をして、最善の方法、そしてQOL、QODの向上が見込まれる計画について考察していく。特に、毎回長寿高齢者のビデオを使ってアセスメント演習をする。さらに介護保険系の施設、居宅サービスといった社会資源について学び、どのような組み合わせが最善なのか毎回考えていく。また、国家試験の事例研究問題、総合問題に対応する知識・技術を習得していく。

《学生の到達目標》

1. 相談機関でも対応できるインテークとアセスメント能力をつける
2. 担当高齢者の人生設計するための社会資源の知識を習得する
3. 事例研究、ケーススタディでの自分の援助方針、介護計画をプレゼンテーションできるようにする
4. 将来、介護支援専門員やサービス提供責任者になれる社会福祉援助技術を習得する
5. 介護福祉士としてのケアマネジメント能力を習得する。

《授業計画》

1. 介護過程の理論と方法
2. 高齢者アセスメントの基礎理論
3. 介護過程とアセスメントの理論と方法
4. 長寿高齢者の生活課題分析
5. 認知症高齢者の生活実態
6. 認知症高齢者の介護計画
7. 孤立化、貧困化の高齢者の生活実態
8. 施設介護の課題と問題
9. 居宅介護の課題と問題
10. 介護過程のケーススタディ1
11. 介護過程のケーススタディ2
12. 介護福祉士のインターベンション事例研究
13. 介護福祉士のモニタリング事例研究
14. 介護過程のバズセッション
15. 高齢者対象の介護過程の役割と機能

《成績評価の方法・基準》

定期試験40%、ミニレポート30%、発表プレゼンテーション30%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

予習として、前回の事例等を復習して授業に臨みましょう。授業で扱った内容、用語やその意味についても、繰り返し暗記しておきましょう。国家試験並びに最終介護実習のための知識・技術・対人能力を養成する科目です。

介護過程 3

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★山本 永人

《授業の概要》

講師の実務経験を基に、障害者の事例を中心とした協働的ケーススタディを通じて、アセスメント、ニーズの抽出、目標の設定、計画の立案などの介護過程を展開する意義や内容を学ぶ授業です。

《学生の到達目標》

障害者の介護過程の展開にあたり、その QOL を向上するためのすくれた着眼点をもつ。障害者の生活課題の特性を科学的に依拠するものとして理解できる。展開を行う上での他者との協働性をみにつける。

《授業計画》

1. 障害のある人の介護過程とその意義
2. 障害のある人の生活課題の特徴
3. 障害のある人の協働的ケーススタディ① 【脳性マヒの事例から】
4. 問題解決のためのアセスメント
5. 計画の立案
6. サービス計画の発表と相互評価および振り返り
7. 障害のある人の協働的ケーススタディ②【就労している知的障害者の事例から】
8. 問題解決のためのアセスメント
9. 計画の立案
10. サービス計画の発表と相互評価および振り返り
11. 障害のある人の協働的ケーススタディ【高次脳機能障害の事例から】
12. 問題解決のためのアセスメント
13. 計画の立案
14. サービス計画の発表と相互評価および振り返り
15. 障害のある人への QOL の向上のために

《成績評価の方法・基準》

試験 80% レポート 20% 試験は展開したケーススタディの事例の中から出題する

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：ケーススタディで示された障害について自身の出来る範囲で情報を収集しましょう。(30分) 事後学習：当日配布されたプリントや演習での進捗状況をふまえ、自身か障害のあるひとへの介護過程としてどのような着眼点があったのか、他者との協働をどのように活かされたのかを確認しましょう。(60分)

介護過程 4

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★前田 崇博

《授業の概要》

介護実習Ⅱにて介護過程を展開し、利用者個々に応じた介護サービスを提供できる能力を養う。実習で受け持った利用者の一連の介護過程を振り返り、事例研究としてまとめることで「介護過程の実践的展開」の向上を図る。介護過程が現場でどのように活用され、利用者の生活支援につながっていくのかについて、実習を受け持った利用者の一連の介護過程を振り返り、ケーススタディしていく。また、国家試験の事例問題・総合問題に対応できる能力を習得していく

《学生の到達目標》

1. ケーススタディ、事例研究作成能力をつけていく 2. ケアマネジメントの基本的な知識、技術を学ぶ 3. 介護過程の展開過程と効果測定能力を養う 4. ケアカンファレンス能力をつける 5. 個々に介護過程メソッドを開発していく能力をつける

《授業計画》

1. 介護過程の理論と方法
2. 介護過程と介護福祉士の役割
3. 介護過程とアセスメント
4. 事例研究Ⅰセッション1
5. 介護過程のケーススタディ1
6. 介護過程問題の考察・検討1
7. 事例研究Ⅰセッション2
8. 介護過程のケーススタディ2
9. 介護過程問題の考察・検討2
10. 事例研究Ⅰセッション3
11. 介護過程のケーススタディ3
12. 介護過程問題の考察・検討3
13. 介護福祉士としての介護過程の方法・技術
14. 介護過程の理論と方法
15. 介護過程総論・方法論と介護哲学

《成績評価の方法・基準》

定期テスト 40%、ミニレポート 30%、発表プレゼン内容 30%にて評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、「介護過程1・2・3」での授業を振り返り、介護過程の意義、目的を常に考えて進めていきましょう。事後学習として、その日の学びをレポートに記入しておき、次につなげましょう。利用者の介護実習Ⅱで接する利用者支援の様々な場面を通して、介護過程の実践的展開を学びます。各科目で学んだ知識や技術を活用し、利用者が望む生活に何か必要なか、何をすればいいかを考え、実践しましょう。

介護過程 5

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★多田 鈴子

《授業の概要》

本人の望み生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。この科目は、介護過程を介護実習Ⅱで実際に展開をし、対象者個々の状況に応じた支援を提供できる能力を身につけることが目的である。

《学生の到達目標》

・科学的に根拠を持って考えることができるために、介護実践における介護過程を実際に受け持ち利用者を通して、一通り実施し、理解することができる。・実習中に受け持ち利用者に関するアセスメント、介護計画等の修正の有無を検討し、自分の実践内容を振り返ることができる。・介護過程の展開内容を事例研究としてまとめることを通して、振り返ることができ、学びを深めることができる。

《授業計画》

1. 介護過程の展開内容の復習
2. 介護過程の一連のプロセスの理解（事例を通して）個人ワーク
3. 介護過程の一連のプロセスの理解（事例を通して）グループワーク
4. 受け持ち利用者の介護過程の展開の実際（情報収集、アセスメント）
5. 受け持ち利用者の介護過程の展開の実際（アセスメント、生活課題、ニーズの抽出）
6. 受け持ち利用者の介護過程の展開の実際（目標、計画立案、実施）
7. 介護過程振り返りシートの作成
8. 介護事例研究演習（個人ワーク）
9. 介護事例研究演習（個人ワーク）
10. 事例研究発表会に向けて企画立案
11. 事例研究発表会の準備
12. 事例研究発表会
13. 事例研究発表会の振り返り
14. 国家試験模擬演習
15. まとめ

《成績評価の方法・基準》

事例研究発表 50%、事例問題レポート、介護過程振り返りレポート、ケースレポート 50%で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事例で介護過程を展開する練習問題を行います。事前学習として、提示した事例に関する不明な用語等を自ら調べておきましょう。介護過程を展開するためには、全ての科目の知識と技術が必要となります。受け持ち利用者の自立支援と適切な支援が導きだせるように、自ら行動することが求められます。また事後学習として、事例研究発表、ケースレポート作成を通して、実習で介護過程を実践した成果をまとめていきましょう

介護総合演習 I

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★多田 鈴子

《授業の概要》

実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながる内容を実施する。実習終了後には、実習の振り返りを行い、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を身につける。また、介護実習を通して、質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解する。介護実践における安全（リスクマネジメント）を管理するための基礎的な知識・技術を理解し、考察する力を身につけることを目的とする。

《学生の到達目標》

・介護実習の種別について、事前に学習し、説明することができる。また、自己の実習する施設についての理解を深め、実習に臨むことができる。・知識と技術の統合を自己にて行うことができる介護福祉士として、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養うことができ、自ら積極的にコミュニケーションを図ることができる。・根拠に基づいた介護を理解し、考察することができるとともに、自己の考えを確立させ、自己覚知することができる。また、実習の評価を真摯に受け止め、自己課題を明確にし、次回の実習につなげることができる。

《授業計画》

1. 介護実習 I の意義と目的（この授業の進め方の説明）
2. 介護実習の心得
3. 介護実習施設の種別の理解
4. 実習日誌の記入方法（個人票、生活支援技術履修及び発症状況表、施設の概要）
5. 実習日誌の記入方法（実習日誌の書き方）
6. 介護実習目標の立案
7. 介護実習におけるリスクマネジメントと介護事故（ヒヤリはっ報告書）
8. 中間カンファレンス、最終カンファレンスの持ち方（カンファレンス用紙の記入方法）
9. 介護実習目標の個別指導
10. 介護実習事前指導
11. 介護実習事後指導（実習内容の振り返り）
12. 介護実習成果発表会
13. 実習個別課題の明確化（グループディスカッション）
14. 実習施設評価、自己評価フィードバック（次回実習への目標設定）
15. まとめ

《成績評価の方法・基準》

レポート 30%、実習終了後の成果発表 40%、グループディスカッション 30%で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

介護実習 I の実習事前、事後の学習を行う科目であり、実習をより実りの多いものにするための科目です。実習の意義と目的を理解し、実習施設に関する事前調査を学校にある資料やネット、教科書等を活用し、行いましょう。また、実習中も専門用語や支援についての確認できるように、教科書等を使用し、すぐに調べ、分からないことがそのままにならないように、自ら解決するために行動することが必要となります。

介護総合演習Ⅱ

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 ★多田 鈴子

《授業の概要》

実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながる内容を実施する。介護の知識や技術を実践と結びつけて統合を行うとともに、介護実践における安全（リスクマネジメント）を管理するための基礎的な知識・技術を理解し、危険予知能力を高めていく力を養う。また、個別ケアを行うための介護過程を実際に展開することで、他の科目で学習した知識と技術の統合力を身につけることを目的とする。実習終了後は実習の振り返りを通して、介護観を形成し、専門職としての態度を習得するとともに、学生自身の課題を明確化させ、資質向上への動機付けを行う。

《学生の到達目標》

・自己の実習する施設についての理解を深め、実習に臨むことができる。・知識と技術の統合を自己で行うことができる介護福祉士として、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養うことができる。また、自分自身の考えを確立させ、自己覚知することができる。・個別ケアの実践に取り組み、エビデンスに基づいた介護過程を展開させ、実施することができる。・実習の評価を真摯に受け止め、自己課題を明確化させ、資質向上につなげることができる。

《授業計画》

1. 介護実習Ⅱの意義と目的（この授業の進め方の説明と実習スケジュールの立案）
2. 介護実習施設の種類の理解
3. オリエンテーションに向けての書類作成、オリエンテーションに向けての事前指導
4. 実習日誌の記入方法（生活支援技術履修及び修習状況表、施設の概要、日誌の記入方法）
5. 介護実習目標の立案、介護実習目標の個別指導
6. 介護実習事前指導
7. 中間カンファレンス、最終カンファレンスの持ち方（カンファレンス用紙の記入方法）
8. 介護過程事例検討
9. 介護実習事後指導（実習内容の振り返り）
10. 介護実習成果発表会
11. 介護過程実施内容の振り返り（ケースレポート作成指導）
12. 介護過程実施内容の振り返り（個人ワークにてケースレポート作成と個別指導）
13. 合同発表会開催準備
14. 合同発表会
15. まとめ

《成績評価の方法・基準》

施設種別事前調査レポート、実習振り返り等レポート、リスクマネジメントレポート 50%、実習終了後の個人発表 50%で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

介護実習Ⅱの実習事前、事後の学習を行う科目であり、実習をより実りの多いものにするための科目です。実習の意義と目的を理解し、実習施設に関する事前調査を学校にある資料やネット、教科書等を活用し、行いましょう。また、実習目標の立案を自宅学習で行うことや、介護過程を円滑に進めていくために、受け持ち利用者に関することを自分で調べ、対象者を理解しようとする姿勢が求められます。

介護実習Ⅰ

1 年次（半期）
2 単位（実習）
担当 ★多田 鈴子

《授業の概要》

地域における様々な場面において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う応用的な能力を身につける。対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実施する。また、多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアの必要性を理解する。介護福祉士としての自己の介護観を創造する。

《学生の到達目標》

・介護実習の種別について、地域との関わりや利用者の生活を支える役割について説明することができる。・対象者の生活を理解し、本人とのコミュニケーションや基礎的な生活支援を実践することができる。・介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養うことができ、根拠に基づいた介護を理解し、考察することができる。また、多職種との協働であることを理解し、介護福祉士の役割を理解することができる。・カンファレンス等を通して、多職種連携やチームケアの必要性について理解することができる。・実習の評価を真摯に受け止め、自己の課題を明確化することができる。

《授業計画》

1. 介護実習Ⅰ、実習期間、5月下旬から6月上旬の12日間
2. 介護保険法や障害者総合支援法に基づいた様々な生活施設に入居する
3. 利用者や通所施設等を利用している方の生活支援の実践を体験より学ぶ
4. 地域で生活をしている利用者にとって、実習施設がどのような役割を理解する
5. 利用者ニーズを理解する
6. 介護総合演習Ⅰで学んだ事前指導をよく理解し、実習に臨む
7. 実習目標に基づき、自己の実習課題を明確にし、日々の実習目標を作成する
8. 目標に基づき実習を行い、実習日誌を記入する
9. 定期的にある教員による実習巡回指導と実習指導者同席のカンファレンスを実施
10. カンファレンスでの指導により、疑問等を解決し、実習を充実したものとする
11. 利用者を支えるための多職種連携を知る
12. 介護サービスの特性を学ぶ
13. 介護福祉士としての介護観を構築する
14. 実習終了後は、実習日誌や実習指導者の評価表等から教員から事後指導を行う
15. 振り返りを通して、介護実習Ⅱの学びへとつなげる

《成績評価の方法・基準》

施設の実習指導者による評価 30%、担当教員による評価 70%で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

実習の目的や内容が授業内で説明を行いますが、種別の理解等は、各自学校内にある施設資料やオリエンテーション時の説明、ネット等を活用し、事前学習をしましょう。実習目標を達成するためには、毎日の実習目標の立案が必要で、実習後は実習内容を振り返り、翌日の実習目標の立案をし、何を学びたいのかを明確におきましょう。事後学習は、実習指導者の評価や担当教員の助言を参考に、必要な復習をしましょう。

介護実習Ⅱ

1年次（半期）
4単位（実習）
担当 ★多田 鈴子

《授業の概要》

地域における様々な場面において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う応用的な能力を身につける。介護過程の展開を通して、対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に身につける。また、多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアの必要性を理解する。そこから、専門職である介護福祉士として、自己の介護観を形成することを目的とする。

《学生の到達目標》

・介護実習の種別について地域との関わりや利用者の生活を支える役割について説明することができる。・本人主体の生活を考察し、自立支援に基づいた介護過程を展開できる。・介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養い、エビデンスに基づいた介護を考察することができる。・多職種との協働であることを理解し、介護福祉士の役割とともに多職種の役割を理解することができる。・カンファレンス等を通して多職種連携やチームケアの必要性について理解することができる。・自らの介護観を構築することができる。

《授業計画》

1. 介護実習Ⅱの実習期間が、9月中旬から10月上旬の19日間
2. 特別養護老人ホーム、介護老人保健施設で介護実習を行う
3. 利用者の生活の状況や障害の特性、生活課題からのニーズの抽出のアセスメントする
4. 介護過程の展開を実施する
5. 実習目標に基づき、自己の実習課題を明確にし、日々の実習目標を作成する
6. 目標に基づき実践した内容を実習日誌を記述する
7. 定期的にある担当教員による実習巡回指導と実習指導者同席のカンファレンスする
8. 指導者や助言を受け、疑問等を解決し、実習を充実したものにする
9. 多職種連携の中で介護福祉士の役割を理解する
10. 応用的な生活支援技術を習得する
11. 介護サービスの特性を学ぶ
12. 実習終了後は、学習の到達状況を評価するとともに、実習内容をより深める
13. 事例研究レポート作成に取り組み、その内容をまとめる
14. 事例研究レポート作成に取り組み、その内容を発表する機会を設ける
15. 介護振り返りを通して、介護福祉士としての介護観を形成する

《成績評価の方法・基準》

施設の実習指導者による評価30%、担当教員による評価70%で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

実習の目的や内容が授業内で説明を行います。種別の理解は事前学習として、学校内にある資料やオリエンテーション時の説明、ネット等を活用し、理解を深めましょう。実習目標を達成するためには、毎日の実習目標の立案が必要です。実習後の振り返りから、翌日の実習目標を立案し、その日何を学びたいのかを明確におきましょう。事後学習は、実習指導者の評価や担当教員の助言を参考に、今後に必要な学びを確認しましょう。

発達と老化の理解

1年次（半期）
2単位（講義）
担当 ★宮崎 恭子

《授業の概要》

人間の成長と発達過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。人間の成長と発達の基本となる考え方を踏まえ、ライフサイクルの各期（乳幼児期・学童期・思春期・成人期・老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解することを目的とする。また、老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や、高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を習得することを目的とする。

《学生の到達目標》

人間の成長と発達の基本となる考え方を身につけることができる。ライフサイクルの各期（乳幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期）を理解し、その身体的・心理的・社会的特徴を知り、その各期の発達課題及び特徴的な疾病について考えることができる。また、高齢者に多くみられる疾病と身体的不調の訴えや症状出現の特徴を理解する。それとともに、高齢者の生活への影響や、健康の維持・増進を含めた生活について考え、高齢者の暮らしを支える介護福祉士として必要な知識の習得をし、その役割について自身の考えをまとめることができる。適宜、小テストを行い知識の習得の振り返りを行うことで、知識の定着ができる。

《授業計画》

1. 人間の成長と発達、発達理論、形成的成長
2. 身体機能・精神運動機能・心理社会的発達、発達段階別にみた成長と発達、発達の評価
3. 社会からみた老年期のとらえ方、高齢者施策の推移、老年期をめぐる問題、老年観
4. ライフサイクルのなかの老年期（小テスト）
5. 老化に伴う心身の変化の特徴、身体機能の変化と日常生活への影響
6. 知的・認知機能・精神機能の変化と日常生活への影響、身体機能・精神機能低下の予防
7. 高齢者の心理（グループワーク）
8. 高齢者に多い症状と日常生活における留意点（廃用症候群、老年症候群）
9. 高齢者に生じやすい症状や病気（小テスト）
10. 高齢者に多い病気と日常生活での留意点（糖尿病）
11. 高齢者に多い病気と日常生活での留意点（脂質異常症と心筋梗塞）
12. 高齢者に多い病気と日常生活での留意点（高血圧、脳卒中）
13. 高齢者に多い病気と日常生活での留意点（骨折、骨粗鬆症）
14. 高齢者に多い病気と日常生活での留意点（肺炎）、小テスト
15. 要介護高齢者にかかわる介護福祉士と保健・医療職との連携

《成績評価の方法・基準》

グループワークへの参加20点（話し合い参加の積極性、グループへ貢献する作業能力、うなづきや相槌などのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など）、小テスト・レポート30点、定期試験50点で評価する。『授業で使用する教科書・参考書』について

《授業で使用する教科書》

・林 泰史・長田 久雄「最新介護福祉全集9 発達と老化の理解」メチカルフレンド社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、人間の成長過程を知り、その成長過程の中でどのように発達していくのかを自身とあてはめて考えてみましょう。また、高齢者に多く見られる疾病と症状、状態も調べてみましょう。事後学習として、授業で学んだことを復習し、適宜行う小テストに臨みましょう。また、人間が一生、成長・発達をしていることを知り、たとえ介護が必要となったとしても同じであることを理解し、介護福祉士としての役割を考えましょう。

認知症の理解 1

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★宮崎 恭子

《授業の概要》

2025年には、認知症の人が約700万人となる。その方々を支える専門職の一端を担うのが介護福祉士である。認知症の人を取り巻く歴史的な背景や、国の施策を理解し、また、認知症といった疾患を医学的・依存的として学ぶことで、認知症の人を理解するにつながる。適切なかかり方やケアを行うために、知識を習得し、自身の介護観を構築することができるようにする。さらに、認知症の人が、たとえ認知症となったとしても住み慣れた場所で暮らし続けることができるために何をすべきか、どのような支援や介護が必要か、医療職との連携をするために必要なことは何かと考える力を養成することを目的とする。

《学生の到達目標》

認知症の人が、その尊厳を侵されず、一人の人として尊重され、その後の暮らしを継続させていくためには介護福祉士として何が出来るのか、どうすべきなのか、どのようにしたいのかなどといったことが考えられるようになる。そのためには、認知症の人の過去、現在、未来を知り、また、医学的な知識も習得し、理解を深める、自身の介護観を構築することが必要である。今後増えるであろう認知症の人の介護を担うリーダーとしての資質も高めることができる。さらに、暮らしを支えるサポート体制を知り、多職種連携・協働による支援を考えることもできる。

《授業計画》

1. 認知症とは何か・報道、本、DVD などからとらえた認知症について考える
2. 認知症ケアの歴史（認知症の人の過去と現在、現在から未来へ）を知る
3. 認知症ケアの理念と視点をグループで話し合いをし、自身の介護観の一助とする
4. 認知症の人のさまざまな症状（中核症状）を理解する
5. 認知症の人のさまざまな症状（BPSD）を理解する
6. 脳のしくみを知る理解する（小テスト）
7. 認知症の原因疾患（アルツハイマー型認知症、血管性認知症）を理解する
8. 認知症の原因疾患（レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症）を理解する
9. 認知症の原因疾患（その他）を理解する（小テスト）
10. 認知症の診断と治療を知る
11. 認知症の予防について知り、実践する（グループワーク）
12. 認知症の人の心理を考える（グループワーク）
13. 地域力を活かすサポート体制を知る
14. 地域力を活かすサポート体制、チームアプローチの実際を調べる
15. 認知症に関する制度や関係機関を調べる

《成績評価の方法・基準》

グループワークへの参加20点（話し合い参加の積極性、グループへ貢献する作業能力、うなづきや相槌などのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など）、小テスト・レポート30点、定期試験50点で評価する。

《授業で使用する教科書》

・介護福祉士養成講座編集委員会「最新・介護福祉士養成講座第13巻 認知症の理解」中央法規

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

超高齢化社会となった日本において今後、増え続けるとされている認知症の人を尊重、理解することは、介護福祉士として大切なことです。認知症の人のことを理解するうえでも、事前学習として、さまざまな報道や、本、DVD などから情報を得、自分なりの考え、知識の獲得に努めましょう。事後学習として、認知症ケアについて基礎的な知識の振り返りとともに、自身の介護観の構築に努めましょう。

認知症の理解 2

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★瀬 志保

《授業の概要》

2025年には認知症の人が約700万人となると見込まれている。その方々を支える専門職の一端を担うのが介護福祉士である。利用者の一番身近な存在である介護福祉士として、認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、本人主体のケアが実践できる力を養う。また、ご本人のみならず、家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援を考察できることや地域で支えるサポート体制を知り、多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を理解することを目的とする。

《学生の到達目標》

・地域社会の中で認知症の人が尊厳を持ち、今までの生活を継続していくために必要となる認知症ケアについて、説明することができる。・基礎的な知識として、地域で支えるサポート体制を理解することができる。・本人主体のケアを実践するために、認知症の人の生活、家族、社会との関わりを理解し、説明することができる。・認知症の人の生活を支えている家族の課題等にも目を向け、介護負担の軽減や介護を継続するために必要となる基礎的な知識を学び、サポートすることができる。

《授業計画》

1. 認知症の人の介護をしていくために（当事者の声に学ぶ）
2. 認知症の人の体験演習（DVD等映像から認知症の疑似体験を通して考える）
3. 認知症の症状と環境との関係（中核症状、周辺症状の復習と環境の変化を和らげる支援）
4. 環境によるはたらきかけ
5. 若年性認知症の人の生活の理解と支援（若年性認知症の状況を知る）
6. 若年性認知症の人の生活の理解と支援（DVD等映像から必要な支援のあり方考える）
7. 認知症の人への関わりの基本（グループワーク）
8. 認知症ケアの実際①「一人一中心」ケア
9. 認知症ケアの実際②認知症の人へのケア
10. 認知症ケアの実際③認知症の人へのさまざまなアプローチ
11. 家族が背負う四つの苦しみ、家族へのレスパイトケア
12. 家族へのエンパワメントの基本、家族会と介護者教室
13. 認知症の人の地域生活支援①（認知症施策推進総合戦略について）
14. 認知症の人の地域生活支援②（認知症サポーター等の社会資源）
15. 認知症の人の地域生活支援③多職種連携と協働

《成績評価の方法・基準》

認知症ケアに関する内容からの課題レポート、授業内容確認小テスト40%、定期試験60%で評価する。

《授業で使用する教科書》

・「最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解」中央法規

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

少子高齢化社会の日本で今後、増え続けるであろう認知症の人を地域で支えていくために、認知症について多くの人が理解し、その生活を支えていけるよう、家族、地域のサポート体制について学びます。認知症の理解1で学んだ、様々な症状、原因となる疾患の理解は不可欠です。事前準備として、認知症に関する歴史、中核症状や周辺症状、原因疾患について理解を深め、事後学習で教科書を読み、学びを深めていきましょう。

障害の理解

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★山本 永人

《授業の概要》

介護に必要な人は高齢者のみならず、障害を持つ人々もその対象です。この授業では、講師の現場体験をもとに、介護福祉士に求められる障害の基本的な知識を学習します。最初に障害の理念や考え方を押さえ、その後介護現場で出会うことのできる障害を中心にその特性や支援のあり方を具体的に解説します。

《学生の到達目標》

介護福祉士として対人援助の現場で活躍するための基本的な障害を持つ人々の特性を十分に理解する。特に現場で対応する機会が多い脳性マヒ、筋ジストロフィー、脳血管疾患（高次脳機能障害を含む）、脊髄損傷などの身体障害、精神発達障害や自閉症スペクトラム障害などの知的障害、統合失調症や気分障害などの精神障害などの障害を社会的モデルやノーマライゼーションをはじめとした理念、我が国の障害者福祉の変遷を踏まえながら理解する。そのうえでの当たり前の人間として接することのできる介護福祉士の基本的な障害者観や支援における基本的な姿勢を身につける。

《授業計画》

1. 障害者の範囲とその実態（人権としての視座・障害者の定義・範囲）
2. わが国の障害者福祉の歴史①（石井亮一・糸賀一雄、憲法25条 生存権）
3. わが国の障害者福祉の歴史②（措置制度から利用契約制度へ 国際障害者年）
4. 障害者福祉の基本的な理念（ノーマライゼーション・リハビリテーション）
5. 感覚器に障害のある人々の理解（視覚障害・聴覚障害）
6. 肢体不自由者の障害特性とその支援①（麻痺の種類・脳性マヒ・筋ジストロフィー）
7. 肢体不自由者の障害特性とその支援②（脳血管障害・高次脳機能障害・脊髄損傷）
8. 知的障害の理解①（知的障害者とは 法的定義）
9. 知的障害の理解②（ピアジェの発達段階説 支援のポイントとして 就労支援）
10. 自閉症スペクトラム障害の理解①（自閉症とは その歴史 自閉症の三つ組み）
11. 自閉症スペクトラム障害の理解②（知覚過敏 支援のポイントとして）
12. 精神障害の理解（統合失調症 気分障害）
13. 発達障害の理解（ADHD・LD・高機能自閉症）
14. 障害のある当事者の人から ケーススタディ
15. 障害とはを考えるディスカッション

《成績評価の方法・基準》

試験 80% レポート 20%

《授業で使用する教科書》

・前田 崇博「やさしく学ぶ介護の知識③ ころとからだのしくみ」久美出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：教科書 p89～p144 を繰り返し熟読すること。授業のそれぞれの単元に該当する部分を、シラバスに（ ）で示しているキーワードを中心に事前に調べておきましょう。（30分）
事後学習：授業で配布されたプリントを使って、シラバスに示されているキーワードの意味や内容を振りかえり、自身の知識や障害者観に反映できたかどうか確認しましょう。（60分）

医学知識（ころとからだのしくみ1）

1 年次（半期）
2 単位（講義）
担当 ★緒方 都

《授業の概要》

介護実践に必要な根拠となる心身の構造や機能について理解し、身体的・心理的・社会的側面を総合的にとらえるための知識を身につける。対象者の生活を支援するという観点から、医療職と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識を身につける。各臓器のしくみを知り、どのような病気によりどのような不都合がおき、その状況をどう介護しなければならぬかを学び、根拠とともに考える。また高齢者や障がい者に多い疾患についての特徴などを原因と関連性を考えながら知る。国家試験該当範囲の出題基準内容も組み込みながら、必要な基礎医学知識と関連知識もあわせて学ぶ。

《学生の到達目標》

1. ころとからだのしくみについて、おもな病気や障害の基礎的事項を説明することができる。
2. それぞれの病気や障がいについて必要な介護の視点を具体的に述べる事ができる。
3. 多職種連携に必要な基本的な医学用語を理解し、使うことができる。

《授業計画》

1. オリエンテーション からだ地図を描いてみよう
2. からだのしくみの理解 身体各部の名称と臓器の位置の確認、基本的な医学用語
3. からだのしくみの理解 骨格と筋肉：骨・筋肉の名称とはたらき 関節の種類・名称
4. からだのしくみの理解 骨小テスト、呼吸器のしくみ、呼吸器の病気
5. からだのしくみの理解 呼吸器小テスト、循環器のしくみ、心臓・血管の病気調べまとめ
6. からだのしくみの理解 血液の働き、疾患、アレルギー、アナフィラキス
7. からだのしくみの理解 循環器小テスト、消化管のしくみ、消化器系の病気、口腔しくみ
8. からだのしくみの理解 泌尿器のしくみ、泌尿器病、生殖器のしくみ、女性のからだ、発生
9. からだのしくみの理解 生命の維持と恒常性、バイタルサインの測定演習
10. からだのしくみの理解 中枢神経と末梢神経、神経の病気
11. からだのしくみの理解 感染のしくみを調べる、感染症
12. からだのしくみのまとめ 国家試験範囲演習
13. ころとからだのしくみの理解 人間の欲求・自己実現と尊敬、ころとからだのしくみの基礎
14. ころとからだのしくみの理解 防衛機制、うつ病
15. ころとからだのしくみのまとめ からだのしくみのまとめ 国家試験範囲演習

《成績評価の方法・基準》

試験 70% 小テスト 30%で評価する。

《授業で使用する教科書》

・小坂橋喜久代編「最新介護福祉全書 12 ころとからだのしくみ」メチカルフレンド社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、該当内容の範囲を教科書や配布プリントで予習しておきましょう。また授業内で小テストを実施しますので、プリントやノートなどで復習しておきましょう。介護を実践するために必要な知識ですが自分自身のからだを知ることであります。医学用語や疾患名など慣れない言葉も多いと思いますが、多職種連携の共通言語として理解できるようにしましょう。

こころとからだのしくみ2 (身じたく、入浴、移乗・移動)

1 年次 (半期)
2 単位 (講義)
担当 ★宮崎 恭子

《授業の概要》

介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解することを学習の目的とする。介護実践には、観察力・判断力が必要となる。そのためにも、その力の基盤となる知識を学ぶことが重要となる。また、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えることができるようにする。生活を行う上で、その場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について学ぶ必要があることを理解し、介護福祉士としての知識として学ぶことを目的とする。

《学生の到達目標》

介護実践に必要な観察力・判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解することができる。生活支援を行う際必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害について、対象者自身や生活に及ぼす影響について理解することができる。

《授業計画》

1. 身じたく①関連したこころとからだの基礎知識
2. 身じたく②関連したこころとからだのしくみ
3. 身じたく③機能低下・障害がおよぼす影響
4. 身じたく④生活場面における変化の気づき (小テスト)
5. 身じたく⑤生活場面における身じたくとは (グループワーク)
6. 入浴・清潔保持①関連したこころとからだの基礎知識
7. 入浴・清潔保持②関連したこころとからだのしくみ
8. 入浴・清潔保持③機能低下・障害がおよぼす影響
9. 入浴・清潔保持④生活場面における変化の気づき (小テスト)
10. 入浴・清潔保持⑤生活場面における入浴・清潔保持とは (グループワーク)
11. 活動・移動①関連したこころとからだの基礎知識
12. 活動・移動②関連したこころとからだのしくみ
13. 活動・移動③機能低下・障害がおよぼす影響
14. 活動・移動④生活場面における変化の気づき (小テスト)
15. 活動・移動⑤生活場面における活動・移動とは (グループワーク)

《成績評価の方法・基準》

グループワークへの参加 20 点 (話し合い参加の積極性、グループへ貢献する作業能力、うなづきや相槌などのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など)、小テスト・レポート 30 点、定期試験 50 点で評価する。

《授業で使用する教科書》

・小坂橋 喜久代/松田 たみ子「最新介護福祉全集 12 こころとからだのしくみ」メヂカルフレンド社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

高齢者、障害者の介護を行う上で、医療的な知識が必要となります。事前学習として、なぜ必要となるのか、どのような知識が必要なのかを考えて、自身で調べてみましょう。授業後には、その知識の定着のための小テストも行いますので、振り返りをしましょう。事後学習として、その知識を根拠とした介護を考えてみましょう。

こころとからだのしくみ3 (食事、排泄、睡眠、終末期)

1 年次 (半期)
2 単位 (講義)
担当 ★宮崎 恭子

《授業の概要》

介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解することを学習の目的とする。介護実践には、観察力・判断力が必要となる。そのためにも、その力の基盤となる知識を学ぶことが重要となる。また、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えることができるようにする。特に、人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解することを目的とする。

《学生の到達目標》

介護実践に必要な観察力・判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解することができる。生活支援を行う際必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害について、対象者自身や生活に及ぼす影響について理解することができる。また、人生の最終段階にある人と家族の尊厳を守り、その生活をできる限りその人たちの望むものであるように、介護福祉士としてどのようにすればよいのであろうかと考える力を持つ。

《授業計画》

1. 食事①関連したこころとからだの基礎知識
2. 食事②たべることに関連したこころとからだのしくみ
3. 食事③機能低下や障害が及ぼす食事への影響
4. 食事④生活場面における変化の気づき (小テスト)
5. 排泄①関連したこころとからだの基礎知識
6. 排泄②排泄に関連したこころとからだのしくみ
7. 排泄③機能低下や障害が及ぼす排泄への影響
8. 排泄④生活場面における変化の気づき (小テスト)
9. 睡眠①関連したこころとからだの基礎知識
10. 睡眠②睡眠に関連したこころとからだのしくみ
11. 睡眠③機能低下や障害が及ぼす睡眠への影響 (小テスト)
12. 死にゆく人①死のとらえ方、終末期から危篤・死亡時のからだの理解
13. 死にゆく人②死に対するこころの理解
14. 死にゆく人③死に対するこころの理解 (グループワーク)
15. 死にゆく人④医療職との連携 (小テスト)

《成績評価の方法・基準》

グループワークへの参加 20 点 (話し合い参加の積極性、グループへ貢献する作業能力、うなづきや相槌などのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など)、小テスト・レポート 30 点、定期試験 50 点で評価する。

《授業で使用する教科書》

・小坂橋 喜久代/松田 たみ子「最新介護福祉全集 12 こころとからだのしくみ」メヂカルフレンド社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

高齢者、障害者の介護を行う上で、医療的な知識が必要となります。事前学習として、なぜ必要となるのか、どのような知識が必要なのかを考えて、自身で調べてみましょう。授業後には、その知識の定着のための小テストも行いますので、振り返りをしましょう。事後学習として、その知識を根拠とした介護を考えてみましょう。また、終末期を考える上で、自分自身の死生観についても考えてみましょう。

医療的ケア 1 (吸引)

1 年次 (半期)
2 単位 (講義)
担当 ★宮崎 恭子

《授業の概要》

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」等についての基礎的な知識を理解することを目的とする。特に、喀痰吸引について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的な知識、実施手順方法を理解する内容とする。各単元ごとに小テストを行い、後期医療的ケア演習の時に安全手技が行えるようにすることを目的とする。

《学生の到達目標》

医療が必要となった人の安全で安楽かつ、QOL を保持できるような暮らしを継続するために、介護福祉士として何が出来るのかを考えることができる。そして、個人の尊厳を守り、自立を支援することを理念とし、医療的な倫理も考慮することができる力を養い、暮らしと密接に結びつけた介護福祉士の行う医療的ケアができる。

《授業計画》

- なぜ医療的ケアを学ぶのか、人間と社会
- 保険医療制度とチーム医療 (小テスト)
- 安全な療養生活①たんの吸引の安全な実施
- 安全な療養生活②経管栄養の安全な実施
- 安全な療養生活③救急蘇生法 (小テスト)
- 清潔保持と感染予防①感染予防
- 清潔保持と感染予防②滅菌と消毒 (小テスト)
- 健康状態の把握①身体・精神の健康
- 健康状態の把握②バイタルサイン (小テスト)
- 高齢者及び障害児・者のたんの吸引①呼吸のしくみ
- 高齢者及び障害児・者のたんの吸引②いつもと違う呼吸状態
- 高齢者及び障害児・者のたんの吸引③たんの吸引とは (小テスト)
- 高齢者及び障害児・者のたんの吸引④人工呼吸器・子どもの吸引
- 高齢者及び障害児・者のたんの吸引⑤家族の気持ち・感染症
- 高齢者及び障害児・者のたんの吸引⑥安全確認
- 高齢者及び障害児・者のたんの吸引⑦急変・事故対応、事前対策 (小テスト)
- 高齢者及び障害児・者のたんの吸引⑧手順書 (器具・器材の説明)

《成績評価の方法・基準》

授業内の小テスト (6 回) の平均点にて評価する。

《授業で使用する教科書》

・川井 太加子「最新介護福祉全集 13 医療的ケア」メヂカルフレンド社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

介護福祉士として、今後担っていくかわけられない医療的な分野についての興味を持ち、さまざまな観点から考えられるように、事前学習として、教科書などで調べておきましょう。振り返りの小テストを単元ごとに行います。事後学習として、復習をし、学びを深めましょう。この授業は、後期の医療的ケア演習において必要となる知識です。

医療的ケア 2 (経管栄養)

1 年次 (半期)
2 単位 (講義)
担当 ★緒方 都

《授業の概要》

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」等についての基礎的な知識を理解し、特に経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的な知識、実施手順方法を理解する内容とする。各単元ごとに小テストを行い、後期医療的ケア演習時に安全な手技が行えるようにすることを目的とする。

《学生の到達目標》

- 経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的な知識を述べる事ができる。
- 感染予防なども含め、安全に留意した実施手順方法を理解し手順を述べる事ができる。

《授業計画》

- 高齢者および障害児・者の経管栄養①消化器のしくみとはたらき
- 高齢者および障害児・者の経管栄養②経管栄養とは 用いる器具、清潔保持
- 高齢者および障害児・者の経管栄養③注入内容に関する知識
- 高齢者および障害児・者の経管栄養④実施上の留意点 小テスト
- 高齢者および障害児・者の経管栄養⑤子どもの経管栄養
- 高齢者および障害児・者の経管栄養⑥経管栄養に関する感染と予防 急変・事故対応
- 高齢者および障害児・者の経管栄養⑦国家試験対策
- 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順①実施手順の流れ 準備物品
- 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順②留意点の確認 小テスト
- 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順③パート別演習 注入準備
- 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順④パート別演習
- 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順⑤観察・報告・連絡
- 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順⑥まとめ 小テスト
- 高齢者および障害児・者のたんの吸引実施手順①感染予防
- 高齢者および障害児・者のたんの吸引実施手順②ヒヤリハット、アクシデント
- 高齢者および障害児・者のたんの吸引実施手順③緊急対応
- 高齢者および障害児・者のたんの吸引実施手順④まとめ 小テスト

《成績評価の方法・基準》

授業内の小テストで評価する

《授業で使用する教科書》

・川井太加子「最新介護福祉全集 13 医療的ケア」メヂカルフレンド社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習としては、該当内容の範囲を教科書や配布プリントで予習しておきましょう、また授業内で小テストを実施しますので、プリントやノートなどで復習しておきましょう。介護実践するために必要な知識です。薬や疾患名など慣れない言葉も多いと思いますが、他職種連携の共通言語として理解できるようになりましょう。

医療的ケア演習

1年次（半期）
1単位（演習）

担当 ★宮崎 恭子, ★緒方 都

《授業の概要》

前期の「医療的ケア1（吸引）」「医療的ケア2（経管栄養）」の授業を踏まえ、安全で安楽な手技が確実にできるようにすることを目的とする。手技の根拠として、両授業の内容が挙げられる。医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

《学生の到達目標》

生活支援を行う専門職として、医療的な依存度が高くても利用者や家族が「その人らしい暮らし」を達成できるようにこのような支援・介護を行えばよいのかを考慮し、医療的ケアで習得する技術の必要性を捉えることができる。また、利用者の状況に応じて、安全・安楽かつ確実に実施できる。吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）、経管栄養（胃ろうまたは腸ろう・経鼻経管）それぞれ決められた項目で、手順どおりに実施できる。5回目の評価の時には、全ての項目で「手順どおりに実施できている」となる。また、救急蘇生法が実施できるようになる。

《授業計画》

1. 口腔内吸引①
2. 口腔内吸引②
3. 口腔内吸引③
4. 鼻腔内吸引①
5. 鼻腔内吸引②
6. 気管カニューレ内部吸引①
7. 気管カニューレ内部吸引②
8. 気管カニューレ内部吸引③
9. 胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養①
10. 胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養②
11. 胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養③
12. 経鼻経管栄養①
13. 経鼻経管栄養②
14. 救急蘇生法①
15. 救急蘇生法②

《成績評価の方法・基準》

規定されている評価方法による実技評価（5項目で、5回目の評価時には、全ての項目で「手順どおりに実施できている」とならなければ、できるまで実技を行う）。

《授業で使用する教科書》

・川井 太加子「最新介護福祉全集13 医療的ケア」メヂカルフレンド社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、前期の「医療的ケア1・2」の授業の復習をし、演習の根拠を学んでおきましょう。また、教科書についているDVDを何度も見たり、事前に渡す資料を熟読し、演習の流れを覚えるようにしましょう。事後学習として、授業にてできなかったところを自習しましょう。

介護福祉ゼミA

1年次（半期）
1単位（演習）

担当 小林 孔

《授業の概要》

本講座は、次に控える「介護福祉ゼミB」への、いわば橋渡しの役割にあたる科目に位置づけられている。できれば、「介護福祉ゼミB」で完成させなければならない研究論文のテーマを確定させ、参考文献を博捜し、執筆の構想をたて、序論、本論の一部分の草稿を書く程度にまで誘導したい。なお、最終目標は、4000字詰原稿用紙30枚以上で、これは将来の学位申請をめざしたものである。

《学生の到達目標》

論文完成の基礎をつくる大切な工程を含んでいるので、毎時間の進捗を自己管理することができる。その上で、担当教員からの指導を受けなければならない。この点に留意して、論文の書き出しに当たる、序論、第1章の草稿が完成できること。妥協をした論文にならないよう注意して欲しい。

《授業計画》

1. 目標4000字詰原稿用紙、30枚以上
2. 論文の書き方
3. 盗作と引用の違い
4. テーマを決める
5. 参考文献の蒐集①（従来の学説を確かめる）
6. 参考文献の蒐集②（従来の学説をまとめる）
7. 参考文献の蒐集③（従来の学説への疑問点をもつ）
8. テーマを語る①（私には何かゆけるのか）
9. テーマを語る②（書くことのできる問題点のみをつける）
10. もう一度、論文の書き方
11. 序論を800字から1000字で書いてみる
12. 書き方の検証
13. 第1章を書く①（従来の学説の整理）
14. 第1章を書く②（従来の学説への疑問）
15. 提出と講評

《成績評価の方法・基準》

計画の進行表を各自で管理してもらい、各時間ごとの報告を義務付ける。毎時の報告が、目標に到達できていない場合は、事後学習でそれを埋めなければならぬ。序論、本論のそれぞれを50点ずつで評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

この科目が履修できなければ、次の「介護福祉ゼミB」の単位をとることができない。計画に従い、多くの文献に目を通し、論文の構想をしっかりと練ってほしい。事前、事後の学習計画を視察に入れる必要がある。

介護福祉ゼミ B

1 年次（半期）
1 単位（演習）
担当 小林 孔

《授業の概要》

「介護福祉ゼミ A」の成果をふまえ、最終目標の4000字語原稿用紙30枚以上の学位申請論文を完成させる。そのためには、各自が設定したテーマに基づく調査、研究を深め、そこから得られる独自の考えを展開する必要がある。できれば、その独自の考え方が、今の時点でのように評価されるものなのかを、冷静、かつ客観的に省みられなければならない。多くの人に自分の考えを伝え、聞く、機会を作ることも、そのひとつの方法である。

《学生の到達目標》

到達目標は単純明快、論文の完成にある。ただし、その過程で、何らかい発表を求める。論理的な説得力を身につけることができる。

《授業計画》

1. 第1章の口頭発表
2. 第1章の完成に向けて
3. テーマを探究するには①（着眼点をみがく）
4. テーマを探究するには②（着眼点の有効性）
5. これからの展望 口頭発表
6. 研究、調査①（フィールドワーク）
7. 研究、調査②（分析）
8. 研究、調査③（まとめ）
9. 第2章の完成に向けて
10. 第2章の検討 口頭発表
11. 独自の見解①（自分らしさを主張する）
12. 独自の見解②（その主張は正しいか）
13. 第3章の評価 口頭発表
14. まとめを書く 論文の提出ガイダンス
15. 論文提出と評価 まとめかいて

《成績評価の方法・基準》

提出論文の内容（70%）と口頭発表のでき具合（30%）を加味して評価をする。15回目には、各自のテーマに関する簡単な講評を述べることにしたい。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

毎時間の進捗状況を各自で把握し、足らざる部分は、はやくに事後学習によって埋めておく必要がある。事前学習については、担当教員が随時この。